

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

岡山大学医学部医学科の平成20年度以降の入学定員については、平成21年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成29年度までの期限を付した5名の臨時定員増を、平成22年度に「経済財政改革の基本方針2009」に基づき平成31年度までの期限を付した7名の臨時定員増を、平成23年度には「新成長戦略」に基づき平成31年度までの期限を付した3名の臨時定員増を、また、平成30年度には、平成29年度までの期限を付した増員暫定措置の延長として平成31年度までの期限を付した2名の臨時定員増をそれぞれ実施した。さらには、平成21年度に「経済財政改革の基本方針2008」に基づき5名の恒久定員増を実施した。

令和6年度を期限とする9名（地域枠：岡山県4名，広島県2名，鳥取県1名，兵庫県2名）の入学定員について、令和7年度までの期限を付した再度の入学定員増においては、地域枠7名（地域枠：岡山県3名，広島県2名，兵庫県2名）の入学定員増を行った。令和8年度においても地域における医師不足の解消と地域の医師確保等に対応するために認可を受けた地域枠としての臨時的な定員6名（岡山県2名，広島県2名，兵庫県2名）に加え、令和8年度から研究医の養成を目的として、認可を受けた研究医枠としての臨時的な定員2名の入学定員増を行い、令和8年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の100名から108名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても令和7年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の625名（編入学収容定員25名含む）から633名（編入学収容定員25名含む）に変更する。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

【地域枠】

岡山県は医師多数県であるが、地域や診療科による偏在があり、県北地域や中山間地域等の医師不足が課題となっている。特に、二次医療圏5圏域のうち、2圏域（高梁・新見，真庭）の県北部については、医師少数区域であり、また、医師多数圏域の2圏域（県南東部圏域，県南西部圏域）においても、それぞれ大学病院がある岡山市，倉敷市以外は医師が不足している。また、診療科偏在については、小児科は真庭圏域，産婦人科は高梁・新見圏域，真庭圏域が、それぞれ相対的医師少数区域にあたる。また、県南東部（岡山市を除く），高梁・新見，真庭における65歳以上の医師の割合の増加が著しく、今後の医療提供体制の維持が困難となりつつある。

広島県では、岡山県に隣接等する県東部地域（福山・府中圏域，尾三圏域）における医師偏在指標が、全国平均を下回っており、県内7圏域の中で最も低い。無医地区に代表される中山間地域等、医療へのアクセスが容易ではない地域においても、適切に必要な医療が提供される体制や仕組み

が必要とされている。また、広島県の小児科医偏在は2圏域（広島中央，福山・府中），分娩取扱医師偏在指標は，3圏域（広島西，広島中央，福山・府中）が全国の下位1/3に該当し，著しく低く，相対的医師少数区域となっている。

兵庫県の医師偏在指標は全国平均を上回っているものの，二次医療圏別で見ると，8圏域のうち神戸，阪神，東播磨圏域以外は全国平均を下回っており，地域偏在が生じている。また，兵庫県の分娩取扱医師偏在指標は，全国の下位1/3に該当しており，相対的医師少数都道府県である。引き続き，県内のどの地域でも安心して医療が受けられる地域医療体制の確保が課題となっている。

また，この状況は本学の関連病院が存在する各県にも共通しており，このように医師不足が深刻な地域や診療科を担う人材の育成・確保が重要な課題であることから，中国・四国，兵庫県地域に数多く所在する本学の関連病院や自治体等との連携をより深めていくとともに，高齢化の進展の状況や地域の実情を踏まえつつ，どこに住んでいても安心して医療が受けられるよう，地域や診療科による医師の偏在を解消するために，医師養成課程の入学定員増に取り組む必要がある。

本学では，平成21年度から平成29年度までの「緊急医師確保対策」に基づく岡山県地域枠5名，「経済財政改革の基本方針2008」の「医師不足が深刻な地域や診療科の医師養成の推進策」に基づく5名の恒久入学定員増，平成22年度の「経済財政改革の基本方針2009」に基づく平成31年度までの期限を付した7名の増員，平成23年度の「新成長戦略」（歯学部入学定員の削減を行う大学の特例）として3名の増員（一般入試），平成30年度には，平成29年度を期限とした増員の暫定措置の延長として，岡山県地域枠2名の増員を行ってきた。

また，平成22年度には，地域医療を担う人材育成や地域医療への支援と連携に係る教育研究を行うことを目的として，「地域医療人材育成講座（岡山県の寄付講座）」を大学院医歯薬学総合研究科に設置し，地域枠以外の学生を含めて地域医療への関心と意欲を高める教育を行っている。さらに，地域枠学生が初期臨床研修終了後に配属される医療機関の選定やローテーション方法について岡山県及び岡山県地域医療支援センター等と協議を行うほか，地域枠卒業医師のキャリア形成支援や着任環境の準備に関する助言・支援等に取り組んでおり，平成29年度には第一期の地域枠卒業医師が地域の病院での勤務を開始した。

さらに，「経済財政運営と改革の基本方針2018～少子高齢化の克服による持続的な成長経路の実現～」（平成30年6月15日閣議決定。骨太の方針2018），「経済財政運営と改革の基本方針2019～『令和』新時代：「Society5.0」への挑戦～」（令和元年6月21日閣議決定。骨太の方針2019）に基づく，文部科学省高等教育局長及び厚生労働省医政局長通知「地域の医師確保等の観点からの令和2年度医学部入学定員の増加について」（令和元年9月2日付け元文科高第391号，医政医発0902第3号），「地域

の医師確保等の観点からの令和4年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和3年8月16日付け3文科高第501号, 医政発0816第9号), 「地域の医師確保等の観点からの令和5年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和4年8月10日付け4文科高第627号, 医政発0810第4号)及び「地域の医師確保等の観点からの令和6年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和5年8月8日付け5文科高第669号, 医政発0807第12号)「地域の医師確保等の観点からの令和7年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和6年8月7日付け6文科高第738号・医政発0807第5号)により, 平成31年度の入学定員を超えない範囲でその必要性を慎重に精査し, 医学部定員を維持してきた。令和7年度までに132名の地域枠学生を確保し, うち86名が卒業, 各県の地域医療に貢献しているところである。このたび, 「地域の医師確保等の観点からの令和8年度医学部入学定員の増加について(通知)」(令和7年8月5日付け7文科高第666号, 医政発0805第5号)を受け, 岡山県が実施する「岡山県医師養成確保奨学資金貸与制度」, 広島県が実施する「広島県医師育成奨学資金制度」, 兵庫県が実施する「兵庫県養成医師制度」のこれまでの実績と, 「令和8年度の医学部臨時定員増について」(令和7年7月29日付け事務連絡)で認められた臨時定員数を基に, 今後の必要性を各県と協議し, 医学部医学科の地域枠としての入学定員6名(岡山県地域枠2名, 広島県地域枠2名, 兵庫県地域枠2名)の増員を行うものである。

【研究医枠】

我が国では, 医学系大学院進学者における基礎系(MD)の割合が約30年間横ばいであること, また, 基礎医学分野における国際競争力が低下していることから, 平成22年度より「経済財政改革の基本方針2009」に基づき, 複数大学の連携によるコンソーシアムを形成し, 研究医養成の観点から卒業・大学院教育を一貫して見通した特別コースを設定し適切に履修者を確保すること等を要件とする「研究医枠」の臨時定員増が実施され, 近年の文部科学省における「今後の医学教育の在り方に関する検討会」においても, 研究医枠については, 医学生の研究マインドの涵養に一定の効果があると考えられている。

本学では, 平成21年度から全国に先駆けて初期臨床研修と大学院進学を両立させ, 臨床の現場経験を活かしつつ, 早期に博士学位取得を可能とする「ARTプログラム」を開始し, 令和7年度までの17年間で106名が入学している。また, 学部時代から研究活動や大学院講義の先取り履修を行うことで, より早期に, より長期に亘り研究活動に従事し, 大学院進学後の研究加速を可能とする「ARTプログラムへの橋渡しプログラム」として, 「Pre ARTプログラム」を同様に平成21年度から開始し, 令和7年度までの17年間で延べ444名の学部生が「Pre ARTプログラム」を履修している。これまでの取組の成果として, 本学医学部医学科から自大学大学院へと進学した学生のうち, 基礎医学分野を選択した29名中18名(62.1%)が, 「ARTプログラム」での入

学であったこと、また、ARTプログラムで博士号を取得した修了者の中から、国立大学の基礎医学系の教授や、30代前半で国立大学の基礎医学系の講師として活躍している者が輩出されており、この事実は、研究医キャリアへの高い関心と、大学側の体系的支援によって、基礎研究分野への進学が実効性をもって機能していることを示している。

令和7年度から「ARTプログラム」をさらに発展させ、専門医資格取得と大学院進学の並行実施を可能とした「ARTⅡプログラム」を新設するとともに、「Pre ARTプログラム」の履修開始年次を3年次から1年次に早め、より早期から長期間に亘って研究マインドを養成する環境を整備した。1名でも多くの学生に研究活動を体験させるため、令和8年度から研究医枠の臨時的な定員を新規申請し、「令和8年度の医学部臨時定員増について」（令和7年7月29日付け事務連絡）で認められ、医学部医学科の研究医枠としての入学定員2名を増員するものである。

3. 学則変更（收容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

【地域枠】

（1）教育課程・教育方法及び履修指導方法の充実・変更内容

地域医療への関心と意欲を高めるための授業及び早期の体験学習並びに臨床実習を通じて地域医療等と接する機会を提供するために、従前より以下のカリキュラムを実施している。令和8年度以降についても引き続き実施する。また、令和4年度から開始しているポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」の中でマスター養成プログラムを創設し、地域枠学生が優先的に履修することができる選択制臨床実習のコースを設定している。さらに、令和8年度以降は、現在、一般枠学生は必修科目となっている「早期地域医療体験実習」科目内で実施している地域医療総論講義等を必修科目として別立てし、地域枠学生以外にも地域医療やプライマリ・ケアに関わる機会を設定予定である。

① 1年次開講科目

【医学概論】

地域の医療機関の医師を講師として招き、医学を学ぶに当たり必要な社会観、倫理観、コミュニケーション力について教授する。

医学とは何かについて考え、医師となるための基本的な素養を身に付けさせる。また、優れた医師、医学研究者になるため、どのような態度で医学を学ぶかについて考えさせる。

【早期体験実習】

入学直後の超早期に医療の現場を様々な角度から体験し、医療従事者の役割を理解し、人命の尊さと医師の責務を実感することを通して、医

療の本質である患者・家族の QOL の向上について考えさせるとともに、生命の危機にある患者の医療がどのようなものを学ばせる。

【早期地域医療体験実習ⅠⅡ】（地域枠学生はⅡが必修，他学生は選択）

地域医療への体験は，入学時から段階的に触れさせることが重要であるため，地域枠学生（一般コースの希望者を含む。）に対しては，1年次から岡山県の中山間地域をはじめとした地域の医療機関等の現場で，地域医療の実際を実体験し，地域医療の重要性を理解させる。

具体的には，地域医療人材育成講座（岡山県の寄付講座）が実習におけるふさわしい態度・医療安全・患者への接し方についての事前講義を行い，1施設1週間で計2週間，様々な医療施設で実習を行う。地域の医療機関での見学・実習を行い，希望があれば当直を体験する。

② 3年次開講科目

【地域医療体験実習Ⅰ～Ⅲ】

地域医療を実際の現場で実体験し，地域医療の重要性を深く理解させる。具体的には，地域医療人材育成講座（岡山県の寄付講座）が実習におけるふさわしい態度・医療安全・患者への接し方についての事前講義を行い，1施設1週間で計2週間，様々な医療施設で実習を行う。

【医療政策・地域医療学】

中山間地域や都市での地域医療，総合診療の在り方を学ばせるとともに，生命の危機にある患者の医療がどのようなものを地域医療や総合診療を実践する医師達（地域医療に携わる学外の医師を含む）から学ばせる。

③ 4年次開講科目

【衛生学】

個人及び社会の健康の保持増進を目的とする医学の体系を学びその技術を修得させる。

到達目標

- 1) 健康の概念及び疫学の基本を概説でき，我が国の疾病構造の推移及び主要疾病の危険因子をあげることができる。
- 2) 地域保健・医療・福祉・介護の制度，ライフステージ別の一次，二次，三次予防及び福祉の方法を概説できる。
- 3) 産業保健の制度及び一次，二次，三次予防の方法を概説できる。
- 4) 地域保健，産業保健活動のチームリーダーとしての医師の役割について述べることができる。
- 5) [アドバンスとして] 地域保健及び産業保健の実際の課題に対して，問題解決の方法を地域や職場の実状に即して述べるができる。

【公衆衛生学】

公衆衛生学は社会医学であり、基礎医学と臨床医学の接点であると同時に、社会との対応が求められる分野である。その内容は、疾病を予防し、健康増進を図り、生活の質（QOL）を高く長く保つための、科学と技術についての学問といえる。また、公衆衛生活動は、共同体として健康な生活を守る上での様々な活動であり、その中で医師としての役割を果たすための知識と技術が要求される。したがって、医師が公衆衛生活動を行う上で不可欠な知識と技術のうち、主として予防医学にかかわる分野での知識と技術の習得を目標としている。

【疫学・衛生学実習】，【公衆衛生学実習】

上記の衛生学及び公衆衛生学の講義と併せて行う学外実習である。

上記の講義及び実習科目は、いずれの科目とも、地域保健及び老人介護保健の実態をより深く学び、卒業後の地域での医療活動の基礎を築かせる。

④ 5・6年次開講科目

【選択制臨床実習】

コアからさらに踏み込んだ内容の臨床実習として地域医療臨床実習を含み300余りのコースを設定している。その中には、岡山県内を初め中国・四国等の地域医療機関での実習も設定している。

この26週間にわたる実習期間のうち6週間は、全員が地域医療機関での実習とし、地域枠学生へは指定病院設定枠を設ける。

また、前述のとおり、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業を活用し、6年次選択制臨床実習のコースに、地域枠学生が優先的に取ることができる「公衆衛生」「救急・災害」「総合診療」のコースを設定している。

⑤ 1～6年次開講科目

【行動科学・プロフェッショナリズム育成科目～Okadai Med Arts I～VI】

人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナリズム」など、医師に必要な資質・能力を修得するために学年進行で構造化されたプログラム。6年間を通して実施されるパフォーマンス評価のための重要科目でもある。

1～6年次で「医師のプロフェッショナリズム」「コミュニケーション」「アート」を全学年共通事項として学ばせるとともに、各年次で以下の項目を学ばせる。

- 1年次：プロフェッショナリズム，自己理解・他者理解，社会人のコミュニケーション，職場体験
- 2年次：研究倫理，ユマニチュード，対話，多様性
- 3年次：医師のキャリア，医療と社会

- 4年次：多職種連携，ナラティブメディスン，多様性
- 5年次：多様性，Whole Person Care，医療人類学の視点，リフレクション
- 6年次：初期研修への展望

医学の道の入り口に立った学生として，医療の対象は「人間」であり，helping professionals（対人援助を専門とする人々）の一職業である医師を目指す者として，人間の一生，生命の尊厳について，深く理解する。また，患者からの講義を通して，患者の視点から医療を考え，患者-医師関係についても学ぶ。

また，地域の医療機関に限らず，非医療機関を含めた職場研修を通じ，社会人として必要な他者理解，状況認識力を身につけ，場にふさわしい態度・行動を実践することにより，医療人にとって不可欠な問題解決能力，社会貢献に対する意識を涵養する。

（2）教員組織の変更内容

平成22年5月に，岡山県地域医療再生計画に基づき，地域医療連携と地域医療支援を柱とする寄付講座「地域医療人材育成講座」を2名の専任教員（教授）を配置して開設し，以降，当該講座及び医療教育統合開発センター等の教員で構成する指導教員が，学部学生の指導を継続し，地域医療に対する動機付けの向上・維持に努め，ケア体制の充実を図り，地域医療を担う総合的な診療能力を身に付けた医師の育成，地域医療の充実や医師確保についての教育研究，地域診療の支援に取り組んでいる。

平成29年4月には，全学センターであった医療教育統合開発センターを大学院医歯薬学総合研究科附属センターに移行することで，これまで以上に一体的・効率的な教育研究活動が行えるよう見直しを図った。

また，地域医療過疎対策及び地域社会への貢献を目的として，平成29年4月に「岡山県南西部（笠岡）総合診療医学講座」（教員2名），「岡山県南東部（玉野）総合診療医学講座」（教員2名），平成30年4月に「岡山県北西部（新見）総合診療医学講座」（教員2名），平成31年4月に「瀬戸内（まるがめ）総合診療医学講座」（教員2名），令和2年4月に「くらしき総合診療医学教育講座」（教員2名），令和4年4月に「赤磐（あかいは）総合診療医学講座」（教員2名），令和5年4月に「高梁（たかはし）総合診療医学講座」（教員2名），令和7年4月に「御津（みつ）地域総合診療医学講座」（教員2名）を開設し，地域医療を担う総合的な診療能力を身に付けた医師の育成，地域医療の充実や医師確保についての教育研究，地域診療の支援に取り組んでいる。

【研究医枠】

（1）教育課程・教育方法及び履修指導方法の充実・変更内容

現代の医学教育における知識体系の肥大化に対応するため，能動的な学修の能力と習慣を身につけ，生涯に亘って自ら学ぶ姿勢を涵養するため，

学年進行に合わせ、以下の複数の課題解決型実践科目を順次開講している。また、学部時代から研究活動や大学院講義の先取り履修を行うことで、より早期に、より長期に亘り研究活動に従事し、大学院進学後の研究加速を可能とする「Pre ART プログラム」を同様に平成 21 年度から実施しており、令和 7 年度から同プログラムへの登録開始年次を 3 年次から 1 年次へ変更し、入学直後から継続的に研究活動を体験できる環境を整備している。

① 1 年次開講科目

【医学セミナー（チュートリアル）】

入学直後の学生相互、学生と教員との交流を深め、コミュニケーション能力向上と、問題発見能力、自ら資料を調査する力を養うため、1 グループにつき、約 5～6 名の学生が基礎・社会医学系教員の助言の下に自ら具体的なテーマを見つけ、自主的に調査・学修する。

② 3 年次開講科目

【基礎病態演習】

2 年次で生理系基礎科目（解剖学、生理学、生化学等）を修得した後、3 年次で病理系基礎科目（病理学、細菌学、ウイルス学、免疫学、薬理学等）を学習する前の時期に、水平統合科目である「基礎病態演習」を戦略的に配当している。病態を解剖・生理から分子レベルにまで掘り下げ、統合的に理解し、記憶ではなく、能動的かつ統合的に理解する方向に学習態度を転換させる。

【医学研究インターンシップ】

学内、学外（国内および海外）の研究室に 3 ヶ月間所属し、各研究室でメンバーの一員として研究活動に従事する。研究の意義・重要性、発展性を理解し、研究体験を行う。研究成果については、3 年生全員と指導教員が参加する報告会でディスカッションやプレゼンテーションを行う。報告会では次年度「医学研究インターンシップ」を受講する 2 年生も参加させる。3 年次の 9～12 月の 3 ヶ月間、その他の授業科目は配当せず、学生が集中して研究に従事できる期間を設定している。医学研究インターンシップ前から Pre ART プログラム履修者として研究室で研究活動を行っている学生は優先的に所属研究室で研究活動を継続させている。また、医学研究インターンシップ終了後も、Pre ART プログラムに登録し、研究活動、学会発表を行うことが可能である。

(2) 教員組織の変更内容

令和 7 年 4 月より、人材並びに学術交流を通じた研究力強化、研究医の育成等を目的に、大学院医歯薬学総合研究科医学系に、教育研究分野間の連携を図るための組織としてユニットを設置した。

また、医学系教員の選考について、見直しを行い、研究医として優れた能力を持つ若手を積極的に採用するため、一部要項の改正を行った。

令和8年度
医学部入学定員増員計画

岡大企経第7号
令和7年8月20日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人岡山大学長
那 須 保 友

「地域の医師確保等の観点からの令和8年度医学部入学定員の増加について（令和7年8月5日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	岡山大学企画部経営企画課長 真田 明
	TEL	086-251-7754
	E-mail	ss7015@adm.okayama-u.ac.jp

大学名	国公立
岡山大学	国立

1. 現在（令和7年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
107	5	0	686

↑
(収容定員計算用)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
(ア) 入学定員	112	112	112	109	109	107	661
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	117	117	117	114	114	107	686

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和8年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	5	0	625

↑
(収容定員計算用)

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	計
(ア) 入学定員	100	100	100	100	100	100	600
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	100	625
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和8年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
108	5	0	633

↑
(収容定員計算用)

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	計
(ア) 入学定員	108	100	100	100	100	100	608
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	113	105	105	105	105	100	633
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数	8
↑ (内訳)	
(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	6
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	2
計	8

地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数	6
--------	---

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	岡山県	2
大学所在地以外の都道府県	広島県	2
	兵庫県	2
計		6

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R6地域枠定員 (※1)	R6貸与者数 (※2)	R7地域枠定員 (※1)	R7貸与者数 (※2)	R6とR7の貸与者数のうち多い方の数
岡山県	4	4	3	4	4
鳥取県	1	1	2	2	2
広島県	2	1	2	2	2
兵庫県	2	2	2	2	2
計	9	8	7	8	9

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和8年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和6年度に実施した地域枠学生（令和7年入学）の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試 分	選抜方	募集人数		選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の選定の 有無	（診療科の選定が 有る場合） その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
学校推薦型選 抜II（医学部 医学科地域枠 コース）	(i) 学校推薦 型選抜	別枠（先行 型）	8	7	令和7年度大学入学共通テストに基 点（概 820点）を設け、基 点以上 を得た受験者の中から、調 書・推薦書・ 志願所 書の 、令和7年度大学入 学共通テスト及び面接の 果を総合して 選抜する。	出願資格 次の（1）～（3）のいずれにも該当する者 で、岡山大学医学部での勉学を強く希望し、 合格した場合には必ず入学することを確約でき る者 （1）志望する各県の出願要件を満たし、か つ卒業後は当該県内での医療に従事する強い 意志がある者で、各県が貸与する奨学金を在 学期間中に受給することに同意する者※ （2）令和7年度大学入学共通テストの受 験を要する教科・科目を受験する者 （3）出身学校長（高等学校長等）が人 、能力、 質、適性等について 任をもって 推薦できる者 ※この学校推薦型選抜に出願し、合格した後 に、各県からの奨学金の受給を する場合 には、入学を取り す。	有（推奨）	広島県のみ、必 要従事期間の 1/2の期間につ いて、中山間地 域又は広島県 知事指定の診 療科（病理診 断科・産婦人 科・小児科）で 勤務しなければ ならない。（病 理診断科、産 婦人科、小児 科に進んだ場 合、中山間地 域等を免除す る）	H26	
合計			8	7						

(※1) 大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

②令和7年度に実施する地域枠学生（令和8年入学）の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行う場合には、それぞれご記入ください。
 また、参考としてPRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）の写しをご提出ください。

名称	入試 分	選抜方	募集人数		選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の選定の有無	（診療科の選定がある場合）その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
学校推薦型選抜II（医学部医学科地域枠コース）	(i) 学校推薦型選抜	別枠（先行型）	8	6	令和7年度大学入学共通テストに基 点（概 820点）を設け、基 点以上 を得た受験者の中から、調 書・推薦書・ 志願所 書の 、令和7年度大学入 学共通テスト及び面接の 果を総合して 選抜する。	出願資格 次の（1）～（3）のいずれにも該当する者 で、岡山大学医学部での勉学を強く希望し、 合格した場合には必ず入学することを確約できる者 （1）志望する各県の出願要件を満たし、かつ卒業後は当該県内での医療に従事する強い 意志がある者で、各県が貸与する奨学金を在 学期間中に受給することに同意する者※ （2）令和7年度大学入学共通テストの受 験を要する教科・科目を受験する者 （3）出身学校長（高等学校長等）が人 、能力、質、適性等について 任をもって 推薦できる者 ※この学校推薦型選抜に出願し、合格した後 に、各県からの奨学金の受給を する場 合には、入学を取り ず。	有（推奨）	広島県のみ、必 要従事期間の 1/2の期間につ いて、中山間地 域又は広島県 知事指定の診 療科（病理診 断科・産婦人 科）で勤務しな ければならない。 （病理診断 科、産婦人科に 進んだ場合、中 山間地域等を 免除する）	H26	・【募集人数】岡山 県の募集人数につ いて、4名（臨時 定員2名・恒久定 員2名）の方向で 最終調整中。
合計			8	6						

（※1） 大学において、PRのために作成した文書（リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等）に記載の内容（ 大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和8年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

地域医療の経験は、入学時から段階的に触れさせることが重要であるため、「早期地域医療体験実習ⅠⅡ」（1年次）、「地域医療体験実習ⅠⅡⅢ」（3年次）、選択制臨床実習での「地域医療・プライマリケア実践コース」（5・6年次）等を通じて、低年次から継続的かつ段階的に医師不足地域や出身県等の地域医療へ接する機会を提供し、地域医療への関心や意欲を涵養するプログラムを実施している。また、キャリア支援として年1回以上の面談、地域枠学生同士、地域枠卒業生、県担当者、地元住民との交流イベント等を実施している。

「行動科学・プロフェッショナリズム育成科目Ⅰ～Ⅵ～Okadai Med ArtsⅠ～Ⅵ～」(1～6年次)は、地域枠以外の学生にとっても必修科目であるが、人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナリズム」など、医師に必要な資質・能力を修得するため、学年ごとに構造化された学習プログラムを提供している。

実習だけではなく、「医療政策・地域医療学」（3年次）で地域が抱える課題、国や県による医療政策等、座学で学ぶ場も提供している。

加えて、令和4年度から開始しているポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」の中で掲げているマスター養成プログラムを実践すべく、6年次選択制臨床実習のコースに、地域枠学生が優先的に受講することができる「公衆衛生」「救急・災害」「総合診療」のコースを設定し、令和5年度の6年生から実習を受けている。さらに、令和8年度から「地域医療総論」を新規開講し、6年間のカリキュラムの中で地域医療やプライマリ・ケアに全学生が関わる機会を確保する。

(参考：記入例)

1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。令和8年度からは、■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成22年度から地域枠による増員を開始し、地域医療を担う人材育成や地域医療の支援と連携に係る教育研究を行うことを目的に、平成22年度に「地域医療人材育成講座（岡山県の寄附講座）」を設置し、地域医療への関心と意欲を高める教育を行ってきた。令和7年度までに延べ132名の地域枠学生を確保している。そのうち86名が卒業した。医師免許を取得した後、各県の地域医療に貢献している。

(参考：記入例)

平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■などの取組を行ってきた。令和7年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修/選択の別		講義/実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年	早期地域医療体験実習ⅠⅡ	全員	必修	選択	実習	2.5	H23
3年	地域医療体験実習Ⅰ～Ⅲ	全員	選択必修	選択必修	実習	各0.6	H21以前
5-6年	選択制臨床実習 (地域医療・プライマリケア実践コース)	全員	必修	選択	実習	1.8相当	H25
1年	行動科学・プロフェッショナリズム育成科目Ⅰ～Okadai Med ArtsⅠ～	全員	必修	必修	講義	3.9	H27
2年	行動科学・プロフェッショナリズム育成科目Ⅱ～Okadai Med ArtsⅡ～	全員	必修	必修	講義	1.6	H27

3年	医療政策・地域 医療学	全員	必修	必修	講義	0.4	H22
3年	行動科学・プロ フェッショナリズム育 成科目Ⅲ～ Okadai Med Arts Ⅲ～	全員	必修	必修	講義	1	H28
4年	行動科学・プロ フェッショナリズム育 成科目Ⅳ～ Okadai Med Arts Ⅳ～	全員	必修	必修	講義	1.1	H28
5年	行動科学・プロ フェッショナリズム育 成科目Ⅴ～ Okadai Med Arts Ⅴ～	全員	必修	必修	講義	0.6	H28
6年	行動科学・プロ フェッショナリズム育 成科目Ⅵ～ Okadai Med Arts Ⅵ～	全員	必修	必修	講義	0.1	R8
1年	地域医療総論	全員	必修	必修	講義	0.4	R8

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。(地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修/選択の別を「選択」とご記載ください。)

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：○週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
2年～5年	離島医療体験実習	全員	特になし	約1週間	離島での医療を体験し、医師として望ましい在り方を学ぶ。	H24
1年～6年	地域枠学生・自治医科大学学生会同セミナー	地域枠学生	岡山県	2日間	医師不足地域の医療機関の訪問や自治体の首長等の講話等の学習を行い、交流を深める。	H24
1年～6年	地域枠ミーティング	地域枠学生	岡山県	1時間×4回	地域枠学生がテーマを策定して定期的にグループワークを行い、岡山県担当者も参加している。	H21以前
4年～5年	夏期、春期特別地域医療実習	地域枠学生	岡山県	5日間	夏期、春期の休暇期間を利用し、岡山県内の地域の医療機関にて実習を行う。	H24
2年・4年	哲西町診療所ツアー	地域枠学生	岡山県	3日間	哲西町診療所で地域医療を体験し、住民の方との交流を行う。	R2
1年～6年	夏セミナー	地域枠学生	兵庫県・広島県	2日間	兵庫県・広島県の各地域医療を小グループで体験する。	R2
1年～6年	サマーセミナー	地域枠学生	鳥取県	1から5日間	鳥取県内の医療機関もしくは保健所で実習する。	R5

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和7年度以前から継続する取組を含む) (1～2行程度)

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
キャリアサポートセミナー	地域枠学生・卒業生に対し、地域勤務修了の地域枠卒業医師の話や聞く機会を設け、将来について考える・相談する機会としている。	R5
面談	岡山県地域医療支援センター岡山大学支部の選任担当医師が年に1回以上面談を行い、キャリアについて相談する機会を提供する。	H27
指導医講習会（地域医療実習）	地域医療体験実習の指導医の先生方を対象に、実習内容のブラッシュアップのため、講演、魅力的な実習内容や指導方法の共有を行っている。	H26

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

2. 都道府県等との連携等

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定 主体	貸与人数	貸与対象	貸与額（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の選定 の有無	（診療科の選定が 有る場合） その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の 有無（※1）			
岡山県	4	新入生	200,000	14,400,000	岡山県からの奨学金（学費、生活費等に相当する額（年額240万円、月額20万円）を在学期間中（6年間）受給するとともに、医学科を卒業し医師免許取得後は、義務年限期間（貸与期間の1.5倍の9年間）に、岡山県知事が指定する県内の医療機関に勤務すること。 義務年限期間には、2年間の初期臨床研修（県内の大学病院又は県内の基幹型臨床研修病院が行う研修）、2年以内の選択研修（県内の専門研修基幹施設が行う研修及び県内のその他の施設が行う研修で知事が認めたもの）、5年以上の地域勤務（知事が指定する県内の医師不足地域等の医療機関での勤務）を含む。なお、選択研修による義務年限期間の中断は2年間まで認める。 岡山県が定める、このキャリア形成プログラムを履行することにより、貸与された奨学金の返還は全額免除される。	②大学における選抜と同時に都道府県において面接等を実施	×	無		・【貸与人数】岡山県の貸与人数について、4名の方向で最終調整中。
広島県	2	新入生	200,000	14,400,000	医学科卒業後、貸与期間の2倍の期間（12年間）以内に、必要従事期間（貸与期間の1.5倍の期間の9年間（広島県内の公的医療機関等で実施する2年間の初期臨床研修を含む）に、広島県内の公的医療機関等で医師として勤務し、かつ、必要従事期間の1/2の期間（広島県内の公的医療機関等での初期臨床研修の2年間を必要従事期間から減じて計算し、1年に満たない端数は切り上げるため4年間）について、広島県内の中山間地域等に所在する指定医療機関又は指定医療機関における知事が指定する診療科で勤務すること。 広島県が定める、このキャリア形成プログラムを履行することにより、貸与された奨学金の返還は全額免除される。	②大学における選抜と同時に都道府県において面接等を実施	×	有（推奨）	病理診断科、産婦人科	病理診断科、産婦人科に進んだ場合、へき地勤務を免除するもの

兵庫県	2	新入生	約160,000	11,514,800	<p>知事は、修学生が次の（１）、（２）のいずれかに該当するに至ったときは、修学資金の返還債務を免除するものとする。</p> <p>（１）大学を卒業し医師免許取得後、直ちに医師として指定医療機関に引き続いて勤務した期間（医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項の規定に基づき臨床研修を含む。）が9年間（貸与期間が4年未満の場合は5年間）に達したとき。</p> <p>（２）（１）に記載の勤務期間中に公務により死亡し、又は公務に起因する心身の故障のため免職されたとき。</p>	②大学における選抜と同時に都道府県において面接等を実施	×	無	1年生のみ入学金（500,000円）を含む。
-----	---	-----	----------	------------	---	-----------------------------	---	---	------------------------

（※1）診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。
※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
地域枠支援会議	地域枠学生のキャリア支援、卒後のサポート体制について1～2か月に1回大学、県担当者、県地域医療支援センターとの合同会議を行っている。	H26
地域医療を担う医師を地域で育てるためのワークショップ	県、地域医療機関、大学、地域枠学生が一堂に会し地域医療に関する講演会とワークショップを行っている。	H25
知事懇談会	岡山県枠の地域枠学生、特に卒業する6年生に対して、知事から激励の言葉と県民の期待を伝える。	H24

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

3. 在学中の地域枠学生に対する大学の相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援

在学中の地域枠学生に対する大学の相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援についてご記入ください。（都道府県と連携した取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
入学前オリエンテーション	合格発表後、入学までの間に、地域枠在学生と入学予定者との交流会を開催し、入学予定者の不安をやわらげるため、生活や勉強、卒後のこと等、様々なことを質問できる場を設定している	R6
個人面談	地域医療人材育成講座 教員による地域枠学生個人面談を毎年実施している。 6年生の面談には岡山県職員も同席。	H21以前
学生主催のミーティング	将来、地域とともに医療に取り組む仲間同士の交流を図るため、定期的に学生主催の地域枠学生全学年を対象としたミーティングを開催している。	H21以前
地域医療シンポジウムや学会への参加サポート	希望者には、診療所での特別実習の実施や、県外の地域医療シンポジウム及び学会への参加サポートを行い、学生時代から県内外の地域医療に触れ、将来地域で果たす役割の理解を深める取組を実施している。	H22

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

4. その他

1～3に記入したものを以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の 後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために 大学で取り組まれていることや 後の取組予定がありましたら、ご記入ください。

本学の入試説明会やオープンキャンパス、予備校主催の全国医学部入試説明会、兵庫県主催の医師修学資金説明会に、地域医療人材育成講座の教員が出席し、地域枠制度、本学の地域医療教育、地域枠コースに関する説明を行うとともに、個別ブースで地域枠志願者からの質問に丁寧に対応している。また、岡山県、広島県と合同で、各県内の高等学校に訪問し、進路指導の教員に説明を行っている。さらに、高等学校の教員と生徒（医学部志願者）が大学訪問を行う機会を活用し、地域枠制度、本学の地域医療教育、地域枠コースに関する説明や、訪問高校を卒業した地域枠在學生と、生徒との対話の場を設けている。

令和5年度からポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」の一環で、岡山大学、島根大学、香川大学、鳥取大学合同で「高校生向け地域枠・地域医療合同説明会」を開催している。

1 基礎医学及び社会医学の研究医養成のための入学定員増を実施する趣旨

※養成しようとする研究医像、教育の実施体制、取組内容等について記載

●養成しようとする研究医像

本学が養成を目指す研究医は、以下のような資質を備えた人材である。

- ・高い研究志向を有し、科学的探究心と批判的思考を備える。
- ・臨床の現場で得た課題意識を出発点とし、医学の未解明領域に挑戦する強い意欲を有する。
- ・生命倫理、社会的責任、国際的視野を兼ね備える。
- ・将来的に、大学や研究機関における基礎医学・社会医学分野で研究と次世代育成を担う。

特に、基礎医学に加え、疫学、公衆衛生、医療政策、医療経済などの社会医学分野において、医学・医療の持続可能性と公共性を担保しうる高い研究力を備えた次世代型研究医の養成を意図する。

●教育の実施体制

(1) Pre-ARTプログラム（学部段階）

医学部1年次から、基礎医学・社会医学分野の研究室に長期所属し、研究活動に従事。

大学院講義の一部を先取り履修し、知識的基盤を早期に構築。

研究活動の成果を蓄積することで、大学院進学後の研究加速が可能。

当該プログラムは、一般学生と同様の学士課程カリキュラムに加えて実施され、教育課程上の柔軟性と両立性を確保。

(2) ARTプログラム（大学院博士課程＋初期臨床研修）

2009年度より全国に先駆けて開始。初期臨床研修と大学院進学を並行実施。

臨床の現場経験を活かしつつ、早期に博士学位取得を可能とする設計。

大学院教育との接続を重視し、研究と臨床の両立を可能とするスケジュールリングと支援体制を整備。

(3) ARTⅡプログラム（大学院博士課程＋専門医取得）

2025年度より新設。専門医資格取得と大学院進学を並行実施を可能に。

ARTプログラム同様に、柔軟かつ効率的な研究・教育体制の下、臨床と研究の高度な融合を図る。

(4) 支援体制

大学院医歯薬学総合研究科の各研究分野に所属する教員による多元的指導体制。

特にARTプログラム、ARTⅡプログラムは岡山大学病院卒研センターと連携し、キャリアパス支援など、

研究医としての成長を多方面から支援。

学部時代からの研究歴を活かし、研究成果論文を学位論文として活用可能な制度を整備。

2 研究医養成拠点として相応しい実績

継続的に大学院生を輩出してきた
客観的な実績

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（医）では、2009年度から2024年度までの15年間にわたり、計1463名（年平均約98名）の大学院入学者を安定的に確保しており、これは同研究科の持続的な研究指導体制および魅力ある教育環境の証左である。

このうち、基礎医学分野に進学したのは124名、社会医学分野が34名であり、研究志向の強い学生層が一定の割合でこれらの分野に進学している。

また、岡山大学医学部医学科から自大学大学院へと進学した学生のうち、基礎医学分野を選択した29名中18名（62.1%）が、「ARTプログラム」での入学であった。この事実は、研究医キャリアへの高い関心と、大学側の体系的支援によって、基礎研究分野への進学が実効性をもって機能していることを示している。

★送付している別添様式1に記入し、資料として添付すること。

<p>継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績</p>	<p>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（医）では、2009年度から2024年度までの15年間にわたり、基礎医学および社会医学系の研究を行う大学院生303名を輩出してきた。これは、短期的な育成に留まるものではなく、長期にわたって研究医養成を継続的に実施してきた実績であり、岡山大学が基礎・社会医学分野における研究指導体制と教育環境を恒常的に整備している証左である。</p> <p>この303名の中には、医師として臨床経験を有しながら、基礎・社会医学領域の研究テーマで学位を取得した者も多数含まれており、研究志向の医師が体系的に育成されている状況が確認できる。</p> <p>さらに、博士課程修了者のうち、臨床医学系分野で修了した185名のうち、42名（22.7%）は研究活動を継続している。また、上記42名のうち、13名は基礎・社会医学分野で研究活動を継続している。これは、臨床医学系分野においても研究志向の人材が一定の割合で育成されていること、また一部は基礎・社会医学研究に携わり、アカデミアあるいは研究関連分野でのキャリアを選択していることを示す客観的な指標である。</p> <p>加えて、ARTプログラムで博士号を取得した修了者の中から、国立大学の基礎医学系の教授や、30代前半で国立大学の基礎医学系の講師として活躍している者が輩出されていることは、研究医養成の質と効果を示す重要な成果であり、特筆に値する。</p>
-----------------------------	--

★送付している別添様式1に記入し、資料として添付すること。

<p>大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●文部科学省令和6年度大学教育再生戦略推進費 「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」（令和6年度採択） ●文部科学省令和5年度大学教育再生戦略推進費 「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」（令和5年度採択） ●文部科学省令和4年度大学教育再生戦略推進費 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」（令和4年度採択・主管校） ●文部科学省令和2年度 「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」（令和2年度採択・連携校）
--------------------------------	---

<p>他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●科研費における全国的評価 【参考資料01】 <ul style="list-style-type: none"> ・全国第12位（令和7年度） 日本学術振興会の「研究者が所属する研究機関別採択件数上位30機関（令和7年度新規採択分）」において、岡山大学は全国第12位という高順位に位置している。 ・学内部局別でも高採択率（令和7年度） 岡山大学内部の部局別データでも、医歯薬学総合研究科（医）は高い応募採択率を維持しており、学内における牽引的研究部門であることが裏付けられる。 ●専門分野別科研費採択数（中区分別） 【参考資料02】 <ul style="list-style-type: none"> ・55_恒常性維持器官の外科学およびその関連分野 全国第4位 ・56_生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野 全国第6位 (いずれも令和6年度版 過去5年間の新規採択の累計数に基づく) <p>これらの中区分は、臨床と基礎の融合的研究が求められる領域であり、岡山大学は全国有数の実績を継続的に有していることが分かる。</p> ●国際的研究成果における存在感 【参考資料03】 出典：文部科学省科学技術・学術政策研究所「研究論文に着目した日英独の大学ベンチマーキング2023」（2024年6月） <ul style="list-style-type: none"> ・「自然科学系19分野における自大学がリードする国際共著論文数の国内大学上位10位の一覧（2017-2021年）」 ・「臨床医学」分野で国内上位10大学にランクイン ・「微生物学」分野で国内上位10大学にランクイン <p>国際共著で岡山大学が”リードオーサー”となる論文が多い点は、単なる協力参加ではなく、世界をリードする研究構想力と実行力がある研究医を育成・輩出していることの証左である。</p> ●基礎生命科学分野における論文の質の向上 【参考資料04】 同ベンチマーキングレポートにおける「Top10%補正論文数（国内シェア）」の分析によれば、岡山大学は2007-2011年と比較して、2017-2021年で伸長傾向を示している。これは量ではなく質で評価される国際的研究論文において岡山大学のプレゼンスが高まっていることを意味し、研究医の育成において競争力ある環境であることが分かる。 <p>※全国平均や全国ランキング等を活用し、他大学と比較して研究医養成拠点として相応しいことが客観的にわかるよう記載すること ※実績を示す資料（図表等）を適宜添付すること</p>
---	--

3 研究医養成に関する取組状況①

(1) 設定する学部・大学院教育を一貫して見通した特別コースの概要及び履修者の確保状況

<p>コース名</p>	<p>①ARTプログラム ②ART II プログラム ③ART II Plusプログラム ④Pre ARTプログラム ⑤基礎研究医プログラム ※上記5つのコースの参考資料は「06_【28_岡山大学】特別コースの具体的な内容」として添付</p>
<p>特別コースの概要 (※)</p>	<p>①出身大学を問わず、岡山大学病院または岡山市立市民病院で臨床研修と同時に大学院進学する方を対象としたプログラム。臨床研修と大学院での研究活動を両立させることにより、学部卒業後最短4年で博士号を取得することを可能とする。</p> <p>②岡山大学医学部医学科出身者で、臨床研修終了後に岡山大学病院での専門研修中または専門研修を修了し、大学院進学する方を対象としたプログラム。専門研修と大学院での研究活動を並行する場合、学部卒業後最短6年で博士号を取得することを可能とする。</p> <p>③岡山大学以外の医学部医学科出身者でかつ、岡山大学病院または岡山市立市民病院で臨床研修を行う人を対象としたプログラム。臨床研修中に科目等履修生（Pre-ARTプログラム）となり、専門研修中または専門研修修了後に大学院に入学。専門研修と大学院での研究活動を並行する場合、学部卒業後最短6年で博士号を取得することを可能とする。</p> <p>④岡山大学医学部医学科1年生～6年生を対象としたプログラム。大学院進学後のARTプログラムを効率的に行うこと、また、学部時代からより早期に、より長期にわたり、医学研究に取り組む環境を整備し、研究マインドの醸成を図るため、研究室に所属し研究活動を行うことや、大学院講義の一部を先取り履修することを可能とする。</p> <p>⑤出身大学を問わず、岡山大学病院で臨床研修を行い、かつ前年度のARTプログラム特別入試を合格した方を対象に、臨床研修中に基礎研究を並行して行うプログラム。初期研修期間中に基礎研究教室において16～24週未満で研究を行うことを必須としている。</p> <p>なお、上記のうち、①ARTプログラムを原型とし、②ART II プログラムおよび③ART II Plusプログラムへと体系的に発展させてきた背景には、初期研修期間に限らず、専門研修中においても大学院での研究活動を支援できる柔軟な体制を整えるという目的がある。</p>

※本欄には特別コースの概要を簡潔に記載し、その**具体的な内容（学年進行、履修内容等）**がわかる資料を別添様式1のフローチャートを含め、添付すること（★）
※特別コース開始後、これまでにその内容に変更があった場合又は今後変更する予定がある場合には、その旨を記載するとともに、変更前と変更後の両方の資料を添付すること

<p>特別コースの履修者の確保状況</p>	<p>★送付している別添様式1に記入し、資料として添付すること。</p>
-----------------------	--------------------------------------

(2) 複数大学の連携によるコンソーシアムの形成

<p>連携先大学</p>	<p>①西日本医学生学術フォーラム所属大学 (例：愛媛大学、大阪大学、大阪公立大学、香川大学、関西医科大学、熊本大学、島根大学、徳島大学、奈良県立医科大学、三重大学、山口大学)</p> <p>②奈良県立医科大学</p>
<p>連携先大学との取組の概要 (※)</p>	<p>①西日本医学生学術フォーラム開催、参加</p> <p>②岡山大学医学部医学科における「医学研究インターンシップ」、奈良県立医科大学における「リサーチクラークシップ」での学生交流 【参考資料05】</p>

※過去に入学定員増を実施した大学においては、過去の取組と今後の取組の両者について記載すること

<p>連携大学との役割分担</p>	<p>①輪番制による主管校での「西日本医学生学術フォーラム」の開催</p> <p>②協議書に基づき、岡山大学医学部医学科における「医学研究インターンシップ」、奈良県立医科大学における「リサーチクラークシップ」での相互の学生派遣・受入、研究指導</p>
-------------------	---

(3) 研究医としての従事を条件とする奨学金制度の概要及び奨学金の給付等の状況

奨学金制度名	①ARTプログラム奨学金 ②ART II プログラム奨学金 ③ART II Plusプログラム奨学金 ④基礎研究医プログラム奨学金 ※上記4つの奨学金の 及び給付状況は「07_【28_岡山大学】奨学金給付等の状況」として添付
奨学金の別	① 給付型・貸与型 ②～④ 給付型
貸与時期・金	① 貸与型：入学年度に限り50 貸与し、学位取得後の2年間に 。 給付型：募集年度の3月に16 を支給。 ②③ 募集年度の3月に16 を支給。 ④ 入学年度に1回のみ50 を支給。
従事要件	① 貸与型：従事要件なし 給付型：支給年度の2月末までに「研究成果報告書」の提出を求める。 ②③ 支給年度の2月末までに「研究成果報告書」の提出を求める。 ④支給年度の2月末までに「研究成果報告書」の提出を求める。
奨学金制度の概要 (※)	① 貸与型：ARTプログラムにより岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（博士課程）に入学予定であり、本奨学金に申請した者から10名程度を選考。基準日（5/11、11/1）に奨学生の研修医及び大学院生としての在籍状況を確認し、両者の在籍状況が確認できた者に奨学金を貸与 給付型：募集年度もしくはその前年度にARTプログラムにより博士課程に入学（予定）の者で、かつ、岡山大学医学部医学科在学中にPre-ARTプログラムを4年間実施し、研究活動を行った者を対象とした奨学金。本奨学金に申請した者から選考する奨学生の人数は、予算に応じて決定。入学手続き、もしくは在籍を確認の上で支給。 ② 岡山大学医学部医学科在学中にPre-ARTプログラムを4年間実施し、研究活動を行った者で卒業6年間以内にARTプログラム特別入試により大学院医歯薬学総合研究科博士課程に入学した者を対象とした奨学金。本奨学金に申請した者から選考する奨学生の人数は、予算に応じて決定。入学手続きを確認の上で支給。 ③ 岡山大学医学部医学科以外の出身者かつ岡山大学病院または岡山市立市民病院で臨床研修を行いながらPre-ARTプログラムにより科目等履修生として登録した者を対象とした奨学金。本奨学金に申請した者から選考する奨学生の人数は、予算に応じて決定。入学手続きを確認の上で支給。 ④ ARTプログラム特別入試により岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（博士課程）に入学予定の者かつ、基礎研究医プログラムに採用予定の者を対象とした奨学金。基準日に奨学生の在籍状況確認の上で支給。

※本欄には奨学金制度の概要を簡潔に記載し、その具体的な内容（対象者、金額等）がわかる資料を添付すること

※奨学金制度開始後、これまでにその内容に変更があった場合又は今後変更する予定がある場合には、その旨を記載するとともに、変更前と変更後の両方の資料を添付すること

奨学金の給付等の状況	★(1)の特別コースの履修者について、奨学金の給付、貸与等の状況がわかる資料を添付すること（様式自由） →「07_【28_岡山大学】奨学金給付等の状況」として添付
------------	--

(4) キャリア支援

研究医としてのキャリア支援に関する取組	臨床研修と大学院進学を並行する「ARTプログラム」だけではなく、専門医取得と並列して博士号を取得できる「ART II プログラム」を設置し、学部生のオリエンテーションでの説明や、個別相談などに対応している。
---------------------	---

(5) 海外での研究・研修の機会提供の取組及び医学部学生の採用状況

海外での研究・研修の機会提供の取組	学部における海外での研究活動機会としては、3年次必修科目「医学研究インターンシップ」において、全学生が3月間、学外や学内の研究室に配属され、研究活動を行う。学外の中には海外の大学や研究施設への派遣コースがあり、毎年15名の学生が派遣される。
-------------------	--

医学部学生の
採用状況

「医学研究インターンシップ配属一覧」【参考資料06】のとおり、毎年、海外コースに約16名の医学科生が配属され、大学及び研究施設での研究を行っている。また、近年では帰国後も学内で研究を継続する学生が増えている。

4 研究医養成に関する取組状況②

専用の入試枠の設定による選抜の実施の有	医学部医学科における専用の入試枠設定は行っていない。
実績「有」の場合選抜方式	
資料	★選抜方法がわかる資料（募集要項等）を添付すること（様式自由）
実績「 」の場合（※）	現時点で予定はしていないが、必要であれば設定することを する。
学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置（※）	Pre ART生が所属する分野の指導教員の申請（研究指導計画を含む）に基づき、Pre-ART生1名につき、研究活動支援費年間10 を支給している。

※予算措置の具体的な内容について記載し、必要に応じて資料を添付すること

学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築	
形式	学内での研究成果発表、加えてPre ARTプログラム履修者は各教育研究分野に所属し、国内外の学会で発表の機会を設定。学会発表にかかる経費を組織的に支援している。
具体的な内容（※）	<p>学生・教員（いずれも学内）が参加する「医学研究インターンシップ」での研究発表会 全3年次生が、学内もしくは学外（海外・国外）の研究室に所属し、研究を行い、成果発表まで受け入れ研究室の教員が指導を行う。 【参考資料07】</p> <p>学生・教員（いずれも学内外）が参加する「西日本医学生学術フォーラム」での研究成果発表 Pre ARTプログラムでは、研究室に所属し、研究を行っており、受入研究室の教員が研究及び成果発表の指導を行う。 【参考資料08】</p> <p>「西日本医学生学術フォーラム」に加え、研究者（学内外）が参加する各教育研究分野指導の下で実施される学会発表にも積極的に参加させている。</p> <p>なお、「西日本医学生学術フォーラム」や各教育研究分野指導の下で実施される学会発表に対する経費支援を行っている。</p>

※具体的な発表機会の内容（どのような場・形式での発表機会が確保されているか等）及び指導体制（教員配置等）について記載し、必要に応じて資料を添付すること

研究医となった際の常勤ポストの確保の取組	<p>「岡山大学学術研究院医歯薬学域医学系教員候補者選考要項」において、助教の採用にあたり、教育、研究、診療に必要があると認められた場合に限り、下記基準による選考が可能であることを定めた。これは、研究医として優れた能力を持つ若手を積極的に採用することができるようにするためである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理科系の修士課程修了（6年制の学士課程修了含む。）又は大学卒業後2年以上の教育・研究歴を有し、主著（責任著者を含む。）の英文原著論文1編以上を有する者、又はこれと同等以上の能力を有すると認められる者
----------------------	---

卒業生の状況	<p>2009年度から2022年度までに医学部医学科を卒業した1548名のうち、大学、大学病院、研究所、海外留学等の場において研究活動に従事している卒業生は416名に上る（なお、2023年度および2024年度の卒業生は、現在初期臨床研修中であるため集計対象から除外している）。</p> <p>大学病院を基盤としつつ、関連病院等に一時的に勤務している卒業生を含んでいない点を考慮すると、研究活動に関わる環境に身を置く卒業生は実際にはさらに多いと考えられる。これらの状況から、研究志向を維持し、大学院進学を目指す卒業生が一定数存在しており、本学には研究医養成に適した素地が着実に形成されていることがうかがえる。</p> <p>さらに、ARTプログラムで博士号を取得した修了者の中には、国立大学の基礎医学系分野において教授や、30代前半で国立大学の基礎医学系の講師として活躍している者など、優れたキャリアパスを歩む者も輩出されており、研究医養成の質と実績を裏付けている。</p>
--------	--

臨床研修により研究活動が中断されることのないようにするための配慮	2025年度から専門医取得と並列して大学院（博士過程）へ進学し、早期の博士号取得ならびに研究医を目指すことができるようARTⅡプログラムとして増設した。大学院進学後、効率的に研究活動を行うため、また、学部時代からより早期に、より長期にわたり、医学研究に取り組む環境を整備するため、2024年度までは3年次以降の履修であったPre ARTプログラムを1年次から開始できるようにした。Pre ARTプログラムに登録した学生は、大学院進学後にその研究歴を活かすことができるよう、学部時代からの研究成果論文を規程に基づき、学位論文として申請可能とした。
----------------------------------	--

その他研究医に必須の能力を養成する上で必要不可欠と考えられる取組	<p>本学では、他分野での専門的知見と研究経験を有し、医学研究に新たな視点をもたらす人材の育成を目的として、第2年次編入学（学士編入学）制度を実施している。2025年度からの入学者には、研究医としての基礎能力を体系的に養成する「Pre ARTプログラム」の履修を必修とし、初期段階から研究マインドの涵養に取り組んでいる。</p> <p>さらに、2026年度入学選抜からは、志願者の研究業績（学術論文、学会発表等）を出願書類に加え、書類審査および面接評価の重要資料として活用する方針である。これにより、学際的視点を有し、かつ研究への積極的な関与姿勢を持つ学生を選抜する仕組みを強化している。</p> <p>特に、本制度には理工系など、医学以外の分野で大学院修了経験を有する志願者が多く、こうした異分野での知見を活かして医学を学び直し、研究へ応用する能力を有する人材を発掘・養成することを強く意識した運用を行っている。</p>
----------------------------------	---

5 過去に当該枠組みにより入学定員増を実施した場合の現在の状況

大学が講ずることとされた措置の履行状況（※）	今回初めての申請であり、本項目は該当しない。
------------------------	------------------------

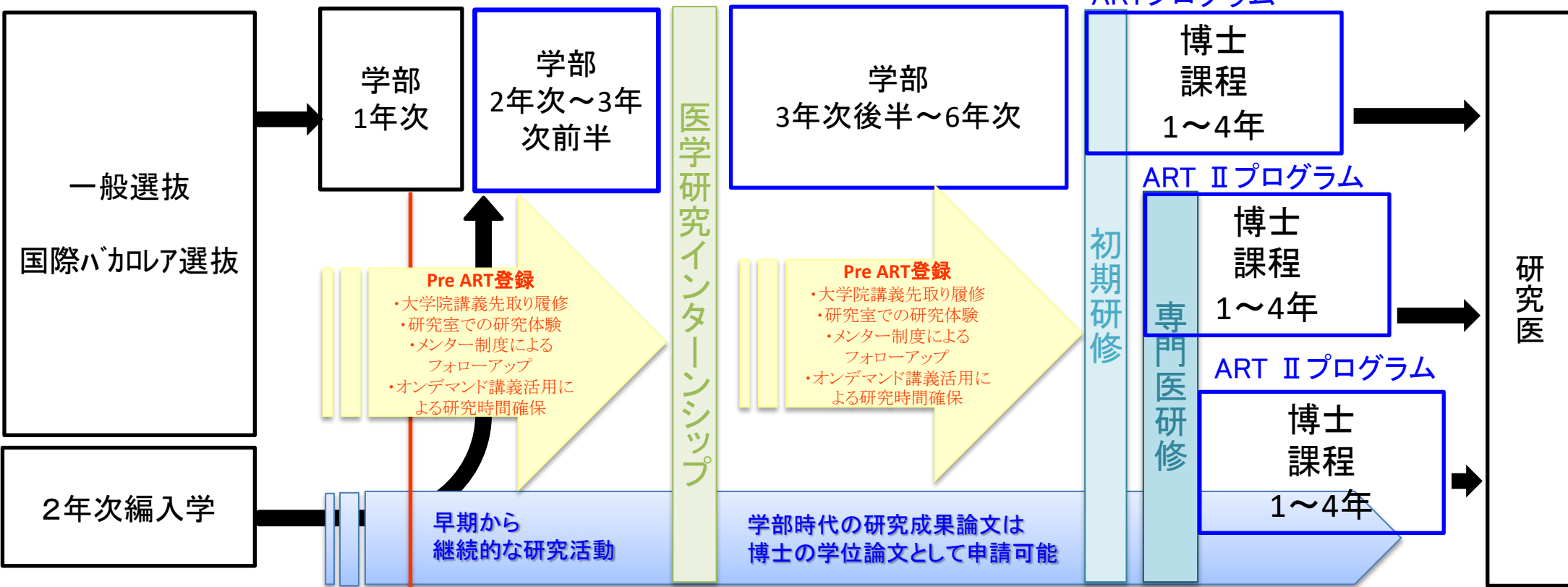
※過去に入学定員増を実施した際の要件、当時の増員計画書を参照し、大学が講ずることとされた措置の全てが履行されていることを確認の上、その状況を記載すること

研究医養成に関する取組の有効性の確認（※）	今回初めての申請であり、本項目は該当しない。
-----------------------	------------------------

※過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等とともに記載すること

※2年次～6年次の研究医枠学生へ
貸与型奨学金を支給することを検討中
(要件を満たすことにより、返済免除)

恒久定員:105名
(うち5名は2年次編入)
増員希望:2名



1年次後半に一般選抜、国際バカロレア選抜入学者、
2年次編入学入学予定者より、研究医コース所属希望者を募り、
選考。(2名)

実績

	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
特別コースの履修者数 ※当該年度の新規履修者	13	29	24	25	25	41	7	31	26	39	26	20	20	47	16	13	42

※3～6年次の研究医プログラム(Pre ARTプログラム)に所属する学生数を計上。

(入学年度)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
基礎・社会医学系大学院 進学者数【A】 ※括弧内は自大学出身者	13 (6)	10 (4)	3 (2)	5 (2)	6 (2)	13 (3)	11 (4)	8 (1)	12 (4)	6 (1)	13 (2)	14 (4)	14 (2)	4 (1)	12 (1)	14 (1)	14 (1)
臨床系大学院進学者数 【B】 ※括弧内は自大学出身者	55 (28)	67 (45)	82 (46)	79 (29)	71 (42)	81 (44)	90 (40)	89 (44)	81 (52)	95 (46)	88 (48)	75 (37)	76 (34)	92 (52)	93 (52)	91 (44)	75 (31)

(博士課程修了年度)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
【A】の修了者数	7	8	4	5	9	5	5	3	10	9	7	8	10	5	11	12
【B】のうち、基礎・社会学系 の論文(又は共著論文)を執筆した修了者数	20	13	10	8	13	11	11	13	7	13	11	14	12	11	8	10
合計	27	21	14	13	22	16	16	16	17	22	18	22	22	16	19	22

(博士課程修了年度)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
基礎・社会医学研究分野の 就職者数	7	8	4	5	9	5	5	3	10	9	7	8	10	5	11	12
臨床系のうち、基礎・社会医学 研究に従事する者等の数	1	0	1	1	0	2	1	0	2	0	0	3	1	1	0	0
合計	8	8	5	6	9	7	6	3	12	9	7	11	11	6	11	12

岡山大学

OKAYAMA UNIVERSITY

2025



OKAYAMA
UNIVERSITY

2025年度 学生募集要項

学校推薦型選抜Ⅱ
(医学部医学科地域枠コース抜粋版)

【出願期間】

・学校推薦型選抜Ⅱ【医学部医学科】

2024年12月11日(水)～2024年12月18日(水)

※出願期間以降に到着した願書は2024年12月16日(月)の消印のものまで受理します。

岡山大学を志すみなさんへ

—君たちこそが主役です—

岡山大学は、「地球と生態系の健康(Planetary Health)」の実現に向かって、地域と地球の「ありたい未来の共創」に貢献することを使命としています。また、持続可能性と多様な幸せ(ウェルビーイング)を追究する「SDGs 推進研究大学」として、人文・社会科学から自然科学・医療にわたる幅広い専門知・実践知と、データサイエンスをはじめとする新たなリテラシーとの分野横断的な統合による「総合知」の創出と活用を推進しています。

教育においては、新たな価値創造と世界の革新に貢献する人材として、「主体的に変容し続ける先駆者」の育成を使命に掲げ、大学院教育の改革に続き、学士課程教育・高大接続の一体改革と社会人の学び直しの充実に取り組み、自ら変容し続けています。一連の改革を通して、地域・世界との「共育共創」の枠組みの下、学修者本位の教育体制と環境を研究大学に相応しい姿で構築しています。

自分自身のことのみならず、家族、友人、地域社会、そして地球のあるべき姿や課題について想像力豊かに思いを巡らせ、自分自身ができることを主体的に考え、新たな価値を創り出していこうとする姿勢を、学生になった皆さんに求めています。君たちこそが主役なのです。

特に、特別選抜では、いわゆる「学力検査」では測定することが困難な能力を見極め、世界共通の社会課題に関心を持ち、課題解決に意欲と探求心を持つ人を選抜するため「持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)」の視点から出題を実施しています。

意欲のある皆さんの入学をお待ちしています。



岡山大学長

那 須 保 友



【2025年度入学者選抜における新教育課程履修者と旧教育課程履修者等の定義】

<p>新教育課程履修者</p>	<p>①高等学校（特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）に令和4年4月に入学し，平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程の下で学び，令和7年3月に卒業見込みの者</p> <p>②中等教育学校の後期課程に令和4年4月に進級し，平成30年告示学習指導要領に基づく教育課程の下で学び，令和7年3月卒業見込みの者</p>
<p>旧教育課程履修者等</p>	<p>上記以外の者</p> <p>*高等学校等卒業生，高等学校卒業程度認定試験合格者又は合格見込者，大学入学資格検定合格者，高等専門学校第3学年修了者又は修了見込者，高等専修学校（文部科学大臣に指定された高等専修学校に限る。）修了者又は修了見込者，外国の学校等修了者又は修了見込者，在外教育施設修了者又は修了見込者，及び高等学校等を令和7年3月卒業見込みであるが入学は令和4年3月以前の者など上記に該当しない者</p>

目 次

	ページ
1 学科及び募集人員	1
2 推薦者数	1
3 出願資格	1
4 障がい等のある方の出願	4
5 出願手続	4
6 受験票等のダウンロード	9
7 入学者選抜方法等	11
8 合格者発表等	12
9 入学手続	12
10 入試担当	13
11 欠員補充第2次募集	14
12 WEB出願の流れ	15
13 出願書類の整理	19
14 受験生宿泊申込	19
15 入試情報の開示	19
16 岡山大学の教育における方針（アドミッション・ポリシー等）	20
17 学生生活等	21
<small>(1)入学料及び授業料, その他入学時納付金, 2学費支援, 3女子学生寮, 4学生マンション・アパート等の紹介, 5福利厚生施設)</small>	
18 大学案内図等	25

入学試験情報ホームページ

岡山大学ホームページ (<https://www.okayama-u.ac.jp>)から「入試」をクリックしてください。

(注1) 試験に関する重要なお知らせが生じた場合(災害の発生や大規模な感染症の流行を含む。)は、下記HPにより周知を行いますので、必ず確認してください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/index.html>

(注2) 不正行為をしたとき若しくはしようとしたとき、又は監督者の指示に従わないときは、その入学者選抜については失格とするとともに、警察に被害届を提出する場合があります。

学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課すもの）

医 学 部

1 学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員	
医学科 地域枠コース	岡山県	4人
	広島県	2人
	兵庫県	2人

(注1) 地域枠コースにおいて志望する県は、第1志望のみ認めます。

(注2) 入学定員1人（岡山県1人）について、入学手続き者が所定の募集人員に満たない場合には、その欠員数を一般選抜（前期日程）の医学部医学科（一般コース）に含めて選抜します。

(注3) 臨時定員7人（岡山県3人、広島県2人、兵庫県2人）については、入学手続き者が所定の募集人員に満たない場合であっても、その欠員数を一般選抜（前期日程）に含めません。県によっては欠員補充を行うことがあります。詳細は14ページを参照してください。

2 推薦者数

1 学校当たりの推薦者数は特に制限しません。

3 出願資格

次の（1）～（3）のいずれにも該当する者で、岡山大学医学部での勉学を強く希望し、合格した場合には必ず入学することを確約できるもの

- 志望する各県の出願要件を満たし、かつ卒業後は当該県内での医療に従事する強い意志がある者で、各県が貸与する奨学金を在学期間中に受給することに同意するもの※
- 令和7年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目（次表参照）を受験する者
- 出身学校長（高等学校長等）が人物、能力、素質、適性等について責任をもって推薦できる者

※この学校推薦型選抜に出願し、合格した後に、各県からの奨学金の受給を辞退する場合には、合格又は入学を取り消す。

<各県の出願要件>

【岡山県】

次のいずれかを満たす者とします。

- 岡山県内の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2022年4月から2025年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- 岡山県以外の都道府県の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2022年4月から2025年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、出願時において本人又は保護者が岡山県内に居住しているもの

【広島県】

次のいずれかを満たす者とします。

- 広島県内の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2022年4月から2025年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- 広島県以外の都道府県の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2022年4月から2025年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、出願時において本人又は保護者が広島県内に居住しているもの

【兵庫県】

次のいずれかを満たす者とします。

- ① 兵庫県内の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2022年4月から2025年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- ② 兵庫県以外の都道府県の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2022年4月から2025年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、出願時において本人又は保護者が兵庫県内に居住しているもの

（注）岡山大学における保護者の定義は、次のとおりとします。

学校教育法第16条に規定する「保護者」又は民法第877条に規定する「扶養義務者」のうち、現に出願者を扶養している者をいいます。

<地域枠コース入学者の履行義務>

【岡山県】

地域枠コース（岡山県）の入学者は、岡山県からの奨学金〔学費、生活費等に相当する額（年額240万円、月額20万円）〕を在学期間中（6年間）受給するとともに、医学科を卒業し医師免許取得後は、義務年限期間（貸与期間の1.5倍の9年間）に、岡山県知事が指定する県内の医療機関に勤務しなければなりません。義務年限期間には、2年間の初期臨床研修（県内の大学病院又は県内の基幹型臨床研修病院が行う研修）、2年以内の選択研修（県内の専門研修基幹施設が行う研修及び県内のその他の施設が行う研修で知事が認めたもの）、5年以上の地域勤務（知事が指定する県内の医師不足地域等の医療機関での勤務）を含みます。なお、選択研修による義務年限期間の中断は2年間まで認めています。

岡山県が定める、このキャリア形成プログラムを履行することにより、貸与された奨学金の返還は全額免除されます。また、在学期間中には、将来地域で勤務するためのキャリア形成を支援するプランが適用されます。当該プログラム等の詳細は、岡山県ホームページ

(<https://www.pref.okayama.jp/page/detail-113238.html>) を参照してください。

【広島県】

地域枠コース（広島県）の入学者は、広島県からの奨学金〔学費、生活費等に相当する額（年額240万円、月額20万円）、法定利率による貸付利息あり。〕を在学期間中（6年間）受給するとともに、医学科卒業後、貸与期間の2倍の期間（12年間）以内に、必要従事期間（貸与期間の1.5倍の期間の9年間；この9年間には広島県内の公的医療機関等で実施する2年間の初期臨床研修を含みます）に、広島県内の公的医療機関等で医師として勤務し、かつ、必要従事期間の1/2の期間（広島県内の公的医療機関等での初期臨床研修の2年間を必要従事期間から減じて計算し、1年に満たない端数は切り上げるため4年間）について、中山間地域又は広島県知事指定の診療科（病理診断科・産婦人科）※で勤務しなければなりません。なお、在学期間中は、広島県等が定める「キャリア形成卒前支援プラン」に基づく支援を受け、必要従事期間内は、広島県等が定める「キャリア形成プログラム」に沿って勤務を行うこととなります。

このキャリア形成プログラムを履行することにより、貸与された奨学金（利息を含む。）の返還は全額免除されます。当該プラン及びプログラムの詳細は、広島県ホームページ

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/54/ishi-shougakukin.html>) を参照してください。

※広島県知事指定の診療科については、今後、変更する場合があります。

【兵庫県】

地域枠コース（兵庫県）の入学者は、兵庫県が定めるキャリア形成卒前支援プランに参加し、兵庫県からの修学資金〔入学料（1年次のみ）・授業料等に相当する額）を在学期間中、四半期毎に受給するとともに、医学科を卒業し、医師免許取得後は、兵庫県の正規職員として兵庫県が定めるキャリア形成プログラム（県養成医師キャリア形成プログラム）に沿って兵庫県知事が指定する医療機関に勤務しなければなりません。この勤務期間（2年間の初期臨床研修及び後期研修（卒後6～7年目に実施）を含む。）が9年間に達したとき、貸与された修学資金の返還が全額免除されます。当該プログラムの詳細は、兵庫県ホームページ (<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf15/ishisyugakushikin.html>) を参照してください。

大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
医 学 科 地域枠コース	<p>【大学入学共通テストの教科・科目】 [6教科8科目]</p> <p>国語 (『国語』)</p> <p>地理歴史 (『地理総合, 地理探究』, 『歴史総合, 日本史探究』, 『歴史総合, 世界史探究』) } から1</p> <p>公民 (『公共, 倫理』, 『公共, 政治・経済』)</p> <p>数学 (『数学I, 数学A』 (『数学II, 数学B, 数学C』))</p> <p>理科 (『物理』, 『化学』, 『生物』 から2)</p> <p>外国語 (『英語』, 『ドイツ語』, 『フランス語』, 『中国語』, 『韓国語』 から1)</p> <p>情報 (『情報I』)</p> <p>*ただし, 旧教育課程履修者等は, 次の通り選択できます。</p> <p>『地理総合, 地理探究』, 『歴史総合, 日本史探究』, 『歴史総合, 世界史探究』に代えて, 『旧地理B』『旧日本史B』, 『旧世界史B』を選択できます。</p> <p>『公共, 倫理』, 『公共, 政治・経済』に代えて, 『旧現代社会』, 『旧倫理』, 『旧政治・経済』, 『旧倫理, 旧政治・経済』を選択できます。</p> <p>『数学I, 数学A』に代えて, 『旧数学I・旧数学A』を選択できます。</p> <p>『数学II, 数学B, 数学C』に代えて, 『旧数学II・旧数学B』を選択できます。</p> <p>『情報I』に代えて, 『旧情報』を選択できます。</p>

- (注) 1 「地理歴史」・「公民」について, 指定された教科・科目の中で複数受験している場合には, 第1解答科目の成績を用います。第1解答科目は必ず指定された科目の中から選択してください。
- 2 「英語」については, 「リーディング」及び「リスニング」の両方を受験している場合のみ, 科目「英語」を受験していることとなります。(重度難聴者などで「リスニング」を免除された方を除きます。)

4 障がい等のある方の出願

障がい等のある入学志願者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願に先立ち、次により相談してください。

相談期限	2024年12月4日(水)
相談方法	ホームページ掲載の「出願に伴う事前相談書」に医師の診断書、障害者手帳の写し(交付されている方のみ)を添付して相談してください。 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/jizen_soudansho.html
書類提出先	〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 岡山大学学務部入試課 電話 086-251-7192~7194

ただし、体幹及び両上下肢の機能障がいが著しい方で、代筆による解答を希望される方は、できるだけ早い時期に相談してください。(大学入学共通テストにおいて代筆による解答を申請する方は、必ず早く相談してください。)

なお、事前相談書には、志望するすべての学部・学科等を記入するとともに、迅速な相談結果の通知、特別な配慮に基づく必要な措置を講ずるための所要時間等を考慮し、**少しでも早く相談してください。**また、「事前相談書」提出後、志望学部・学科等を変更する場合には、直ちに申し出てください。

事前相談がなければ、受験上の配慮を行いません。

【出願後の不慮の事故等による障がい等のある方の相談について】

出願後に不慮の事故等により受験上及び修学上特別な配慮を希望する場合は、申請する理由発生後、直ちに相談を行ってください。なお、出願時まで申請すべき内容であった場合には対象となりません。

5 出願手続

(1) 出願方法

出願はインターネット出願(インターネットによる志願者登録及び出願書類の郵送)のみとします。

入学志願者は、6~8ページの(5)に掲げる「出願書類」のみを、次の各事項に留意し、インターネット出願後にダウンロードできる出願書類提出用封筒宛名を貼り付けた出願書類提出用封筒(市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm))に一括して入れ、出身学校長(高等学校長等)に提出してください。

出身学校長(高等学校長等)は、確認の上、厳封し、出願期間内に必着するよう「書留・速達」として、13ページの入試担当へ郵送してください。**(※郵送先は入試課ではありません。)**

複数の被推薦者がいる場合は、個人別に厳封のうえ、とりまとめて郵送しても構いません。とりまとめた出願書類の封筒宛名については、様式任意で作成してください。

詳細は、15ページの12 WEB出願の流れ及び19ページの13 出願書類の整理を参照してください。

(注) 送付された願書等が本学に到着した後に、到着した旨の連絡はいたしません。また、配達されているかを確認する場合は、「郵便追跡サービス」をご利用ください。

【URL : <https://trackings.post.japanpost.jp/services/srv/search/>】

(2) 出願期間

2024年12月11日(水)から2024年12月18日(水)17時(必着)

(注1) これ以降に到着したものは、2024年12月16日(月)の消印のものまで受理します。郵便事情等を十分考慮の上、余裕をもって発送してください。

(注2) インターネット出願ページへの入力とは2024年12月4日(水)10時00分から可能です。

詳細はインターネット出願ページ(<https://e-apply.jp/ds/okayama-u/>)の「入試日程はこちら」をご確認ください。

(3) 特例事項

やむを得ず持参する場合は、2024年12月18日(水)に限り認めます。

同日の9時00分から17時00分までに、13ページの入試担当にあらかじめ連絡をした上で、持参するようにしてください。

(4) 出願上の注意

- ① 国公立大学の学校推薦型選抜(大学入学共通テストを課さないもの、課すものを問わず)への出願は、1つの大学・学部に限ります。
- ② 出願後の志望学部及び学科等の変更は認められません。
- ③ 出願書類(大学入学共通テスト成績請求票等)受理後は、いかなる理由があっても返却しません。
- ④ 出願書類に次のような不備があるものは受理しません。
 - ・ 志願票等に不備があるもの
 - ・ 入学検定料に不足のあるもの
 - ・ 必要な証明書等が添付されていないもの
- ⑤ 令和7年度大学入学者選抜大学入学共通テストで受験を要する教科・科目等に関する注意事項
 - ア 本学の受験票ダウンロード通知メールの送信後に、医学部医学科が指定した受験を要する教科・科目を受験していないことが判明した場合は、合格者選考の対象となりません。
なお、この場合であっても、出願書類及び既納の入学検定料は返還しません。
 - イ 「地理歴史」・「公民」の2科目受験者について、医学部医学科が指定した科目の中で複数受験している場合には、第1解答科目の成績を用います。
 - ウ 外国語のうち、「英語」については、リーディング及びリスニングの両方を受験している場合のみ、科目「英語」を受験していることとなります。(重度難聴者などでリスニングを免除された方を除きます。)
 - エ 本学の2025年度入学者選抜においては、大学入学共通テストの過年度成績利用は行いません。
- ⑥ 国公立大学の一般選抜における合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入学共通テストの受験番号に限って、学校推薦型選抜の合格及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。

(5) 出願に必要な書類等

出願に必要な書類等	摘 要
<p>志 願 票 写 真 票 入学検定料支払証明書 (インターネット出願 ページで志願者登録を 行い、ダウンロードし たものをカラー印刷す る)</p>	<p>本学の「インターネット出願ページ (https://e-apply.jp/ds/okayama-u/)」より出願し、志願者登録を行ってください。志願者登録終了後、入学検定料決済を行ってください。</p> <p>写真は、インターネット出願ページにて出願前3か月以内に正面向、上半身、無帽で撮影した鮮明な写真をアップロードしてください。</p> <p>入学検定料 17,000 円の支払方法は、コンビニエンスストア、クレジットカード、郵便局・銀行ATM、ネットバンキングのいずれかでお支払いください(入学検定料の支払確認後、「入学検定料支払証明書」欄に「決済済」と表示されます。それぞれの支払方法に関する詳細は「インターネット出願ページ」をご確認ください)。その後、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校推薦型選抜志願票 ・ 写真票 ・ 入学検定料支払証明書 ・ 出願書類提出用封筒宛名 <p>をダウンロードし、<u>カラー印刷</u>してください。</p> <p>出願書類提出用封筒(市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm))は出願書類提出用封筒宛名を貼り付けて作成してください。</p> <p>入学検定料の返還について</p> <p>次の場合を除き、いかなる理由があっても支払済の入学検定料は返還しません。(()内は返還額)</p> <p>ア 入学検定料を支払ったが岡山大学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった) 場合 (17,000 円)</p> <p>イ 入学検定料を誤って二重に支払った場合 (17,000 円)</p> <p>ウ 下記入学検定料の免除に該当する者が、出願期間内に証明書等の取得が困難なため、入学検定料を支払い、所定の手続きを行った場合 (17,000 円)</p> <p>※詳細については、本学のホームページ (https://www.okayama-u.ac.jp) から「入試」→「入学検定料の返還手続き(インターネット出願)」をご確認ください。</p> <p>なお、返還手続きの申出期限は、2025年3月31日(月)とします。</p> <p>入学検定料の免除について</p> <p>本学では、2023年4月以降に災害救助法の適用を受けた災害により被災した方の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るために、学部入試等において、入学検定料免除の措置を講じます。</p> <p>詳細については、本学のホームページ (https://www.okayama-u.ac.jp) から「入試」→「入学検定料の免除」をご確認ください。</p>
<p>大学入学共通テスト 成 績 請 求 票</p>	<p>大学入試センターから交付された『令和7年度大学入学共通テスト成績請求票』(国公立学校推薦型選抜用)を、所定欄にのりで貼り付けて、出願時に提出してください。</p>

出願に必要な書類等	摘 要
調 査 書	<p>出身学校長が文部科学省所定の様式により作成し、厳封したものを提出してください。</p> <p>注) 本学として、高等学校において特に調査書に記載すべき事項として指定する事項はありません。</p>
推 薦 書	<p>ホームページ掲載の様式に、出身学校長が作成し、厳封してください。</p> <p>パソコン等を利用して作成し、厳封したものでかまいません。</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosyuyoko.html</p>
履 歴 書	<p>ホームページ掲載の様式に、入学志願者本人が記入してください。</p> <p>パソコン等を使用して作成してもかまいません。</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosyuyoko.html</p>
同 意 書	<p>ホームページ掲載の様式に、入学志願者本人が自筆（黒のボールペン）で記入してください。</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosyuyoko.html</p>
各県との同意書 （誓約書）	<p>ホームページに掲載している様式（志望する県による指定様式）に、入学志願者本人と、保護者もしくは法定代理人が自筆（黒のボールペン）で記入し、提出してください。</p> <p>※岡山大学長宛の同意書に加えて、志望する県の県知事宛の同意書（誓約書）が必要です。ご注意ください。</p>
志 願 所 信 書	<p>ホームページ掲載の様式に、入学志願者本人が記入し、提出してください。</p> <p>※印刷する際は、片面で印刷してください。</p> <p>パソコン等を使用して作成してもかまいませんが、MS 明朝、10.5 ポイントで記入してください。</p> <p>《志願所信書への各県の記入事項》</p> <p>【岡山県】 地域枠コース・岡山県に応募する理由とどのような医師になりたいか等について、自由に記すこと。(800字以内)</p> <p>【広島県】 地域枠コース・広島県に応募する理由と広島県の地域医療に対する抱負について、自由に記すこと。(800字以内)</p> <p>【兵庫県】 地域枠コース・兵庫県に応募する理由とどのような医師になりたいか等について、自由に記すこと。(800字以内)</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosyuyoko.html</p>
住 民 票 （抄本）	<p>それぞれの県の出願要件②に該当する方は、市区町村の発行する本人又は保護者の「住民票(抄本)」(出願日から3か月以内に発行されたものに限る。)を提出してください。</p>
受 験 許 可 書	<p><u>現在大学に在籍している方</u>は、在籍する大学の学長又は学部長の発行する「受験許可書(様式任意)」を提出してください。</p> <p>なお、「受験許可書」が発行されない場合は、入学志願者本人がその旨の文書(様式任意)を作成の上、提出してください。</p>

注意事項

- (1) 出願書類等の記載内容に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学が取り消されることがあるので注意してください。
- (2) 改姓（名）前の証明書を使用する場合の提出書類について、志願票の氏名と異なる旧姓（名）の記載された証明書も使用できますが、その場合は、改姓（名）の日付と新旧姓（名）を入学志願者本人が記入した文書（様式は任意です。）を添付してください。
- (3) 出願書類等及びこれらに記載・貼付されている個人情報並びに入学試験成績の個人情報は、入学者選抜に関する業務に使用します。

なお、これらの個人情報は、入学者選抜及び大学教育の改善のための調査・研究の資料としても利用します。ただし、調査・研究結果の発表に際しては個人が特定できないように処理します。

また、次の個人情報は、入学者選抜以外の業務、システム等でも利用します。

 - ・ 入学者の氏名、生年月日、性別、出願資格、入学学部・学科等の個人情報を、本学の学務情報システムで利用します。

なお、入学者のうち、入学料徴収猶予申請者、授業料免除申請者及び奨学金申請者については、入学試験成績の個人情報を、それぞれの学力判定処理に利用することがあります。
 - ・ 合格者の氏名、生年月日、性別の個人情報を、本学の授業料債権管理システム及び授業料免除システムで利用します。
 - ・ 入学志願者のうち、女子寮入寮志願者のみ、合否結果の個人情報を、女子寮入寮の選考対象者の把握に利用します。

6 受験票等のダウンロード

- (1) 受験票及び受験案内は、インターネット出願ページのマイページからダウンロードしてください。
- 2025年1月9日(木)に出願時に登録したメールアドレスへ「受験票ダウンロード通知メール」を送信します。なお、メールが2025年1月10日(金)までに届かない場合であっても、出願が受理されていれば、2025年1月10日(金)以降に受験票等のダウンロードができます。
- 9～10ページを参照して受験票等をダウンロードし、印刷してください。ダウンロードした受験票の氏名等に間違いがある場合、学務部入試課へ連絡してください。

連絡先：【電話 (086)251-7192～7194】

(注) ドメイン設定において、「@e-apply.jp」及び「@adm.okayama-u.ac.jp」からのメールを受信できるように設定しておいてください。

【STEP1】 志願者より郵送される出願書類を本学にて確認後、インターネット出願時に登録したメールアドレスへ以下のとおり受験票ダウンロード通知メールを送信します。



no-reply@e-apply.jp

岡山大学 出願手続 受験票印刷可能メール

【e-apply インターネット出願サイト】

岡山大学 出願手続 受験票印刷可能メール

このたびは、出願サイトをご利用いただき、誠にありがとうございます。
受験票の印刷が可能となりましたので、お知らせいたします。

■以下のURLから、受験票を印刷してください。
<https://e-apply.jp/ds/okayama-u/public/login>

■受付番号
123456789012
※受験番号ではありません。

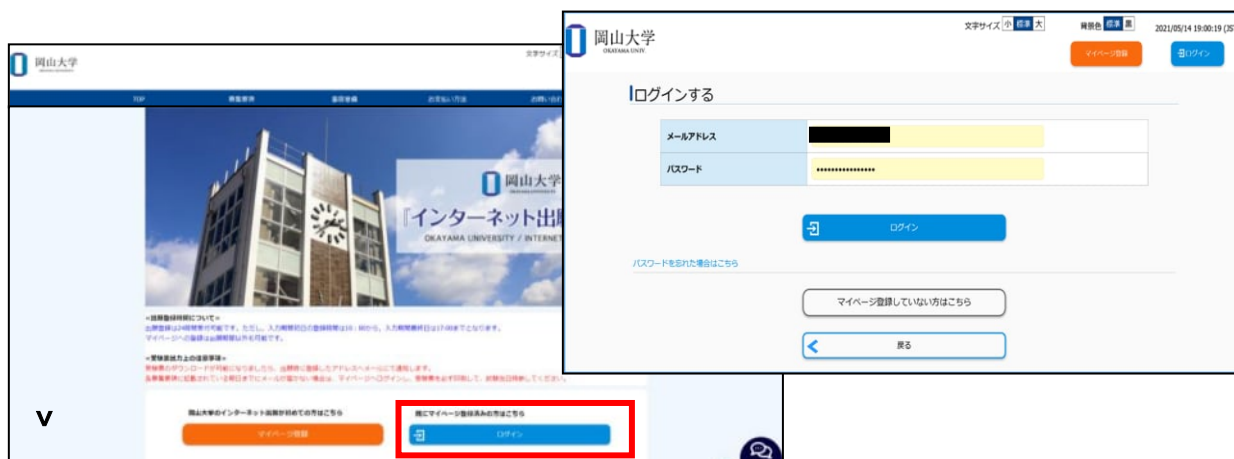
■注意

- 試験当日は、印刷した受験票を持参してください。
- スマートフォン等の画面表示による受験票の提示は認めません。
- 本メールは入試が終了するまで大切に保管してください。

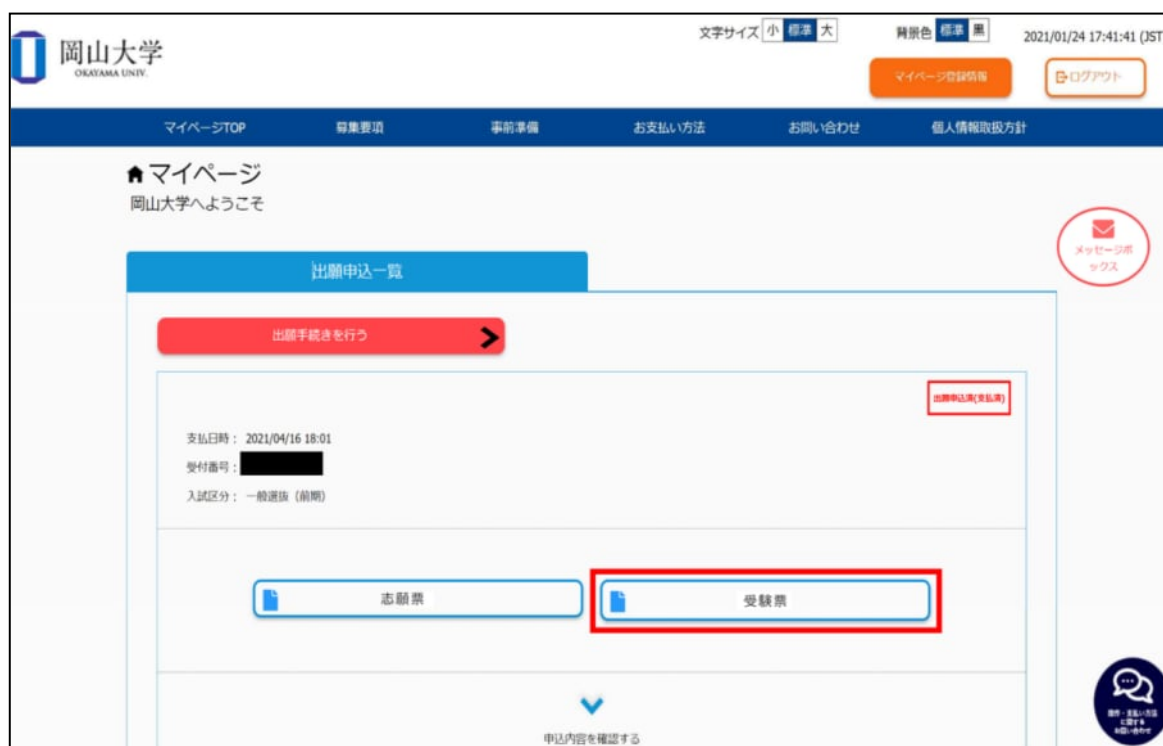
本メールは、送信専用メールアドレスから配信されています。
返信をいただいてもお答えできませんので、ご了承ください。

【STEP 2】受験票ダウンロード通知メールを受信後、マイページ画面にログインします。マイページにログインするにはマイページ登録時の【メールアドレス・パスワード】が必要になります。

なお、受験票ダウンロード通知メールが届かない場合であっても、出願が受理されていれば、インターネット出願のページ (<https://e-apply.jp/ds/okayama-u/>) からマイページにログインすることで、受験票等のダウンロードができます。



【STEP 3】ログイン後、マイページより受験票（PDF）をダウンロードし、カラー印刷して、試験当日に持参してください。



(注1) 「受験票」のリンクは、受験票ダウンロードができる状態になると表示されます。

(注2) 「岡山大学受験票」は、試験当日及び入学手続きの際に必要となるので、大切に保管しておいてください。

7 入学者選抜方法等

令和7年度大学入学共通テストに基準点(概ね820点)を設け、基準点以上を得た受験者の中から、調査書・推薦書・志願所信書の審査、令和7年度大学入学共通テスト及び面接の結果を総合して行います。

(1) ① 面接の試験実施日時及び試験場

試験日	教科等	時間	試験場
2025年2月1日(土)	面接	9時00分～	医学部 医学科

- (注) 1 複数の面接員による評価を参考にして、場合によっては、複数回の面接をすることがあります。
2 上記に加え、各県による面接が実施されます。
3 詳細については、受験票ダウンロード通知メールの際にお知らせします。

② 各県による面接実施日

岡山県	広島県	兵庫県
大学が実施する面接終了後に実施します。	2025年2月2日(日)に、広島県庁で実施します。	2025年2月2日(日)に、ひょうご共済会館で実施します。

- (注) 詳細については、受験票ダウンロード通知メールの際にお知らせします。なお、地域枠コース「兵庫県」出願者は、面接実施前に、兵庫県へ提出する書類がありますので、メールが届き次第、速やかに詳細を確認してください。

(2) 大学入学共通テストの過年度成績利用

本学の2025年度入学者選抜においては、大学入学共通テストの過年度成績利用は行いません。

(3) 配点基準

区分	書類審査			面接	大学入学共通テスト						計
	調査書	推薦書	志願所信書		国語	地理歴史	公民	数学	理科	外国語	
医学部 医学科	*	*	*	※	200	100	200	200	200	50	950

- (注) 1 *は、面接評価に含まれます。
2 ※の面接は、総合判定の資料とします。面接の評価によっては、大学入学共通テスト等の成績に関わらず不合格となることがあります。
3 大学入学共通テスト「外国語」の『英語』の配点は、「リーディング」(100点満点)と「リスニング」(100点満点)の得点について、「リーディングの得点×1.6」と「リスニングの得点×0.4」の合計点を岡山大学の配点に換算したものを大学入学共通テストの英語の点数とします。(重度難聴者などで「リスニング」を免除された方は「リーディング」(100点満点)を200点満点に換算したのもののみを利用します。)
4 同一教科で複数科目を課している場合の各科目の配点は、等分とします。

8 合格者発表等

(1) 合格者発表

2025年2月12日(水) 10時00分の予定

① 岡山大学ホームページへ合格者受験番号一覧表を掲載します。また、合否照会システム(受験番号と生年月日(半角8桁)で認証：<https://www.gouhi.com/okayama-u/>)でも発表します。

同日付けで、合格者には合格通知書及び入学案内等(入学手続書類)を本人あてに発送し、出身学校長に合否の結果を通知します。

合格者発表直後は、サーバへのアクセスが集中し、接続に時間がかかることが予想されますので、あらかじめご了承ください。

② ホームページへの掲載及び合否照会システムの確認期間は、合格者発表日から1週間とします。

③ 電話等による合否の問い合わせには一切応じません。

(2) 学校推薦型選抜に合格しなかった場合の取扱い

学校推薦型選抜に合格しなかった場合で、本学及び他の国公立大学の一般選抜の受験を希望する方は、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの、合計2つの大学・学部に出願することができます。なお、前期日程グループ及び後期日程グループに属さない大学・学部への出願は特に妨げません。

出願に当たっては、各大学・学部等により大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等が異なる場合がありますので、特に注意してください。

本学に出願する場合は、別途「2025年度一般選抜学生募集要項」をホームページに掲載(<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosuyuyoko.html>)(11月上旬公表予定)しますので、それにより、所定の出願書類等を、一般選抜学生募集要項に記載の出願期間内に提出してください。

ただし、出願する場合は、改めて入学検定料が必要となります。

9 入学手続

合格者は、次の各事項に十分注意して、入学手続を完了してください。

(1) 入学手続期限・方法

2025年 2月19日(水) 17時00分までに必着(郵送)

入学手続専用サイトで手続き後、郵送で入学手続を行ってください。

入学手続に関する詳細は、「入学案内」により、合格者に別途お知らせします。また、岡山大学公式ホームページに掲載する「入学手続システム利用ガイド」もあわせて確認してください。

入学手続専用サイトへのログインには「受験番号」及びインターネット出願サイトのマイページに登録した「メールアドレス」・「生年月日」が必要です。

(2) 入学手続に必要なもの

① 岡山大学受験票

② 大学入学共通テスト受験票

③ 入学金 282,000円(予定額)

(注) 入学時に入学金改定が行われた場合には、改定時から新入学金が適用されます。

④ 上記以外の本学所定のもの

⑤ その他入学時納付金

(学生教育研究災害傷害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料、岡山大学校友会費、岡山大学 Alumni(全学同窓会)会費、学部等同窓会費、後援会費・振興会費)

学生生活の安全を保障するもの、また学生生活の質の向上のために、入学金とは別に、皆さんにご負担をお願いしている費用です。学生が、教育研究活動、課外活動等を行う上で様々な形で還元

されるものであり、必要な経費です。入学料に合わせて一括納入いただくことができます。

なお、医学部・歯学部の学生については上記のほかに「学研災付帯学生生活総合保険（略：付帯学総）」に加入いただく必要があります。こちらについては、上記とは別に手続きが必要です。

(3) 留意事項

- ① 入学手続専用サイトでの手続きのみでは、入学手続を行ったことにはなりません。
- ② 入学料の免除及び徴収猶予を希望する方は、21～24ページの「学生生活等」を参照してください。
- ③ 学校推薦型選抜に合格したが、入学手続をしない方、あるいは入学手続を完了した方が特別な事情により入学を辞退する場合は、出身学校長（高等学校長等）を通じ、2025年2月19日（水）17時00分までに、「学校推薦型選抜入学辞退願」（様式は任意。選抜の種別、受験番号、合格学部・学科名、日付及び入学を辞退する特別な理由を記載した上で、本人並びに出身学校長が連署・押印したもの）を岡山大学長あて提出し、許可された場合に限り、入学辞退を認めます。
- ④ 学校推薦型選抜合格者は、入学の辞退を許可された場合を除き、本学及び他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られません。

「学校推薦型選抜入学辞退願」送付先

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 岡山大学学務部入試課

10 入試担当

学部等	担当	住所	電話	備考
医学部医学科	医学部医学科担当 (医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ)	〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1	(086)235-7020	問い合わせ時間 9時00分～ 17時00分

感染予防について

医学部（医学科，保健学科）及び歯学部では、入学当初より病院見学・実習があります。自身の感染、あるいは、自身から患者（特に免疫能が低下した患者）への感染を防ぐために感染対策が必要であり、入学前に予防接種を義務化しています。麻疹，風疹，水痘，流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の4種類のウイルス疾患について、ワクチン接種歴（2回の接種が必要）が不足している場合、入学までに必要な予防接種を済ませるようお願いします。予防接種の記録は大切に保管しておいてください。詳細な案内文は、合格通知書とともに送付します。

1 1 欠員補充第2次募集

臨時定員による増員部分（岡山県3人，広島県2人，兵庫県2人）については，入学手続き者が所定の募集人員に満たない場合，県によっては2025年3月28日（金）以降に「欠員補充第2次募集」により欠員補充を行うことがあります。

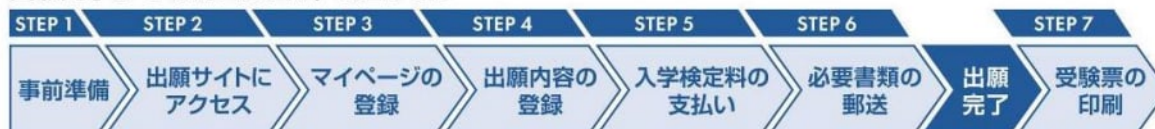
出願資格	2025年3月24日(月)の時点で，いずれの国公立大学にも合格していない者（いずれの国公立大学にも出願していない者を含みます。）又は合格していても欠員補充第2次募集出願時にいずれの国公立大学にも入学手続きを行っていない者で，かつ，本学が令和7年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目として指定した全教科・科目(3ページ参照)を受験した者 なお，この欠員補充第2次募集に出願できるのは，一つの大学・学部です。
選考方法	大学入学共通テストの成績，面接及び調査書により実施します。
出願方法等	欠員補充第2次募集を実施する場合は，2025年3月中旬頃（予定）に本学ホームページの入試情報（ https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/nyusi_kekka.html ）へ，欠員補充第2次募集学生募集要項を公開し，お知らせします。 詳細は欠員補充第2次募集学生募集要項をご確認ください。

※ 欠員補充第2次募集の出願後，他の国公立大学へ入学手続きを行った場合は，受験しても入学許可は得られません。

1 2 WEB出願の流れ

Web出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです



STEP 1 事前準備

1

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
必要書類は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。



STEP 2 Web出願サイトにアクセス

2

Web出願サイト ▶ <https://e-apply.jp/ds/okayama-u/>
または、
大学ホームページ ▶ <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/index.html>
からアクセス



STEP 3 マイページの登録

3

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

- ① 初めて登録する方は **マイページ登録** からログインしてください。
- ② メールアドレスの登録を行って **仮登録メールを送信** をクリックしてください。
- ③ ユーザー登録画面から **ログインページへ** をクリックしてください。
- ④ 登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。
- ⑤ ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた「初期パスワード」にて **ログイン** をクリックしてください。
- ⑥ 初期パスワードの変更を行ってください。
- ⑦ 表示された個人情報を入力して **次へ** をクリックしてください。
- ⑧ 個人情報を確認して **この内容で登録する** をクリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ
をクリックしてください。

⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、**出願手続きを行う** ボタンをクリックすると出願手続きに進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをクリックしてください。

STEP

4



出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②入試選択と留意事項の確認



③志望学部等の選択



④顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑤個人情報(氏名・住所等)の
入力



⑥出願内容の確認



⑦申込登録完了
引続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑧入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑨出願に必要な書類PDF
(イメージ)
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」又は「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、**支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号**を控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストア又はペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号 メモ(13桁)													
------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済 番号メモ(11桁)										
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号 メモ(11桁)										
確認番号 メモ(6桁)										

収納機関番号 (5桁)	58021	※収納機関番号は、ペイジーで お支払いの際に必要となります。
----------------	--------------	-----------------------------------

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。
受付完了後、募集要項記載の日時に受験票ダウンロード通知がメールで送信されます。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP

5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA, Master, JCB, AMERICAN EXPRESS, MUFGカード, DCカード, UFJカード, NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi

LAWSON



マルチコピー機

あなほ、コンビニ、FamilyMart



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

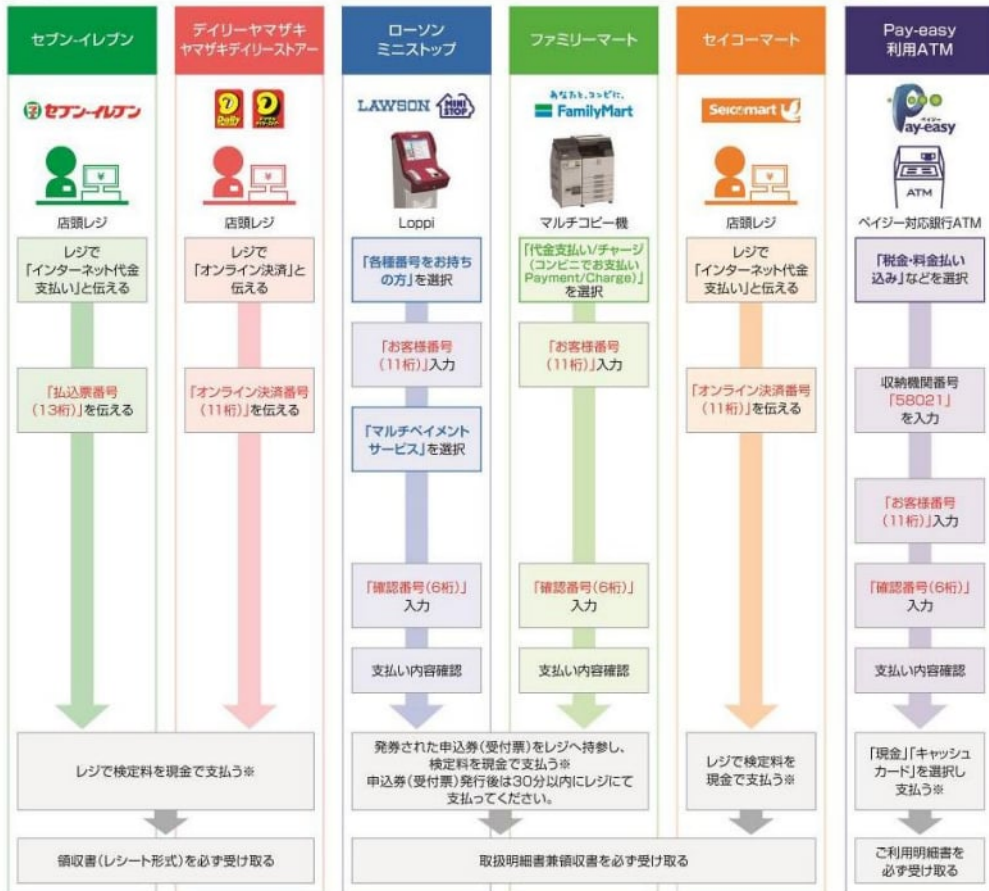


※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

4 銀行ATM



※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP 6 **必要書類の郵送**

出願登録、入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を全てカラー印刷し、必要書類を出願期間内に郵便局窓口から「書留・速達郵便」で郵送してください。※出願締切日は各募集要項を参照してください。

必要書類は以下のページを参照して準備してください。
6～8, 19ページ

出願書類の郵送先は各募集要項を参照してください。

■出願書類
1回の出願登録につき各1部必要です。出願に必要な書類は各募集要項を参照してください。

※いったん受理した入学検定料・必要書類は一切返却しません。

出願書類提出用封筒宛名シート
市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm)
封筒に貼り付けて作成

〈出願完了〉

出願時の注意点
出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。インターネット出願は24時間可能です。必要書類の郵送は、各募集要項で定められた期限内に行ってください。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP 7 **受験票・受験案内の印刷**

本学で出願を確認後、各募集要項の記載日に一斉に受験票を配信します。インターネット出願システムよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください(※郵送はいたしません)。

※受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。

【印刷に関する注意事項】 受験票は必ずA4用紙に片面印刷にしてください。

受験票
氏名:○○○○
入試:×××入試

受験案内

(注) 1 送付された願書等が本学に到着した後に、到着した旨の連絡はいたしません。また、配達されているかを確認する場合は、「郵便追跡サービス」をご利用ください。

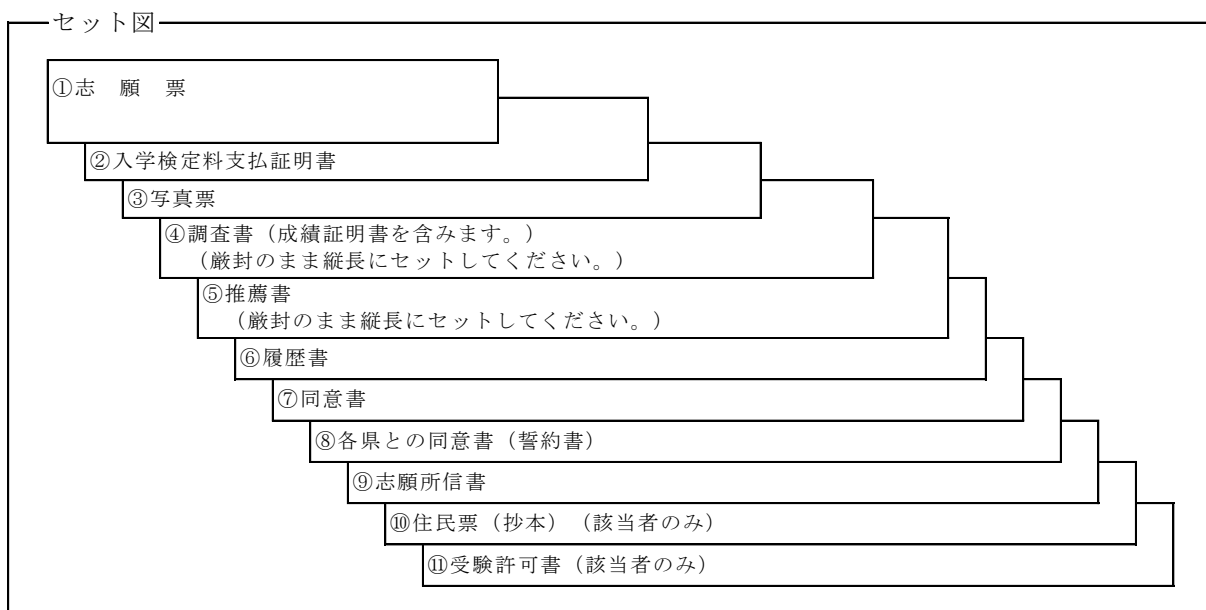
【URL : <https://trackings.post.japanpost.jp/services/srv/search/>】

2 マイページ登録の際に使用したメールアドレスは、入試情報の開示(19ページ「15 入試情報の開示」を確認してください。)で必要になります。必ず次年度以降も使用できるメールアドレスで登録してください。

1 3 出願書類の整理

出願書類は、以下の順に、ばらばらにならないようセットして（セット図参照）、「出願書類提出用封筒」に入れて提出してください。

- ①「志願票」
- ②「入学検定料支払証明書」
- ③「写真票」
- ④「調査書」（厳封のまま、縦長にセットしてください。開封したものは受理しません。）
- ⑤「推薦書」（厳封のまま、縦長にセットしてください。開封したものは受理しません。）
- ⑥「履歴書」
- ⑦「同意書」
- ⑧「各県との同意書（誓約書）」
- ⑨「志願所信書」
- ⑩「住民票（抄本）」（該当者のみ）
- ⑪「受験許可書」（該当者のみ）



1 4 受験生宿泊申込

受験に際して、ホテル・旅館等への宿泊を希望する場合は、『2025年度岡山大学受験宿泊・サポート案内』（以下URL参照）をご覧ください。

【お問い合わせ先】 〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1
岡山大学生生活協同組合 受験宿泊係
電話 (086)256-4130 (10時00分～17時00分 土・日・祝日は休み)
(<https://vsign.jp/okadai/2025/hotel>)

1 5 入試情報の開示

2025年度入試の入試情報開示を希望する方には、ホームページ掲載の『入試情報の開示について』により、2025年5月1日（木）～5月30日（金）の間に開示します。

（注1）入試情報の開示には、マイページ登録時の【メールアドレス・パスワード】が必要になります。
マイページ登録の際は、必ず次年度以降も使用できるメールアドレスを登録してください。

（注2）一部の教科（科目）でも受験しなかった者及び選考を辞退した者は、入試情報開示の対象となりません。

【問い合わせ先】 〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1
岡山大学学務部入試課（大学会館1階）
電話 (086)251-7192～7194
【URL】 <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/kaiji01.html>

麻疹（はしか）・インフルエンザ等に注意

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、発熱、咳、鼻水といった風邪症状の後に発しんと高熱が現れ、脳炎などを併発して重症化することもあります。非常に感染力が強く、予防には生後1歳以降に2回のワクチン接種が必要です。まだの場合は医療機関に相談の上、必要な回数のワクチン接種を受けてください。

インフルエンザも感染力が非常に強く、ワクチン接種は予防手段の一つです。

その他、風しん、水痘（水ぼうそう）、流行性耳下腺炎（ムンプス、おたふく風邪）もワクチン接種で予防可能な感染症であり、麻疹と同様に2回の接種が必要です。特に、入学後に病院等での実習が予定されている医・歯学部、薬学部薬学科、教育学部養護教諭養成課程を受験される方は、あらかじめ予防接種を受けて記録を保存しておいてください。

医療関係者一般に必要なとされているワクチン（特に、麻疹・風しん・水痘・流行性耳下腺炎）に関しては、医師により接種を控えるよう指示されている場合を除いて、積極的に接種してください。

以上のワクチン接種を終えられた方には、加えて髄膜炎菌ワクチンの接種をお勧めします。特に、寮や合宿など集団生活、コンタクトスポーツを予定されている方にはお勧めです。（※これらワクチン接種は全て自費となります。）

岡山大学を受験するに当たっては、手洗い・消毒にマスク着用の励行などの基本的な感染症対策に留意してください。

詐欺まがいの行為に注意

例年、岡山大学試験場及び岡山駅周辺において本学職員を装うなどして、受験者に『合否連絡をする』、『緊急時に自宅に連絡する』などと言葉巧みに近寄り、受験番号・氏名・住所・電話番号などを記入させ、現金を要求する行為が発生しています。

試験当日、本学職員が以上の行為をすることは一切ありません。

不審者を見たり、声をかけられたりしたら、本学職員（『岡山大学』の腕章着用）まで連絡してください。

16 岡山大学の教育における方針（アドミッション・ポリシー等）

岡山大学の教育における方針（アドミッション・ポリシー等）については、以下のURLをご確認ください。

岡山大学の教育における方針

【URL <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/education-policies.html>】

17 学生生活等

(1) 入学料及び授業料

区分	金額	備考
入学料	282,000 円 (予定額)	入学手続き時に納入となります。(12ページ参照)
授業料	前半期分〔4月～9月〕 267,900 円 (予定額) 後半期分〔10月～3月〕 267,900 円 (予定額) 年 額 535,800 円 (予定額)	① 入学時及び在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。 ② 2025年度前半期分の授業料の納入時期は、2025年5月になります。なお、納入方法の詳細は、入学手続き時に入学案内にてお知らせします。

その他入学時納付金

(学生教育研究災害傷害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料, 岡山大学校友会費, 岡山大学 Alumni (全学同窓会) 会費, 学部等同窓会費, 後援会費・振興会費)

学生生活の安全を保障するもの、また学生生活の質の向上のために、入学料とは別に、皆さんにご負担をお願いしている費用です。学生が、教育研究活動、課外活動等を行う上で様々な形で還元されるものであり、必要な経費です。入学料に合わせて一括納入いただくことができます。

その他入学時納付金の詳細は、岡山大学ホームページでご確認ください。

アドレス：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/nyugakukin.html>

学部名	学研災 ※	岡山大学 校友会費	岡山大学 Alumni(全 学同窓会) 会費	学部等同窓会費		後援会費等		合計
文学部	4,660	16,000	10,000	10,000	法文経学部 同窓会	0		40,660
教育学部	4,660	16,000	10,000	10,000	教育学部 同窓会	0		40,660
法学部 法学科 昼間コース	4,660	16,000	10,000	10,000	法文経学部 同窓会	20,000	岡山大学 法学会◆	60,660
法学部 法学科 夜間主コース	2,760	16,000	10,000	10,000		20,000		58,760
経済学部 経済学科 昼間コース	4,660	16,000	10,000	10,000	法文経学部 同窓会	10,000	岡山大学 経済学会◆	50,660
経済学部 経済学科 夜間主コース	2,760	16,000	10,000	10,000		10,000		48,760
理学部	4,660	16,000	10,000	5,000	理学部 同窓会	20,000	岡山理学教 育振興会	55,660
医学部 医学科	7,800	24,000	10,000	11,000	鶴翔会	75,000	岡山大学医 学部後援会	127,800
医学部 保健学科 看護学専攻	5,370	16,000	10,000	8,000	ときわ会	50,000		89,370
医学部 保健学科 放射線技術科学専攻	5,370	16,000	10,000	5,000	ほおゆう	50,000		86,370
医学部 保健学科 検査技術科学専攻	5,370	16,000	10,000	5,000	あらたま会	50,000		86,370

学部名	学研災 ※	岡山大学 校友会費	岡山大学 Alumni(全 学同窓会) 会費	学部等同窓会費		後援会費等		合計
歯学部	7,800	24,000	10,000	6,000	歯学部 同窓会	60,000	岡山大学歯 学部後援会	107,800
薬学部 薬学科	6,840	24,000	10,000	5,000	薬友会	60,000	岡山大学薬 学振興会	105,840
薬学部 創薬科学科	4,660	16,000	10,000	5,000		40,000		75,660
工学部	4,660	16,000	10,000	10,000	工学部 同窓会	18,000	岡山工学教 育振興会◆	58,660
農学部	4,660	16,000	10,000	10,000	農学部 同窓会	0		40,660
グローバル・ディスカバリー・プログラム	4,660	16,000	10,000	0		0		30,660

金額は予定額です。改定が行われる場合があります。

※ 学研災は、「学生教育研究災害傷害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料の合計」です。

「学研災付帯学生総合保険（略称：付帯学総）」は含まれておりません。

◆ 団体の都合により、入学手続きとは別にご案内いたします。

(2) 学費支援

① 高等教育の修学支援新制度(授業料等減免と給付型奨学金)

大学等における修学の支援に関する法律に基づく、学部学生（外国人留学生を除く）を対象とした修学支援制度で、授業料等減免と給付型奨学金の2つの支援が受けられるものです。

1) 進学する前年に高等学校等を通じて日本学生支援機構（JASSO）給付型奨学金に申請し、予約採用候補者となった方

入学手続き時に入学料・授業料減免申請を受け付けます。入学手続き時に入学料を納入する必要はありません。

2) 本学入学後に JASSO 給付型奨学金に申請予定の方

高等学校等で JASSO 給付型奨学金の申請ができなかった方は、入学後に給付型奨学金の申請と併せて、入学料及び授業料減免の申請が可能です。

※申請手の詳細は、岡山大学ホームページ及び入学案内でご確認ください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syugakushien.html>

② 入学料の徴収猶予(大学独自制度)

経済的理由により入学料の納入期限までに納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、又は下記「ア又はイ」のいずれかに該当し、入学料の納入期限までに納入が困難であると認められる場合には、入学料の徴収猶予を申請することができます。（徴収猶予申請が認められた場合でも、納入すべき金額が免除されるわけではありません。）

ア 入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合

イ 入学する者もしくは学資負担者が大規模な災害や火災・風水害等の災害を受けた場合

※申請手の詳細は、岡山大学ホームページ及び入学案内でご確認ください。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_a1.html

③ 激甚災害による入学料及び授業料の免除（大学独自制度）

激甚災害(平成30年7月豪雨等)により被災した方について、半壊以上の罹災証明書をお持ちである場合は、入学料及び授業料を免除する制度があります。

※条件については、岡山大学ホームページをご確認ください。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_al.html

④ 奨学金制度

1) 日本学生支援機構（JASSO）奨学金

人物・学業とも優秀であって、経済的理由により著しく修学困難と認められる場合は、本人の申請により選考の上、給付型奨学金（高等教育の修学支援新制度）及び貸与型奨学金の制度があります。

高等学校等を通じて JASSO 奨学金の「予約採用」に申し込みされなかった方は、本学入学後「在学採用」に申し込むことができます。

2) 各地方公共団体及び民間団体の奨学金

本学で取り扱っている奨学金には、日本学生支援機構の他に、民間団体の奨学金及び地方公共団体の奨学金があります。奨学団体によって、“応募資格” “申請方法” “月額” “給付・貸与の別” や “他の奨学金との併用の可否” “申請時期” 等が異なりますので、詳細については、岡山大学ホームページの「民間・地方公共団体の奨学金」で確認してください。

※奨学金関係の詳細は、岡山大学ホームページをご確認ください。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_a2.html

⑤ 問い合わせ先（担当）

岡山大学学務部学生支援課（一般教育棟A棟2階）

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1

- 高等教育の修学支援新制度(授業料等減免と日本学生支援機構の給付型奨学金)に関する事

電話 086-251-7180

- 入学料徴収猶予及び上記③による授業料等免除(大学独自制度)に関する事

電話 086-251-7211

- 日本学生支援機構の貸与型奨学金, 各地方公共団体及び民間団体の奨学金に関する事

電話 086-251-7178

※受付時間は、8時30分から17時00分です。(ただし、土・日曜日及び祝日は、窓口業務は行っておりません。)

(3) 女子学生寮

① 女子学生寮の概要

定 員	在寮期間	寄 宿 料 等	所 在 地	そ の 他
108 人 2025 年度募集予定人 員は新入女子学生を 対象に約 30 人の予定	正規の修業年限	寄宿料 月額 4,300 円 (予定額) 共益費 月額 6,500 円 (予定額) その他光熱水料等は、別途各自負 担	〒700-0084 岡山市北区津島 桑の木町 6-2 電話 086-251-7202	鉄筋コンクリート 5 階建 (昭和 56 年建築) 居室は個室 (ベッド、机、椅子、 ロッカー等備え付け)

女子学生寮のみで男子学生寮はありません。外国籍の方は、日本国内に生計を持つ者の女子のみ応募できます。なお、金額は変更になることがあります。

② 入寮募集要項

女子学生寮への入寮希望者は、入寮募集要項を 2025 年 1 月 7 日 (火) 以降に、岡山大学ホームページ (https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_d3.html) から、ダウンロードしてください。

③ 申請期間

2025 年 1 月 7 日 (火) から 2 月 5 日 (水) 17 時 (必着) までに、次の担当に申請書類を提出してください。詳細はホームページを確認してください。

【問い合わせ先 (担当)】

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1 岡山大学学務部学生支援課 (一般教育棟 A 棟 2 階)
電話 086-251-7185

※受付時間は 8 時 30 分から 17 時 00 分です。(ただし、土・日曜日及び祝日は、窓口業務を行っておりません。)

(4) 学生マンション・アパート等の紹介

学生マンション・アパート等を希望する学生に対しては、岡山大学生生活協同組合で紹介を行っています。詳細については、次にお問い合わせください。

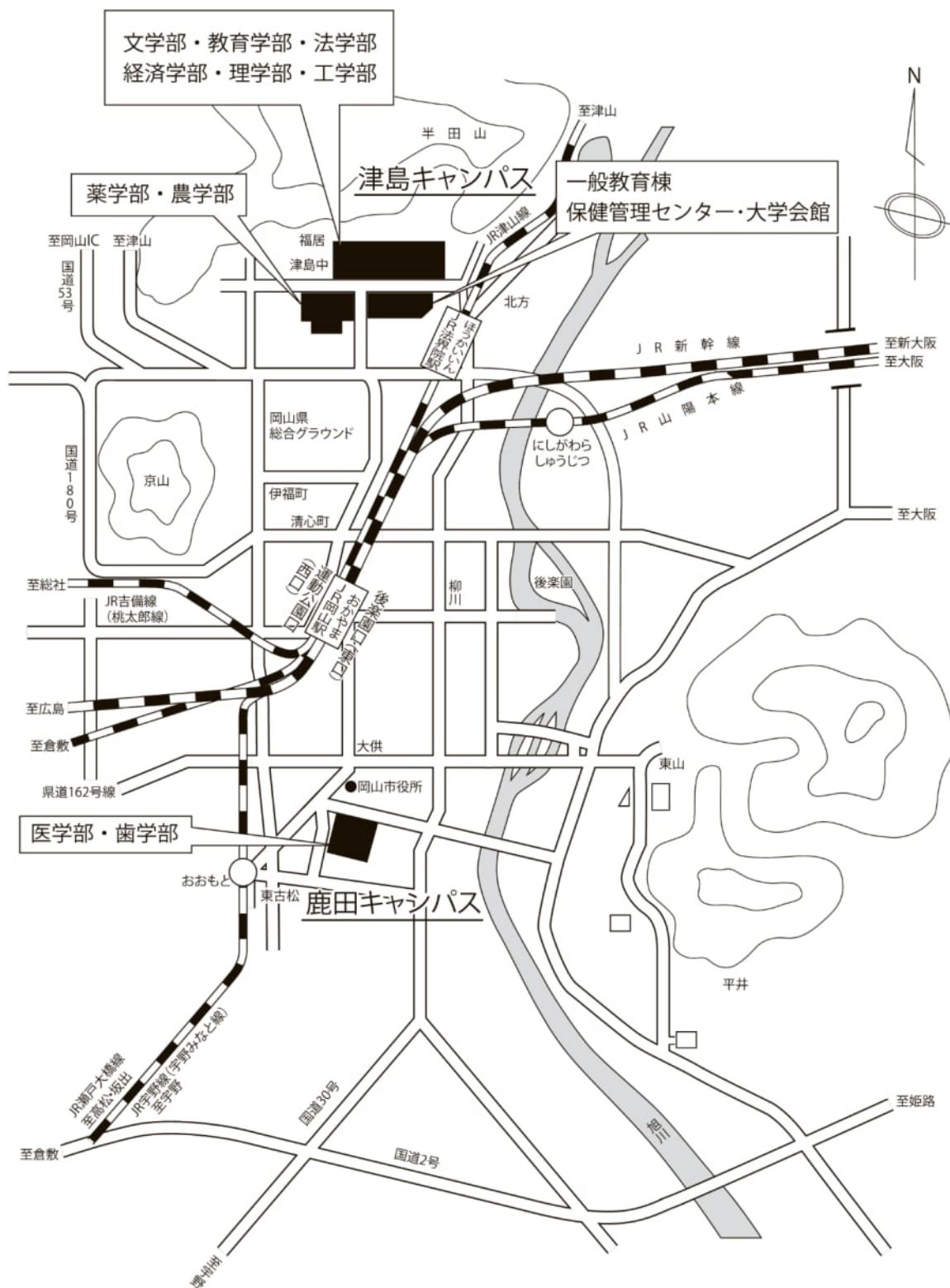
連絡先 岡山大学生生活協同組合 電話 0120-633-006 (9 時 30 分～17 時 30 分 12 月～3 月は無休)
E-mail sumai@okadai.coop 受験生の合格前予約・新入生のためのお部屋探し
(<https://vsign.jp/okadai/2025/rent>)

(5) 福利厚生施設

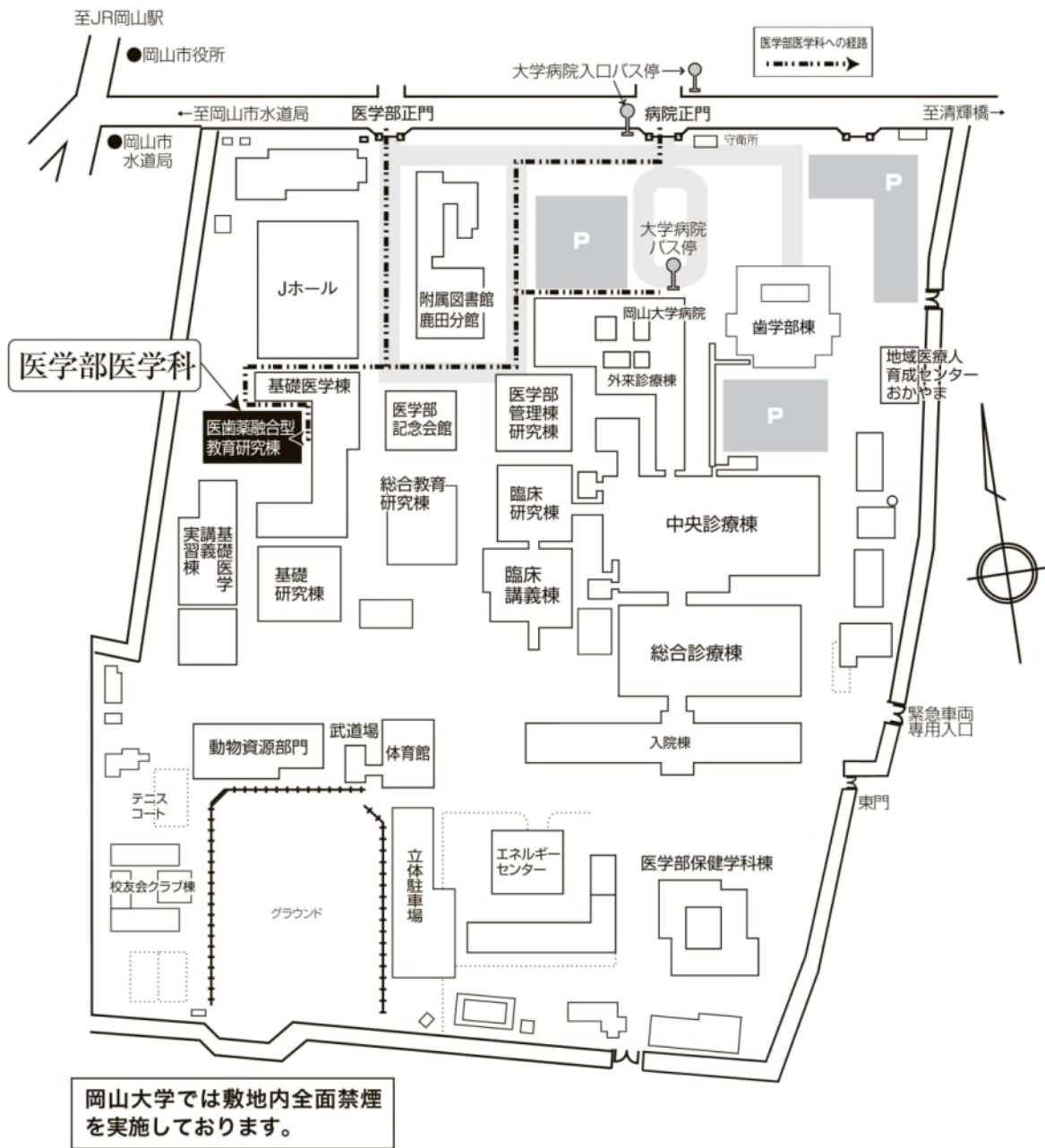
津島キャンパスには、マスカットユニオン (北福利施設)、ピーチユニオン (南福利施設) 及びピオーネユニオン (東福利施設) があり、施設内にブックストア、コンビニエンスショップ、食堂等があります。また、鹿田キャンパスには、医学部記念会館にコンビニエンスショップ及び食堂等があります。

18 大学案内図等

1 キャンパス案内図



2 鹿田キャンパス試験場配置図



<試験場への経路>

- ① JR岡山駅後楽園口（東口）バスターミナル4番のりばから岡電バス【2H】系統「大学病院」行きに乗車、「大学病院（構内）」で下車、又は【12】系統「岡南営業所」行きに乗車、「大学病院入口」で下車（バス所要時間約15分）
- ② JR岡山駅後楽園口（東口）バスターミナル3番のりばから岡電バス【22】系統「岡山ろうさい病院」行き、【62】系統「岡南飛行場」行きのいずれかに乗車、「大学病院入口」で下車（バス所要時間約15分）
- ③ JR岡山駅後楽園口（東口）バスターミナル2番のりばから岡電バス【52】系統「大東」行きに乗車、「大学病院入口」で下車（バス所要時間約15分）

※ 記載のバス所要時間は通常の交通状況での見込み時間です。試験当日は交通渋滞が予想されます。



学 章

岡山大学

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学

OKAYAMA UNIVERSITY

2026



OKAYAMA
UNIVERSITY

2026年度 学生募集要項

学校推薦型選抜Ⅱ
(医学部医学科地域枠コース抜粋版)

【出願期間】

・学校推薦型選抜Ⅱ【医学部医学科】

2025年12月16日(火)～2025年12月23日(火)

※出願期間以降に到着した願書は2025年12月21日(日)の消印のものまで受理します。

岡山大学を志すみなさんへ

—君たちこそが主役です—

岡山大学は、「地球と生態系の健康(Planetary Health)」の実現に向かって、地域と地球の「ありたい未来の共創」に貢献することを使命としています。この使命を達成するため、「岡山大学長期ビジョン2050:地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」を掲げ、地域・世界の多様なステークホルダーとの志を共有するエンゲージメントを深化させてまいります。

教育においては、新たな価値創造と世界の革新に貢献する人材として、「主体的に変容し続ける先駆者」の育成を使命に掲げ、大学院教育の改革に続き、2025年度から初年次教育を起点とする再構築された新しい学士課程教育が始まりました。一連の改革を通して、地域・世界との「共育共創」の枠組みの下、研究大学に相応しい学修者本位の教育体制と環境を構築し、さまざまな人々と協働しながら課題解決に取り組む多様な人材を養成します。

自分自身のことのみならず、家族、友人、地域社会、そして地球のあるべき姿や課題について想像力豊かに思いを巡らせ、自分自身ができることを主体的に考え、新たな価値を創り出していこうとする姿勢を、学生になった皆さんに求めています。君たちこそが主役なのです。

特に、学校推薦型選抜、総合型選抜、私費外国人留学生選抜では、いわゆる「学力検査」では測定することが困難な能力を見極め、世界共通の社会課題に関心を持ち、課題解決に意欲と探求心を持つ人を選抜するため「持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)」の視点から出題を実施しています。

意欲のある皆さんの入学をお待ちしています。



岡山大学長

那 須 保 友



目 次

	ページ
1 学科及び募集人員	1
2 推薦者数	1
3 出願資格	1
4 障がい等のある方の出願	4
5 出願手続	4
6 受験票等のダウンロード	9
7 入学者選抜方法等	11
8 合格者発表等	12
9 入学手続	12
10 入試担当	13
11 欠員補充第2次募集	14
12 WEB出願の流れ	15
13 出願書類の整理	19
14 受験生宿泊申込	19
15 入試情報の開示	19
16 岡山大学の教育における方針（アドミッション・ポリシー等）	20
17 学生生活等	21
<small>（1入学料及び授業料, その他入学時納付金, 2学費支援, 3女子学生寮, 4学生マンション・アパート等の紹介, 5福利厚生施設）</small>	
18 大学案内図等	25

入学試験情報ホームページ

岡山大学ホームページ (<https://www.okayama-u.ac.jp>)から「入試」をクリックしてください。

（注1）試験に関する重要なお知らせが生じた場合（災害の発生や大規模な感染症の流行を含む。）は、下記HPにより周知を行いますので、必ず確認してください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/index.html>

（注2）不正行為をしたとき若しくはしようとしたとき、又は監督者の指示に従わないときは、その入学者選抜については失格とするとともに、警察に被害届を提出する場合があります。

学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課すもの）

医 学 部

1 学科及び募集人員

学 科	募 集 人 員
医学科 地域枠コース	岡山県 4人
	広島県 2人
	兵庫県 2人

(注1) 地域枠コースにおいて志望する県は、第1志望のみ認めます。

(注2) 入学定員2人（岡山県2人）について、入学手続者が所定の募集人員に満たない場合には、その欠員数を一般選抜（前期日程）の医学部医学科（一般コース）に含めて選抜します。

(注3) 臨時定員6人（岡山県2人、広島県2人、兵庫県2人）については、入学手続者が所定の募集人員に満たない場合であっても、その欠員数を一般選抜（前期日程）に含めません。県によっては欠員補充を行うことがあります。詳細は14ページを参照してください。

2 推薦者数

1 学校当たりの推薦者数は特に制限しません。

3 出願資格

次の（1）～（3）のいずれにも該当する者で、岡山大学医学部での勉学を強く希望し、合格した場合には必ず入学することを確約できるもの

- 志望する各県の出願要件を満たし、かつ卒業後は当該県内での医療に従事する強い意志がある者で、各県が貸与する奨学金を在学期間中に受給することに同意するもの※
- 令和8年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目（次表参照）を受験する者
- 出身学校長（高等学校長等）が人物、能力、素質、適性等について責任をもって推薦できる者

※この学校推薦型選抜に出願し、合格した後に、各県からの奨学金の受給を辞退する場合には、合格又は入学を取り消す。

<各県の出願要件>

【岡山県】

次のいずれかを満たす者としてします。

- 岡山県内の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2023年4月から2026年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- 岡山県以外の都道府県の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2023年4月から2026年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、出願時において本人又は保護者が岡山県内に居住しているもの

【広島県】

次のいずれかを満たす者としてします。

- 広島県内の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2023年4月から2026年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- 広島県以外の都道府県の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2023年4月から2026年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、出願時において本人又は保護者が広島県内に居住しているもの

【兵庫県】

次のいずれかを満たす者とします。

- ① 兵庫県内の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2023年4月から2026年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- ② 兵庫県以外の都道府県の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を2023年4月から2026年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、出願時において本人又は保護者が兵庫県内に居住しているもの

（注）岡山大学における保護者の定義は、次のとおりとします。

学校教育法第16条に規定する「保護者」又は民法第877条に規定する「扶養義務者」のうち、現に出願者を扶養している者をいいます。

<地域枠コース入学者の履行義務>

【岡山県】

地域枠コース（岡山県）の入学者は、岡山県からの奨学金〔学費、生活費等に相当する額（年額240万円、月額20万円）〕を在学期間中（6年間）受給するとともに、医学科を卒業し医師免許取得後は、義務年限期間（貸与期間の1.5倍の9年間）に、岡山県知事が指定する県内の医療機関に勤務しなければなりません。義務年限期間には、2年間の初期臨床研修（県内の大学病院又は県内の基幹型臨床研修病院が行う研修）、2年以内の選択研修（県内の専門研修基幹施設が行う研修及び県内のその他の施設が行う研修で知事が認めたもの）、5年以上の地域勤務（知事が指定する県内の医師不足地域等の医療機関での勤務）を含みます。なお、選択研修による義務年限期間の中断は2年間まで認めています。

岡山県が定める、このキャリア形成プログラムを履行することにより、貸与された奨学金の返還は全額免除されます。また、在学期間中には、将来地域で勤務するためのキャリア形成を支援するプランが適用されます。当該プログラム等の詳細は、岡山県ホームページ

(<https://www.pref.okayama.jp/page/detail-113238.html>) を参照してください。

【広島県】

地域枠コース（広島県）の入学者は、広島県からの奨学金〔学費、生活費等に相当する額（年額240万円、月額20万円）、法定利率による貸付利息あり。〕を在学期間中（6年間）受給するとともに、医学科卒業後、貸与期間の2倍の期間（12年間）以内に、必要従事期間（貸与期間の1.5倍の期間の9年間；この9年間には広島県内の公的医療機関等で実施する2年間の初期臨床研修を含みます）に、広島県内の公的医療機関等で医師として勤務し、かつ、必要従事期間の1/2の期間（広島県内の公的医療機関等での初期臨床研修の2年を必要従事期間から減じて計算し、1年に満たない端数は切り上げるため4年間）について、中山間地域又は広島県知事指定の診療科（病理診断科・産婦人科）※で勤務しなければなりません。なお、在学期間中は、広島県等が定める「キャリア形成卒前支援プラン」に基づく支援を受け、必要従事期間内は、広島県等が定める「キャリア形成プログラム」に沿って勤務を行うこととなります。

このキャリア形成プログラムを履行することにより、貸与された奨学金（利息を含む。）の返還は全額免除されます。当該プラン及びプログラムの詳細は、広島県ホームページ

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/54/ishi-shougakukin.html>) を参照してください。

※広島県知事指定の診療科については、今後、変更する場合があります。

【兵庫県】

地域枠コース（兵庫県）の入学者は、兵庫県が定めるキャリア形成卒前支援プランに参加し、兵庫県からの修学資金〔入学料（1年次のみ）・授業料等に相当する額）を在学期間中、四半期毎に受給するとともに、医学科を卒業し、医師免許取得後は、兵庫県の正規職員として兵庫県が定めるキャリア形成プログラム（県養成医師キャリア形成プログラム）に沿って兵庫県知事が指定する医療機関に勤務しなければなりません。この勤務期間（2年間の初期臨床研修及び後期研修（卒後6～7年目に実施）を含む。）が9年間に達したとき、貸与された修学資金の返還が全額免除されます。当該プログラムの詳細は、兵庫県ホームページ (<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf15/ishisyugakushikin.html>) を参照してください。

大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
医 学 科 地域枠コース	<p>【大学入学共通テストの教科・科目】 [6教科8科目]</p> <p>国語 (『国語』)</p> <p>地理歴史 (『地理総合, 地理探究』, 『歴史総合, 日本史探究』, 『歴史総合, 世界史探究』) } から1</p> <p>公民 (『公共, 倫理』, 『公共, 政治・経済』)</p> <p>数学 (『数学Ⅰ, 数学A』)</p> <p>(『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』)</p> <p>理科 (『物理』, 『化学』, 『生物』 から2)</p> <p>外国語 (『英語』, 『ドイツ語』, 『フランス語』, 『中国語』, 『韓国語』 から1)</p> <p>情報 (『情報Ⅰ』)</p>

- (注) 1 「地理歴史」・「公民」について、指定された教科・科目の中で複数受験している場合には、第1解答科目の成績を用います。第1解答科目は必ず指定された科目の中から選択してください。
- 2 「英語」については、「リーディング」及び「リスニング」の両方を受験している場合のみ、科目「英語」を受験していることとなります。(重度難聴者などで「リスニング」を免除された方を除きます。)

4 障がい等のある方の出願

障がい等のある入学志願者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願に先立ち、次により相談してください。

相談期限	2025年12月9日(火)
相談方法	ホームページ掲載の「出願に伴う事前相談書」に医師の診断書、障害者手帳の写し(交付されている方のみ)を添付して相談してください。 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/jizen_soudansho.html
書類提出先	〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 岡山大学学務部入試課 電話 086-251-7192~7194

ただし、体幹及び両上下肢の機能障がいが著しい方で、代筆による解答を希望される方は、できるだけ早い時期に相談してください。(大学入学共通テストにおいて代筆による解答を申請する方は、必ず早く相談してください。)

なお、事前相談書には、志望するすべての学部・学科等を記入するとともに、迅速な相談結果の通知、特別な配慮に基づく必要な措置を講ずるための所要時間等を考慮し、**少しでも早く相談してください**。また、「事前相談書」提出後、志望学部・学科等を変更する場合には、直ちに申し出てください。

事前相談がなければ、受験上の配慮を行いません。

【出願後の不慮の事故等による障がい等のある方の相談について】

出願後に不慮の事故等により受験上及び修学上特別な配慮を希望する場合は、申請する理由発生後、直ちに相談を行ってください。なお、出願時まで申請すべき内容であった場合には対象となりません。

5 出願手続

(1) 出願方法

出願はインターネット出願(インターネットによる志願者登録及び出願書類の郵送)のみとします。

入学志願者は、6～8ページの(5)に掲げる「出願書類」のみを、次の各事項に留意し、インターネット出願後にダウンロードできる出願書類提出用封筒宛名を貼り付けた出願書類提出用封筒(市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm))に一括して入れ、出身学校長(高等学校長等)に提出してください。出身学校長(高等学校長等)は、確認の上、厳封し、**出願期間内に必着するよう「書留・速達」として、13ページの入試担当へ郵送してください。(※郵送先は入試課ではありません。)**

出身学校長(高等学校長等)より、出願書類の確認を得た上で推薦を受けた方については、入学志願者から郵送(個人出願)しても構いません。

高等学校等において複数の被推薦者がいる場合は、個人別に厳封のうえ、とりまとめて郵送しても構いません。とりまとめた出願書類の封筒宛名については、様式任意で作成してください。

詳細は、15ページの12 WEB出願の流れ及び19ページの13 出願書類の整理を参照してください。

(注) 送付された願書等が本学に到着した後に、到着した旨の連絡はいたしません。また、配達されているかを確認する場合は、「郵便追跡サービス」をご利用ください。

【URL : <https://trackings.post.japanpost.jp/services/srv/search/>】

(2) 出願期間

2025年12月16日(火)から2025年12月23日(火) 17時(必着)

(注1) これ以降に到着したものは、2025年12月21日(日)の消印のものまで受理します。郵便事情等を十分考慮の上、余裕をもって発送してください。

(注2) インターネット出願ページへの入力とは2025年12月9日(火)10時00分から可能です。

詳細はインターネット出願ページ(<https://e-apply.jp/ds/okayama-u/>)の「入試日程はこちら」

をご確認ください。

(3) 特例事項

やむを得ず持参する場合は、2025年12月23日（火）に限り認めます。

同日の9時00分から17時00分までに、13ページの入試担当にあらかじめ連絡をした上で、持参するようにしてください。

(4) 出願上の注意

- ① 国公立大学の学校推薦型選抜(大学入学共通テストを課さないもの、課すものを問わず)への出願は、1つの大学・学部に限ります。
- ② 出願後の志望学部及び学科等の変更は認められません。
- ③ 出願書類(大学入学共通テスト成績請求票等)受理後は、いかなる理由があっても返却しません。
- ④ 出願書類に次のような不備があるものは受理しません。
 - ・ 志願票等に不備があるもの
 - ・ 入学検定料に不足のあるもの
 - ・ 必要な証明書等が添付されていないもの
- ⑤ 令和8年度大学入学者選抜大学入学共通テストで受験を要する教科・科目等に関する注意事項
 - ア 本学の受験票ダウンロード通知メールの送信後に、医学部医学科が指定した受験を要する教科・科目を受験していないことが判明した場合は、合格者選考の対象となりません。
なお、この場合であっても、出願書類及び既納の入学検定料は返還しません。
 - イ 「地理歴史」・「公民」の2科目受験者について、医学部医学科が指定した科目の中で複数受験している場合には、第1解答科目の成績を用います。
 - ウ 外国語のうち、「英語」については、リーディング及びリスニングの両方を受験している場合のみ、科目「英語」を受験していることとなります。(重度難聴者などでリスニングを免除された方を除きます。)
 - エ 本学の2026年度入学者選抜においては、大学入学共通テストの過年度成績利用は行いません。
- ⑥ 国公立大学の一般選抜における合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入学共通テストの受験番号に限って、学校推薦型選抜の合格及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。

(5) 出願に必要な書類等

出願に必要な書類等	摘 要
<p>志 願 票 写 真 票 (インターネット出願 ページで志願者登録を 行い、ダウンロードし たものをカラー印刷す る)</p>	<p>本学の「インターネット出願ページ (https://e-apply.jp/ds/okayama-u/)」より出願し、志願者登録を行ってください。志願者登録終了後、入学検定料決済を行ってください。</p> <p>写真は、インターネット出願ページにて出願前3か月以内に正面向、上半身、無帽で撮影した鮮明な写真をアップロードしてください。</p> <p>入学検定料 17,000 円の支払方法は、コンビニエンスストア、クレジットカード、郵便局・銀行ATM、ネットバンキングのいずれかでお支払いください(入学検定料の支払確認後、「志願票」に「決済済」と表示されます。それぞれの支払方法に関する詳細は「インターネット出願ページ」をご確認ください)。その後、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校推薦型選抜志願票 ・写真票 ・出願書類提出用封筒宛名 <p>をダウンロードし、<u>カラー印刷</u>してください。</p> <p>出願書類提出用封筒(市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm))は出願書類提出用封筒宛名を貼り付けて作成してください。</p> <p>入学検定料の返還について</p> <p>次の場合を除き、いかなる理由があっても支払済の入学検定料は返還しません。(()内は返還額)</p> <p>ア 入学検定料を支払ったが岡山大学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった) 場合 (17,000 円)</p> <p>イ 入学検定料を誤って二重に支払った場合 (17,000 円)</p> <p>ウ 下記入学検定料の免除に該当する者が、出願期間内に証明書等の取得が困難なため、入学検定料を支払い、所定の手続きを行った場合 (17,000 円)</p> <p>※詳細については、本学のホームページ (https://www.okayama-u.ac.jp) から「入試」→「入学検定料の返還手続き(インターネット出願)」をご確認ください。</p> <p>なお、返還手続きの申出期限は、2026年3月31日(火)とします。</p> <p>入学検定料の免除について</p> <p>本学では、2024年4月以降に災害救助法の適用を受けた災害により被災した方の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るために、学部入試等において、入学検定料免除の措置を講じます。</p> <p>詳細については、本学のホームページ (https://www.okayama-u.ac.jp) から「入試」→「入学検定料の免除」をご確認ください。</p>
<p>大学入学共通テスト 成績請求チケット (チケット方式)</p>	<p>大学入学共通テスト出願サイトのマイページ上にある「成績請求チケット」を選択し、<u>国立推薦型選抜用の成績請求チケット</u>を発行・印刷してください。発行されたチケットは、志願票の所定欄にのりで貼り付けてください。</p>

出願に必要な書類等	摘 要
調 査 書	<p>出身学校長が文部科学省所定の様式により作成し、厳封したものを提出してください。</p> <p>注) 本学として、高等学校において特に調査書に記載すべき事項として指定する事項はありません。</p>
推 薦 書	<p>ホームページ掲載の様式に、出身学校長が作成し、厳封してください。</p> <p>パソコン等を利用して作成し、厳封したものでかまいません。</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosuyuko.html</p>
履 歴 書	<p>ホームページ掲載の様式に、入学志願者本人が記入してください。</p> <p>パソコン等を使用して作成してもかまいません。</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosuyuko.html</p>
同 意 書	<p>ホームページ掲載の様式に、入学志願者本人が自筆（黒のボールペン）で記入してください。</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosuyuko.html</p>
各県との同意書 （誓約書）	<p>ホームページに掲載している様式（志望する県による指定様式）に、入学志願者本人と、保護者もしくは法定代理人が自筆（黒のボールペン）で記入し、提出してください。</p> <p>※岡山大学長宛の同意書に加えて、志望する県の県知事宛の同意書（誓約書）が必要ですので、ご注意ください。</p>
志 願 所 信 書	<p>ホームページ掲載の様式に、入学志願者本人が記入し、提出してください。</p> <p>※印刷する際は、片面で印刷してください。</p> <p>パソコン等を使用して作成してもかまいませんが、MS 明朝、10.5 ポイントで記入してください。</p> <p>《志願所信書への各県の記入事項》</p> <p>【岡山県】 地域枠コース・岡山県に応募する理由とどのような医師になりたいか等について、自由に記すこと。(800字以内)</p> <p>【広島県】 地域枠コース・広島県に応募する理由と広島県の地域医療に対する抱負について、自由に記すこと。(800字以内)</p> <p>【兵庫県】 地域枠コース・兵庫県に応募する理由とどのような医師になりたいか等について、自由に記すこと。(800字以内)</p> <p>【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosuyuko.html</p>
住 民 票 （抄本）	<p>それぞれの県の出願要件②に該当する方は、市区町村の発行する本人又は保護者の「住民票(抄本)」(出願日から3か月以内に発行されたものに限る。)を提出してください。</p>
受 験 許 可 書	<p>現在大学に在籍している方は、在籍する大学の学長又は学部長の発行する「受験許可書(様式任意)」を提出してください。</p> <p>なお、「受験許可書」が発行されない場合は、入学志願者本人がその旨の文書(様式任意)を作成の上、提出してください。</p>

注意事項

- (1) 出願書類等の記載内容に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学が取り消されることがあるので注意してください。
- (2) 改姓（名）前の証明書を使用する場合の提出書類について、志願票の氏名と異なる旧姓（名）の記載された証明書も使用できますが、その場合は、改姓（名）の日付と新旧姓（名）を入学志願者本人が記入した文書（様式は任意です。）を添付してください。
- (3) 出願書類等及びこれらに記載・貼付されている個人情報並びに入学試験成績の個人情報は、入学者選抜に関する業務に使用します。

なお、これらの個人情報は、入学者選抜及び大学教育の改善のための調査・研究の資料としても利用します。ただし、調査・研究結果の発表に際しては個人が特定できないように処理します。

また、次の個人情報は、入学者選抜以外の業務、システム等でも利用します。

 - ・ 合格者の受験番号、氏名、生年月日、住所及びメールアドレス等の個人情報を入学前教育及び入学手続に関する業務並びに入学前の諸連絡を行うために利用します。
 - ・ 入学者の氏名、生年月日、性別、出願資格、入学学部・学科等の個人情報を、本学の学務情報システムで利用します。

なお、入学者のうち、入学料徴収猶予申請者、授業料免除申請者及び奨学金申請者については、入学試験成績の個人情報を、それぞれの選考に利用することがあります。
 - ・ 合格者の氏名、生年月日、性別の個人情報を、本学の授業料債権管理システム及び授業料免除システムで利用します。
 - ・ 入学志願者のうち、女子寮入寮志願者のみ、合否結果の個人情報を、女子寮入寮の選考対象者の把握に利用します。

6 受験票等のダウンロード

- (1) 受験票及び受験案内は、インターネット出願ページのマイページからダウンロードしてください。
2026年1月9日(金)に出願時に登録したメールアドレスへ「受験票ダウンロード通知メール」を送信します。なお、メールが2026年1月10日(土)までに届かない場合であっても、出願が受理されていれば、2026年1月10日(土)以降に受験票等のダウンロードができます。
9～10ページを参照して受験票等をダウンロードし、印刷してください。ダウンロードした受験票の氏名等に間違いがある場合、学務部入試課へ連絡してください。

連絡先：【電話 (086)251-7192～7194】

(注) ドメイン設定において、「@e-apply.jp」及び「@adm.okayama-u.ac.jp」からのメールを受信できるように設定しておいてください。

【STEP1】 志願者より郵送される出願書類を本学にて確認後、インターネット出願時に登録したメールアドレスへ以下のとおり受験票ダウンロード通知メールを送信します。



no-reply@e-apply.jp
岡山大学 出願手続 受験票印刷可能メール

【e-apply インターネット出願サイト】
岡山大学 出願手続 受験票印刷可能メール

このたびは、出願サイトをご利用いただき、誠にありがとうございます。
受験票の印刷が可能となりましたので、お知らせいたします。

■以下のURLから、受験票を印刷してください。
<https://e-apply.jp/ds/okayama-u/public/login>

■受付番号
123456789012
※受験番号ではありません。

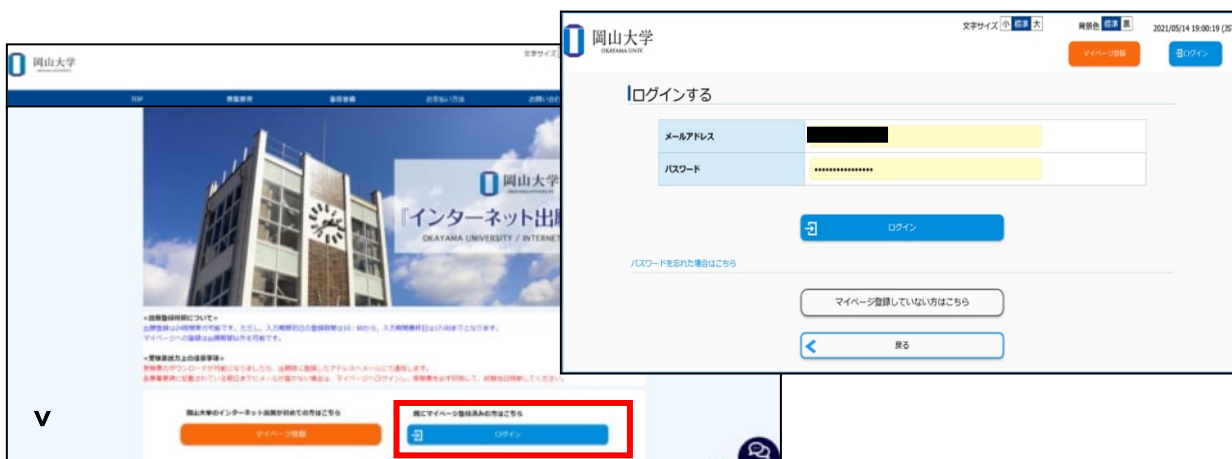
■注意

- 試験当日は、印刷した受験票を持参してください。
- スマートフォン等の画面表示による受験票の提示は認めません。
- 本メールは入試が終了するまで大切に保管してください。

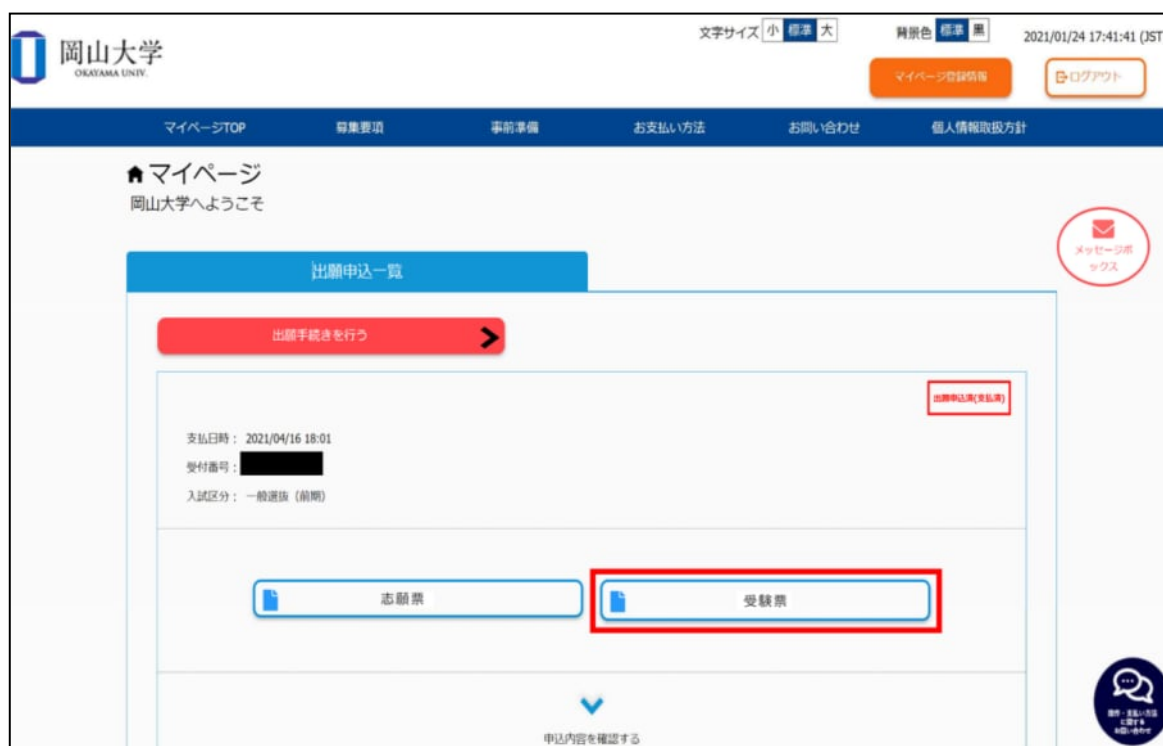
本メールは、送信専用メールアドレスから配信されています。
返信をいただいてもお答えできませんので、ご了承ください。

【STEP 2】受験票ダウンロード通知メールを受信後、マイページ画面にログインします。マイページにログインするにはマイページ登録時の【メールアドレス・パスワード】が必要になります。

なお、受験票ダウンロード通知メールが届かない場合であっても、出願が受理されていれば、インターネット出願のページ (<https://e-apply.jp/ds/okayama-u/>) からマイページにログインすることで、受験票等のダウンロードができます。



【STEP 3】ログイン後、マイページより受験票（PDF）をダウンロードし、カラー印刷して、試験当日に持参してください。



(注1) 「受験票」のリンクは、受験票ダウンロードができる状態になると表示されます。

(注2) 「岡山大学受験票」は、試験当日及び入学手続きの際に必要となるので、大切に保管しておいてください。

7 入学者選抜方法等

令和8年度大学入学共通テストに基準点（配点の950点満点中概ね820点）を設け、基準点以上を得た受験者の中から、調査書・推薦書・志願所信書の審査、令和8年度大学入学共通テスト及び面接の結果を総合して行います。

(1) ① 面接の試験実施日時及び試験場

試験日	教科等	時間	試験場
2026年1月31日（土）	面接	9時00分～	医学部 医学科

- (注) 1 複数の面接員による評価を参考にして、場合によっては、複数回の面接をすることがあります。
 2 上記に加え、各県による面接が実施されます。
 3 詳細については、受験票ダウンロード通知メールの際にお知らせします。

② 各県による面接実施日

岡山県	広島県	兵庫県
大学が実施する面接終了後に実施します。	2026年2月1日（日）に、 〇〇で実施します。	2026年2月1日（日）に、 〇〇で実施します。

- (注) 詳細については、受験票ダウンロード通知メールの際にお知らせします。なお、地域枠コース「兵庫県」出願者は、面接実施前に、兵庫県へ提出する書類がありますので、メールが届き次第、速やかに詳細を確認してください。

(2) 大学入学共通テストの過年度成績利用

本学の2026年度入学者選抜においては、大学入学共通テストの過年度成績利用は行いません。

(3) 配点基準

区分	書類審査			面接	大学入学共通テスト						計
	調査書	推薦書	志願所信書		国語	地理歴史	公民	数学	理科	外国語	
医学部 医学科	*	*	*	※	200	100	200	200	200	50	950

- (注) 1 *は、面接評価に含まれます。
 2 ※の面接は、総合判定の資料とします。面接の評価によっては、大学入学共通テスト等の成績に関わらず不合格となることがあります。
 3 大学入学共通テスト「外国語」の『英語』の配点は、「リーディング」(100点満点)と「リスニング」(100点満点)の得点について、「リーディングの得点×1.6」と「リスニングの得点×0.4」の合計点を岡山大学の配点に換算したものを大学入学共通テストの英語の点数とします。(重度難聴者などで「リスニング」を免除された方は「リーディング」(100点満点)を200点満点に換算したものののみを利用します。)
 4 同一教科で複数科目を課している場合の各科目の配点は、等分とします。

8 合格者発表等

(1) 合格者発表

2026年2月10日(火) 10時00分の予定

① 岡山大学ホームページへ合格者受験番号一覧表を掲載します。また、合否照会システム(受験番号と生年月日(半角8桁)で認証：<https://www.gouhi.com/okayama-u/>)でも発表します。

同日付けで、合格者には合格通知書及び入学案内等(入学手続書類)を本人あてに発送し、出身学校長に合否の結果を通知します。

合格者発表直後は、サーバへのアクセスが集中し、接続に時間がかかることが予想されますので、あらかじめご了承ください。

② ホームページへの掲載及び合否照会システムの確認期間は、合格者発表日から1週間とします。

③ 電話等による合否の問い合わせには一切応じません。

(2) 学校推薦型選抜に合格しなかった場合の取扱い

学校推薦型選抜に合格しなかった場合で、本学及び他の国公立大学の一般選抜の受験を希望する方は、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの、合計2つの大学・学部に出願することができます。なお、前期日程グループ及び後期日程グループに属さない大学・学部への出願は特に妨げません。

出願に当たっては、各大学・学部等により大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等が異なる場合がありますので、特に注意してください。

本学に出願する場合は、別途「2026年度一般選抜学生募集要項」をホームページに掲載(<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/bosuyuyoko.html>)(11月上旬公表予定)しますので、それにより、所定の出願書類等を、一般選抜学生募集要項に記載の出願期間内に提出してください。

ただし、出願する場合は、改めて入学検定料が必要となります。

9 入学手続

合格者は、次の各事項に十分注意して、入学手続を完了してください。

(1) 入学手続期限・方法

2026年 2月18日(水) 17時00分までに必着(郵送)

入学手続専用サイトで手続き後、郵送で入学手続を行ってください。

入学手続に関する詳細は、「入学案内」により、合格者に別途お知らせします。また、岡山大学公式ホームページに掲載する「入学手続システム利用ガイド」もあわせて確認してください。

入学手続専用サイトへのログインには「受験番号」及びインターネット出願サイトのマイページに登録した「メールアドレス」・「生年月日」が必要です。

(2) 入学手続に必要なもの

① 岡山大学受験票

② 国公立大学入学確認票

③ 入学金 282,000円(予定額)

(注) 入学時に入学金改定が行われた場合には、改定時から新入学金が適用されます。

④ 上記以外の本学所定のもの

⑤ その他入学時納付金

(学生教育研究災害傷害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料、岡山大学校友会費、岡山大学 Alumni(全学同窓会)会費、学部等同窓会費、後援会費・振興会費)

学生生活の安全を保障するもの、また学生生活の質の向上のために、入学金とは別に、皆さんにご負担をお願いしている費用です。学生が、教育研究活動、課外活動等を行う上で様々な形で還元

されるものであり、必要な経費です。入学料に合わせて一括納入いただくことができます。

なお、医学部・歯学部の子生については上記のほかに「学研災付帯学生生活総合保険（略：付帯学総）」に加入いただく必要があります。こちらについては、上記とは別に手続きが必要です。

(3) 留意事項

- ① 入学手続専用サイトでの手続きのみでは、入学手続を行ったことにはなりません。
- ② 入学料の免除及び徴収猶予を希望する方は、21～24ページの「学生生活等」を参照してください。
- ③ 学校推薦型選抜に合格したが、入学手続をしない方、あるいは入学手続を完了した方が特別な事情により入学を辞退する場合は、出身学校長（高等学校長等）を通じ、2026年2月18日（水）17時00分までに、「学校推薦型選抜入学辞退願」（様式は任意。選抜の種別、受験番号、合格学部・学科名、日付及び入学を辞退する特別な理由を記載した上で、本人並びに出身学校長が連署・押印したもの）を岡山大学長あて提出し、許可された場合に限り、入学辞退を認めます。
- ④ 学校推薦型選抜合格者は、入学の辞退を許可された場合を除き、本学及び他の国公立大学・学部的一般選抜を受験しても合格者にはなりません。

「学校推薦型選抜入学辞退願」送付先

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 岡山大学学務部入試課

10 入試担当

学部等	担当	住所	電話	備考
医学部医学科	医学部医学科担当 (医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ)	〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1	(086)235-7020	問い合わせ時間 9時00分～ 17時00分

感染予防について

医学部（医学科、保健学科）及び歯学部では、入学当初より病院見学・実習があります。自身の感染、あるいは、自身から患者（特に免疫能が低下した患者）への感染を防ぐために感染対策が必要であり、入学前に予防接種を義務化しています。麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の4種類のウイルス疾患について、ワクチン接種歴（2回の接種が必要）が不足している場合、入学までに必要な予防接種を済ませるようお願いします。予防接種の記録は大切に保管しておいてください。詳細な案内文は、合格通知書とともに送付します。

1 1 欠員補充第2次募集

臨時定員による増員部分（岡山県2人，広島県2人，兵庫県2人）については，入学手続き者が所定の募集人員に満たない場合，県によっては2026年3月27日（金）以降に「**欠員補充第2次募集**」により欠員補充を行うことがあります。

出願資格	2026年3月23日(月)の時点で，いずれの国公立大学にも合格していない者（いずれの国公立大学にも出願していない者を含みます。）又は合格していても欠員補充第2次募集出願時にいずれの国公立大学にも入学手続きを行っていない者で，かつ，本学が令和8年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目として指定した全教科・科目(3ページ参照)を受験した者 なお，この欠員補充第2次募集に出願できるのは，一つの大学・学部です。
選考方法	大学入学共通テストの成績，面接及び調査書により実施します。
出願方法等	欠員補充第2次募集を実施する場合は，2026年3月中旬頃（予定）に本学ホームページの入試情報（ https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/nyusi_kekka.html ）へ，欠員補充第2次募集学生募集要項を公開し，お知らせします。 詳細は欠員補充第2次募集学生募集要項をご確認ください。

※ 欠員補充第2次募集の出願後，他の国公立大学へ入学手続きを行った場合は，受験しても合格者にはなりません。

Web出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです



STEP 1 **事前準備**

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
必要書類は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

STEP 2 **Web出願サイトにアクセス**

Web出願サイト ▶ <https://e-apply.jp/ds/okayama-u/>
または、
大学ホームページ ▶ <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/Index.html>
からアクセス

STEP 3 **マイページの登録**

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

- ① 初めて登録する方は **マイページ登録** からログインしてください。
- ② メールアドレスの登録を行って **仮登録メールを送信** をクリックしてください。
- ③ ユーザー登録画面から **ログインページへ** をクリックしてください。
- ④ 登録したメールアドレスに初期パスワードと本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。
- ⑤ ログイン画面から登録したメールアドレスと④で届いた「初期パスワード」にて **ログイン** をクリックしてください。
- ⑥ 初期パスワードの変更を行ってください。
- ⑦ 表示された個人情報を入力して **次へ** をクリックしてください。
- ⑧ 個人情報を確認して **この内容で登録する** をクリックしてください。



⑧登録完了となります。
「マイページへ」をクリックしてください。



⑨上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、「出願手続きも行う」ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進みませんので「ログアウト」ボタンをクリックしてください。

STEP

4



出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
「出願手続きも行う」ボタン
から登録画面へ



②入試選択と留意事項の確認



③志望学部等の選択



④顔写真のアップロード
「写真選択へ」ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑤個人情報(氏名・住所等)の
入力



⑥出願内容の確認



⑦申込登録完了
「引寄せ支払う」ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ



⑧入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネット/キャッシング ●クレジットカード



⑨出願に必要な書類PDF
(イメージ)
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」又は「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、**支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を控え**たうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストア又はペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブンイレブンの場合

払込票番号
メモ(13桁)

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号
メモ(11桁)

確認番号
メモ(6桁)

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済
番号メモ(11桁)

収納機番番号
(5桁) 58021 ※収納機番番号は、ペイジーで
お支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

受付完了後、募集要項記載の日に受験票ダウンロード通知がメールで送信されます。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP
5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA, Master, JCB, AMERICAN EXPRESS, MUFGカード, DCカード, UFJカード, NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

- レジで支払い可能
- 店頭端末を利用して支払い可能



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

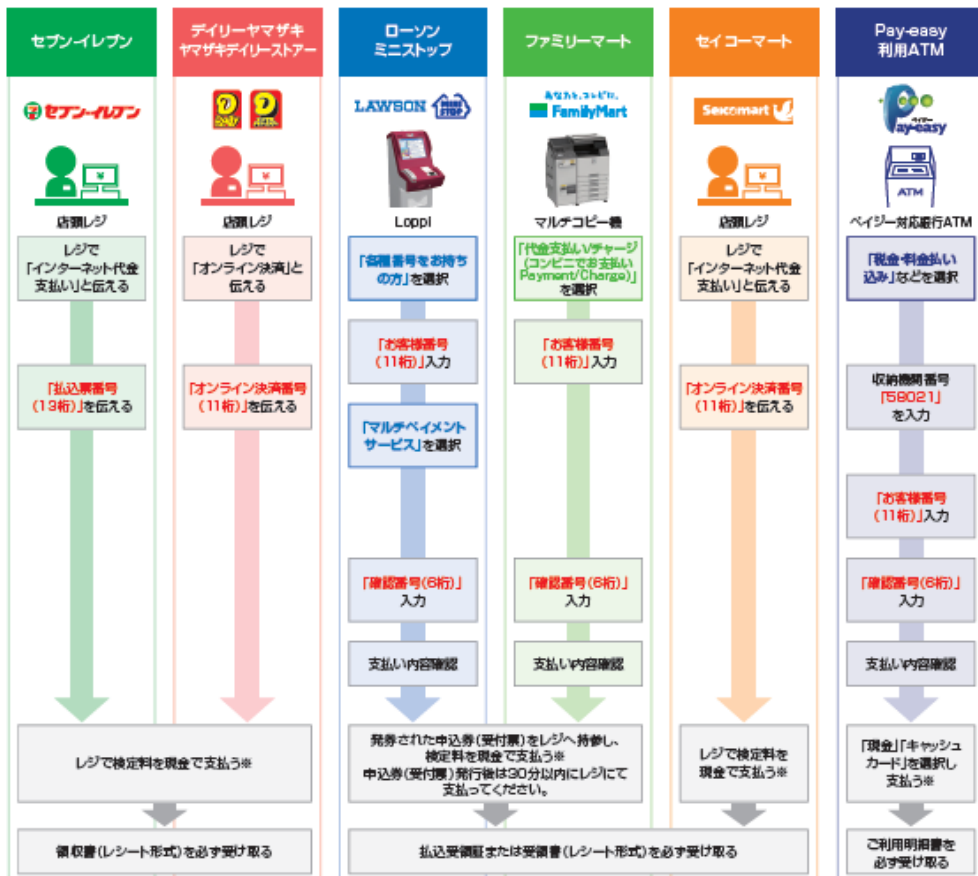
※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認ください。



各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

4 銀行ATM



※ゆうちょ銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP

6

必要書類の郵送

出願登録、入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を全てカラー印刷し、必要書類を出願期間内に郵便局窓口から「書留・速達郵便」で郵送してください。※出願締切日は各募集要項を参照してください。

必要書類は以下のページを参照して準備してください。
6～8, 19ページ



出願書類の郵送先は各募集要項を参照してください。



出願書類提出用封筒用名シート
市販の角形2号封筒(240x33.2mm)
封筒に貼り付けて作成

■出願書類

1回の出願登録につき各1部必要です。出願に必要な書類は各募集要項を参照してください。

※いったん受理した入学検定料・必要書類は一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の
注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。インターネット出願は24時間可能です。必要書類の郵送は、各募集要項で定められた期限内に行ってください。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP

7

受験票・受験案内の印刷

本学で出願を確認後、各募集要項の記載日に一斉に受験票を配信します。インターネット出願システムよりダウンロードできる状態にしますので、必ず印刷し、試験当日持参してください(※郵送はいたしません)。

※受験票のダウンロードが可能になりましたら、出願時に登録したアドレスへメールで通知します。



【印刷に関する注意事項】受験票は必ずA4用紙に片面印刷にしてください。

(注) 1 送付された願書等が本学に到着した後に、到着した旨の連絡はいたしません。また、配達されているかを確認する場合は、「郵便追跡サービス」をご利用ください。

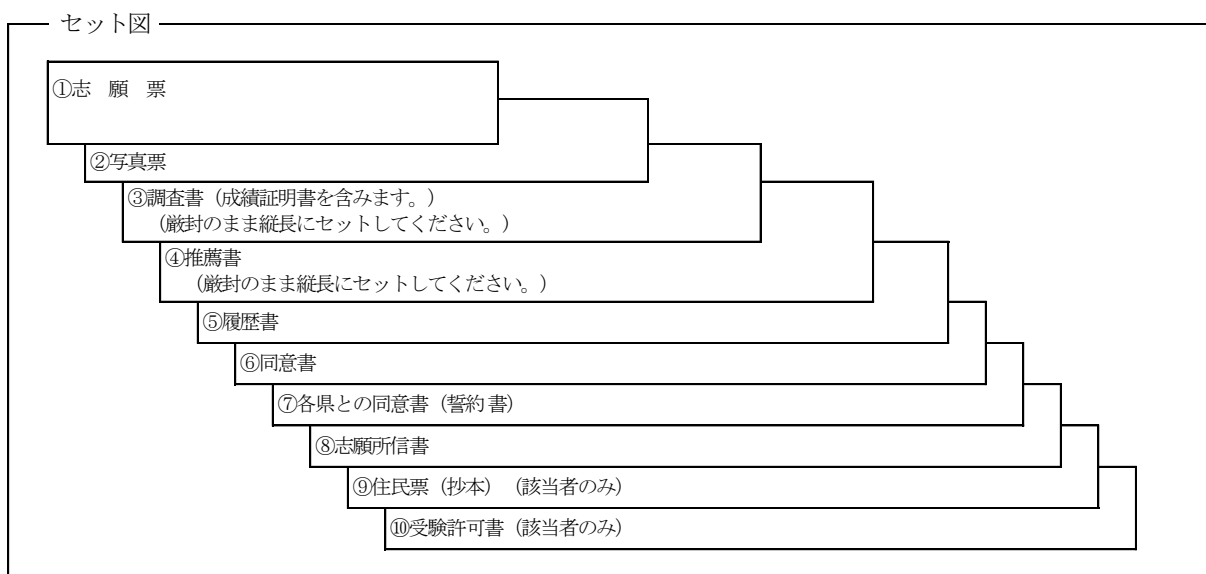
【URL : <https://trackings.post.japanpost.jp/services/srv/search/>】

2 マイページ登録の際に使用したメールアドレスは、入試情報の開示(19ページ「15 入試情報の開示」を確認してください。)が必要になります。必ず次年度以降も使用できるメールアドレスで登録してください。

1 3 出願書類の整理

出願書類は、以下の順に、ばらばらにならないようセットして（セット図参照）、「出願書類提出用封筒」に入れて提出してください。

- ①「志願票」
- ②「写真票」
- ③「調査書」（厳封のまま、縦長にセットしてください。開封したものは受理しません。）
- ④「推薦書」（厳封のまま、縦長にセットしてください。開封したものは受理しません。）
- ⑤「履歴書」
- ⑥「同意書」
- ⑦「各県との同意書（誓約書）」
- ⑧「志願所信書」
- ⑨「住民票（抄本）」（該当者のみ）
- ⑩「受験許可書」（該当者のみ）



1 4 受験生宿泊申込

受験に際して、ホテル・旅館等への宿泊を希望する場合は、『2026年度岡山大学受験宿泊・サポート案内』（以下URL参照）をご覧ください。

【お問い合わせ先】 〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1
岡山大学生生活協同組合 受験宿泊係
電話 (086)256-4130 (10時00分～17時00分 土・日・祝日は休み)
(<https://vsign.jp/okadai/2026/hotel>)

1 5 入試情報の開示

2026年度入試の入試情報開示を希望する方には、ホームページ掲載の『入試情報の開示について』により、2026年5月1日（金）～5月31日（日）の間に開示します。

（注1）入試情報の開示には、マイページ登録時の【メールアドレス・パスワード】が必要になります。
マイページ登録の際は、必ず次年度以降も使用できるメールアドレスを登録してください。

（注2）一部の教科（科目）でも受験しなかった者及び選考を辞退した者は、入試情報開示の対象となりません。

【問い合わせ先】 〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1
岡山大学学務部入試課（大学会館1階）
電話 (086)251-7192～7194
【URL】 <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/kaiji01.html>

麻疹（はしか）・インフルエンザ等に注意

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、発熱、咳、鼻水といった風邪症状の後に発しんと高熱が現れ、脳炎などを併発して重症化することもあります。非常に感染力が強く、予防には生後1歳以降に2回のワクチン接種が必要です。まだの場合は医療機関に相談の上、必要な回数のワクチン接種を受けてください。

インフルエンザも感染力が非常に強く、ワクチン接種は予防手段の一つです。

その他、風しん、水痘（水ぼうそう）、流行性耳下腺炎（ムンプス、おたふく風邪）もワクチン接種で予防可能な感染症であり、麻疹と同様に2回の接種が必要です。特に、入学後に病院等での実習が予定されている医・歯学部、薬学部薬学科、教育学部養護教諭養成課程を受験される方は、あらかじめ予防接種を受けて記録を保存しておいてください。

医療関係者一般に必要なとされているワクチン（特に、麻疹・風しん・水痘・流行性耳下腺炎）に関しては、医師により接種を控えるよう指示されている場合を除いて、積極的に接種してください。

以上のワクチン接種を終えられた方には、加えて髄膜炎菌ワクチンの接種をお勧めします。特に、寮や合宿など集団生活、コンタクトスポーツを予定されている方にはお勧めです。（※これらワクチン接種は全て自費となります。）

岡山大学を受験するに当たっては、手洗い・消毒にマスク着用の励行などの基本的な感染症対策に留意してください。

詐欺まがいの行為に注意

例年、岡山大学試験場及び岡山駅周辺において本学職員を装うなどして、受験者に『合否連絡をする』、『緊急時に自宅に連絡する』などと言葉巧みに近寄り、受験番号・氏名・住所・電話番号などを記入させ、現金を要求する行為が発生しています。

試験当日、本学職員が以上の行為をすることは一切ありません。

不審者を見たり、声をかけられたりしたら、本学職員（『岡山大学』の腕章着用）まで連絡してください。

16 岡山大学の教育における方針（アドミッション・ポリシー等）

岡山大学の教育における方針（アドミッション・ポリシー等）については、以下のURLをご確認ください。

岡山大学の教育における方針

【URL <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/education-policies.html>】

17 学生生活等

(1) 入学料及び授業料

区分	金額	備考
入学料	282,000 円 (予定額)	入学手続き時に納入となります。(12ページ参照)
授業料	前半期分〔4月～9月〕 267,900 円 (予定額) 後半期分〔10月～3月〕 267,900 円 (予定額) 年 額 535,800 円 (予定額)	① 入学時及び在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。 ② 2026年度前半期分の授業料の納入時期は、2026年5月になります。なお、納入方法の詳細は、入学手続き時に入学案内にてお知らせします。

その他入学時納付金

(学生教育研究災害傷害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料, 岡山大学校友会費, 岡山大学 Alumni (全学同窓会) 会費, 学部等同窓会費, 後援会費・振興会費)

学生生活の安全を保障するもの、また学生生活の質の向上のために、入学料とは別に、皆さんにご負担をお願いしている費用です。学生が、教育研究活動、課外活動等を行う上で様々な形で還元されるものであり、必要な経費です。入学料に合わせて一括納入いただくことができます。

その他入学時納付金の詳細は、岡山大学ホームページでご確認ください。

アドレス：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/nyugakukin.html>

学部名	学研災 ※	岡山大学 校友会費	岡山大学 Alumni(全 学同窓会) 会費	学部等同窓会費		後援会費等		合計
文学部	4,660	16,000	10,000	10,000	法文経学部 同窓会	0		40,660
教育学部	4,660	16,000	10,000	10,000	教育学部 同窓会	0		40,660
法学部	4,660	16,000	10,000	10,000	法文経学部 同窓会	20,000	岡山大学 法学会◆	60,660
経済学部	4,660	16,000	10,000	10,000	法文経学部 同窓会	10,000	岡山大学 経済学会◆	50,660
理学部	4,660	16,000	10,000	5,000	理学部 同窓会	20,000	岡山理学教 育振興会	55,660
医学部 医学科	7,800	24,000	10,000	11,000	鶴翔会	75,000	岡山大学医 学部後援会	127,800
医学部 保健学科 看護学専攻	5,370	16,000	10,000	8,000	ときわ会	50,000		89,370
医学部 保健学科 放射線技術科学専攻	5,370	16,000	10,000	5,000	ほおゆう	50,000		86,370
医学部 保健学科 検査技術科学専攻	5,370	16,000	10,000	5,000	あらたま会	50,000		86,370

学部名	学研災 ※	岡山大学 校友会費	岡山大学 Alumni(全 学同窓会) 会費	学部等同窓会費		後援会費等		合計
歯学部	7,800	24,000	10,000	6,000	歯学部 同窓会	60,000	岡山大学歯 学部後援会	107,800
薬学部 薬学科	6,840	24,000	10,000	5,000	薬友会	60,000	岡山大学薬 学振興会	105,840
薬学部 創薬科学科	4,660	16,000	10,000	5,000		40,000		75,660
工学部	4,660	16,000	10,000	10,000	工学部 同窓会	18,000	岡山工学教 育振興会◆	58,660
農学部	4,660	16,000	10,000	10,000	農学部 同窓会	0		40,660
グローバル・ディスカバリー・プログラム	4,660	16,000	10,000	0		0		30,660

金額は予定額です。改定が行われる場合があります。

※ 学研災は、「学生教育研究災害傷害保険料及び学研災付帯賠償責任保険料の合計」です。

「学研災付帯学生総合保険（略称：付帯学総）」は含まれておりません。

◆ 団体の都合により、入学手続きとは別にご案内いたします。

(2) 学費支援

① 高等教育の修学支援新制度(授業料等減免と給付型奨学金)

大学等における修学の支援に関する法律に基づく、学部学生（外国人留学生を除く）を対象とした修学支援制度で、授業料等減免と給付型奨学金の2つの支援が受けられるものです。

1) 進学する前年に高等学校等を通じて日本学生支援機構（JASSO）給付型奨学金に申請し、予約採用候補者となった方

入学手続き時に入学料・授業料減免申請を受け付けます。入学手続き時に入学料を納入する必要はありません。

2) 本学入学後に JASSO 給付型奨学金に申請予定の方

高等学校等で JASSO 給付型奨学金の申請ができなかった方は、入学後に給付型奨学金の申請と併せて、入学料及び授業料減免の申請が可能です。

※申請手続の詳細は、岡山大学ホームページ及び入学案内でご確認ください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syugakushien.html>

② 入学料の徴収猶予(大学独自制度)

経済的理由により入学料の納入期限までに納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、又は下記「ア又はイ」のいずれかに該当し、入学料の納入期限までに納入が困難であると認められる場合には、入学料の徴収猶予を申請することができます。（徴収猶予申請が認められた場合でも、納入すべき金額が免除されるわけではありません。）

ア 入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合

イ 入学する者もしくは学資負担者が大規模な災害や火災・風水害等の災害を受けた場合

※申請手続の詳細は、岡山大学ホームページ及び入学案内でご確認ください。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_a1.html

③ 激甚災害被災者に対する入学料及び授業料の免除（大学独自制度）

「令和6年能登半島地震」,「令和2年7月豪雨」,「平成30年7月豪雨」等の激甚災害により被災した方について、半壊以上の罹災証明書をお持ちである場合は、入学料及び授業料を免除する制度があります。

※条件については、岡山大学ホームページをご確認ください。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_al.html

④ 奨学金制度

1) 日本学生支援機構（JASSO）奨学金

人物・学業とも優秀であって、経済的理由により著しく修学困難と認められる場合は、本人の申請により選考の上、給付型奨学金（高等教育の修学支援新制度）及び貸与型奨学金の制度があります。

高等学校等を通じて JASSO 奨学金の「予約採用」に申し込みされなかった方は、本学入学後「在学採用」に申し込むことができます。

2) 各地方公共団体及び民間団体の奨学金

本学で取り扱っている奨学金には、日本学生支援機構の他に、民間団体の奨学金及び地方公共団体の奨学金があります。奨学団体によって、“応募資格” “申請方法” “月額” “給付・貸与の別” や “他の奨学金との併用の可否” “申請時期” 等が異なりますので、詳細については、岡山大学ホームページの「民間・地方公共団体の奨学金」で確認してください。

※奨学金関係の詳細は、岡山大学ホームページをご確認ください。

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_a2.html

⑤ 問い合わせ先（担当）

岡山大学学務部学生支援課（一般教育棟A棟2階）

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1

- 高等教育の修学支援新制度（授業料等減免と日本学生支援機構の給付型奨学金）に関すること

電話 086-251-7180

- 入学料徴収猶予及び激甚災害被災者の授業料等免除（大学独自制度）に関すること

電話 086-251-7211

- 日本学生支援機構の貸与型奨学金、各地方公共団体及び民間団体の奨学金に関すること

電話 086-251-7178

※受付時間は、8時30分から17時00分です。（ただし、土・日曜日及び祝日は、窓口業務は行っておりません。）

(3) 女子学生寮

① 女子学生寮の概要

定 員	在寮期間	寄 宿 料 等	所 在 地	そ の 他
108 人 2026 年度募集予定人 員は新入女子学生を 対象に約 30 人の予定	正規の修業年限	寄宿料 月額 4,300 円 (予定額) 共益費 月額 6,500 円 (予定額) その他光熱水料等は、別途各自負 担	〒700-0084 岡山市北区津島 桑の木町 6-2 電話 086-251-7202	鉄筋コンクリート 5 階建 (昭和 56 年建築) 居室は個室 (ベッド, 机, 椅子, ロッカー等備え付け)

女子学生寮のみで男子学生寮はありません。外国籍の方は、日本国内に生計を持つ者の女子のみ応募できます。なお、金額は変更になることがあります。

② 入寮募集要項

女子学生寮への入寮希望者は、入寮募集要項を 2025 年 12 月 25 日 (木) 以降に、岡山大学ホームページ (https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_d3.html) から、ダウンロードしてください。

③ 申請期間

受験する入学試験区分に応じて、それぞれの申請期間内に申請書類を提出してください。

なお、下記 1)2) 入学試験区分の両方を受験する場合は、上記 ② 入寮募集要項にて詳細を確認してください。

1) 学校推薦型選抜、総合型選抜、国際バカロレア選抜 等

2026 年 1 月 23 日 (金) から 1 月 29 日 (木) 17 時 (必着)

2) 一般選抜 (前期日程)

2026 年 2 月 10 日 (火) から 2 月 17 日 (火) 17 時 (必着)

【問い合わせ先 (担当)】

岡山大学学務部学生支援課 (一般教育棟 A 棟 2 階)

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1 電話 086-251-7185

※受付時間は 8 時 30 分から 17 時 00 分です。(ただし、土・日曜日及び祝日は、窓口業務を行っておりません。)

(4) 学生マンション・アパート等の紹介

学生マンション・アパート等を希望する学生に対しては、岡山大学生生活協同組合で紹介を行っています。詳細については、次にお問い合わせください。

連絡先 岡山大学生生活協同組合 電話 0120-633-006 (9 時 30 分～17 時 30 分 12 月～3 月は無休)

E-mail sumai@okadai.coop 受験生の合格前予約・新入生のためのお部屋探し

(<https://vsign.jp/okadai/2026/rent>)

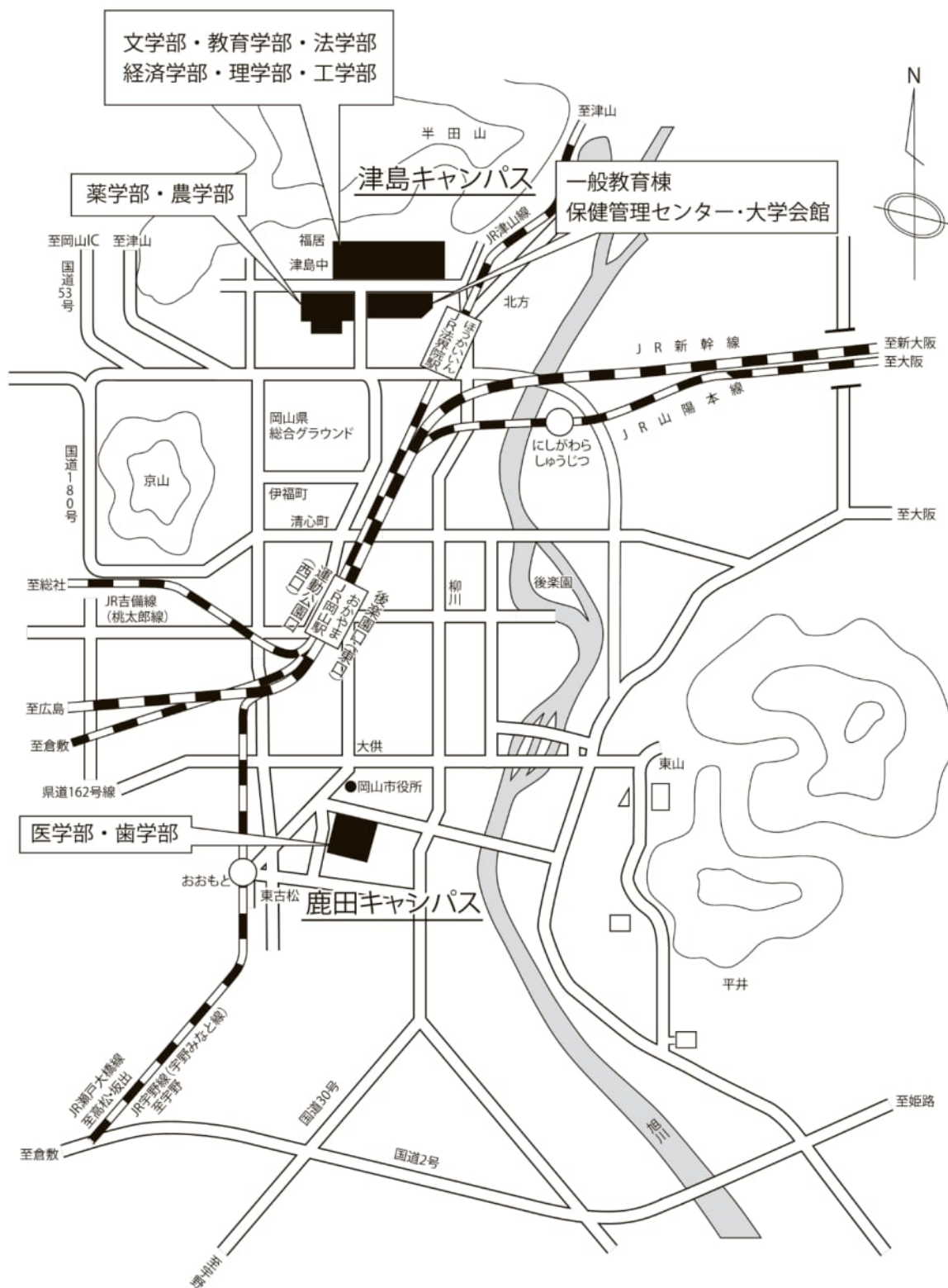
(5) 福利厚生施設

津島キャンパスには、マスカットユニオン (北福利施設)、ピーチユニオン (南福利施設) 及びピオーネユニオン (東福利施設) があり、施設内にブックストア、コンビニエンスショップ、食堂等があります。

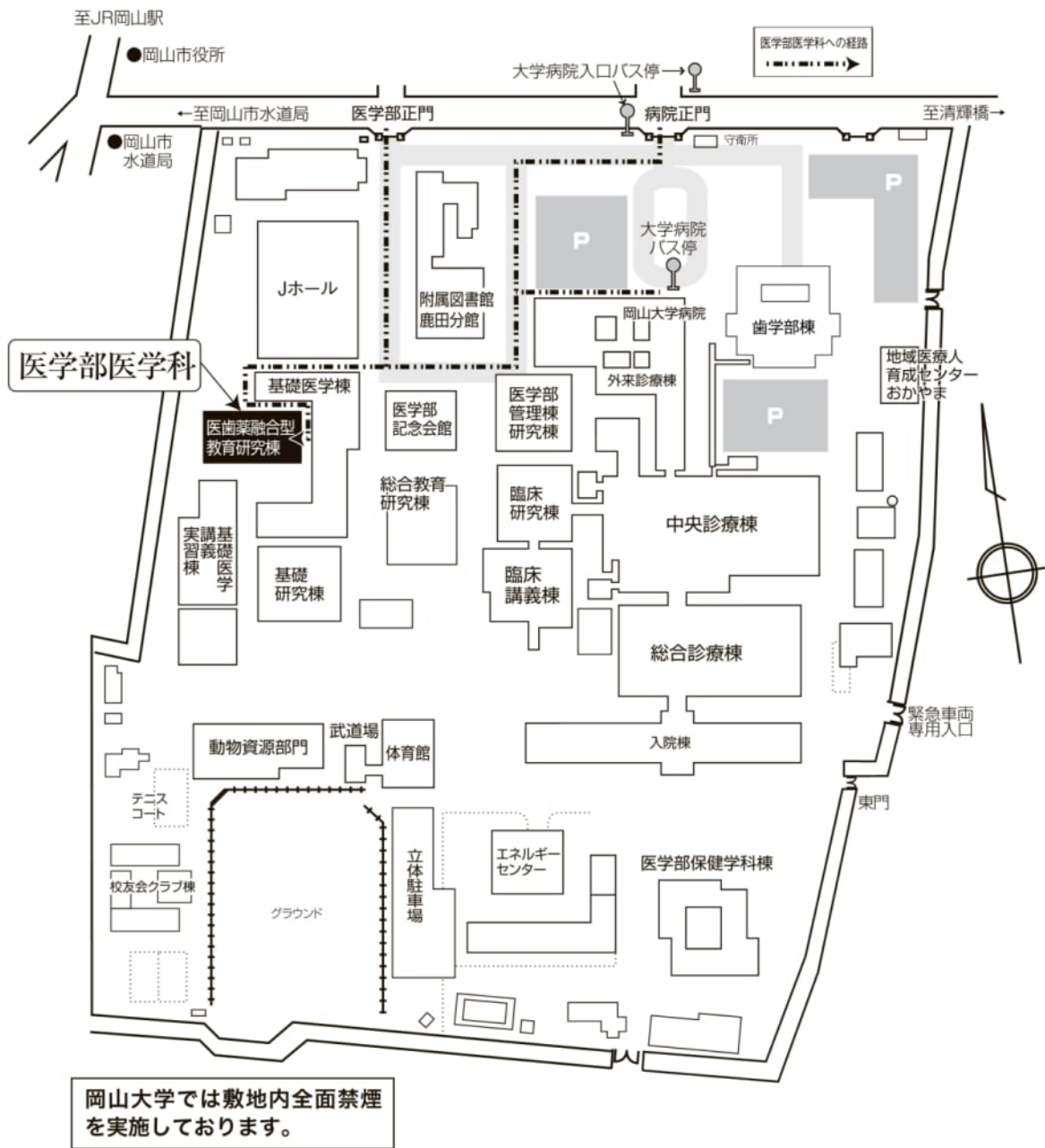
また、鹿田キャンパスには、医学部記念会館にコンビニエンスショップ及び食堂等があります。

18 大学案内図等

1 キャンパス案内図



2 鹿田キャンパス試験場配置図



<試験場への経路>

- ① JR岡山駅後楽園口（東口）バスターミナル4番のりばから岡電バス【2H】系統「大学病院」行きに乗車、「大学病院（構内）」で下車、又は【12】系統「岡南営業所」行きに乗車、「大学病院入口」で下車（バス所要時間約15分）
- ② JR岡山駅後楽園口（東口）バスターミナル3番のりばから岡電バス【22】系統「岡山ろうさい病院」行き、【62】系統「岡南飛行場」行きのいずれかに乗車、「大学病院入口」で下車（バス所要時間約15分）
- ③ JR岡山駅後楽園口（東口）バスターミナル2番のりばから岡電バス【52】系統「大東」行きに乗車、「大学病院入口」で下車（バス所要時間約15分）

※ 記載のバス所要時間は通常の交通状況での見込み時間です。試験当日は交通渋滞が予想されます。



学 章

岡山大学

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

- ・地域において医師に求められる役割や責務について理解する。
- ・医学生としての使命を自覚しこれからの学習の動機づけができる。

■ 授業計画

- 【日程】
 地域医療総論・実習説明(全員出席)：5月20日(火) 7 - 8 限
 オリエンテーション・事前講義(実習参加者)：7月1日(火) 7 - 8 限
 医療面接実習(実習参加者)：7月9日(水) 5 - 8 限
 実習：9月1日(月)～5日(金)、9月8日(月)～12日(金)
 一般枠は1週間何れかの期間を選択。地域枠は2週間を必修とする。
- 【実習施設・受入枠】
 詳細はMoodleを参照のこと(岡大IDでログイン)
 コース名：[2025063402] 早期地域医療体験実習]
- 【実習意向調査】
 受付期間：5月20日(火)～5月23日(金) 12:00
 受付方法：Moodle内の応募フォームより実習参加希望の有無を1年生全員送信してください。
 * 実習希望者は7月1日オリエンテーション・事前講義及び7月9日医療面接実習、地域医療シンポジウム(準備含む)に参加必須
- 【実習先施設の決定】
 受付期間：参加者へ案内します
 受付方法：Moodle内の応募フォームより希望実習先を選択して送信してください。
 実習施設の希望が重なった場合は6月10日2限に調整会を行います。
- 【注意事項】
 実習参加者は地域医療シンポジウム、予行及び当日リハ、報告会すべての参加を必須とします。
 報告会打合せ：9月23日(水)5-6限、
 報告会準備：9月30日(火)5-8限、10月7日(火)5-8限、22日(水)5-8限
 当日リハーサル：10月28日(火)1-4限
 地域医療報告会(学年全員出席)：10月28日(火)5-8限

■ 授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

- ・実習前には各自で目標を設定し、実習施設との連絡や実習の準備も学生自身で行うこと。
- ・実習期間中は日々の実習成果をポートフォリオで毎日提出し、担当教官よりフィードバックを受けること。
- ・実習終了後にはレポートを作成し、提出すること。
- ・ポートフォリオ及びレポートは成績評価へ反映する(成績評価の項参照)。

■ 授業形態・学習方法

(1) 授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

10%：90%

(2) 授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3) 授業形態-実践型科目タイプ

Aタイプ(社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い)

(4) 授業形態-履修者への連絡事項

各実習施設にて実習を行う。

使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

1～2回程度

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

ほぼ毎回

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

ほぼ毎回

(2)履修者への連絡事項

資料配付およびポートフォリオ・レポートなどの提出は、すべてMoodle(全学共通のオンライン学習管理システム)で行う。利用に際し情報統括センターより配付される岡大IDが必要なため、事前に各自で確認しておくこと。実習施設の詳細やプログラム内容に関しては、Moodle上の施設案内を参照すること。

教科書

備考

参考書

参考書1	ISBN	4260008056	
	書名	地域医療テキスト	
	著者名	梶井英治 [ほか] 編集 ; 中村伸一 [ほか] 執筆	
	出版社	医学書院	出版年
参考書2	ISBN	4787826689	
	書名	地域医療学入門：改訂コアカリ準拠	
	著者名	岡崎仁昭, 松本正俊責任編集	
	出版社	診断と治療社	出版年
参考書3	ISBN	4815034974	
	書名	地域医療学ハンドブック：君たちは地域医療をどう学ぶか	
	著者名	鳥取大学医学部地域医療学講座編	
	出版社	デザインエッグ	出版年

備考

成績評価

事前講義・医療面接実習5%、実習の出席・ポートフォリオ60%、レポート20%、および実習施設の指導医からの評価15%を総合して評価する。実習だけでなく、事前講義や医療面接実習、報告会等の遅刻、早退、出席態度により、減点及び加点を行う。

受講要件

地域枠学生は 及び で2週2施設の実習を原則とする。

一般学生は必修ではないが1週1施設もしくは2週2施設の実習が可能である。一般学生の積極的な参加を歓迎する。

教職課程該当科目

この項目は当該科目には該当しない

JABEEとの関連

この項目は当該科目には該当しない

持続可能な開発目標(SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

地域医療の経験のある医師、スタッフ

備考/履修上の注意

5月20日(火)7-8限の「地域医療総論」及び、10月28日(火)5-8限の「地域医療実習報告会(地域医療シンポジウム)」は実習参加にかかわらず1年生全員が出席すること。

(実習参加者)

1週目:実習期間:9月1日(月)～5日(金)

・5月20日(火)7-8限の地域医療総論・実習説明、7月1日(火)7-8限のオリエンテーション・事前講義、7月9日(水)5-8限の医療面接講義・実習に必ず出席すること。

・主体となって報告会(地域医療シンポジウム)を開催すること。

医学を志した初心の冷めやらないうちに地域の医療現場を学を志した初心の冷めやらないうちに地域の医療現場を体験することは、医学への熱い思いを抽象から具体へ、観念から実体へと転換させる第一歩である。たとえまだ医学的な知識を僅かしか持ち合わせてなくとも、実際の現場へ出てみることで、将来のゴールのひとつである「本当に必要とされる医療」の姿を知ることが出来るだろう。さらに、患者さんも含めた地域の方々と交流し、医療的な問題のみならず「人間が生きることの本質」についても深く考える機会となるだろう。

「門出の春に心を耕す」こと、つまり基礎医学・臨床医学を学ぶに先だって素養を培うことが本実習のエッセンスである。参加者が各々の学びを得て、それを糧に今後より能動的に医学を修め大きく成長することを期待する。

■ 学習成果(LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医学・医療を究めるために、自ら目標を設定し、達成にむけて取り組むことができる。	生涯学習力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
早期地域医療体験実習 Early Exposure: Introduction to Primary Care2		
講義番号 063403	科目区分 専門教育科目	学期 特別
ナンバリングコード NDCA2MEMZ1002N	教室	
必修・選択の別	メディア授業科目 -	
単位数 1.7	曜日・時限 その他	
担当教員(ローマ字表記) 佐藤 勝 [SATO Masaru], 小川 弘子 [OGAWA Hiroko], 山下 茉奈美 [YAMASHITA Manami], 野島 剛 [NOJIMA Tsuyoshi], 福島 伸乃介 [FUKUSHIMA Shinnosuke], 本多 寛之 [HONDA Hiroyuki]		

持続可能な開発目標 (SDGs)



対象学生

医(医)

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

所属 地域医療人材育成講座
 電話 086-235-6963
 メール cbme@okayama-u.ac.jp

オフィスアワー

平日 9:00-17:00
 原則、来訪等の前にメールにてアポイントを取ること。

学部・研究科独自の項目

A-4-1) コミュニケーション
 A-4-2) 患者と医師の関係
 A-5-1) 患者中心のチーム医療
 A-6-3) 医療従事者の健康と安全
 A-7-1) 地域医療への貢献
 B-1-7) 地域医療・地域保健
 B-4-1) 医師に求められる社会性
 F-2-15) 在宅医療と介護

使用言語

日本語

授業の概要

岡山県および近隣の地域医療施設で、1施設につき5日間の実習を行う。実習では単なる診療の見学だけでなく、救急車への同乗、介護体験や地域の福祉関係者との面談など、施設ごとの特徴を生かした多様なプログラムが用意されている。

到達目標

- ・地域の医療現場を実際に体験する。
- ・医療従事者のみならず介護福祉関係者や地域住民とも交流を図る。

- ・地域において医師に求められる役割や責務について理解する。
- ・医学生としての使命を自覚しこれからの学習の動機づけができる。

■ 授業計画

「2025063402 早期地域医療体験実習I」を参照のこと

■ 授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

- ・実習前には各自で目標を設定し、実習施設との連絡や実習の準備も学生自身で行うこと。
- ・実習期間中は日々の実習成果をポートフォリオで毎日提出し、担当教官よりフィードバックを受けること。
- ・実習終了後にはレポートを作成し、提出すること。
- ・ポートフォリオ及びレポートは成績評価へ反映する(成績評価の項参照)。

■ 授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

10% : 90%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Aタイプ(社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

各実習施設にて実習を行う。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

1～2回程度

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

ほぼ毎回

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

ほぼ毎回

(2)履修者への連絡事項

資料配付およびポートフォリオ・レポートなどの提出は、すべてMoodle(全学共通のオンライン学習管理システム)で行う。利用に際し情報統括センターより配付される岡大IDが必要なため、事前に各自で確認しておくこと。実習施設の詳細やプログラム内容に関しては、Moodle上の施設案内を参照すること。

■ 教科書

備考

■ 参考書

参考書1	ISBN	4260008056	
	書名	地域医療テキスト	
	著者名	梶井英治 [ほか] 編集 ; 中村伸一 [ほか] 執筆	
	出版社	医学書院	出版年
	ISBN	4787826689	2009

参考書2	書名	地域医療学入門：改訂コアカリ準拠		
	著者名	岡崎仁昭, 松本正俊責任編集		
	出版社	診断と治療社	出版年	2024
参考書3	ISBN	4815034974		
	書名	地域医療学ハンドブック：君たちは地域医療をどう学ぶか		
	著者名	鳥取大学医学部地域医療学講座編		
	出版社	デザインエッグ	出版年	2022

備考

成績評価

「2025063402 早期地域医療体験実習!」を参照のこと。

受講要件

「2025063402 早期地域医療体験実習!」を参照のこと

教職課程該当科目

この項目は当該科目には該当しない

JABEEとの関連

この項目は当該科目には該当しない

持続可能な開発目標 (SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

地域医療の経験のある医師、スタッフ

備考/履修上の注意

「2025063402 早期地域医療体験実習!」を参照のこと

学習成果 (LCOs)

「学修成果 (LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医学・医療を究めるために、自ら目標を設定し、達成にむけて取り組むことができる。	生涯学習力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025 年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
地域医療体験実習! Introduction to Primary Care 1		
講義番号	科目区分	学期
063137	専門教育科目	特別
ナンバリングコード	教室	
NDEZ2MEMZ3001N		
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
0.6	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
佐藤 勝 [SATO Masaru], 小川 弘子 [OGAWA Hiroko], 野島 剛 [NOJIMA Tsuyoshi], 山下 茉奈美 [YAMASHITA Manami], 本多 寛之 [HONDA Hiroyuki], 福島 伸乃介 [FUKUSHIMA Shinnosuke]		

持続可能な開発目標 (SDGs)



対象学生

医(医)

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

所属 地域医療人材育成講座

電話 086-235-6963

メール cbme@okayama-u.ac.jp

オフィスアワー

平日 9:00-17:00

原則、来訪等の前にメールにてアポイントを取ること。

学部・研究科独自の項目

- A-4-1) コミュニケーション
- A-4-2) 患者と医師の関係
- A-5-1) 患者中心のチーム医療
- A-6-3) 医療従事者の健康と安全
- A-7-1) 地域医療への貢献
- B-1-7) 地域医療・地域保健
- B-4-1) 医師に求められる社会性
- F-2-15) 在宅医療と介護

使用言語

日本語

授業の概要

岡山県および近隣の地域医療施設で、5日間の実習を行う。実習では単なる診療の見学だけでなく、救急車への同乗、介護体験や地域の福祉関係者との面談など、施設ごとの特徴を生かした多様なプログラムが用意されている。実習施設の医療チームの一員として、可能な範囲で積極的に参加することが求められる。

到達目標

- ・地域でのプライマリ・ケアの実際と、それに関わる医師や医療機関に求められる役割や責務を理解する。
- ・保健・福祉・介護関係者や地域住民とも対話を図り、多職種連携による地域包括ケアを理解する。

- ・プライマリ・ケアに必要な医学知識の概要を理解し、臨床医学を学ぶ動機づけと方向性の再確認をする。
- ・患者の訴えや診療上の障壁への対処に、問題解決型思考法がどう活用されているかを理解する。

■ 授業計画

事前講義:2025/4/22 7-8限

地域医療機関での実習:2025/6/9-13

実習報告会:2026/1/27 5-7限

■ 授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

- ・実習前には各自で目標を設定し、実習施設との連絡や実習の準備も学生自身で行うこと。
- ・実習期間中は日々の実習成果をポートフォリオで毎日提出し、担当教官よりフィードバックを受けること。
- ・実習終了後にはレポートを作成し、提出すること。
- ・ポートフォリオ及びレポートは成績評価に反映する(成績評価の項参照)。

■ 授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

10% : 90%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Aタイプ(社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

各実習施設にて実習を行う。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

1～2回程度

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

ほぼ毎回

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

ほぼ毎回

(2)履修者への連絡事項

資料配付およびポートフォリオ・レポートなどの提出は、すべてMoodle(全学共通のオンライン学習管理システム)で行う。利用に際し情報統括センターより配付される岡大IDが必要なため、事前に各自で確認しておくこと。実習施設の詳細やプログラム内容に関しては、Moodle上の施設案内を参照すること。

■ 教科書

備考

■ 参考書

参考書1	ISBN	4260008056
	書名	地域医療テキスト
	著者名	梶井英治 [ほか] 編集 ; 中村伸一 [ほか] 執筆

	出版社	医学書院	出版年	2009
参考書2	ISBN	4787826689		
	書名	地域医療学入門：改訂コアカリ準拠		
	著者名	岡崎仁昭, 松本正俊責任編集		
	出版社	診断と治療社	出版年	2024
参考書3	ISBN	4815034974		
	書名	地域医療学ハンドブック：君たちは地域医療をどう学ぶか		
	著者名	鳥取大学医学部地域医療学講座編		
	出版社	デザインエッグ	出版年	2022

備考

成績評価

事前講義3%、報告会出欠2%、実習の出席・ポートフォリオ60%、レポート20%、および実習施設の指導医からの評価15%を総合して評価する。その他、事前講義、実習、報告会を通して、遅刻や態度不良に対し、減点を行う。

実習参加日数が2/3に満たない場合は、補講として再実習を行う。

受講要件

本実習は3年次に3期に分けて行う地域医療体験実習の（1期）である。地域枠学生は3期のうち2回の参加を、一般学生は1回の参加を必修とする。（参加する時期の選択・決定方法については教務より別途連絡する）

教職課程該当科目

この項目は当該科目には該当しない

JABEEとの関連

この項目は当該科目には該当しない

持続可能な開発目標 (SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

地域医療の経験のある医師、スタッフ

備考/履修上の注意

臨床医学への興味を深め、臨床医の考え方や総合的な視野を知り、自身の将来像に思いを巡らす絶好の機会である。各自が目標を定め主体的に取り組むことで、臨床医学の入り口としてふさわしい実習となるだろう。また、1年次の早期地域医療実習を経験した学生には、自らの成長を振り返り更なる飛躍へと繋がるだろう。地域の医療現場に飛び込んで、多くの発見と驚きを得ることを期待する。

学習成果 (LCOs)

「学修成果 (LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医学的視点から、人々が健康に過ごせる社会・環境づくりに貢献できる。	市民としての社会的責任	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
地域・国際社会の一員として、医療を通してコミュニティに貢献できる。	市民としての社会的責任	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025 年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
地域医療体験実習 Introduction to primary care 2		
講義番号	科目区分	学期
063138	専門教育科目	特別
ナンバリングコード	教室	
NDEZ2MEMZ3002N		
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
0.6	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
佐藤 勝 [SATO Masaru], 小川 弘子 [OGAWA Hiroko], 野島 剛 [NOJIMA Tsuyoshi], 山下 茉奈美 [YAMASHITA Manami], 本多 寛之 [HONDA Hiroyuki], 福島 伸乃介 [FUKUSHIMA Shinnosuke]		

持続可能な開発目標 (SDGs)



対象学生

医(医)

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

所属 地域医療人材育成講座

電話 086-235-6963

メール cbme@okayama-u.ac.jp

オフィスアワー

平日 9:00-17:00

原則、来訪等の前にメールにてアポイントを取ること。

学部・研究科独自の項目

- A-4-1) コミュニケーション
- A-4-2) 患者と医師の関係
- A-5-1) 患者中心のチーム医療
- A-6-3) 医療従事者の健康と安全
- A-7-1) 地域医療への貢献
- B-1-7) 地域医療・地域保健
- B-4-1) 医師に求められる社会性
- F-2-15) 在宅医療と介護

使用言語

日本語

授業の概要

岡山県および近隣の地域医療施設で、5日間の実習を行う。実習では単なる診療の見学だけでなく、救急車への同乗、介護体験や地域の福祉関係者との面談など、施設ごとの特徴を生かした多様なプログラムが用意されている。実習施設の医療チームの一員として、可能な範囲で積極的に参加することが求められる。

到達目標

- ・地域でのプライマリ・ケアの実際と、それに関わる医師や医療機関に求められる役割や責務を理解する。
- ・保健・福祉・介護関係者や地域住民とも対話を図り、多職種連携による地域包括ケアを理解する。

- ・プライマリ・ケアに必要な医学知識の概要を理解し、臨床医学を学ぶ動機づけと方向性の再確認をする。
- ・患者の訴えや診療上の障壁への対処に、問題解決型思考法がどう活用されているかを理解する。

■ 授業計画

事前講義:2025/5/27 3-4限
 地域医療機関での実習:2025/7/28-8/1
 実習報告会:2026/1/27 5-7限

■ 授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

- ・実習前には各自で目標を設定し、実習施設との連絡や実習の準備も学生自身で行うこと。
- ・実習期間中は日々の実習成果をポートフォリオで毎日提出し、担当教官よりフィードバックを受けること。
- ・実習終了後にはレポートを作成し、提出すること。
- ・ポートフォリオ及びレポートは成績評価に反映する(成績評価の項参照)。

■ 授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

10% : 90%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Aタイプ(社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

各実習施設にて実習を行う。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのライド、CD、DVDなど)

1～2回程度

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

ほぼ毎回

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

ほぼ毎回

(2)履修者への連絡事項

資料配付およびポートフォリオ・レポートなどの提出は、すべてMoodle(全学共通のオンライン学習管理システム)で行う。利用に際し情報統括センターより配付される岡大IDが必要なため、事前に各自で確認しておくこと。実習施設の詳細やプログラム内容に関しては、Moodle上の施設案内を参照すること。

■ 教科書

備考

■ 参考書

参考書1	ISBN	4260008056
	書名	地域医療テキスト
	著者名	梶井英治 [ほか] 編集 ; 中村伸一 [ほか] 執筆

	出版社	医学書院	出版年	2009
参考書2	ISBN	4787826689		
	書名	地域医療学入門：改訂コアカリ準拠		
	著者名	岡崎仁昭, 松本正俊責任編集		
	出版社	診断と治療社	出版年	2024
参考書3	ISBN	4815034974		
	書名	地域医療学ハンドブック：君たちは地域医療をどう学ぶか		
	著者名	鳥取大学医学部地域医療学講座編		
	出版社	デザインエッグ	出版年	2022

備考

成績評価

事前講義3%、報告会出欠2%、実習の出席・ポートフォリオ60%、レポート20%、および実習施設の指導医からの評価15%を総合して評価する。その他、事前講義、実習、報告会を通して、遅刻や態度不良に対し、減点を行う。

実習参加日数が2/3に満たない場合は、補講として再実習を行う。

受講要件

本実習は3年次に3期に分けて行う地域医療体験実習の（1期）である。地域卒学生は3期のうち2回の参加を、一般学生は1回の参加を必修とする。（参加する時期の選択・決定方法については教務より別途連絡する）

教職課程該当科目

この項目は当該科目には該当しない

JABEEとの関連

この項目は当該科目には該当しない

持続可能な開発目標 (SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

地域医療の経験のある医師、スタッフ

備考/履修上の注意

臨床医学への興味を深め、臨床医の考え方や総合的な視野を知り、自身の将来像に思いを巡らす絶好の機会である。各自が目標を定め主体的に取り組むことで、臨床医学の入り口としてふさわしい実習となるだろう。また、1年次の早期地域医療実習を経験した学生には、自らの成長を振り返り更なる飛躍へと繋がるだろう。地域の医療現場に飛び込んで、多くの発見と驚きを得ることを期待する。

学習成果 (LCOs)

「学修成果 (LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医学的視点から、人々が健康に過ごせる社会・環境づくりに貢献できる。	市民としての社会的責任	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
地域・国際社会の一員として、医療を通してコミュニティに貢献できる。	市民としての社会的責任	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025 年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
地域医療体験実習 Introduction to primary care 3		
講義番号	科目区分	学期
063139	専門教育科目	特別
ナンバリングコード	教室	
NDEZ2MEMZ3003N		
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
0.6	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
佐藤 勝 [SATO Masaru], 小川 弘子 [OGAWA Hiroko], 野島 剛 [NOJIMA Tsuyoshi], 福島 伸乃介 [FUKUSHIMA Shinnosuke], 本多 寛之 [HONDA Hiroyuki], 山下 茉奈美 [YAMASHITA Manami]		

持続可能な開発目標 (SDGs)



対象学生

医(医)

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

所属 地域医療人材育成講座
 電話 086-235-6963
 メール cbme@okayama-u.ac.jp

オフィスアワー

平日 9:00-17:00
 原則、来訪等の前にメールにてアポイントを取ること。

学部・研究科独自の項目

A-4-1) コミュニケーション
 A-4-2) 患者と医師の関係
 A-5-1) 患者中心のチーム医療
 A-6-3) 医療従事者の健康と安全
 A-7-1) 地域医療への貢献
 B-1-7) 地域医療・地域保健
 B-4-1) 医師に求められる社会性
 F-2-15) 在宅医療と介護

使用言語

日本語

授業の概要

岡山県および近隣の地域医療施設で、5日間の実習を行う。実習では単なる診療の見学だけでなく、救急車への同乗、介護体験や地域の福祉関係者との面談など、施設ごとの特徴を生かした多様なプログラムが用意されている。実習施設の医療チームの一員として、可能な範囲で積極的に参加することが求められる。

到達目標

・地域でのプライマリ・ケアの実際と、それに関わる医師や医療機関に求められる役割や責務を理解する。
 ・保健・福祉・介護関係者や地域住民とも対話を図り、多職種連携による地域包括ケアを理解する。

- ・プライマリ・ケアに必要な医学知識の概要を理解し、臨床医学を学ぶ動機づけと方向性の再確認をする。
- ・患者の訴えや診療上の障壁への対処に、問題解決型思考法がどう活用されているかを理解する。

■ 授業計画

事前講義:2025/7/22 5-6限

地域医療機関での実習:2025/9/29-10/3

実習報告会:2026/1/27 5-7限

■ 授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

- ・実習前には各自で目標を設定し、実習施設との連絡や実習の準備も学生自身で行うこと。
- ・実習期間中は日々の実習成果をポートフォリオで毎日提出し、担当教官よりフィードバックを受けること。
- ・実習終了後にはレポートを作成し、提出すること。
- ・ポートフォリオ及びレポートは成績評価に反映する(成績評価の項参照)。

■ 授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

10% : 90%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Aタイプ(社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

各実習施設にて実習を行う。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのライド、CD、DVDなど)

1～2回程度

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

ほぼ毎回

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

ほぼ毎回

(2)履修者への連絡事項

資料配付およびポートフォリオ・レポートなどの提出は、すべてMoodle(全学共通のオンライン学習管理システム)で行う。利用に際し情報統括センターより配付される岡大IDが必要なため、事前に各自で確認しておくこと。実習施設の詳細やプログラム内容に関しては、Moodle上の施設案内を参照すること。

■ 教科書

備考

■ 参考書

参考書1	ISBN	4260008056
	書名	地域医療テキスト
	著者名	梶井英治 [ほか] 編集 ; 中村伸一 [ほか] 執筆

	出版社	医学書院	出版年	2009
参考書2	ISBN	4787826689		
	書名	地域医療学入門：改訂コアカリ準拠		
	著者名	岡崎仁昭, 松本正俊責任編集		
	出版社	診断と治療社	出版年	2024
参考書3	ISBN	4815034974		
	書名	地域医療学ハンドブック：君たちは地域医療をどう学ぶか		
	著者名	鳥取大学医学部地域医療学講座編		
	出版社	デザインエッグ	出版年	2022

備考

成績評価

事前講義3%、報告会出欠2%、実習の出席・ポートフォリオ60%、レポート20%、および実習施設の指導医からの評価15%を総合して評価する。その他、事前講義、実習、報告会を通して、遅刻や態度不良に対し、減点を行う。

実習参加日数が2/3に満たない場合は、補講として再実習を行う。

受講要件

本実習は3年次に3期に分けて行う地域医療体験実習の（1期）である。地域枠学生は3期のうち2回の参加を、一般学生は1回の参加を必修とする。（参加する時期の選択・決定方法については教務より別途連絡する）

教職課程該当科目

この項目は当該科目には該当しない

JABEEとの関連

この項目は当該科目には該当しない

持続可能な開発目標 (SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

地域医療の経験のある医師、スタッフ

備考/履修上の注意

臨床医学への興味を深め、臨床医の考え方や総合的な視野を知り、自身の将来像に思いを巡らす絶好の機会である。各自が目標を定め主体的に取り組むことで、臨床医学の入り口としてふさわしい実習となるだろう。また、1年次の早期地域医療実習を経験した学生には、自らの成長を振り返り更なる飛躍へと繋がるだろう。地域の医療現場に飛び込んで、多くの発見と驚きを得ることを期待する。

学習成果 (LCOs)

「学修成果 (LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
医学的視点から、人々が健康に過ごせる社会・環境づくりに貢献できる。	市民としての社会的責任	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価
地域・国際社会の一員として、医療を通してコミュニティに貢献できる。	市民としての社会的責任	ポートフォリオ、レポート、指導医やスタッフからの評価

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

研修病院・施設名： 哲西町診療所 2週間コース					
診療科名：					
1週目		2週目			
時間	9：00～12：00	13：00～17：00	時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	朝礼 実習前アンケート記入 施設案内・概要説明（きらめき広場哲西、診療所など） 血圧測定 待合室で血圧測定・患者と会話 薬局業務（調剤）・受付業務・レセプト業務 X-P見学・CT見学	元町長（NPO事務局長） 特養施設長 ケアマネージャー 福祉施設案内 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ } 講義	月	外来診療実践	地区ミニデイサービス健康講座 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ 診療カルテ振り返り
火	待合室で血圧測定・患者と会話 新見哲西支局福祉担当職員 NPOきらめき広場職員 } 講義	哲西町内めぐり（地域視察）（鯉が窪温泉、牧水公園など名所） へき地医療についてミニレクチャー（指導医より） 診療所内カンファレンス・X-Pカンファレンス 事務職員より講義（診療所探検隊の意義）	火	産業医（工場巡視） 小学校訪問（授業参観、校長と会話）	リハビリ見学 診療所探検隊（健康まつり）再現 こどもの地域包括ケアについて講義（指導医より） 事務職員より診療所のやり甲斐の講義 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ 診療カルテ振り返り
水	GIF見学・外来診察 心音聴取・検査室業務（血液検査、心電図、呼吸機能など） CT見学 往診	昼食時 取り上げられた特集 TV、ラジオ視聴 認知症カフェ参加 訪問診療 見学 診療カルテ振り返り 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ・CTカンファ	水	地域視察（名所）（自然） 外来診療実践	訪問診療 看護師よりルーラルナーシングの講義 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ 診療カルテ振り返り
木	Echo見学・実践 新見哲西支局長 講義 外来診療実践 中学校参観 消防署哲西分署見学	CF 見学・訪問診療 認定子ども園見学参観 地域包括ケア、医療を中心としたまちづくり、最期まで診ること、一次医療の重要性などについての講義（指導医より） 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	木	外来診療実践 Echo見学・実践	訪問診療 保健医療福祉関係者連絡会議参加 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ 診療カルテ振り返り
金	外来診察・実践 デイサービス実習・利用者との交流、介助	新見市長・新見市副市長と会話 CT・UCG・甲状腺Echo・頸動脈Echo 見学 診療所内カンファレンス 診療カルテ振り返り X-Pカンファ・内視鏡カンファ	金	外来診察実践 Echo見学・実践 GIF見学	住民の講義と懇談（自宅で2人の母を看取り） CF・UCG 見学 振り返り・実習後アンケート エールを送る会 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ 診療カルテ振り返り

診療科目・施設名： 近畿府診療所 長期コース（6週間）		診療科目名：		2週目		3週目		4週目		5週目		6週目		
時間	9:00-12:00	13:00-17:00	時間	9:00-12:00	13:00-17:00	時間	9:00-12:00	13:00-17:00	時間	9:00-12:00	13:00-17:00	時間	9:00-12:00	13:00-17:00
月	実習前アンケート記入 新入生説明（PTA会長挨拶、指導教員紹介） 施設案内 科全体で法廷見学・巻上と会議 臨床実習（医師）、実習準備（レポート準備） X-P見学・CT見学	各科長（NP-C事務局長） 特長施設長 ケアマネージャー 福祉施設案内 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ	月	外来診療実践 G I F	C T・C T 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	月	外来診療実践 G I F	C T・C T 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	月	外来診療実践 G I F	C T・C T 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	月	外来診療実践 G I F	C T・C T 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り
火	特別看護士法廷見学・巻上と会議 新入生説明（PTA会長挨拶、指導教員紹介） 施設案内 科全体で法廷見学・巻上と会議 臨床実習（医師）、実習準備（レポート準備） X-P見学・CT見学	各科長（NP-C事務局長） 特長施設長 ケアマネージャー 福祉施設案内 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ	火	外来診療実践	特別看護士人ホーム診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	火	外来診療実践	特別看護士人ホーム診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	火	外来診療実践	特別看護士人ホーム診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	火	外来診療実践	特別看護士人ホーム診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り
水	CT見学・外来診療 CT見学 日誌	実習前 取り上げの科と施設、TV、ソフト視聴 認知症カフェ参加 訪問診療 見学 診療カルテ振り返り 診療所内カンファレンス X-Pカンファ・内視鏡カンファ・CTカンファ	水	外来診療実践 G I F	訪問診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	水	外来診療実践 G I F	訪問診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	水	外来診療実践 G I F	訪問診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	水	外来診療実践 G I F	訪問診療 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り
木	ICDの見学・実践 新入生西支局長 講義 外来診療実践 科全体会議 臨床実習 看護士分習見学	CT・見学・訪問診療 認定子ども園見学参加 研修実習、研修センター（LCC）見学 ICD見学 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	木	外来診療実践 E c h o実践	訪問診療 予防接種 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	木	外来診療実践 E c h o実践	訪問診療 予防接種 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	木	外来診療実践 E c h o実践	訪問診療 予防接種 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	木	外来診療実践 E c h o実践	訪問診療 予防接種 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り
金	外来診療・実践 フィードバック実習・利用者の交流、巻上	科全体会議・巻上（医師）科長と会議 CT・UCG、甲状腺Echo・頸動脈Echo 見学 診療所内カンファレンス 診療カルテ振り返り X-Pカンファ・内視鏡カンファ	金	外来診療実践 X-P・CT	ICDの実践 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	金	外来診療実践 X-P・CT	ICDの実践 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	金	外来診療実践 X-P・CT	ICDの実践 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り	金	外来診療実践 X-P・CT	ICDの実践 診療所内カンファレンス 内視鏡カンファ・X-Pカンファ 診療カルテ振り返り

研修病院・施設名赤穂中央病院		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	集合 朝カンファレンス（8：30～9：00） オリエンテーション 外来診療見学 担当症例決定	縫合処置実習 挿管実習 実習歓迎会（夜）
火	外科カンファレンス（8：00～8：30） 朝カンファレンス（8：30～9：00） 訪問診療同行 生理検査実習（心エコー心電図）	手術見学 消化器カンファレンス 医療安全講習
水	早朝抄読会（7：30～8：30） 朝カンファレンス（8：30～9：00） 内視鏡見学	リハビリ実習 感染対策講習（15：00～16：00）
木	朝カンファレンス（8：30～9：00） 回復期リハビリ病棟回診（多職種連携） 外来診療見学（医療面接を含む）	薬剤部実習 消防本部実習（救急車同乗実習等）
金	朝カンファレンス（8：30～9：00） 外来診療見学	手術見学 症例発表 呼吸器カンファレンス（第1・3） 研修の総括、反省会（15：00～）

研修病院・施設名：北広島町雄鹿原診療所

診療科名：

1週目

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	訪問 挨拶 紹介 オリエンテーション	訪問診療
火	診療所外来	訪問診療 施設診察
水	診療所外来	訪問診療
木	診療所外来	予防接種など
金	診療所外来	訪問診療

2週目

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	診療所外来	訪問診療
火	診療所外来	訪問診療 施設診察
水	診療所外来	訪問診療
木	診療所外来	予防接種など
金	診療所外来	地域医療研修の総括

研修病院・施設名：矢掛町国民健康保険病院 診療科名：（内科・外科）		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	オリエンテーション （病院内紹介・見学） 看護ケア	レントゲン機器の一般撮影・心電図・超音波 検査機器の操作 当院におけるチーム医療・看護・介護の説明 病院紹介（院長より）
火	内科・外科外来	手術参加 内科症例カンファレンス
水	内科・外科外来 上部消化管内視鏡見学 隣接する介護老人保健施設の見学 入所者及びディサービスの内容理解	訪問診療 ケアマネージャー・MSWの仕事の理解 （外科症例カンファレンス）
木	内科・外科外来 訪問リハビリ	内視鏡検査補助 手術参加
金	内科・外科外来	外科回診 外科チームカンファレンス 地域医療実習の振り返り（総括）

研修病院・施設名： 水島中央病院 診療科名： 内科		
時間	8：30～12：30	13：30～17：00
月	訪問 挨拶 紹介 オリエンテーション 院長面談	内科・外科合同カンファレンス 内科外来
火	内科外来	内科カルテ回診 病棟回診
水	病棟回診	摂食嚥下リハビリカンファレンス 病棟回診
木	内科外来	病棟回診 地域医療連携室の役割を理解
金	検査（上部消化管内視鏡・腹部エコー）	産業医の企業訪問に同行 又は検査（下部消化器内視鏡・心エコー） 実習の総括

研修病院・施設名： 社会医療法人 緑社会 金田病院
 診療科名： 内科 外科 脳神経外科 整形外科

1週目

時間	9:00~12:00	13:00~17:30
月	9:00~ 電子カルテ操作説明 オリエンテーション 11:00~12:00 理事長講話	14:00~16:00 コンシェルジュ講話 17:40~ 薬説明会
火	9:00~ 上部消化管内視鏡見学 病棟実習	13:00~ 病棟実習 16:30~ 内視鏡カンファレンス見学 17:15~ 医局会
水	9:00~ 病棟実習	13:10発~ 特別養護老人ホーム 緑風荘見学実習 16:30~ 抄読会 17:30~ 薬説明会
木	9:00~9:45 病棟実習 9:45~12:00 地域医療連携室見学	14:00~ 病棟実習
金	9:00~ 病棟実習	14:00~17:00 内科外來見学 病棟実習 等

2週目

時間	9:00~12:00	13:00~17:30
月	9:00~12:00 内科外來見学 病棟実習 等	13:00~15:00 病棟実習 15:00~ 訪問診察 (医師同行)
火	9:00~12:00 リハビリテーション実習	13:00~ 病棟実習 16:30~ 内視鏡カンファレンス見学 17:15~ 医局会
水	9:00~ 病棟実習	13:00~14:00 病棟実習 14:00~ 内科カンファレンス 抄読会 17:30~ 薬説明会
木	9:00~ 病棟実習 11:00~ 退院支援委員会見学	13:00~14:00 病棟実習 14:00~ 下部消化管内視鏡見学
金	9:00~12:00 外科外來見学 病棟実習	13:00~16:00 病棟実習 研修医と懇談

研修病院・施設名： 奈義ファミリークリニック					
診療科名： 内科・小児科					
1週目			2週目		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00	時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	(移動)	オリエンテーション 乳児検診・予防接種 外来見学	月	朝礼 外来見学・予診 自衛隊医務室同行	在宅面談 訪問診療 振り返り
火	朝礼 外来見学・予診	訪問診療 外来見学 振り返り	火	朝礼 外来見学・予診	訪問診療 外来見学 振り返り
水	朝礼 ケアマネ実習	小学校健診 外来見学 振り返り	水	朝礼 外来見学・予診	乳幼児健診 外来見学 振り返り
木	朝礼 調剤薬局実習	在宅ミーティング 勉強会 (ex.専攻医振り返り発表) 地域ケア会議	木	朝礼 外来見学・予診	在宅ミーティング 勉強会 (ex.家庭医療カンファ)
金	朝礼 訪問看護実習	訪問診療 外来見学 振り返り	金	朝礼 外来見学・予診	訪問診療 振り返り

研修病院・施設名： 庄原赤十字病院 診療科名： 内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、循環器内科、小児科、外科、透析外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、神経内科、漢方・疼痛緩和内科、呼吸器内科、血液内科		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	オリエンテーション 新患外来実習（内科外来） 院内案内	手術見学 リハビリ実習 救急外来実習（※月曜日又は水曜日のいずれか）
火	巡回診療バスにて無医地区へ出向き、 診療へ同行	医療ソーシャルワーカー講義 退院前合同カンファレンスに参加
水	ICUカンファレンス 一般病棟看護業務体験 地域包括ケア病棟・療養病棟業務体験	放射線課見学 訪問看護実習 救急外来実習（※月曜日又は水曜日のいずれか）
木	地域の診療所実習	往診実習 服薬指導
金	医療面接等実習 小児科外来実習	地域医療研修の総括

研修病院・施設名： 高梁市国民健康保険成羽病院

診療科名： 内科・外科・小児科

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	9：40～ オリエンテーション 外科外来見学 11：00～ 内科外来見学	13：50～ 下部消化管内視鏡検査 15：00～ 成羽長寿園 16：30～ 医局顔合わせ 17：15～ 高梁市長と面談（医局）
火	9：00～ 外科外来見学 10：30～ 内科外来見学 医療安全について	13：30～ 附属診療所
水	9：00～ 上部消化管内視鏡検査 腹部エコー等見学 10：00～ 内科外来見学	13：45～ 退院支援カンファレンス 14：30～ 下部消化管内視鏡検査
木	9：00～ 小児科外来見学 10：00～ 地域連携室見学 10：40～ リハビリ見学	13：30～ 付属診療所
金	9：30～ 訪問看護見学	13：30～ 反省会（医局） 15：10～ 消防署見学

研修病院・施設名： 井原市民病院 診療科名： 内科等		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	病院到着 オリエンテーション・院内案内	小児科外来 消防本部（救急）見学
火	訪問看護見学 内科外来	内視鏡見学（下部） 老人施設見学
水	脳神経外科外来 内視鏡検査（上部）	耳鼻科外来 眼科手術見学
木	泌尿器科外来 訪問リハビリテーション見学	放射線科見学 リハビリテーション科見学 臨床検査・エコー検査見学
金	神経内科 皮膚科外来 ドック・健診	外科手術見学

研修病院・施設名： ももたろう往診クリニック

診療科名： 訪問診療

訪問診療同行で移動中(車内)では適宜、訪問診療・在宅医療について質問、相談などできます。

1週目

2週目

時間	8：30～12：00	13：00～17：30	時間	8：30～12：00	13：00～17：30
月	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) オリエンテーション 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)	月	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)
火	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)	火	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)
水	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)	水	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)
木	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)	木	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)
金	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について)	金	朝礼・カンファレンスに参加 (前日夜間の報告・当日診療内容の確認) 訪問診療に同行	訪問診療に同行 カンファレンスに参加 (当日の診療・症例について) 時間があれば座学(介護保険制度など)

研修病院・施設名： 入江病院		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	訪問 挨拶 紹介 オリエンテーション 救急対応・病棟管理	病棟管理 救急対応
火	病棟管理 救急対応	病棟管理 外来診療
水	病棟管理 救急対応	病棟管理 訪問診療
木	病棟管理 救急対応	
金	病棟管理 救急対応	地域医療研修の総括

研修病院・施設名： 高梁中央病院

診療科名： 内科

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	オリエンテーション 理事長、会長面談（理事長室）	職種別実習（医師） 病棟他職種カンファレンス（5病棟）
火	透析センター	職種別実習（看護師、6病棟）
水	職種別実習（栄養士）	地域医療連携室
木	内視鏡センター	職種別実習（医師）
金	職種別実習（薬剤師）	職種別実習（リハビリテーション） まとめ（医局）

研修病院・施設名： 渡辺病院
 診療科名： 総合診療科、外科、内科

1週目

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	オリエンテーション ・日程について、地域医療について ・病棟の医師の仕事 院内案内	病棟業務、外来 (宿舎案内)
火	抄読会・医局会 外来 ・予診を取る、バイタルチェック ・救急対応	手術見学 訪問診療 ドクターカンファレンス
水	リハビリ科見学、体験	消防署見学
木	薬剤科見学 栄養科見学	褥瘡回診 病棟回診 病棟看護師体験
金	外来看護師体験	病棟業務、外来

2週目

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	病棟業務、外来	病棟業務、外来
火	抄読会・医局会 病棟業務、外来	手術見学 訪問診療 ドクターカンファレンス
水	病棟業務、外来	緩和ケアカンファレンス 外出リハビリ体験
木	病棟業務、外来	褥瘡回診 病棟業務
金	病棟業務、外来	全体振り返り

研修医・施設名： 渡辺病院 長期コース		診療科名： 総合診療科、外科、内科									
1週目		2週目		3週目		4週目		5週目		6週目	
時間	9:00~12:00	13:00~17:00	時間	9:00~12:00	13:00~17:00	時間	9:00~12:00	13:00~17:00	時間	9:00~12:00	13:00~17:00
月	オリエンテーション ・日程について、地域医療について ・研修の概要の仕事 院内案内	研修業務、外来	月	研修業務、外来	研修業務、外来	月	研修業務、外来	研修業務、外来	月	研修業務、外来	研修業務、外来
火	伊達安・飯沼安 外来 ・手診を取り、バイタルチェック 緊急対応	手前見学 訪問診療 ドクターカンファレンス	火	伊達安・飯沼安 研修業務、外来	手前見学 訪問診療 ドクターカンファレンス	火	伊達安・飯沼安 研修業務、外来	手前見学 訪問診療 ドクターカンファレンス	火	伊達安・飯沼安 研修業務、外来	手前見学 訪問診療 ドクターカンファレンス
水	リハビリ科見学、体験	消防署見学	水	研修業務、外来	緩和ケアカンファレンス 外出リハビリ体験	水	研修業務、外来	緩和ケアカンファレンス 外出リハビリ体験	水	研修業務、外来	緩和ケアカンファレンス 外出リハビリ体験
木	薬剤科見学 産科科見学	褥瘡回診 研修業務 研修看護部体験	木	研修業務、外来	褥瘡回診 研修業務	木	研修業務、外来	褥瘡回診 研修業務	木	研修業務、外来	褥瘡回診 研修業務
金	外来看護部体験	研修業務、外来	金	研修業務、外来	訪問看護ステーションくらみ見学	金	研修業務、外来	研修業務、外来	金	研修業務、外来	研修業務、外来

研修病院・施設名： 神石高原町立病院

診療科名：

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	移動	オリエンテーション 物忘れ外来見学 院内案内
火	訪問看護	リハビリ見学 薬剤科実習
水	初診外来実習	介護施設見学
木	病棟看護実習	巡回診療 予防接種見学
金	慢性疾患外来見学／検査見学	CGA実習 主治医意見書作成

研修病院・施設名： 鳥取市立病院 診療科名： 総合診療科		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	オリエンテーション 初診・再診外来	病棟回診、救急外来等 医療面接、身体診察 救急、病棟回診 総診カンファレンス
火	初診・再診外来	救急、病棟回診 総診カンファレンス
水	初診・再診外来	地域包括ケアシステム 地域カンファレンス 救急、病棟回診 内科カンファレンス
木	モーニングレクチャー 初診・再診外来	救急、病棟回診
金	初診・再診外来 研修医カンファレンス（PBL）	救急、病棟回診 1週間の振り返り

研修病院・施設名： 鳥取県立中央病院

診療科名： 産婦人科

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	一般外来 妊婦健診	手術立ち合い
火	一般外来 妊婦健診 採卵 回診	手術立ち合い
水	一般外来 妊婦健診 採卵 回診	不妊外来 ハイリスク妊婦外来 16：00-産婦人科カンファレンス
木	一般外来 妊婦健診 採卵 回診	手術立ち合い
金	一般外来 妊婦健診 採卵 回診	不妊外来 ハイリスク妊婦外来

研修病院・施設名： 兵庫県立丹波医療センター/丹波市ミルネ診療所

診療科名： 内科（総合診療科）

★記載以外は病棟チームで病棟診療

時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	オリエンテーション 電子カルテの使い方	感染対策実習
火	レクチャー カルテの書き方とプレゼンテーション	教育回診
水	外来診察 名誉院長臨床推論カンファ	丹波の医療介護連携システムや疾病構造について
木	診療所外来診察	訪問診療
金	レクチャー プロフェッショナリズム	教育回診 病棟受け持ち振り返り 総振り返り

研修病院・施設名： 西脇病院		
診療科名： 内科		
時間	9：00～12：00	13：00～17：00
月	病棟回診 上部内視鏡検査	下部内視鏡検査 消化器内科カンファレンス(任意)
火	外来実習	下部消化管内視鏡検査・肝胆膵検査
水	研修医回診・レクチャー	病棟回診 救急実習(救急初期対応)
木	外来実習	下部内視鏡検査・肝胆膵検査 消化器レクチャー
金	病棟回診 腹部エコー検査	下部内視鏡検査

研修病院・施設名： 公立中央総合病院		
診療科名： 内科		
時間	8：30～12：00	13：00～17：15
月	訪問 挨拶 紹介 オリエンテーション (外来・病棟・検査など) ※初日(3/3)は9：30～	急性期病棟での診療等 (一般手技の介助等) 内科カンファレンス
火	内科外科カンファレンス 上部消化管内視鏡検査見学	糖尿病外来 (医師・看護師によるチーム医療) 救急患者の診療見学 (一般手技・救命処置の介助等)
水	へき地診療所(波賀診療所) (内科外来診療)	隣接する訪問看護ステーションにて (訪問看護・診療の役割の理解) 地域包括ケア病棟での診療等 (適宜、一般手技の介助等)
木	消化器・腎臓・総合内科 (内科外来診療)	地域包括ケア病棟退院調整カンファレンス 栄養サポートチーム回診 (医師・看護師等多職種によるチーム医療) 救急患者の診療見学
金	腹部・心エコー検査見学 救急患者の診療見学 (一般手技・救命処置の介助等)	下部内視鏡検査見学 地域医療研修の総括 (受持ち症例のプレゼンテーション)

2025 年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 I ～Okadai Med Arts I ～ Okadai Med Arts I		
講義番号	科目区分	学期
068022		特別
ナンバリングコード	教室	
NDDZ1MEMZ1001N	基礎医学講義実習棟1階多目的講義室	
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
3.9	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
越智 可奈子 [OCHI Kanako], 伊野 英男 [INO Hideo], 松川 昭博 [MATSUKAWA Akihiro], 小比賀 美香子 [OBIKA Mikako], 岡崎 勇樹 [OKAZAKI Yuki], 香田 将英 [KODA Masahide]		

持続可能な開発目標(SDGs)



対象学生

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

医学科教務担当: igaku-k@okayama-u.ac.jp

担当教員(連絡担当): kanako-ochi@okayama-u.ac.jp(医療教育センター 越智可奈子)

オフィスアワー

医学科教務: 月曜日～金曜日(9時～17時)

担当教員への相談はいつでも可。メールでアポイントを取ってください。

学部・研究科独自の項目

PR: プロフェッショナルリズム

GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢

LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

CM: コミュニケーション能力

SO: 社会における医療の役割の理解

使用言語

日本語

授業の概要

◎行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ～ Okadai Med Arts(岡大メッド・アーツ) I ～

人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナルリズム」など医師に必要な資質・能力を修得するための構造化された学習プログラムであり、6年間を通して実施されるパフォーマンス評価のための重要科目でもある。

(全学年共通項目)医師のプロフェッショナルリズム・コミュニケーション・アート

(各学年重点項目)下記

- ・1年次:メッド・アーツⅠ:プロフェッショナルリズム、自己理解・他者理解、社会人のコミュニケーション、職場体験
- ・2年次:メッド・アーツⅡ:研究倫理・ユマニチュード・対話・多様性
- ・3年次:メッド・アーツⅢ:医師のキャリア、医療と社会
- ・4年次:メッド・アーツⅣ:多職種連携、ナラティブメディスン、多様性

- ・5年次:メッド・アーツV:多様性、Whole Person Care、医療人類学の視点、リフレクション
- ・6年次:メッド・アーツVI:初期研修への展望

(学習目標)

- 1)知る・メッド・アーツ(先人の経験や知恵を言葉・文字で感じる)
- 2)視る・メッド・アーツ(先人の経験や知恵を目に焼き付ける)
- 3)触れる・メッド・アーツ(先人と共に経験や知恵を体感する)
- 4)動く・メッド・アーツ(自ら動いて新たな経験や知恵を手に入れる)
- 5)繋がる・メッド・アーツ(他者と共に新たな経験や知恵を手に入れる)
- 6)創る・メッド・アーツ(他者と共に未来につながる経験や知恵を創る)

到達目標

◎全学年共通到達目標

- ・第1段階:医師のプロフェッショナリズム・行動科学及び非認知能力の概要とその重要性を理解する
- ・第2段階:行動科学の具体的な活用方法と非認知能力の養成法を説明できる
- ・第3段階:他者と共に行動科学の具体的な活用を実践できる
- ・第4段階:行動科学の実践を通して自らのプロフェッショナリズムを認識できる
- ・第5段階:自らのプロフェッショナリズムを分析し、評価できる
- ・第6段階:他者と共にプロフェッショナリズムを相互評価できる

授業計画

◎変更・連絡事項(課題・グループ分け)など最新版は必ず受講前にMoodleで確認して下さい。

◎2025年度スケジュール

- ・2025/4/9(水)5時間目:Med Artsオリエンテーション(総合内科 小比賀 美香子、医療教育センター 教授 伊野 英男)
 - ・2025/4/9(水)6時間目:自分を知る①(小児科 藤井 智香子)
 - ・2025/4/16(水)5-6時間目:自分を知る②(地域医療人材育成講座 教授 佐藤 勝)
 - ・2025/4/23(水)5時間目:大学生活のビジョン(総合内科 小比賀 美香子)
 - ・2025/4/23(水)6時間目:成人学習・モチベーション(医療教育センター教授 伊野 英男)
 - ・2025/5/9(金)5時間目:学外実習オリエンテーション・実習先希望調査(免疫病理学 教授 松川 昭博、医療教育センター 越智 可奈子)
 - ・2025/5/9(金)7時間目:メディアリテラシー(医療教育センター 岡崎 勇樹)
 - ・2025/5/16(金)5時間目:学外実習直前オリエンテーション(免疫病理学 教授 松川 昭博、医療教育センター 越智 可奈子)
 - ・2025/5/16(金)6時間目:医学生レポートの書き方(医療教育センター 越智 可奈子)
 - ・2025/5/16(金)7時間目:社会・ビジネスマナー(オルバヘルスケアホールディングス株式会社 経営企画本部人材開発グループ 但野 絢脩)
 - ・2025/5/23(金)5時間目:対人コミュニケーション(元岡山大学歯学部教員 吉田 登志子)
 - ・2025/6/6(金)終日:学外実習(1回目):各実習先
 - ・2025/6/13(金)終日:学外実習(2回目):各実習先
 - ・2025/6/20(金)2-3時間目:中間振り返り(免疫病理学 教授 松川 昭博、医療教育センター 越智 可奈子)
 - ・2025/6/27(金)終日:学外実習(3回目):各実習先
 - ・2025/7/4(金)終日:学外実習(4回目):各実習先
 - ・2025/7/11(金)終日:学外実習(5回目):各実習先
 - ・2025/7/18(金)1時間目:ストレスコーピング(地域医療共育推進オフィス 香田 将英)
 - ・2025/7/18(金)2-3時間目:学外実習まとめ(免疫病理学 教授 松川 昭博、医療教育センター 越智 可奈子)
 - ・2025/7/29(金)5-6時間目:性別をめぐる概念と実践(関西学院大学社会学部 教授 中谷 文美)
 - ・2025/8/1(金)3-4時間目:備前焼作家のプロフェッショナリズム(備前焼作家 石田 和也)
 - ・2025/8/1(金)5時間目:リーダーシップ・人は間違える(島根大学医学部呼吸器外科教授 山根 正修)
 - ・2025/8/1(金)7時間目:当事者の中にある専門性(東京大学先端科学技術研究センター教授 熊谷 晋一郎)
- (学外実習再実習(該当者のみ)2025/9/25(木)終日)

授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

【注意事項】

- ・各講義の関連資料はMoodleに随時掲載を行うため、受講前に事前に資料を確認して下さい。
- ・講義アンケート、レポート、グループワーク成果物のリンク・提出先もMoodle内にあります。

【評価について】

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

半分以上

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Aタイプ(社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

- ・配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。
- ・遅刻、欠席の場合は分かった時点で教務の出席フォームより連絡して下さい。
- ・実習日などで急ぐ場合は医学科教務(086-235-7021)(学外実習の場合は実習先)に電話連絡を必ず行なって下さい。
- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用**(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)**

ほぼ毎回

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

ほぼ毎回

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

半分以上

(2)履修者への連絡事項

配慮が必要な学生さんは事前に担当教員までご連絡ください。

■ 教科書**備考**

○現代社会と感情コミュニケーション(アーバンプロ出版センター)

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784902455113	
	書名	省察的実践とは何か：プロフェッショナルの行為と思考	
	著者名	ドナルド・A・ショーン著	
	出版社	鳳書房	出版年
参考書2	ISBN	9784480068309	
	書名	チームの力：構造構成主義による“新”組織論	
	著者名	西條剛央著	
	出版社	筑摩書房	出版年

備考

- 省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考
ドナルド・A・ショーン(著), Donald A. Schon(原著), 柳沢 昌一(翻訳),
- チームの力: 構造構成主義による“新”組織論(くま新書)西條 剛央(著)

■ 成績評価**【成績評価】**

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。

- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

■ 受講要件

特になし

■ 教職課程該当科目

該当しない

■ JABEEとの関連

該当しない

■ 持続可能な開発目標(SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
 (教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
 (ジェンダー)ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
 (実施手段)持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

■ 実務経験のある教員による授業科目

該当する

実務経験による(臨床・各専門分野)

■ 備考/履修上の注意

・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう

■ 学習成果(LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
修得した幅広い教養を基盤に、人々の多様性を理解し、これを受け入れることができる。	多文化・異文化に関する知識の理解	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
様々な情報に興味・関心をもち、適切な手段を用いて情報を獲得できる。	情報リテラシー	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
収集した情報の質を適切に分析・評価し、正しい判断を下すことができる。	論理的思考力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
獲得した情報を正しく効果的に活用できる。	数量的スキル	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
情報を仲間やチームで共有し、よりよい医療の実現に結びつけることができる。	チームワーク・リーダーシップ	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの中で自らの役割を見出し、責任をもって役割を果たすことができる。	チームワーク・リーダーシップ	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
積極的に問題を見出し、適切な改善策を講じることができる。	問題解決力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの一員として、他者を教え、育てることができる。	チームワーク・リーダーシップ	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医学・医療を究めるために、自ら目標を設定し、達成にむけて取り組むことができる。	生涯学習力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らの意思で、自身の能力向上や精神的な成長を目指すことができる。	自己管理能力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らのストレスや心の健康状態について正しく認識し、対処できる。	自己管理能力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
明確な目標を立て、目標に達成にむけ行動し、人として成長し続けることができる。	生涯学習力	グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習

[※コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts ~ Okadai Med Arts		
講義番号	科目区分	学期
068023		特別
ナンバリングコード	教室	
NDDZ1MEMZ2001N	基礎医学講義実習棟2階講義室	
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
1.6	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
松川 昭博 [MATSUKAWA Akihiro], 平沢 晃 [HIRASAWA Akira], 中尾 篤典 [NAKAO Atsunori], 伊野 英男 [INO Hideo], 越智 可奈子 [OCHI Kanako], 山本 英喜 [YAMAMOTO Hideki], 小比賀 美香子 [OBIKA Mikako], 香田 将英 [KODA Masahide], 岡崎 哲也 [OKAZAKI Tetsuya]		

持続可能な開発目標(SDGs)



対象学生

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

医学科教務担当: igaku-k@okayama-u.ac.jp

担当教員(連絡担当): kanako-ochi@okayama-u.ac.jp(医療教育センター 越智可奈子)

オフィスアワー

医学科教務: 月曜日～金曜日(9時～17時)

担当教員への相談はいつでも可。メールでアポイントを取ってください。

学部・研究科独自の項目

PR: プロフェッショナルリズム

GE-01-02: 生物・心理・社会的な問題への包括的な視点

GE-01-03: 患者中心の医療

GE-03: 人生の視点とアプローチ

GE-04: 社会の視点とアプローチ

CS-01-01: 医療面接

CM: コミュニケーション能力

SO-06: 社会科学の視点から捉える医療

使用言語

日本語

授業の概要

プロフェッショナルリズム・行動科学 ~ Okadai Med Arts(岡大メッド・アーツ) ~

人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナルリズム」など医師に必要な資質・能力を修得するための構造化された学習プログラムであり、6年間を通して実施されるパフォーマンス評価のための重要科目でもある。

(全学年共通項目)医師のプロフェッショナルリズム・コミュニケーション・アート

(各学年重点項目)下記

・1年次:メッド・アーツ : プロフェッショナルリズム、自己理解・他者理解、社会人のコミュニケーション、職場体験

・2年次:メッド・アーツ : 研究倫理・ユマニチュード・対話・多様性

- ・3年次:メッド・アーツ : 医師のキャリア、医療と社会
- ・4年次:メッド・アーツ : 多職種連携、ナラティブメディスン、多様性
- ・5年次:メッド・アーツ : 多様性、Whole Person Care、医療人類学の視点、リフレクション
- ・6年次:メッド・アーツ : 初期研修への展望

(学習目標)

- 1) 知る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を言葉・文字で感じる)
- 2) 視る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を目に焼き付ける)
- 3) 触れる・メッド・アーツ (先人と共に経験や知恵を体感する)
- 4) 動く・メッド・アーツ (自ら動いて新たな経験や知恵を手に入れる)
- 5) 繋がる・メッド・アーツ (他者と共に新たな経験や知恵を手に入れる)
- 6) 創る・メッド・アーツ (他者と共に未来につながる経験や知恵を創る)

到達目標

[到達目標]

全学年共通到達目標

- ・第1段階:医師のプロフェッショナリズム・行動科学及び非認知能力の概要とその重要性を理解する
- ・第2段階:行動科学の具体的な活用方法と非認知能力の養成法を説明できる
- ・第3段階:他者と共に行動科学の具体的な活用を実践できる
- ・第4段階:行動科学の実践を通して自らのプロフェッショナリズムを認識できる
- ・第5段階:自らのプロフェッショナリズムを分析し、評価できる
- ・第6段階:他者と共にプロフェッショナリズムを相互評価できる

授業計画

変更・連絡事項(課題・グループ分け)など最新版は必ず受講前にMoodleで確認して下さい。

2025年度スケジュール

- ・2026/1/15(木)8時間目:医療面接体験実習オリエンテーション(医療教育センター 越智 可奈子)
- ・2026/1/15(木)終日(前半組 2-4限、後半組 5-7限):医療面接体験実習(医療教育センター 越智 可奈子)
- ・2026/1/26(月)5-6限目:医療とデッサン(画家・川口メディカルクリニック検査技師 嶋田恭子)
- ・2026/1/29(木)1-3限目:遺伝カウンセリングロールプレイ(臨床遺伝子医療学分野 教授 平沢 晃)
- ・2026/2/5(木)1-2限目:導入と公正な研究活動について(免疫病理学 教授 松川昭博)
- ・2026/2/5(木)3限目:臨床研究とCOIについて(医療教育センター 岡崎 勇樹)
- ・2026/2/5(木)4限目:AIと研究倫理、AIと臨床倫理(医療AI人材育成プログラム 准教授 谷岡 真樹)
- ・2026/2/13(金)1-2限目:対話の基礎トレーニング(哲学者・カフェフィロ副代表 松川えり)
- ・2026/2/13(金)3-4限目:迷惑意識の多様性について(岡山大学 ヘルスシステム統合科学学域 教授 本村 昌文)
- ・2026/2/17(火)2-4限目:ユマニチュード(亀田総合病院 本田 美和子)
- ・2026/2/17(火)5限目:ユマニチュード (地域医療共育推進オフィス 准教授 香田 将英)

授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

(注意事項)

- ・各講義の関連資料はMoodleに随時掲載を行うため、受講前に事前に資料を確認して下さい。
- ・講義アンケート、レポート、グループワーク成果物のリンク・提出先もMoodle内にあります。

(評価について)

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

30% : 70%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Cタイプ(実習や演習だが社会連携したものでない)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

[履修者への連絡事項]

- ・配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。
- ・遅刻、欠席の場合は分かった時点で教務の出席フォームより連絡して下さい。
- ・実習日などで急ぐ場合は医学科教務(086-235-7021)に電話連絡を必ず行なって下さい。
- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

半分以上

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

1～2回程度

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

1～2回程度

(2)履修者への連絡事項

配慮が必要な学生さんは事前に担当教員までご連絡ください。

■ 教科書

備考

特になし

■ 参考書

参考書1	ISBN		
	書名	『哲学カフェのつくりかた』	
	著者名	カフェフィロ編	
	出版社	大阪大学出版会	出版年
参考書2	ISBN		
	書名	『古い:人文学・ケアの現場・老年学』	
	著者名	本村昌文ほか編	
	出版社	ポラーノ出版	出版年
参考書3	ISBN		
	書名	『看取り先生の遺言:がんで安らかな最期を迎えるために』	
	著者名	奥野修司	
	出版社	文芸春秋	出版年

備考

■ 成績評価

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

■ 受講要件

特になし

■ 教職課程該当科目

該当なし

■ JABEEとの関連

該当なし

■ 持続可能な開発目標 (SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
 (教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
 (持続可能な生産と消費)持続可能な生産消費形態を確保する。

■ 実務経験のある教員による授業科目

該当する

実務経験による(臨床・各専門分野)

■ 備考/履修上の注意

・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう

■ 学習成果 (LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
修得した幅広い教養を基盤に、人々の多様性を理解し、これを受け入れることができる。	多文化・異文化に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
様々な情報に興味・関心をもち、適切な手段を用いて情報を獲得できる。	情報リテラシー	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
収集した情報の質を適切に分析・評価し、正しい判断を下すことができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
獲得した情報を正しく効果的に活用できる。	数量的スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
情報を仲間やチームで共有し、よりよい医療の実現に結びつけることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの中で自らの役割を見出し、責任をもって役割を果たすことができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
積極的に問題を見出し、適切な改善策を講じることができる。	問題解決力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らの意思で、自身の能力向上や精神的な成長を目指すことができる。	自己管理能力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らのストレスや心の健康状態について正しく認識し、対処できる。	自己管理能力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025 年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
医療政策・地域医療学 Health Policy / General and Regional Practice		
講義番号	科目区分	学期
063198	専門教育科目	特別
ナンバリングコード	教室	
NDEA0MEMZ3002N	基礎医学講義実習棟3階講義室	
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
0.4	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
小川 弘子 [OGAWA Hiroko], 佐藤 勝 [SATO Masaru], 山下 茉奈美 [YAMASHITA Manami], 本多 寛之 [HONDA Hiroyuki]		

持続可能な開発目標 (SDGs)



対象学生

医(医)

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

所属 地域医療人材育成講座
 電話 086-235-6963
 メール cbme@okayama-u.ac.jp

オフィスアワー

平日 9:00-17:00
 原則、来訪等の前にメールにてアポイントを取ること。

学部・研究科独自の項目

モデルコアカリキュラムの医科に対応
 A-2
 A-4
 A-5
 A-7-1)

使用言語

日本語

授業の概要

医療政策の基本について学ぶとともに、地域医療や総合診療を实践する医師たちがその活動について語る。

到達目標

地域医療や総合診療の基本について語るができる。医療政策の今日的課題について理解し、意見交換できる。

授業計画

第1講:1月13日(火)4限 小川「地域医療とは何だろうか？」
 第2講:1月13日(火)5限 佐藤「地域医療を实践する」
 第3講:1月13日(火)6限 中村幸伸先生・つばさクリニック 院長「訪問診療専門クリニックの实践」

第4講:1月16日(金)7限 高崎洋介先生・研究推進機構 教授「地域医療の課題と医療政策」

第5講:1月20日(火)5限 佐藤「地域医療とまちづくり」

第6講:1月20日(火)6限 浜田淳先生・川崎医療福祉大学 教授「医療政策と地域医療」

■ 授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

地域医療の実習と連動して学ぶようにしてほしい。

■ 授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

90% : 10%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

半分未満

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

半分未満

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

半分未満

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

該当しない

(4)授業形態-履修者への連絡事項

この授業と地域医療実習とで地域医療への理解を深めるような講義を行う。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

ほぼ毎回

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

半分以上

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

半分以上

(2)履修者への連絡事項

この講義では、パワーポイントを使用しますので、配慮が必要な場合は、担当教員へご連絡ください。

■ 教科書

備考

特になし。

■ 参考書

参考書1	ISBN	4260008056	
	書名	地域医療テキスト	
	著者名	梶井英治 [ほか] 編集 ; 中村伸一 [ほか] 執筆	
	出版社	医学書院	出版年
参考書2	ISBN	4787826689	
	書名	地域医療学入門 : 改訂コアカリ準拠	
	著者名	岡崎仁昭, 松本正俊責任編集	
	出版社	診断と治療社	出版年

備考

成績評価

2/3以上の出席を必須とする。
遅刻、早退の場合は、出席日数を減じる。
2/3以上の出席者についてのみ、レポート評価を行う。
講義中の態度が不良な場合は、減点対象とする。

受講要件

積極的な姿勢で受講してほしい。

教職課程該当科目

この項目は当該科目には該当しない

JABEEとの関連

この項目は当該科目には該当しない

持続可能な開発目標(SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
(持続可能な都市)包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

講師陣は、臨床医としての経験、行政官としての経験を有する。

備考/履修上の注意

真摯な態度で受講することが望ましい

学習成果(LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
医学的視点から、人々が健康に過ごせる社会・環境づくりに貢献できる。	市民としての社会的責任	出席、レポート
地域・国際社会の一員として、医療を通してコミュニティに貢献できる。	市民としての社会的責任	出席、レポート

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts ~ Okadai Med Arts		
講義番号	科目区分	学期
068024		特別
ナンバリングコード	教室	
NDDZ1MEMZ3001N	基礎医学講義実習棟3階講義室	
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
1	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
越智 可奈子 [OCHI Kanako], 松川 昭博 [MATSUKAWA Akihiro], 伊野 英男 [INO Hideo], 小比賀 美香子 [OBIKA Mikako], 香田 将英 [KODA Masahide], 岡崎 勇樹 [OKAZAKI Yuki]		

持続可能な開発目標(SDGs)



対象学生

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

医学科教務担当: igaku-k@okayama-u.ac.jp

担当教員(連絡担当): kanako-ochi@okayama-u.ac.jp(医療教育センター 越智可奈子)

オフィスアワー

医学科教務: 月曜日～金曜日(9時～17時)

担当教員への相談はいつでも可。メールでアポイントを取ってください。

学部・研究科独自の項目

PR: プロフェッショナルリズム

GE-04: 社会の視点とアプローチ

LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿

CS-01-01: 医療面接

CM: コミュニケーション能力

SO-04: 社会の構造や変化から捉える医療

SO-05: 国内外の視点から捉える医療

SO-06: 社会科学の視点から捉える医療

使用言語

日本語・英語併用

授業の概要

行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts(岡大メッド・アーツ) ~

人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナルリズム」など医師に必要な資質・能力を修得するための構造化された学習プログラムであり、6年間を通して実施されるパフォーマンス評価のための重要科目でもある。

(全学年共通項目)医師のプロフェッショナルリズム・コミュニケーション・アート

(各学年重点項目)下記

・1年次:メッド・アーツ : プロフェッショナルリズム、自己理解・他者理解、社会人のコミュニケーション、職場体験

・2年次:メッド・アーツ : 研究倫理・ユマニチュード・対話・多様性

- ・3年次:メッド・アーツ : 医師のキャリア、医療と社会
- ・4年次:メッド・アーツ : 多職種連携、ナラティブメディスン、多様性
- ・5年次:メッド・アーツ : 多様性、Whole Person Care、医療人類学の視点、リフレクション
- ・6年次:メッド・アーツ : 初期研修への展望

(学習目標)

- 1) 知る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を言葉・文字で感じる)
- 2) 視る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を目に焼き付ける)
- 3) 触れる・メッド・アーツ (先人と共に経験や知恵を体感する)
- 4) 動く・メッド・アーツ (自ら動いて新たな経験や知恵を手に入れる)
- 5) 繋がる・メッド・アーツ (他者と共に新たな経験や知恵を手に入れる)
- 6) 創る・メッド・アーツ (他者と共に未来につながる経験や知恵を創る)

到達目標

全学年共通到達目標

- ・第1段階:医師のプロフェッショナリズム・行動科学及び非認知能力の概要とその重要性を理解する
- ・第2段階:行動科学の具体的な活用方法と非認知能力の養成法を説明できる
- ・第3段階:他者と共に行動科学の具体的な活用を実践できる
- ・第4段階:行動科学の実践を通して自らのプロフェッショナリズムを認識できる
- ・第5段階:自らのプロフェッショナリズムを分析し、評価できる
- ・第6段階:他者と共にプロフェッショナリズムを相互評価できる

授業計画

変更・連絡事項(課題・グループ分け)など最新版は必ず受講前にMoodleで確認して下さい。

2025年度スケジュール

- ・2026/1/23(金)5-6時間目:国際医療支援・AMDが世界に果たす役割(AMD代表理事 難波 妙)
- ・2026/1/30(金)5-6時間目:統合医療の価値観(京都大学 医学研究科 医学教育・国際化推進センター 時信 亜希子)
- ・2026/2/3(火)5-6時間目:医師の役割の再考(株式会社ミナケア代表取締役 山本 雄士)
- ・2026/2/3(火)7時間目:社会に関わる医師(世界保健機関 本部 医薬品・医療材料担当事務局長補 中谷 祐貴子)
- ・2026/2/12(火)2-4時間目:心理・集団心理(保健管理センター 教授 岡部 伸幸、岡山大学社会文化科学域 東條 光彦)
- ・2026/2/13(金)1時間目:CBT・OSCEに向けて(医療教育センター 越智 可奈子)
- ・2026/2/13(金)2時間目:刀剣とその心(刀剣作家 川島 一城)
- ・2026/2/13(金)3時間目:リーダーシップ(教育推進機構 石田 衛)
- ・2026/2/13(金)4時間目:Cultural Community(教育推進機構 Mahmood Sabina)
- ・2026/2/13(金)5-6時間目:臨床で使える実践英会話(医療教育センター 岡崎 勇樹)

授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

(注意事項)

- ・各講義の関連資料はMoodleに随時掲載を行うため、受講前に事前に資料を確認して下さい。
- ・講義アンケート、レポート、グループワーク成果物のリンク・提出先もMoodle内にあります。

(評価について)

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

30% : 70%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Cタイプ(実習や演習だが社会連携したものでない)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

- ・配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。
- ・遅刻、欠席の場合は分かった時点で教務の出席フォームより連絡して下さい。
- ・実習日などで急ぐ場合は医学科教務(086-235-7021)に電話連絡を必ず行なって下さい。
- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

半分以上

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

1～2回程度

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

1～2回程度

(2)履修者への連絡事項

配慮が必要な学生は、事前に連絡してください。

■ 教科書

備考

特に設定しない

■ 参考書

備考

■ 成績評価

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

■ 受講要件

特になし

■ 教職課程該当科目

該当しない

■ JABEEとの関連

該当しない

■ 持続可能な開発目標(SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
(持続可能な生産と消費)持続可能な生産消費形態を確保する。

■ 実務経験のある教員による授業科目

該当する

実務経験による(臨床・各専門分野)

■ 備考/履修上の注意

- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう
- ・ディスカッションには積極的に参加しましょう

■ 学習成果(LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
修得した幅広い教養を基盤に、人々の多様性を理解し、これを受け入れることができる。	多文化・異文化に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
人体の構造と機能、疾病の成り立ち、予防と治療について深く理解し、説明できる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
様々な情報に興味・関心をもち、適切な手段を用いて情報を獲得できる。	情報リテラシー	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
収集した情報の質を適切に分析・評価し、正しい判断を下すことができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
獲得した情報を正しく効果的に活用できる。	数量的スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
情報を仲間やチームで共有し、よりよい医療の実現に結びつけることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの中で自らの役割を見出し、責任をもって役割を果たすことができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
積極的に問題を見出し、適切な改善策を講じることができる。	問題解決力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの一員として、他者を教え、育てることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025 年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts ~ Okadai Med Arts		
講義番号	科目区分	学期
068025		特別
ナンバリングコード	教室	
NDDZ3MEMZ4001A	基礎医学講義実習棟4階講義室	
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
1.1	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
越智 可奈子 [OCHI Kanako], 伊野 英男 [INO Hideo], 松川 昭博 [MATSUKAWA Akihiro], 小比賀 美香子 [OBIKA Mikako], 香田 将英 [KODA Masahide], 岡崎 勇樹 [OKAZAKI Yuki]		

持続可能な開発目標(SDGs)



対象学生

他学部学生の履修の可否

対象学生の項目を参照

連絡先

医学科教務担当: igaku-k@okayama-u.ac.jp

担当教員(連絡担当): kanako-ochi@okayama-u.ac.jp(医療教育センター 越智可奈子)

オフィスアワー

医学科教務: 月曜日～金曜日(9時～17時)

担当教員への相談はいつでも可。メールでアポイントを取ってください。

学部・研究科独自の項目

PR: プロフェッショナルリズム

GE-01-04: 根拠に基づいた医療 (EBM)

GE-03: 人生の視点とアプローチ

IT: 情報・科学技術を活かす能力

CM: コミュニケーション能力

使用言語

日本語

授業の概要

行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts(岡大メッド・アーツ) ~

人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナルリズム」など医師に必要な資質・能力を修得するための構造化された学習プログラムであり、6年間を通して実施されるパフォーマンス評価のための重要科目でもある。

(全学年共通項目)医師のプロフェッショナルリズム・コミュニケーション・アート

(各学年重点項目)下記

- ・1年次:メッド・アーツ : プロフェッショナルリズム、自己理解・他者理解、社会人のコミュニケーション、職場体験
- ・2年次:メッド・アーツ : 研究倫理・ユマニチュード・対話・多様性
- ・3年次:メッド・アーツ : 医師のキャリア、医療と社会
- ・4年次:メッド・アーツ : 多職種連携、ナラティブメディスン、多様性

- ・5年次:メッド・アーツ : 多様性、Whole Person Care、医療人類学の視点、リフレクション
- ・6年次:メッド・アーツ : 初期研修への展望

到達目標

全学年共通到達目標

- ・第1段階:医師のプロフェッショナリズム・行動科学及び非認知能力の概要とその重要性を理解する
- ・第2段階:行動科学の具体的な活用方法と非認知能力の養成法を説明できる
- ・第3段階:他者と共に行動科学の具体的な活用を実践できる
- ・第4段階:行動科学の実践を通して自らのプロフェッショナリズムを認識できる
- ・第5段階:自らのプロフェッショナリズムを分析し、評価できる
- ・第6段階:他者と共にプロフェッショナリズムを相互評価できる

(学習目標)

- 1)知る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を言葉・文字で感じる)
- 2)見る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を目に焼き付ける)
- 3)触れる・メッド・アーツ (先人と共に経験や知恵を体感する)
- 4)動く・メッド・アーツ (自ら動いて新たな経験や知恵を手に入れる)
- 5)繋がる・メッド・アーツ (他者と共に新たな経験や知恵を手に入れる)
- 6)創る・メッド・アーツ (他者と共に未来につながる経験や知恵を創る)

授業計画

変更・連絡事項(課題・グループ分け)など最新版は必ず受講前にMoodleで確認して下さい。

2025年度スケジュール

- ・2025/9/12(金)1-5時間目:情報検索演習(社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科部長 南郷 栄秀)
- ・2025/9/16(火)1-3時間目:ナラティブ・メディスン(がん・感染症センター都立駒込病院心理士 栗原 幸江、千葉大学病院総合医療教育研修センター 桐山 加奈子)
- ・2025/9/16(火)4時間目:発達特性に配慮したコミュニケーション(小児科 藤井 智香子)
- ・2025/9/17(水)5-6時間目:患者さんから学ぶ(岡山造血細胞移植患者会 きぼう 代表 山邊 裕子)
- ・2025/9/19(金)1-5時間目:チーム医療実践(各学科教員)
- ・2025/10/10(金)5-6時間目:VTSの世界へようこそ(岡山大学 森 弥生)

授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

(注意事項)

- ・各講義の関連資料はMoodleに随時掲載を行うため、受講前に事前に資料を確認して下さい。
- ・講義アンケート、レポート、グループワーク成果物のリンク・提出先もMoodle内にあります。

(評価について)

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

50% : 50%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

半分以上

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

半分以上

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

半分以上

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

半分以上

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Cタイプ(実習や演習だが社会連携したものでない)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

- ・配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。
- ・遅刻、欠席の場合は分かった時点で教務の出席フォームより連絡して下さい。
- ・実習日などで急ぐ場合は医学科教務(086-235-7021)に電話連絡を必ず行なって下さい。
- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

半分以上

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

半分以上

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

半分以上

(2)履修者への連絡事項

配慮が必要な学生さんは事前に担当教員までご連絡ください。

■ 教科書

備考

WHO患者安全カリキュラムガイド多職種版

■ 参考書

参考書1	ISBN			
	書名	ナラティブ・メディスン 物語能力が医療を変える		
	著者名			
	出版社	医学書院	出版年	
参考書2	ISBN			
	書名	ナラティブ・メディスンの原理と実践		
	著者名			
	出版社	北大路書房	出版年	

備考

医療関係者のための信念対立解明アプローチ(コミュニケーションスキル入門)京極 真

『超チーム力 会社が変わる シリコンバレー式組織の科学』(リッチ・カールガード[著] / マイケル・S・マローン[著] / 濱野 大道[翻訳] / ハーパーコリンズ・ジャパン [刊])

■ 成績評価

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

■ 受講要件

特になし

■ 教職課程該当科目

該当しない

■ JABEEとの関連

該当しない

■ 持続可能な開発目標(SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

(平和)持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

■ 実務経験のある教員による授業科目

該当する

実務経験による(臨床・各専門分野)

■ 備考/履修上の注意

- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう
- ・ディスカッションには積極的参加しましょう

■ 学習成果(LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
修得した幅広い教養を基盤に、人々の多様性を理解し、これを受け入れることができる。	多文化・異文化に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
人体の構造と機能、疾病の成り立ち、予防と治療について深く理解し、説明できる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
獲得した情報を正しく効果的に活用できる。	数量的スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
情報を仲間やチームで共有し、よりよい医療の実現に結びつけることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの中で自らの役割を見出し、責任をもって役割を果たすことができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
積極的に問題を見出し、適切な改善策を講じることができる。	問題解決力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの一員として、他者を教え、育てることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医学・医療を究めるために、自ら目標を設定し、達成にむけて取り組むことができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らの意思で、自身の能力向上や精神的な成長を目指すことができる。	自己管理力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
明確な目標を立て、目標に達成にむけ行動し、人として成長し続けることができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts ~ Okadai Med Arts		
講義番号	科目区分	学期
068026		特別
ナンバリングコード	教室	
NDDZ3MEMZ5001N		
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
0.6	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
越智 可奈子 [OCHI Kanako], 伊野 英男 [INO Hideo], 松川 昭博 [MATSUKAWA Akihiro], 小比賀 美香子 [OBIKA Mikako], 香田 将英 [KODA Masahide], 岡崎 勇樹 [OKAZAKI Yuki]		

持続可能な開発目標(SDGs)



対象学生

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

医学科教務担当: igaku-k@okayama-u.ac.jp

担当教員(連絡担当): kanako-ochi@okayama-u.ac.jp(医療教育センター 越智可奈子)

オフィスアワー

医学科教務: 月曜日～金曜日(9時～17時)

担当教員への相談はいつでも可。メールでアポイントを取ってください。

学部・研究科独自の項目

PR: プロフェッショナルリズム

GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢

LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

CS: 患者ケアのための診療技能

使用言語

日本語

授業の概要

行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts(岡大メッド・アーツ) ~

人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナルリズム」など医師に必要な資質・能力を修得するための構造化された学習プログラムであり、6年間を通して実施されるパフォーマンス評価のための重要科目でもある。

(全学年共通項目)医師のプロフェッショナルリズム・コミュニケーション・アート

(各学年重点項目)下記

- ・1年次:メッド・アーツ : プロフェッショナルリズム、自己理解・他者理解、社会人のコミュニケーション、職場体験
- ・2年次:メッド・アーツ : 研究倫理・ユマニチュード・対話・多様性
- ・3年次:メッド・アーツ : 医師のキャリア、医療と社会
- ・4年次:メッド・アーツ : 多職種連携、ナラティブメディスン、多様性
- ・5年次:メッド・アーツ : 多様性、Whole Person Care、医療人類学の視点、リフレクション
- ・6年次:メッド・アーツ : 初期研修への展望

(学習目標)

- 1) 知る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を言葉・文字で感じる)
- 2) 視る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を目に焼き付ける)
- 3) 触れる・メッド・アーツ (先人と共に経験や知恵を体感する)
- 4) 動く・メッド・アーツ (自ら動いて新たな経験や知恵を手に入れる)
- 5) 繋がる・メッド・アーツ (他者と共に新たな経験や知恵を手に入れる)
- 6) 創る・メッド・アーツ (他者と共に未来につながる経験や知恵を創る)

到達目標

全学年共通到達目標

- ・第1段階: 医師のプロフェッショナリズム・行動科学及び非認知能力の概要とその重要性を理解する
- ・第2段階: 行動科学の具体的な活用方法と非認知能力の養成法を説明できる
- ・第3段階: 他者と共に行動科学の具体的な活用を実践できる
- ・第4段階: 行動科学の実践を通して自らのプロフェッショナリズムを認識できる
- ・第5段階: 自らのプロフェッショナリズムを分析し、評価できる
- ・第6段階: 他者と共にプロフェッショナリズムを相互評価できる

授業計画

変更・連絡事項(課題・グループ分け)など最新版は必ず受講前にMoodleで確認して下さい。

2025年度スケジュール

- ・2026/1/7(水)1-5時間目: CBTを使った振り返り(小児科 藤井 智香子)
- ・2026/1/9(金)2時間目: 初期研修を目前にして(卒後臨床研修センター)
- ・2026/1/9(金)3時間目: Whole Person Care(医療教育センター 岡崎 勇樹)
- ・2026/1/9(金)4時間目: 基本臨床実習振り返り(医療教育センター 越智 可奈子)
- ・2026/1/9(金)5-6時間目: 医療人類学からみたもやもや症例(川崎医療福祉大学 飯田 淳子、岡山リハビリテーション病院 大島 埴生)

授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

(注意事項)

- ・各講義の関連資料はMoodleに随時掲載を行うため、受講前に事前に資料を確認して下さい。
- ・講義アンケート、レポート、グループワーク成果物のリンク・提出先もMoodle内にあります。

(評価について)

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

40% : 60%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

半分以上

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

半分以上

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

半分以上

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

半分以上

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Cタイプ(実習や演習だが社会連携したものでない)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

- ・配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。
- ・遅刻、欠席の場合は分かった時点で教務の出席フォームより連絡して下さい。
- ・実習日などで急ぐ場合は医学科教務(086-235-7021)に電話連絡を必ず行なって下さい。
- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

半分以上

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

1～2回程度

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

1～2回程度

(2)履修者への連絡事項

配慮が必要な学生さんは事前に担当教員までご連絡ください。

■ 教科書

備考

■ 参考書

参考書1	ISBN		
	書名	ケアする人も楽になる 認知行動療法入門 BOOK1 , BOOK2	
	著者名	伊藤 絵美 (著)	
	出版社	医学書院	出版年

備考

新たな全人的ケア トムAハッチンソン

医師のためのベストアドバイス 健康の社会的決定要因

■ 成績評価

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

■ 受講要件

特になし

■ 教職課程該当科目

該当しない

■ JABEEとの関連

該当しない

■ 持続可能な開発目標(SDGs)

- (保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- (教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
- (平和)持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

■ 実務経験のある教員による授業科目

該当する

実務経験による(臨床・各専門分野)

■ 備考/履修上の注意

- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう
- ・ディスカッションには積極的参加しましょう

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
修得した幅広い教養を基盤に、人々の多様性を理解し、これを受け入れることができる。	多文化・異文化に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
人体の構造と機能、疾病の成り立ち、予防と治療について深く理解し、説明できる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医学的視点から、人々が健康に過ごせる社会・環境づくりに貢献できる。	市民としての社会的責任	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
収集した情報の質を適切に分析・評価し、正しい判断を下すことができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
情報を仲間やチームで共有し、よりよい医療の実現に結びつけることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの中で自らの役割を見出し、責任をもって役割を果たすことができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
積極的に問題を見出し、適切な改善策を講じることができる。	問題解決力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの一員として、他者を教え、育てることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医学・医療を究めるために、自ら目標を設定し、達成にむけて取り組むことができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らの意思で、自身の能力向上や精神的な成長を目指すことができる。	自己管理能力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らのストレスや心の健康状態について正しく認識し、対処できる。	自己管理能力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
明確な目標を立て、目標に達成にむけ行動し、人として成長し続けることができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

2025 年度 特別 医学部 医学科		日英区分: 日本語
行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts ~ Okadai Med Arts		
講義番号	科目区分	学期
068027		特別
ナンバリングコード	教室	
NDDZ3MEMZ6001N		
必修・選択の別	メディア授業科目	
	-	
単位数	曜日・時限	
0.1	その他	
担当教員(ローマ字表記)		
越智 可奈子 [OCHI Kanako], 伊野 英男 [INO Hideo], 松川 昭博 [MATSUKAWA Akihiro], 小比賀 美香子 [OBIKA Mikako], 香田 将英 [KODA Masahide], 岡崎 勇樹 [OKAZAKI Yuki]		

持続可能な開発目標(SDGs)



対象学生

他学部学生の履修の可否

否

連絡先

医学科教務担当: igaku-k@okayama-u.ac.jp

担当教員(連絡担当): kanako-ochi@okayama-u.ac.jp(医療教育センター 越智可奈子)

オフィスアワー

医学科教務: 月曜日～金曜日(9時～17時)

担当教員への相談はいつでも可。メールでアポイントを取ってください。

学部・研究科独自の項目

PR: プロフェッショナルリズム

GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢

LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

CS: 患者ケアのための診療技能

使用言語

日本語

授業の概要

行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目 ~ Okadai Med Arts(岡大メッド・アーツ) ~

人の心や社会性に関係する力である非認知能力などの養成を通じて「プロフェッショナルリズム」など医師に必要な資質・能力を修得するための構造化された学習プログラムであり、6年間を通して実施されるパフォーマンス評価のための重要科目でもある。

(全学年共通項目) 医師のプロフェッショナルリズム・コミュニケーション・アート

(各学年重点項目) 下記

- ・1年次:メッド・アーツ : プロフェッショナルリズム、自己理解・他者理解、社会人のコミュニケーション、職場体験
- ・2年次:メッド・アーツ : 研究倫理・ユマニチュード・対話・多様性
- ・3年次:メッド・アーツ : 医師のキャリア、医療と社会
- ・4年次:メッド・アーツ : 多職種連携、ナラティブメディスン、多様性
- ・5年次:メッド・アーツ : 多様性、Whole Person Care、医療人類学の視点、リフレクション
- ・6年次:メッド・アーツ : 初期研修への展望

(学習目標)

- 1) 知る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を言葉・文字で感じる)
- 2) 視る・メッド・アーツ (先人の経験や知恵を目に焼き付ける)
- 3) 触れる・メッド・アーツ (先人と共に経験や知恵を体感する)
- 4) 動く・メッド・アーツ (自ら動いて新たな経験や知恵を手に入れる)
- 5) 繋がる・メッド・アーツ (他者と共に新たな経験や知恵を手に入れる)
- 6) 創る・メッド・アーツ (他者と共に未来につながる経験や知恵を創る)

到達目標

全学年共通到達目標

- ・第1段階: 医師のプロフェッショナリズム・行動科学及び非認知能力の概要とその重要性を理解する
- ・第2段階: 行動科学の具体的な活用方法と非認知能力の養成法を説明できる
- ・第3段階: 他者と共に行動科学の具体的な活用を実践できる
- ・第4段階: 行動科学の実践を通して自らのプロフェッショナリズムを認識できる
- ・第5段階: 自らのプロフェッショナリズムを分析し、評価できる
- ・第6段階: 他者と共にプロフェッショナリズムを相互評価できる

授業計画

変更・連絡事項など最新版は必ず受講前にMoodleで確認して下さい。

2025年度スケジュール

・2025/10/21(火)8-9時間目: プロフェッショナリズム・行動科学を通じた6年間の振り返り、講演: 初期研修医を目前にしたみなさんへ(医療教育センター 伊野英男、三豊総合病院 藤川 達也)

授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

(注意事項)

- ・講義の関連資料はMoodleに随時掲載を行うため、受講前に事前に資料を確認して下さい。

(評価について)

- ・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。
- ・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。
- ・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

40% : 60%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

半分以上

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

半分以上

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

半分以上

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

半分以上

(3)授業形態-実践型科目タイプ

Cタイプ(実習や演習だが社会連携したものでない)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

- ・配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。
- ・遅刻、欠席の場合は分かった時点で教務の出席フォームより連絡して下さい。
- ・実習日などで急ぐ場合は医学科教務(086-235-7021)に電話連絡を必ず行なって下さい。
- ・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう。

使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのライド、CD、DVDなど)

半分以上

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

1～2回程度

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

1～2回程度

(2)履修者への連絡事項

配慮が必要な学生さんは事前に担当教員までご連絡ください。

教科書

備考

参考書

参考書1	ISBN			
	書名	ケアする人も楽になる 認知行動療法入門 BOOK1 , BOOK2		
	著者名	伊藤 絵美 (著)		
	出版社	医学書院	出版年	

備考

新たな全人的ケア トムAハッチンソン

医師のためのベストアドバイス 健康の社会的決定要因

成績評価

・評価は講義および実習への参画度(60%)、提出物評価(個人レポート・グループワーク成果物)(40%)とします。

・提出物は、特別な事情がない限り期限を超えての提出は認められません。

・公欠の場合は代替提出物などを別途提出がありますので、教務からの連絡に注意して下さい。

受講要件

特になし

教職課程該当科目

該当しない

JABEEとの関連

該当しない

持続可能な開発目標(SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

(平和)持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

実務経験による(臨床・各専門分野)

備考/履修上の注意

・医学生としてふさわしい行動を心がけましょう

・ディスカッションには積極的参加しましょう

学習成果(LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
修得した幅広い教養を基盤に、人々の多様性を理解し、これを受け入れることができる。	多文化・異文化に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習

問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
人体の構造と機能、疾病の成り立ち、予防と治療について深く理解し、説明できる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医学的視点から、人々が健康に過ごせる社会・環境づくりに貢献できる。	市民としての社会的責任	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
収集した情報の質を適切に分析・評価し、正しい判断を下すことができる。	論理的思考力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
情報を仲間やチームで共有し、よりよい医療の実現に結びつけることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの中で自らの役割を見出し、責任をもって役割を果たすことができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
積極的に問題を見出し、適切な改善策を講じることができる。	問題解決力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
チームの一員として、他者を教え、育てることができる。	チームワーク・リーダーシップ	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
医学・医療を究めるために、自ら目標を設定し、達成にむけて取り組むことができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らの意思で、自身の能力向上や精神的な成長を目指すことができる。	自己管理能力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
自らのストレスや心の健康状態について正しく認識し、対処できる。	自己管理能力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習
明確な目標を立て、目標に達成にむけ行動し、人として成長し続けることができる。	生涯学習力	・グループディスカッション、発表、レポート、ロールプレイ、小テスト、実習

[コア・コンピテンシーに関する説明](#)

医推第582号
令和7年8月12日

厚生労働省医政局長 殿

岡山県保健医療部長 辰巳 秀爾

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和7年8月5日付け7文科高第666号、医政発0805第5号に基づき、下記のとおり、令和8年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

2名

・岡山大学医学部における地域枠：2名

担当：医療推進課医師確保対策担当 常次

電話番号：086-226-7485

メールアドレス：masato_tsunetsugu@pref.okayama.lg.jp

令和7年8月13日

厚生労働省医政局長 様

広島県健康福祉局医療介護基盤課長
(〒730-8511 広島市中区基町10-52)

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和7年8月5日付け7文科高第666号、医政発0805第5号に基づき、下記のとおり、令和8年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

増員数

15名

- ・岡山大学医学部における地域枠：2名
- ・広島大学医学部における地域枠：13名

担当：医療支援G

電話：082-513-3062

(担当者：砂田)



(公 印 省 略)
医 第 2 4 7 9 号
令 和 7 年 8 月 8 日

厚生労働省医政局長 殿

兵庫県知事 齋藤 元彦

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和7年8月5日付け7文科高第666号、医政発0805第5号に基づき、下記のとおり、令和8年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

16名

- ・神戸大学医学部における地域枠：10名
- ・鳥取大学医学部における地域枠：2名
- ・岡山大学医学部における地域枠：2名
- ・兵庫医科大学医学部における地域枠：2名

担当：保健医療部医務課医療人材確保班 河野
電話番号：078-341-7711（内線2729）

ARTプログラムとは

- ◆2009年に全国に先駆けて大学院医歯薬学総合研究科で始まった「臨床研修と博士号取得を効率よく両立させるプログラム」
- ◆学部と大学院をシームレスに連結し「研究医とリサーチマインドを有した臨床医を育てる」岡山大学独自のキャリアパスプログラムです。
- ◆岡山大学病院（先進プログラム、産科婦人科・小児医療特別プログラム、基礎研究医プログラム）と岡山市立市民病院の初期研修医は、ARTプログラムを選択することで岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程に入学でき、臨床研修と大学院での研究活動を両立させることによって、早期の博士号取得を目指すことができます。



ART II プログラムとは

- ◆ 「臨床研修終了して専門研修中または専門研修終了後に、大学院で博士号取得を目指すプログラム」
- ◆ 対象：岡山大学医学部医学科出身者で、臨床研修終了後に岡山大学病院等での専門研修中 または専門研修を終了し、大学院進学をされる方



※ARTプログラム、ART II プログラムは大学院の特別入試の一つとして入試選考を実施（出願要項は次頁）

2026年4月入学

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
博士課程

ART プログラム特別入試
学生募集要項

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE, DENTISTRY AND
PHARMACEUTICAL SCIENCES

OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

鹿田キャンパス

連絡先 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ

所在地 〒700-8558 岡山市北区鹿田町2丁目5番1号

電話 (医学系) 大学院担当 TEL086-235-7986 (直通)

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/>

目 次

アドミッション・ポリシー

I 募集人員	1 ページ
II 入試日程	1 ページ
III ART プログラム特別入試	2 ページ
IV 研究科案内	8 ページ
V 教員組織と研究内容	11 ページ

ART プログラム特別入試の特徴等

1. 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科では、ART プログラム（Advanced Research Training program, 先進医学修練プログラム）により、優秀な医学研究者養成を目指しています。
2. ART プログラムとは、岡山大学病院又は岡山市立市民病院で「**卒後臨床研修**」を受けながら、研修1年目から「**大学院博士課程**」への入学が可能な“学部と大学院をシームレスに連結する”キャリアアパスプログラムです。ART II プログラムとは、Pre-ART プログラム科目履修生として岡山大学大学院医歯薬学総合研究科に在籍した方が「**岡山大学大学院博士課程**」への入学を目指す”キャリアアパスプログラムです。
3. 本研究科では、プログラムを推進するため、「ART プログラム推進室」（管理棟5階 総合内科学分野内）を設置しています。
4. 入学する場合の学位プログラム等は、IV「研究科案内」のうち(1)医学学位プログラム、(2)包括がん研究者・研究医養成プログラム がん研究者コース、(3)包括がん研究者・研究医養成プログラム がん研究医コース、(4)グローバル医療人養成プログラム、(5)メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム ビッグデータ解析コース、(6)メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム 医療AI応用コースとなります。
5. 入学する場合の指導教授としては、V「教員組織と研究内容」のうち医学系講座の教育研究分野が対象となります。

※本募集要項においては、次のとおり略記を使用しています。

卒後臨床研修 … 医師法（昭和二十三年七月三十日法律第二百一号）第16条の2 第1項に規定する臨床研修

ART プログラム ウェブサイト <https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/project/art/>

入学試験に関する照会先

鹿田キャンパス

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2丁目5番1号

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ

(医学系) 大学院担当 TEL086-235-7986

E-mail: kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp

募集要項及び出願書類をダウンロードの上、出願してください。

ダウンロードができない場合や、印刷が困難な場合は、お問い合わせください。

アドミッション・ポリシー

求める学生像

大学院医歯薬学総合研究科医歯薬学専攻（博士課程）では、次のような学生を求めています。

- ・医学・歯学・薬学領域の創造的研究，学際的研究，国際的研究を志す人
- ・高度先端医療，全人的医療を志す人
- ・医療系社会人として活躍しながら研究を志す人
- ・6年制の医学・歯学・薬学教育を受け医療資格を有する人，または関連領域の修士課程，博士前期課程の修了者として相応しい知識・技能・態度を修得している人

入学者選抜の基本方針

人間・社会・自然を理性的に理解するための視点は様々であり，多様な学生を確保するために6種の入学者選抜試験を実施しています。

ART プログラム特別入試

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では，医歯薬学分野の英語課題を用い，語学力のみならず，論理構造の理解力，日本語の表現力等を総合的に評価します。また，志望する教育研究分野の専門科目により，医歯薬学の専門性への理解力を評価します。専門科目の口述試験では，専門科目に関する知識，理解力やキャリアプランなどについて志望する研究分野の教員が評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
ART プログラム特別入試	☆	口述試験（専門科目）	◎	英語 専門科目	☆	口述試験（専門科目）

(注)◎は特に重視する要素，☆は総合的な判断となる要素

各要素に関する資料は，「主とする資料」であり，それ以外の要素でも活用する場合はある。

医学学位プログラム

医学学位プログラムでは，次のような学生を求めています。

- ・医学の創造的研究，学際的研究，国際的研究を志す人
- ・高度先端医療，全人的医療を志す人
- ・医療系社会人として活躍しながら研究を志す人
- ・6年制の医学・歯学・薬学教育を受け医療資格を有する人，または関連領域の修士課程，博士前期課程の修了者として相応しい知識・技能・態度を修得している人

上記のアドミッション・ポリシーの他に，本研究科の人材養成目的，ディグリー・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーは，以下の研究科ウェブサイトを参照してください。

人材養成目的及び3ポリシー

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/about/3policy/>

I 募集人員

専攻	2026年4月入学 募集人員	
医歯薬学専攻	ARTプログラム	ARTⅡプログラム
	若干人	

II 入試日程

出願期間	2025年 6月16日(月) ～ 2025年 6月24日(火)
試験日	2025年 7月19日(土)
合格者発表	2025年 9月 5日(金)

※試験に関する重要なお知らせが生じた場合には、医歯薬学総合研究科公式ウェブサイトにより周知を行いますので、必ず確認してください。

Ⅲ ARTプログラム特別入試

Ⅰ 出願資格

【ARTプログラム】

次の（１）及び（２）のいずれにも該当する者

（１）次のいずれかに該当する者又は２０２６年３月までに該当する見込みの者

- ①大学の医学の課程を卒業した者
- ②学校教育法第１０４条第７項の規定により学士の学位（学位に付記する専攻分野の名称が医学）を授与された者

（注１） 出願資格(1)②に該当する見込みの者とは、次のいずれかの者です。

- ①独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行する学位授与申請受理証明書を提出できる者
- ②学位規則（昭和２８年文部省令第９号）第６条第１項の規定に基づき独立行政法人大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定を受けている専攻科に在籍する者で、当該専攻科の修了が見込まれること及び当該者が学士の学位の授与を申請する予定であることを当該専攻科の置かれる短期大学長又は高等専門学校長が証明できる者

（２）岡山大学病院又は岡山市立市民病院で「卒後臨床研修」を受けながら、「大学院博士課程」への入学を志願する者

【ARTⅡプログラム】

次の（１）、（２）及び（３）のいずれにも該当する者

（１）次のいずれかに該当する者又は２０２６年３月までに該当する見込みの者

- ①大学の医学の課程を卒業した者
- ②学校教育法第１０４条第７項の規定により学士の学位（学位に付記する専攻分野の名称が医学）を授与された者

（注１） 出願資格(1)②に該当する見込みの者とは、次のいずれかの者です。

- ①独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行する学位授与申請受理証明書を提出できる者
- ②学位規則（昭和２８年文部省令第９号）第６条第１項の規定に基づき独立行政法人大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定を受けている専攻科に在籍する者で、当該専攻科の修了が見込まれること及び当該者が学士の学位の授与を申請する予定であることを当該専攻科の置かれる短期大学長又は高等専門学校長が証明できる者

（２）岡山大学医歯薬学総合研究科のPre-ARTプログラム科目等履修生として４年以上^{*}在籍し、在籍時の指導教員の作成する研究報告書を毎年提出し、学士取得後６年以内の者で「大学院博士課程」への入学を志願する者

※岡山大学医学部医学科を２０２４年度から２０２７年度に卒業する者又は岡山大学医学部医学科を卒業後６年以内の者で、且つPre-ARTプログラム科目等履修生であった者は、岡山大学医歯薬学総合研究科のPre-ARTプログラム科目等履修生としての在籍期間を以下とする。

２０２７年度卒業者はPre-ARTプログラム科目等履修生として３年以上の在籍

２０２６年度卒業者はPre-ARTプログラム科目等履修生として２年以上在籍

２０２５年度卒業者はPre-ARTプログラム科目等履修生として１年以上在籍

２０２４年度卒業者又は岡山大学医学部医学科卒業後６年以内且つPre-ART生であった者は指導教員の推薦状を提出できる者

（３）卒後臨床研修が終了又は継続しており、「大学院博士課程」への入学を志願する者

2 障がい等のある方の出願

障がい等のある入学志願者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願に先立ち、次により相談してください。

相談結果の通知及び特別な配慮に基づく必要な措置を講ずるための所要時間を考慮し、少しでも早く相談してください。

相談締切期限	2025年 5月23日(金)
相談方法	「出願に伴う事前相談書」を請求して、医師の診断書及び障害者手帳の写し(交付されている方のみ)を添えて相談してください。
請求先・相談先	「3 出願手続の(3)出願書類提出先」に請求・相談してください。

3 出願手続

(1) 出願方法

入学志願者は、注意事項に留意し、(5)の「出願に必要な書類等」を、出願期間内に下記の提出先へ持参又は出願期間内に必着するよう「書留・速達」として郵送してください。

出願に必要な書類等のうち、様式が指定されているものについては、医歯薬学総合研究科公式ウェブサイトよりダウンロードの上、提出してください。

【<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/>】

(2) 出願期間

2025年 6月16日(月)～2025年 6月24日(火) 必着

持参する場合の受付時間は、各日とも9時00分から17時00分までとします。

郵送の場合も、期限内に必着としますので、郵便事情等を十分考慮の上、余裕をもって発送してください。出願期間中に一部の書類を提出し、出願期間後に不足する書類を追加提出することは認められません。

なお、封筒表面に「医歯薬学総合研究科(博士課程) ARTプログラム特別入試入学願書在中」と朱書きし、発送時に到着日時を必ず確認しておいてください。

(3) 出願書類提出先

鹿田キャンパス

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2丁目5番1号

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ

(医学系)大学院担当 (管理棟1階) TEL:086-235-7986

(4) 出願上の注意

- ① 出願を希望する方は、あらかじめ志望する教育研究分野の指導教授と面談し、入学後の研究・教育及び修了後の進路について相談してください。
- ② 出願資格【ARTプログラム】により出願を希望する者で、志望教育研究分野が定まっていない場合、入学後1年間に限りARTプログラム推進室教授が指導教授を務めることが可能です。あらかじめARTプログラム推進室教授と面談し、入学後の研究・教育及びキャリアプランについて相談してください。
ARTプログラム推進室教授が指導教授を務める場合、入学後1年の間に研究室の選定を行い、2年目以降の教育研究分野を決めることとなります。教育研究分野の変更には手続きを要しますので、1年目の1月が決定の目途となります。
- ③ 出願書類のうち、英語以外の外国語で書かれた証明書等には、その日本語訳を添付してください。
- ④ 出願後の出願書類等の記載内容についての変更は認められません。
- ⑤ 出願書類受理後は、いかなる理由があっても返却しません。
- ⑥ 出願書類に不備があるもの及び入学検定料に不足のあるものは受理しません。
- ⑦ 出願書類等の記載内容に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学が取り消されることがありますので注意してください。
- ⑧ 改姓(名)前の証明書を使用する場合の提出書類について、志願票の氏名と異なる旧姓(名)の記載された証明書も使用できますが、その場合は、改姓(名)の日付と新旧姓(名)を入学志願者本人が記入した文書(署名入りのもの。様式は任意です。)を添付してください。

(5) 出願に必要な書類等

出願に必要な書類	摘 要
①志願票 ・受験票・写真票	医歯薬学総合研究科公式ウェブサイトよりダウンロードし、印刷したものに記入等の上、提出してください。 電話番号、E-mailは確実に連絡が取れるものを記入し、E-mailは岡山大学からのメール (@adm.okayama-u.ac.jp) が受信できるように設定してください。
②写真	縦4cm×横3cm、カラー、上半身、無帽、正面向きで出願前3か月以内に撮影した写真を「写真票」の所定欄ののりで貼り付けてください。 貼る前に、写真の裏面に志望の教育研究分野名と氏名を記入してください。
③入学検定料	30,000円（振込手数料が別に必要です。） 入学検定料は、別紙「入学検定料支払の流れ」に従って支払ってください。支払確認後に、「入学検定料支払証明書」を印刷し、出願書類の所定欄ののりで貼り付けて提出してください。 出願期間の1ヶ月前から入学検定料のオンライン支払手続きが可能です。 [入学検定料の返還について] 次の場合を除き、いかなる理由があっても支払済の入学検定料は返還しません。 ア 入学検定料を支払ったが出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合 イ 入学検定料を誤って二重に支払った場合 [入学検定料の免除について] 本学では、2024年4月以降に災害救助法の適用を受けた災害により被災した方の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るために、入学検定料免除の特例措置を講じます。 詳細については、本学公式ウェブサイトに掲載している「入学検定料の免除手続き」をご確認ください。 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/admission/menjo.html
④卒業（見込） 証明書	出身大学長(学部長)が作成した証明書を提出してください。 (卒業証書や学位記ではありません。) ただし、本学医学部医学科出身者は不要です。
⑤成績証明書	出身大学長(学部長)が作成した証明書を提出してください。 ただし、本学医学部医学科出身者は不要です。
⑥受験票等送付用 封筒	長形3号封筒(23.5cm×12cm)に、受験票の送付先(入学志願者本人の郵便番号、住所、氏名)を明記し、410円分の切手を貼ってください。
⑦宛名票	合格通知及び入学手続書類等の送付用 合格者発表日及び入学手続書類発送時に確実に受理できる住所を記入してください。
⑧受験許可書・ 入学承諾書	出願時に、官公署・企業・病院等に勤務し、入学後もその職にある方は提出が必要です。(入学時までに勤務先が変わる場合は不要です。) 医歯薬学総合研究科公式ウェブサイトよりダウンロードした様式を使用して、勤務先(岡山大学病院も含む)が作成したものを提出してください。 なお、本研究科所定の様式によらず、任意の様式でも可としますが、所定様式記載の注意書きを必ず確認した上で、必要事項がすべて含まれる様式としてください。
以下は【ARTプログラム】による出願者のうちARTプログラム奨学金(給付型)を希望する者、または【ARTⅡプログラム】による出願者のみ提出してください。	
⑨Pre-ARTプログラム研究活動 証明書、または 指導教員による 推薦状	岡山大学医学部医学科在籍時に受領したPre-ARTプログラム研究活動証明書を提出してください。2024年度卒業生または岡山大学医学部医学科卒業後6年以内かつPre-ART生であった者は指導教員の推薦状(様式任意)を提出してください。2025年度卒業予定者はPre-ARTプログラム研究活動証明書をARTプログラム推進室に2025年5月30日までに請求してください。 なお、Pre-ARTプログラム研究活動証明書の紛失等で書類の提出が出来ない場合、指導教員による推薦状の提出に代えることは出来ません。

【上記の他、必要によりその他の証明書等の提出を求めることがあります。】

(6) 個人情報の利用目的

提出された出願書類等及び記載されている個人情報は、入学者選抜に係る業務に使用します。また、岡山大学病院初期研修医の採用試験に応募した場合、本研究科への出願状況を、岡山大学病院卒後臨床研修センターに提供することがあります。

ただし、入学者については志願票に記載された氏名、性別、生年月日、現住所、出身学校等の個人情報を本学学務システムの学生基本情報への登録データとしても利用します。

また、合格者の受験番号、氏名（漢字・カナ）の個人情報については、本学授業料債権管理事務システム及び授業料免除事務システムの業務にも利用します。

なお、入学料免除の申請、入学料徴収猶予の申請、授業料免除の申請及び独立行政法人日本学生支援機構奨学金等への申請があった場合は、申請者本人の入学試験成績及び学業成績証明書を入学料免除等の業務に係る学力判定処理に利用することがあります。

4 受験票の交付

(1) 受験票は、下記のとおり本人あて発送します。

なお、到着予定日までに到着しない場合には、「3 出願手続の(3) 出願書類提出先」に連絡してください。

送付時期	2025年 7月 1日(火)頃
到着予定日	2025年 7月 4日(金)頃

(2) 受験票は、試験当日及び入学手続並びに入試情報開示請求の際に必要なとなりますので、大切に保管しておいてください。

5 入学者選抜方法等

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験及び出願書類等を総合して行います。

(1) 試験日及び試験内容

試験日	試験内容		試験時間
2025年 7月19日(土)	筆記試験	英語※1	9:00～10:00
		専門科目 (志望教育研究分野)	10:15～11:00
	口述試験	専門科目 (志望教育研究分野)	11:15～※2

※1 英語の試験には辞書の持ち込みを認めます。(冊子型のみ可。電子辞書は不可。)

- ・持込可能な辞書：英和辞典（ジーニアス，リーダーズ等），和英辞典，英英辞典
- ・持込不可の辞書：医歯薬学に関する辞典，英和辞典（ステッドマン医学大事典，南山堂医学英和大辞典，ハイネマン歯科英和辞典等）

※2 詳細は、受験票送付時にお知らせします。

※3 試験に関する重要なお知らせが生じた場合には、医歯薬学総合研究科公式ウェブサイトにより周知を行いますので、必ず確認してください。

(2) 試験場

試験場については、受験票送付時にお知らせします。

6 合格者発表

合格者の発表は、次のとおり公式ウェブサイトに掲載します。

日 時	2025年 9月 5日 (金) 10時00分 (予定)
URL	https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/

- ① 公式ウェブサイトに合格者の受験番号を掲載し、合格者には同日付けて合格通知書等を、出願時に提出のあった「宛名票」を用いて本人あてに送付します。
- ② 電話等による可否の問い合わせには一切応じません。

7 入学手続

(1) 入学手続方法

入学手続関係書類は、出願時に提出された「宛名票」を用いて、2026年2月20日(金)付けて合格者あてに発送します。

(2) 入学手続期間

2026年 3月12日(木), 3月13日(金) (予定)

8 入試情報の開示

(1) 開示対象者

2026年4月入学入試の受験者

(2) 開示する内容

- ① 本人の試験成績(総得点, 口述試験結果)
- ② 合格者の成績情報(本人が受験した選抜の最高点, 最低点 及び 平均点)
ただし, 当該選抜の合格者が5人未満の場合は開示しません。

(3) 開示請求方法

「入試情報開示請求書」(所定様式)に受験票を添えて, 本人が下記(4)の開示請求受付期間中に, 「3 出願手続(3) 出願書類提出先」に提出してください。

なお, 「入試情報開示請求書」は「3 出願手続(3) 出願書類提出先」の窓口で入手するか, 郵送により請求してください。

郵送で請求する場合には, 返信用封筒(郵便番号・住所・氏名を明記し, 切手(25g以内の郵便物用)を貼った長形3号封筒(縦23.5cm×横12cm))を同封の上, 「受験番号」及び「入試情報開示請求書希望」の旨を明記し, 「3 出願手続(3) 出願書類提出先」に送付してください。

(4) 開示請求受付期間

2026年 5月 1日(金) ~ 6月30日(火)まで 9時00分~17時00分(土・日曜日, 祝日は除く。)
--

(注) 郵送による開示請求の場合は, 期間内の消印があるものに限り受け付けます。

(5) 開示方法

「入試情報開示請求書」受理後, 通知書の準備ができ次第, 速やかに開示(発送)します。

※ ただし, 2026年4月入学者から2026年6月より前に請求があった場合については, 6月以降の開示とします。

請求書類に不備があるときには, 受理しない(修正を求める)ことがあります。

9 その他

(1) 入学料及び授業料

入学料 282,000円 [予定額]

授業料(前半期・後半期共) 267,900円 (年額 535,800円) [予定額]

※ 入学時及び在学中に改定が行われた場合には, 改定時から新たな金額が適用されます。

(2) 修学援助

修学援助の一環として、入学料免除・徴収猶予、授業料免除及び奨学金等の制度があります。

- ・ 学業成績及び収入状況等の条件を満たしていれば、申請により、入学料又は授業料の全額又は半額の免除を受けられる場合があります。
- ・ 学業成績及び収入状況等の条件を満たしていれば、申請により、各種奨学金の支給又は貸与を受けられる場合があります。

・ ARTプログラム奨学金（貸与型）（給付型）、ARTⅡプログラム奨学金（給付型）、基礎研究医プログラム奨学金（給付型）の制度を設けています。申請の後、書類審査により採用されれば、奨学金の貸与（又は給付）を受けられる場合があります。

ただし、以下の場合は奨学金の申請は出来ませんので注意してください。

【ARTプログラム奨学金（貸与型）（給付型）、基礎研究医プログラム奨学金（給付型）】
岡山大学病院又は岡山市立市民病院で「卒後臨床研修」を受けない場合

【ARTプログラム奨学金（給付型）、ARTⅡプログラム奨学金（給付型）】は加えて以下の条件があります。

岡山大学医歯薬学総合研究科のPre-ARTプログラム科目等履修生として4年以上*在籍し、在籍時の指導教員の作成する研究報告書を毎年提出し、学士取得後6年以内の者で「大学院博士課程」への入学を志願する者

※岡山大学医学部医学科を2024年度から2027年度に卒業する者又は岡山大学医学部医学科を卒業後6年以内の者で、且つPre-ARTプログラム科目等履修生であった者は、岡山大学医歯薬学総合研究科のPre-ARTプログラム科目等履修生としての在籍期間を以下とする。

2027年度卒業者はPre-ARTプログラム科目等履修生として3年以上の在籍

2026年度卒業者はPre-ARTプログラム科目等履修生として2年以上在籍

2025年度卒業者はPre-ARTプログラム科目等履修生として1年以上在籍

2024年度卒業者又は岡山大学医学部医学科卒業後6年以内且つPre-ART生であった者は指導教員の推薦状を提出できる者

- ・ ARTプログラム奨学金、基礎研究医プログラム奨学金や日本学生支援機構の奨学金のほかに、次のような奨学金があります。

【大本育英会給付奨学金（募集予定）】

公益財団法人大本育英会では、以下に掲げる岡山大学（以下「本学」という。）の学生（日本国籍に限る）を応募対象として、年額180万円（予定）の給付型奨学金を設けています。

- ・ 本学博士前期課程（修士課程）2年次生で、本学博士後期課程（博士課程）への進学を予定する者（博士後期課程（博士課程）へ進学後、1～3年次の3年間支給）
- ・ 本学以外から入学した博士後期課程1年次生（2～3年次の2年間支給）
- ・ 本学医歯薬学総合研究科（博士課程）1年次生（2～4年次の3年間支給）

大本育英会給付奨学金及びその他民間団体・地方公共団体の奨学金の募集内容については、岡山大学ホームページから最新情報を確認してください。

- ・ 大本育英会給付奨学金

【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_omoto.html

- ・ 民間・地方公共団体の奨学金

【URL】 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/life/seikatu_a2-2.html

(3) 昼夜開講制及び長期履修制度について

博士課程では、社会人の受講に便宜を図るため、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例（昼夜開講制）を適用し、昼間だけでなく夜間等（土曜日、夏季・冬季休業など）においても授業及び研究指導を行っています。勤務しつつ入学する方は、入学手続き時に昼夜開講制を申請するようにしてください。

また、職業を有していることによる修学の困難さに対して、標準修業年限（4年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができる「長期履修制度」を導入しています。

IV 研究科案内

大学院医歯薬学総合研究科は2つのキャンパスに分かれており、博士課程のほか、次の各課程・専攻で構成されています。

課程	専攻	修業年限	授与する学位の名称	キャンパス
博士課程	医歯薬学専攻	4年	博士(医学), 博士(歯学), 博士(薬学), 博士(学術)	鹿田キャンパス (医学系・歯学系) 津島キャンパス (薬学系)
修士課程	医歯科学専攻	2年	修士(医科学), 修士(公衆衛生学), 修士(歯科学), 修士(学術)	鹿田キャンパス
博士後期課程	薬科学専攻	3年	博士(薬科学), 博士(学術)	津島キャンパス
博士前期課程	薬科学専攻	2年	修士(薬科学)	津島キャンパス

博士課程

1. 組織及び研究内容

11ページからの「V 教員組織と研究内容」を参照してください。

2. 修了要件

所定の30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う研究基礎力審査、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。修了要件を満たした者には、上記の学位が授与されます。

3. 博士課程の学位プログラム等及び履修方法

博士課程には、以下の学位プログラム等を設けています。

詳細は、医歯薬学総合研究科公式ウェブサイト <https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/> を参照してください。

右記のQRコードからアクセスすることができます。また、入学後の授業日程等についても、公式ウェブサイトにて確認できます。

- (1) 医学学位プログラム
- (2) 包括がん研究者・研究医養成プログラム がん研究者コース
- (3) 包括がん研究者・研究医養成プログラム がん研究医コース
- (4) グローカル医療人養成プログラム
- (5) メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム ビッグデータ解析コース
- (6) メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム 医療AI応用コース
- (7) 歯学学位プログラム
- (8) ボーダレス歯学研究者養成プログラム
- (9) 薬学学位プログラム



(1) 医学学位プログラム

難治性疾患，加齢性疾患，生活習慣病に関連する医学系講座の教育研究分野を中核とし，臨床研究中核病院である岡山大学病院の診療科や歯学系講座や薬学系講座の教育研究分野と幅広く連携して，難治性疾患の病因解明や治療，健康寿命延伸に焦点をあてた基礎・臨床・社会医学の先進的教育研究を推進する学位プログラムを展開します。

時代の要請に応じて先進的医療技術の開発・応用を担うことができる先端医療人，及び医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し学際的・国際的に活躍できる研究者と教育者を養成します。修了後の進路として，生命科学を深く理解し先進的医療技術を有する高度臨床医や先端治療の専門医，生命科学研究に関わる国内外の公的機関や企業の研究者，生命科学領域で人類の叡智を拓き社会実装に取り組みつつ後進を養成する大学教員などを想定しています。

履修モデル及び授業科目一覧は以下の Web サイトの「医学学位プログラム」をご覧ください。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/doctor/>

(2) 包括がん研究者・研究医養成プログラム がん研究者コース

岡山大学がん研究コンソーシアムが主体として実施する研究者コースと中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが主体となって実施する研究医コースを包括しています。原則としていずれのコースの学生も他方のコースの講義を選択必修科目又は選択科目として履修できることが特徴です。

がん研究者コースでは，最新のがん研究に関する統合的理解と研究推進能力を兼ね備えた人材を養成します。修了後の進路として，がんに関わる国内外の研究機関・企業の研究者，最新の専門知識と集学的診断・治療技術を駆使できる高度研究医，がん病態の深層研究と後進の養成に従事し医療実装に貢献する基礎系大学教員などを想定しています。

履修モデル及び授業科目一覧は以下の Web サイトの「がん研究者コース」をご覧ください。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/doctor/>

(3) 包括がん研究者・研究医養成プログラム がん研究医コース

岡山大学がん研究コンソーシアムが主体として実施する研究者コースと中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムが主体となって実施する研究医コースを包括しています。原則としていずれのコースの学生も他方のコースの講義を選択必修科目又は選択科目として履修できることが特徴です。

がん研究医コースでは，がんに特化した臨床研究方法を理解し，トランスレーショナルリサーチ，臨床研究，治験などを立案，企画，実践，さらに医療統計などを駆使して統合的に解析できる人材を養成します。修了後の進路として，がん診療拠点施設の診療研究医，がんに関する高度の教育研究能力を有し国際的に活躍する臨床系大学教員などを想定しています。

履修モデル及び授業科目一覧は以下の Web サイトの「がん研究医コース」をご覧ください。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/doctor/>

(4) グローカル医療人養成プログラム

ローカルな地域医療ニーズに根ざしつつも、専門性を越えた統合的理解と横断的なアプローチで医療課題を解決する着眼点・方法論を修得し、グローバルな視点で課題解決に取り組む姿勢を自ら発展させていくことができる人材を養成します。修了後の進路として、高度専門職業人たる General Practitioner (GP)を軸に、地域医療に携わる診療研究医、診断学・治療学・疫学・倫理学・社会学・教育学などの横断的・統合的な教育研究能力を有し国際的に活躍する大学教員などを想定しています。感染症分野におけるキャリアパスとしては、臨床感染症専門医、医系技官／保健所長などの保健・行政における専門職業人、高度な知識背景を持つ基礎研究者、WHOなどの国際機関で活躍する人材の輩出を目指します。

履修モデル及び授業科目一覧は以下の Web サイトの「グローバル医療人養成プログラム」をご覧ください。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/doctor/>

(5) メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム ビッグデータ解析コース

革新的医療の創出のため、医療データの管理・解析と新領域・複合領域の研究開発、さらに成果の社会実装を索引できるメディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)人材を学際的機能連携により養成します。

ビッグデータ解析コースでは、データ研究のコーディネートやプロジェクト・マネジメント能力を有する人材を養成します。修了後の進路として、創薬や治験に関わるデータサイエンティストなどの企業研究者、メディカルデータサイエンス研究を立案・実施・評価できる大学教員、公衆衛生行政をリードする高度で知的な素養のある公務員などを想定しています。

履修モデル及び授業科目一覧は以下の Web サイトの「ビッグデータ解析コース」をご覧ください。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/doctor/>

(6) メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム 医療 AI 応用コース

革新的医療の創出のため、医療データの管理・解析と新領域・複合領域の研究開発、さらに成果の社会実装を索引できるメディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)人材を学際的機能連携により養成します。

医療 AI 応用コースでは、医療 AI に関する学際的な理解力と医療課題解決につながる実践力を兼ね備えた人材を養成します。修了後の進路として、新領域や複合領域で全く新しい課題に挑戦する企業研究者、医療データの利活用により臨床上の問題を解決して複合的な価値を創造できる高度先端医療人などを想定しています。

履修モデル及び授業科目一覧は以下の Web サイトの「医療 AI 応用コース」をご覧ください。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/doctor/>

※歯学学位プログラム、ボーダレス歯学研究者養成プログラム及び薬学学位プログラムの説明は、割愛します。

V 教員組織と研究内容

Department and Research Projects

医歯薬学専攻

Division of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

○ 医学系講座

Section of Medicine

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>細胞組織学 Cytology and Histology TEL 086-235-7083 http://www.okayama-u.ac.jp/user/anatomy1/ saibousoshiki2014@gmail.com</p>	<p>教授 大内 淑代 Professor OHUCHI, Hideyo</p>	<p>1. 新型光受容器および短波長感受オプシンの細胞組織学的機能解析 2. 神経網膜の発生分化と再生の分子機構の研究 3. 発生進化的アプローチによる再生の分子機構の解明 4. 腫瘍関連遺伝子および疾患関連遺伝子の生物学的・発生的役割の解明 5. 病態解明と創薬を目指した疾患モデル動物・細胞の作製と解析</p>	<p>1. Cellular, immunohistochemical, and functional analysis of vertebrate novel photoreceptors and non-canonical opsins (Opsin5, Opsin 3) 2. Studies on molecular mechanisms of neural retina development, differentiation and regeneration 3. Studies on molecular mechanisms of tissue regeneration via evo-devo approaches 4. Studies on biological and developmental functions of tumor-associated genes and disease-related genes 5. Generation of disease-model animals/cells for elucidating pathophysiology and drug screening</p>
<p>人体構成学 Human Morphology TEL 086-235-7088 https://www.okayama-u-humanmorphology.website/ akawa@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 川口 綾乃 Professor KAWAGUCHI, Ayano</p>	<p>1. 大脳発生における神経前駆細胞の動態 2. 神経細胞の離脱と細胞配置の制御機構 3. 器官形成におけるEMT（上皮間葉転換）の制御 4. 基底膜の構造と機能 5. 成人組織細胞の可塑性 6. 組織幹細胞の機能破綻と疾患</p>	<p>1. Dynamics of neural progenitor cells during brain development 2. Mechanisms controlling neural cell delamination and cell positioning 3. Control of EMT (epithelial-mesenchymal transition) in organogenesis 4. Structure and function of the basement membrane 5. Developmental plasticity in human adult tissue cells 6. Molecular basis of tissue stem cells and cancer (stem) cells</p>
<p>脳神経機構学 Medical Neurobiology TEL 086-235-7097 https://okayama-medicalneuro.com/ asachan@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 浅沼 幹人 Professor ASANUMA, Masato</p>	<p>1. 神経外脳内環境を標的とした神経疾患に対する新規神経保護方策の開発 2. グリア細胞の部位特異的プロファイルがもたらす脳内環境と神経保護 3. 環境要因誘発パーキンソン病モデルの脳腸病態解析 4. 食品中に溶出する内分泌攪乱物質の母胎への曝露が産児脳発達に及ぼす影響 5. 神経細胞分化に関わる超らせんDNA結合タンパク質の分子機能解析</p>	<p>1. Neuroprotection for neurological disorders targeted on non-neuronal brain environment 2. Brain environment and neuroprotection based on region-specific features of glial cells 3. Brain-gut neurodegeneration in environmental toxin-induced model of parkinson's disease 4. Effects of exposure of dam to endocrine disruptor on neonatal brain development 5. Molecular analysis of supercoiled DNA binding proteins related to neuronal differentiation</p>
<p>細胞生理学 Cellular Physiology TEL 086-235-7105 https://okayamaseiri1.wordpress.com/</p>	<p>[未定] undecided</p>	<p>1. 神経系と他系（循環系,内分泌系など）の連関による細胞・個体調節と疾患・医療応用 2. 神経系とがん 3. メカニカルストレスによる細胞機能調節と疾患・医療応用</p>	<p>1. Interaction between Neural and Other (Circulatory, Endocrinology) Systems, Disease to Medical Application 2. Neural System and Cancer (from Basic Science to Clinical Application) 3. Regulation of Cellular function by Physical stimulation, Disease to Medical Application</p>

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>システム生理学 Cardiovascular Physiology TEL 086-235-7112 https://websv.okayama-u.ac.jp/phy2/ knaruse@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 成瀬 恵治 Professor NARUSE, Keiji</p>	<p>1. メカニカルストレス受容・応答機構 2. メカノレセプターのクローニング・分子機構 3. 機械受容チャネルのパッチクランプを用いた解析 4. 心臓の機能とエネルギー解析 5. 心不全の分子メカニズム 6. メカニカルストレスと再生医療（骨・軟骨・心筋・皮膚） 7. 生殖補助医療（不妊治療） 8. 臓器チップ技術によるヒト臓器機能再現、および疾患モデル開発</p>	<p>1. Mechanotransduction 2. Cloning and identification of Mechanoreceptor 3. Patch clamp of stretch-activated channel 4. Cardiac function and energy analysis 5. Molecular mechanism of heart failure 6. Regenerative Medicine (bone, chondrocytes, heart, skin) 7. Infertility 8. Reproduction of human organ functions and development of disease models using organ-on-a-chip technology</p>
<p>生化学 Biochemistry TEL 086-235-7125 https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/research/researchfield/biochemistry/ hiroyama@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>(准教授 山田 浩司) Associate Professor YAMADA, Hiroshi</p>	<p>1. 膜と細胞骨格のダイナミクス制御による細胞機能と疾患 1) 熱帯熱マラリア原虫の膜ダイナミクスと抗マラリア薬の探索 2) 糸球体ポドサイトの血液濾過機構と慢性腎臓病改善薬の探索 3) 神経シナプス、神経突起形成の分子機構 4) がん細胞の浸潤機構とがん浸潤阻害薬の探索 5) クライオ電子顕微鏡による分子構造解析 6) 膜リモデリング異常に起因する神経筋疾患の発症機序 2. 代謝ネットワークの機能解析</p>	<p>1. Regulation of membrane dynamics and cytoskeletal dynamics: Cellular functions and Diseases 1) Membrane dynamics of plasmodium falciparum and antimalarial drug-search 2) Hemofiltration mechanism of renal podocytes and drugs to improve chronic kidney disease 3) Molecular mechanisms of neural synapse and neurite formation 4) Cancer cell invasion mechanism and anti-cancer invasion drug-search 5) Molecular structural analysis using cryo-electron microscopy 6) Pathogenesis of neuromuscular diseases caused by membrane remodeling dysfunction 2. Functional analysis of metabolic networks</p>
<p>分子医化学 Molecular Biology and Biochemistry TEL 086-235-7127 http://www.okayama-u-mbb.jp/ oohashi@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 大橋 俊孝 Professor OOHASHI, Toshitaka</p>	<p>1. 脳の神経情報伝達を制御するペリニューロナルマトリックス 2. 骨・軟骨代謝学, 骨・軟骨のメカノバイオロジー 3. 基底膜の構築・遺伝子発現・器官形成と機能 4. 皮膚創傷治癒における細胞外マトリックス 5. 骨, 歯, 口腔粘膜再生療法の開発 6. 中枢無髄神経の機能解析</p>	<p>1. Control of neuronal plasticity and synaptic function by perineuronal ECM 2. Bone and cartilage metabolism and mechanobiology of bone and articular cartilage 3. Function and expression of basement membranes in development and disease 4. Extracellular matrix in the wound healing of skin. 5. Tissue engineering of bone, tooth and oral mucosa 6. Functional analysis of unmyelinated fibers in the CNS</p>
<p>薬理学 Pharmacology TEL 086-235-7138 https://www.okayamayakuri.com/ pharmacology@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 細野 祥之 Professor HOSONO, Yasuyuki</p>	<p>1. 大規模データの統合的解析を入口にした生物種・領域横断的創薬研究 2. 多次元全細胞解析技術を用いた挑戦的基礎研究</p>	<p>1. Drug development based on multi-omics approaches 2. Multi-dimensional comprehensive whole cell analysis in cancer pathobiology</p>

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>病理学 (免疫病理) Pathology and Experimental Medicine TEL 086-235-7141 http://www.okayama-u.ac.jp/user/byouri/pathology-1/HOME.html amatsu@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 松川 昭博 Professor MATSUKAWA, Akihiro</p>	<p>1. 炎症・炎症性疾患の分子基盤解明 2. 炎症とサイトカン情報伝達 3. 炎症とがん 4. 敗血症の病態解明 5. サイトカイン・ケモカインと疾患 6. エクソソームとmiRNAによるがんの制御 7. 鉄制御を用いた新しいがん幹治療法の開発 8. 革新的医療材料・医療機器の開発 9. AIを活用した医師支援機器の開発</p>	<p>1. Molecular mechanism of Inflammation and Inflammatory diseases 2. Cytokine signal transduction in inflammation 3. Inflammation and cancer 4. Molecular analysis of sepsis and septic shock 5. Role of cytokines and chemokines in health and disease 6. Cancer regulation by exosomes and miRNA 7. New strategy for cancer stem cell treatment focused on iron regulation 8. Development of innovative medical materials and devices 9. Development of artificial intelligence supported medical devices</p>
<p>病理学 (腫瘍病理) Pathology and Oncology TEL 086-235-7149 https://okayama-pathology2.jimdofree.com/ hideyamamoto@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 山元 英崇 Professor YAMAMOTO, Hidetaka</p>	<p>1.骨軟部腫瘍の臨床病理・分子病理 2.頭頸部腫瘍の臨床病理・分子病理 3.消化器腫瘍の臨床病理・分子病理 4.リンパ腫の臨床病理・分子病理 5.がんの臨床病理・分子病理</p>	<p>1. Clinicopathology and molecular pathology of bone and soft tissue tumors 2. Clinicopathology and molecular pathology of head and neck tumors 3. Clinicopathology and molecular pathology of digestive organ tumors 4. Clinicopathology and molecular pathology of lymphomas 5. Clinicopathology and molecular pathology of cancer</p>
<p>病原細菌学 Bacteriology TEL 086-235-7158 http://www.okayama-u.ac.jp/user/saikin/ uchiyama@okayama-u.ac.jp</p>	<p>(准教授 内山 淳平) Associate Professor UCHIYAMA, Jumpei</p>	<p>1. 薬剤耐性の課題解決に向けた抗菌酵素に関する研究開発 2. 動物の疾患の分子疫学的研究 3. バクテリオファージに関する研究</p>	<p>1. Research and development of enzymiotics to solve the problem of drug resistance 2. Molecular epidemiological research on animal diseases 3. Research on bacteriophages</p>
<p>病原ウイルス学 Virology TEL 086-235-7167 http://www.okayama-u.ac.jp/user/virology/index.html vivivi@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 本田 知之 Professor HONDA, Tomoyuki</p>	<p>1. RNAウイルスの複製機構の解明 2. がんウイルスによる発がん機構の解明 3. レトロトランスポゾンとウイルスとの相互作用の解明 4. 新規ウイルスベクターの開発 5. 宿主による持続感染ウイルス制御機構の解明</p>	<p>1. Analysis of replication mechanisms of RNA viruses 2. Analysis of oncogenic mechanisms of tumor viruses 3. Analysis of interactions between retrotransposons and viruses 4. Development of novel viral vector systems 5. Analysis of host anti-viral strategies against viral persistent infections</p>
<p>疫学・衛生学 Epidemiology TEL 086-235-7173 http://www.unit-gp.jp/eisei/wp/ ocdc@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 頼藤 貴志 Professor YORIFUJI, Takashi</p>	<p>1. 環境疫学 2. 小児・周産期保健 3. 社会疫学 4. 産業保健 5. 国際保健 6. 疫学理論, 解析方法論 7. その他, 疫学研究全般</p>	<p>1. Environmental Epidemiology 2. Child Health Epidemiology 3. Social Epidemiology 4. Occupational Health 5. Global Health 6. Theoretical Epidemiology and Analytical Methods 7. Other Specific Research Interests</p>

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>公衆衛生学 Public Health</p> <p>TEL 086-235-7184</p> <p>http://ph.med.okayama-u.ac.jp/okayamadph/index.html</p> <p>public@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 神田 秀幸</p> <p>Professor KANDA, Hideyuki</p>	<p>1. 依存症・行動嗜癖の予防医学 ①インターネット行動嗜癖 ②ゲーム障害 ③アルコール ④喫煙</p> <p>2. 予防循環器病学 ①家庭血圧変動要因と生活習慣 ②家庭血圧変動要因と外的要因</p>	<p>1. Preventive medicine for addictive behaviors 1) Internet addiction 2) Gaming disorder 3) Alcohol 4) Smoking</p> <p>2. Preventive cardiology 1) Blood pressure at home and life-style 2) Blood pressure at home and environmental factors</p>
<p>免疫学 Immunology</p> <p>TEL 086-235-7187</p>	<p>[未定] undecided</p>		
<p>法医学 Legal Medicine</p> <p>TEL 086-235-7194</p> <p>https://okadai-legmed.sakura.ne.jp/</p> <p>miyaishi@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 宮石 智</p> <p>Professor MIYAISHI, Satoru</p> <p>(募集停止) (Not recruiting)</p>	<p>1. 法医学情報の公衆衛生学的応用に関する研究 2. ミオグロビンの法医診断への応用に関する研究 3. 臨床検査の死体試料への応用に関する研究 4. 乳幼児突然死に関する研究 5. 法医解剖における腫瘍性疾患に関する研究</p>	<p>1. Legal medicine for public health 2. Medico-legal aspects of myoglobin 3. Application of clinical laboratory medicine for forensic diagnosis 4. Sudden unexpected death of infant 5. Neoplasms/tumor-like lesions in forensic autopsy cases</p>
<p>生命倫理学 Bioethics</p>	<p>[未定] undecided</p>		
<p>病態生理・創薬学 Pathophysiology and Drug Discovery</p> <p>TEL 086-235-7378</p>	<p>教授 中山 雅敬</p> <p>Professor NAKAYAMA, Masanori</p>	<p>1. 血管内皮細胞機能不全によって引き起こされる疾患の研究 2. 糖尿病合併症の研究と薬剤の開発 3. 腫瘍の浸潤転移のメカニズムの解明と治療法の開発 4. 血管新生と成熟に関わるメカニズムの解明</p>	<p>1. Analysis of diseases caused by vascular endothelial cell dysfunction 2. Analysis of diabetic complications to develop the drugs 3. Elucidation of the mechanisms of tumour invasion and metastasis and development of clinical intervention 4. Elucidation of the mechanisms involved in angiogenesis and vessel maturation.</p>

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>腫瘍微小環境学 Tumor Microenvironment TEL 086-235-7386 http://www.okayama-u.ac.jp/user/med/dmb/index.html ytogashi@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 富樫 庸介 Professor TOGASHI, Yosuke</p>	<p>1. がん, 特に腫瘍免疫に関するトランスレーショナルリサーチ (TR) / リバースTR 2. 腫瘍微小環境の1細胞解析研究 3. 免疫ゲノム研究 4. 免疫代謝研究 5. がん免疫療法に関する作用機序や新たな標的に関する研究 6. 細胞療法に関する研究 7. 肝炎と微小環境の関係に関する研究</p>	<p>1. Translational research (TR)/reverse TR in cancer, especially cancer immunology 2. Research of single-cell analyses for tumor microenvironment 3. Research of cancer immunogenomics 4. Research of cancer immunometabolism 5. Research of mechanisms and novel targets in cancer immunotherapies 6. Research of cell therapies 7. Research of hepatitis and microenvironment</p>
<p>細胞生物学 Cell Biology TEL 086-235-7394 http://www.okayama-u.ac.jp/user/cellbiol/ masa-s@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 阪口 政清 Professor SAKAGUCHI, Masakiyo</p>	<p>1. 炎症性がん進展の分子機構解明とそれに基づく分子標的治療法の開発 2. 線維化を導く炎症病態・増悪化への移行を許す炎症病態の分子機構解明とそれに基づく分子標的治療法の開発 3. がん遺伝子治療への適用と医療用組み換えタンパク質産生の高効率化を目指した哺乳細胞用超高効率遺伝子発現ベクターの開発 4. ミトコンドリアの機能恒常性維持, 分解, 新生の分子機構解析とそれに基づく神経変性疾患の発症, 進展機序の理解 5. 神経変性疾患治療薬の開発</p>	<p>1. Dissection of molecular mechanisms of cancer metastasis. 2. Dissection of molecular mechanisms for the nature of tissue-specific switches of inflammation that exert further aggravation and fibrosis in several inflammatory diseases. 3. Exploiting the super gene expression vector that is helpful for gene therapy and generation of recombinant proteins. 4. Analysis of molecular mechanism of neurodegenerative diseases focusing on mitochondrial function 5. Development of therapeutic methods for neurodegenerative diseases</p>
<p>臓器創造医療・生命医工学 Organ Generation and Biomedical Engineering TEL 086-235-7402 https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/research/researchfield/cell-chemistry/ (http://www.crc.okayama-u.ac.jp/)</p>		<p>1. ポルフィリンによるがん治療法の分子機構の解析 2. 生体におけるミトコンドリア新生のメカニズムと生理的意義 3. ABC輸送体の発現制御と細胞生存に関する分子機構解析</p>	<p>1. Molecular mechanism of porphyrin-mediated cancer therapy 2. The mechanism of mitochondrial biogenesis and physiological significance 3. Molecular mechanism of ABC transporter expression regulation and cell survival</p>
<p>組織機能修復学 Regenerative Science TEL 086-235-7407 http://regsci.mdps.okayama-u.ac.jp/ takarada@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 寶田 剛志 Professor TAKARADA, Takeshi</p>	<p>1. ヒトiPS細胞を利用した再生医療・ヒト病態モデリング (がん、骨格系統疾患) 2. マルチオミクス解析による分化や疾患における分子ネットワーク機序の解明</p>	<p>1. Regenerative medicine and Disease modeling using human induced pluripotent stem cells 2. Elucidation of molecular network mechanisms in cell differentiation and disease by multi-omics analysis</p>

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
消化器・肝臓内科学 Gastroenterology and Hepatology TEL 086-235-7216 http://www.okayama-gastro.com/	教授 大塚 基之 Professor OHTSUKA, Motoyuki	1. 消化管癌（食道・胃・大腸）・胆膵癌の病態解明と治療法の開発 2. H.pyloriの分子生物学と病態生理 3. 炎症性腸疾患（クローン病, 潰瘍性大腸炎）の発症機序と治療法の開発・研究 4. 大腸癌の基礎・臨床研究 5. 胆膵癌の早期診断法の確立と予後の改善 6. 肝炎（B型, C型など）の慢性化機序の解明と治療法の開発 7. 肝癌の発生機構と発癌防止の分子遺伝学的治療に関する研究 8. 肝細胞癌に対する治療成績の向上と新しい治療法の開発 9. 自己免疫性肝疾患の発症機序と治療法の開発 10. 消化器分子生物学 11. 酸化ストレスと消化器疾患	1. Investigation of the mechanism of chronicity and development of the novel therapy in viral hepatitis (HBV and HCV) 2. Investigation of the molecular genetic mechanism and development of the new therapy in hepatocellular carcinoma 3. Investigation of the pathogenesis of autoimmune hepatitis and development of its novel therapy 4. Investigation of the pathogenesis of inflammatory bowel disease (Chron's disease and ulcerative colitis) and development of its novel therapy 5. Establishment of the early diagnosis and improvement of the prognosis in biliar and pancreatic cancer 6. Development of new endoscopic surgery in gastroenterological cancer 7. Investigation of molecular mechanism and pathogenesis in H.pylori infection 8. Basic and clinical investigation of colon cancer 9. Improvement of the treatment outcomes and development of the new therapy in hepatocellular carcinoma 10. Molecular biology in gastroenterology and hepatology
血液・腫瘍・呼吸器内科学 Hematology, Oncology and Respiratory Medicine TEL 086-235-7224 http://www.okayama-u.ac.jp/user/ninai/yosmaeda@md.okayama-u.ac.jp	教授 前田 嘉信 Professor MAEDA, Yoshinobu	1. がん免疫療法に関する作用機序や新たな標的に関する研究 2. 造血幹細胞移植後の免疫再構築に関する研究 3. 免疫代謝ミトコドリア研究 4. 造血幹細胞移植後の移植片対宿主病（GVHD）のメカニズムの解明 5. がん、特に腫瘍免疫に関するトランスレーショナルリサーチ（TR）/リバースTR 6. 肺癌発癌機構の解明 7. 肺癌における抗癌剤耐性機序の分子生物学的解明 8. 骨髄微小環境による造血制御機構の解析 9. 腫瘍微小環境の1細胞解析研究 10. リンパ系腫瘍の網羅的遺伝子解析とその臨床応用 11. 間質性肺疾患における線維化病態の解明：線維化に関する因子の分子生物学的研究 12. 移植肺を利用した特発性間質性肺炎の次世代シーケンサーによる分子生物学的解析 13. COPDおよび喘息の病態解明と、治療薬が効果を及ぼすメカニズムの解明	1. Identification of molecular pathogenesis and genomics related to clinical outcome in lymphoid cancers 2. Mechanisms of the resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitors (EGFR-TKI) for lung cancer with activating EGFR mutations 3. Carcinogenesis and chemoprevention in lung cancer 4. Clinical and experimental hematopoietic stem cell transplantation: biology of hematopoietic stem cells, mechanisms of stem cell mobilization, and mechanisms of graft versus host disease (GVHD) using mouse model or human samples 1. Research of mechanisms and novel targets in cancer immunotherapies 2. Research of immune reconstitution post allogeneic HCT 3. Research of cancer immunometabolism in mitochondria 4. Mechanistic analysis of graft versus host disease (GVHD) using mouse model or human samples 5. Translational research (TR)/reverse TR in cancer, especially cancer immunology 6. Carcinogenesis and chemoprevention in lung cancer 7. Mechanisms of the resistance to epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitors (EGFR-TKI) for lung cancer with activating EGFR mutations 8. Clinical and experimental hematopoietic stem cell transplantation: biology of hematopoietic stem cells 9. Research of single-cell analyses for tumor microenvironment 10. Identification of molecular pathogenesis and genomics related to clinical outcome in lymphoid cancers 11. Mechanisms of fibrosis in interstitial lung disease 12. Molecular biological analysis from transplanted lung specimen in idiopathic interstitial pneumonitis 13. Mechanisms underlying the disease development of bronchial asthma and COPD, and the effects of several molecules for suppressing these diseases using murine models and human samples

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
腎・免疫・内分泌代謝内科学 Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism TEL 086-235-7232 http://www.okayama-u.ac.jp/user/med/daisan/index.html sannai@cc.okayama-u.ac.jp	教授 和田 淳 Professor WADA, Jun	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肥満症, メタボリックシンドローム, 糖尿病, 糖尿病血管合併症の発症機構の解明と新しい治療法の開発 2. 腎炎・ネフローゼ症候群の成因解明と新規治療の開発 3. 腎再生へむけて: ネフロン構造再構築及びそれに関する幹細胞の研究と応用 4. 尿中糖鎖プロファイリングによる腎臓病新規バイオマーカーの同定 5. 血管新生関連因子調節を介した腎障害進展制御治療法の開発 6. 自己免疫疾患の成立・進展機構の解明(関節リウマチ・全身性エリテマトーデスなど) 7. 血管作動物質による血圧調節機構及び高血圧の発症・進展機構の解明 8. 内分泌臓器におけるホルモン合成・分泌調節機構の解明と臨床応用 9. 動脈硬化の成因の解明と治療法の開発 10. 大動脈瘤の成因及び進展機序の解明と治療的試み 11. 腎不全合併症の病態解明と新規バイオマーカーの開発 12. 腹膜透析に関する再生療法と新たな腹膜機能評価法の開発 13. 電子カルテ情報を用いたリウマチ・膠原病患者データベースシステムの開発 14. 多変量解析を用いたリウマチ・膠原病疾患活動性予測モデルの探索 15. 自然免疫・サイトカイン産生・炎症の制御機構の解明 16. 糖尿病・骨粗鬆症発症に関わる骨芽細胞機能の検討 17. 骨代謝・胎生期骨発生を制御する新規メカニズムの解明 18. 敗血症の病態形成メカニズム解明と新規治療法開発 19. 癌浸潤を制御する新規メカニズムの解明 20. 人工知能(AI)を使用した腎疾患治療・診断法の開発 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Investigation of the pathogenesis of obesity, metabolic syndrome, diabetes and its vascular complications and development of new therapeutic strategies 2. Elucidation of the pathogenesis of IgA nephropathy and nephrotic syndrome and development of their novel therapy 3. Kidney regeneration and its translational research: Investigation of the mechanism between renal stem/progenitor cell and development/regeneration 4. Identification of novel biomarkers for kidney diseases by urinary glycan profiling by lectin array 5. Development of therapeutics to suppress the progression of renal injuries via regulating angiogenesis-associated factors 6. Exploration for the pathogenesis of autoimmune diseases (Rheumatoid arthritis, Systemic lupus erythematosus etc.) 7. Investigation of the developmental mechanism of hypertension and hypertensive organ damages induced by vasoactive factors 8. Exploration of the mechanism of synthesis and secretion of hormones and thier clinical applications 9. Investigation of the mechanism of atherosclerosis and approach to a new therapeutic strategy 10. Exploration of the mechanism of aortic aneurysm and establishment of a new therapeutic strategy 11. Elucidation of the mechanism of complication of renal failure and identification of its novel biomarkers 12. Peritoneal regeneration for peritoneal dialysis: Exploitation cell therapy to protect peritoneal sclerosis on peritoneal dialysis patients and clinical application of new diagnostic methods of peritoneal functions 13. Development of database for connective tissue diseases using electronic medical records 14. Exploitation of prognostic model for activity of connective tissue diseases using multivariate analysis. 15. Investigation of the molecular machanism of innate immunity, cytokine production and inflammation. 16. Investigation of the role of osteoblastic protein for diabetes and osteoporosis. 17. Investigation of the molecular mechanisms of bone biology and embryonic bone development. 18. Investigation of the pathogenesis of septic shock. 19. Investiogation of the molecular mechanisms of cancer invasion. 20. Development of treatment and diagnosis method for kidney disease using artificial intelligence (AI)
精神神経病態学 Neuropsychiatry TEL 086-235-7242 http://psychiatry.ccsv.okayama-u.ac.jp/ manabuta@cc.okayama-u.ac.jp	教授 高木 学 Professor TAKAKI, Manabu	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神腫瘍学・リエゾン精神医学領域の研究 2. 統合失調症および内因性疾患の臨床精神医学的・分子生物学的研究 3. 認知症の臨床精神医学的・神経病理学的研究 4. 気分障害の臨床精神医学的・分子生物学的研究 5. 精神障害の自己免疫機序の研究 6. 性別不合の臨床精神医学的研究 7. 老年期精神疾患の臨床精神医学的・神経病理学的研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Psycho-Oncology and Consultation-Liaison Psychiatry 2. Molecular Biology and Clinical Research of Schizophrenia 3. Neuropathological and Clinical Research of Dementia 4. Clinical Research of Depression 5. Autoimmunity mechanism of Mental Disorder 6. Clinical Research of Gender incongruence 7. Neuropathological and Clinical Research of Elderly Mental Disorder

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
<p>小児医科学 Pediatrics</p> <p>TEL 086-235-7247</p> <p>http://www.okayama-u.ac.jp/user/pedhome/index.html</p> <p>tsukah-h@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 塚原 宏一</p> <p>Professor TSUKAHARA, Hirokazu</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経ウイルス感染症の宿主側発症因子および病態解析と治療法の確立 2. 小児炎症疾患における病態解析とそれに基づく新規治療法開発の試み 3. 先天性心疾患の非観血的治療法と再生医学療法の確立 4. 小児がんの遺伝子診断と造血幹細胞移植に関する研究 5. 骨系統疾患の遺伝子解析に基づく新しい治療法の確立 6. 腎尿路疾患における病態解析とそれに基づく新規治療法開発の試み 7. 思春期発来機構の解明と成長における成長因子の役割 8. 小児期心身症（特に不登校、神経性食欲不振症）の誘因の評価と新しい治療法の確立 9. ハイリスク新生児の管理向上と長期予後改善に関する研究 10. 周産期における酸化ストレスの病態に関する研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Viral encephalitis: biological responses, pathophysiological analysis, therapeutic strategies 2. Inflammatory disorders: pathophysiological analysis, therapeutic strategies 3. Congenital cardiac defects: non-operative interventions, regenerative medicine 4. Pediatric cancer: genetic analysis, hematopoietic stem cell implantation 5. Metabolic bone disorders: genetic analysis, therapeutic strategies 6. Renal and urinary tract disorders: pathophysiological analysis, therapeutic strategies 7. Adolescent medicine: mechanism of puberty, various growth factors 8. Psychosomatic medicine: school non-attendance, anorexia nervosa, integrated strategies 9. High-risk infants: critical care, management for better outcome 10. Perinatal medicine: oxidative stress related disorders, therapeutic strategies
<p>小児発達病因病態学 Pediatric Neurology</p> <p>TEL 086-235-7372</p> <p>http://cneuro.hospital.okayama-u.ac.jp/</p> <p>toshiki.take@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 武内 俊樹</p> <p>Professor TAKENOUCHI, Toshiki</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. てんかん外科の成績改善に向けた頭皮上・頭蓋内脳波バイオマーカーの探索 2. 小児神経遺伝性疾患の遺伝子解析と病態解明 3. 小児の髄液中神経伝達物質の測定 4. ケトン食療法を行うてんかん患者のメタボローム解析 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Biomarkers in scalp and intracranial electroencephalography to improve seizure outcome after epilepsy surgery 2. Genomic analysis and molecular investigations in childhood neurogenetic diseases 3. Neurotransmitters in cerebrospinal fluid in children 4. Metabolome analysis for patients undergoing the ketogenic diet
<p>消化器外科学 Gastroenterological Surgery</p> <p>TEL 086-235-7255</p> <p>http://www.ges-okayama-u.com/</p> <p>toshi_f@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 藤原 俊義</p> <p>Professor FUJIWARA, Toshiyoshi</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの遺伝子治療, ウイルス療法, 免疫療法, 集学的治療 2. がんの微小環境（がん関連線維芽細胞など）を標的とする治療研究 3. がんの腹膜播種を標的とする治療研究 4. がんに対するナノメディシンを用いた研究 5. 好中球を中心としたがん病態の研究 6. 消化器がんのプレジジョン医療研究（がんの遺伝子診断・リキッドバイオプシー・バイオマーカー探索） 7. 消化器領域の低侵襲治療（鏡視下手術, ロボット手術）の研究 8. 高度肥満症に対する外科治療の研究 9. 薬物療法・集学的治療の臨床研究・臨床試験 10. 生体・脳死肝移植の臨床研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Gene therapy, virotherapy, immunotherapy, and multidisciplinary therapy for cancer 2. Investigation of novel target therapy for cancer microenvironment (cancer-associated fibroblasts) 3. Novel antitumor therapy for peritoneal metastasis 4. Nanomedicine for cancer diagnosis and treatment 5. Neutrophil and cancer biology research 6. Cancer precision medicine research (Genetic profiling, liquid biopsy, and identification of predictive biomarkers in gastrointestinal neoplasm) 7. Minimally invasive therapy (MIT) (laparoscopic surgery, robotic surgery) for gastrointestinal disease 8. Bariatric surgery for advanced obesity 9. Clinical research and trials of chemotherapy and multidisciplinary therapy 10. Deceased and living donor liver transplantation

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>呼吸器・乳腺内分泌外科学 General Thoracic Surgery and Breast and Endocrinological Surgery</p> <p>TEL 086-235-7262</p> <p>http://www.nigeka-okayama-u.jp/</p> <p>toyooka@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 豊岡 伸一</p> <p>Professor TOYOOKA, Shinichi</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外科腫瘍学 2. 肺癌手術 3. 肺移植 4. 乳癌内分泌療法 5. 肺癌の遺伝子異常 6. 乳癌化学療法・分子標的治療 7. 胸腔鏡手術 8. 呼吸器外科における再生医療 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Surgical oncology 2. Surgery for lung cancer 3. Lung transplantation 4. Endocrine therapy for breast cancer 5. Gene alteration in lung cancer 6. Chemotherapy and molecular-targeted therapy for breast cancer 7. Video-assisted thoracoscopic surgery 8. Regenerative medicine in thoracic surgery
<p>整形外科 Orthopaedic Surgery</p> <p>TEL 086-235-7270</p> <p>https://www.okayama-ortho.jp/</p> <p>orthsurg@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 尾崎 敏文</p> <p>Professor OZAKI, Toshifumi</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨軟部腫瘍の発生メカニズムと集学的治療 2. 関節疾患の病態と治療に関する研究 (1) 関節リウマチ, 変形性関節症の病態解析 (2) 関節疾患の新しい外科的治療法の開発 3. 脊椎及び脊髄疾患の発生メカニズムと外科的治療 4. 運動器再生の研究 5. 小児整形外科疾患の治療体系の確立 6. スポーツ外傷の予防と治療 7. 筋・神経疾患の電気生理学的研究と治療法の開発 8. 骨折癒合の研究と治療法の開発 9. 運動器生体材料の開発 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Treatment of Bone and Soft Tissue Tumor 2. Study and Treatment of Joint Disorders 3. Study and Treatment of Spinal Disorders 4. Regeneration of Musculoskeletal System 5. Establishment of Treatment of Pediatric Disorders 6. Treatment of Sports Injuries 7. Development of New Method of Fracture Healing 8. Electric Physiological Analysis of Musculoskeletal Disorders 9. Development of Biomaterials for Musculoskeletal System
<p>皮膚科学 Dermatology</p> <p>TEL 086-235-7282</p> <p>http://www.okayama-hihuka.jp/</p> <p>info@okayama-hihuka.jp</p>	<p>教授 森実 真</p> <p>Professor MORIZANE, Shin</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚における自然免疫の解析 2. ヘルペスウイルス関連皮膚疾患の病態解明 3. 表皮ケラチノサイトのセリンプロテアーゼ活性の解析 4. 乾癬病変部表皮角化細胞産生サイトカインの解析 5. 皮膚細菌感染症と抗菌ペプチド 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Innate immunity in the skin 2. Herpesvirus-associated skin diseases 3. Serine protease activity in epidermal keratinocytes 4. Cytokines produced by psoriatic keratinocytes 5. Cutaneous bacterial infections and antimicrobial peptides
<p>腎泌尿器科学 Urology</p> <p>TEL 086-235-7284</p> <p>https://www.uro.okayama-u.ac.jp</p> <p>uro2@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 荒木 元朗</p> <p>Professor ARAKI, Motoo</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前立腺癌・腎癌に対する遺伝子・細胞治療の基礎的・臨床的研究 2. 尿路上皮癌に対する標的医療の開発, 研究 3. 尿路癌における抗癌剤薬剤耐性に関する研究 4. アニマルモデルを用いた低侵襲治療の開発研究 5. iPS細胞を用いた尿道括約筋機能再生のための基礎的研究 6. 超音波カラー Doppler法を用いたクリトリス血流の評価: 骨盤手術による影響 7. 女性泌尿器科疾患患者における性機能調査 8. BPH, OAB患者における新しいバイオマーカーとしての尿中NGFに関する研究 9. 性ホルモン投与による性同一性障害患者の身体的生化学的変化の臨床研究 10. 性機能に関する脳機能局在の解析 11. 性ホルモンの代謝機能への影響に関する臨床的研究 12. 腎移植時の虚血再灌流障害の研究 13. 難治性尿路性器感染症の分子イメージングによる解析と薬剤投与方法の解析 14. 薬剤耐性菌による尿路バイオフィーム感染症に対する治療法の確立 15. 尿路性器感染症における薬剤耐性菌の遺伝子解析と予防・治療法に関する研究 16. 性感染症の原因微生物の探索研究と疫学調査 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Gene and cell therapy for prostate cancer and renal cancer 2. Developmet of targeted therapy for urothelial carcinoma 3. Analysis of anti-cancer drug resistance in urological cancer 4. Clinical development of minimum invasive therapy using animal model 5. Tissue engineering using iPS in the treatmne of urologic dysfunction 6. Evaluationf of clitoral blood flow changes after female pelvic surgery 7. Survey of sexual function in patients with pelvic organ prolapse and overactive bladder 8. Analysis of urinary NGF level in patients with BPH, CP/CPSP, and OAB 9. Hormonal therapy for Gender Identity Disorder (GID) 10. Brain functional localizaion related to sexual function 11. Sex hormone & Metabolism 12. Ischemia reperfusion injury in kidney transplant 13. Molecular Imaging for Intractable Urinary Tract Infection 14. Biofilms, Urinary Tract Infections and Antimicrobial Agents 15. Analysis of Drug-resistant Pathogens in Genitorinary Tract Infection 16. Sexually Transmitted Infection

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>眼科学 Ophthalmology TEL 086-235-7293 http://okayama-u-oph.jp/ oph@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 森實 祐基 Professor MORIZANE, Yuki</p>	<p>1. 網膜硝子体疾患の病態研究 2. 網膜硝子体疾患の新規治療法の開発 3. iPS細胞由来網膜色素上皮細胞の臨床応用研究 4. 緑内障の病態研究 5. 斜視の画像解析研究 6. 外眼筋固有知覚に関係した眼位の研究</p>	<p>1. Pathology of vitreoretinal disease 2. Development of new treatments for vitreoretinal disease 3. Clinical application study of iPS cell-derived retinal pigment epithelial cells 4. Glaucoma Pathology Research 5. Research on image analysis of strabismus 6. Study of ocular alignment related to proprioception of extraocular muscles</p>
<p>耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otolaryngology TEL 086-235-7307 http://www.okayama-u.ac.jp/user/jibika-1/index.html jibika@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 安藤 瑞生 Professor ANDO, Mizuo</p>	<p>1. 異嗅覚症のメカニズムと嗅覚再生 2. 急性感音難聴の分子遺伝学的解析 3. 新生児聴覚スクリーニングによる難聴早期診断の意義の疫学研究 4. 中耳炎性疾患の病態解析 5. 好酸球性副鼻腔炎の病態解析 6. 頭頸部腫瘍の疫学および病態解析</p>	<p>1. Mechanism of dysosmia and regeneration of olfaction 2. Molecular genetics of acute sensorineural hearing loss 3. Epidemiological study on the significance of early diagnosis of hearing loss with neonatal hearing screening 4. Pathophysiological mechanisms of otitis media and cholesteatoma 5. Pathophysiology of eosinophilic rhinosinusitis 6. Analysis of epidemiological and pathophysiological characteristics of Head and Neck tumors</p>
<p>放射線医学 Radiology TEL 086-235-7313 https://radiology.hsc.okayama-u.ac.jp/ radiol@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 平木 隆夫 Professor HIRAKI, Takao</p>	<p>1. 放射線治療に関する基礎的・臨床研究 2. 核医学的手法による腫瘍評価法の研究 3. CT・MRIを用いた新しい撮像法及び診断法の研究 4. AIの画像診断への応用に関する研究 5. 画像ガイド下針生検の基礎的・臨床的研究 6. 画像ガイド下腫瘍アブレーションの基礎的・臨床的研究 7. ロボットIVRの開発</p>	<p>1. Basic and clinical research of radiation therapy 2. Tumor evaluation using the method of nuclear medicine 3. Novel imaging and diagnostic techniques with CT and MRI 4. Application of AI to imaging diagnosis 5. Basic and clinical research of image-guided biopsy 6. Basic and clinical research of image-guided tumor ablation 7. Robotic interventional radiology</p>
<p>産科・婦人科学 Obstetrics and Gynecology TEL 086-235-7317 http://www.okayama-u-obgyn.jp/ masuyama@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 増山 寿 Professor MASUYAMA, Hisashi</p>	<p>1. 妊娠糖尿病と妊娠高血圧症候群の病態解析と次世代への影響 2. 出生前診断 3. 核内受容体の分子内分泌学的検討-特に周産期, 悪性腫瘍- 4. 婦人科悪性腫瘍の遺伝子解析 5. 婦人科悪性腫瘍患者のQOLに関する研究 6. 不育症・反復流産に関する研究 7. 子宮内膜症・子宮腺筋症に関する研究 8. 多嚢胞性卵巣症候群に関する研究 9. 女性悪性腫瘍患者の妊孕能温存に関する研究 10. 月経前症候群に関する研究 11. 性同一性障害に関する研究</p>	<p>1. Gestational diabetes mellitus and preeclampsia and those effect on next generation 2. Prenatal diagnosis 3. Nuclear receptors in perinatal medicine and oncology 4. Gene analyses of gynecological malignancies 5. Quality of life of gynecological malignancy patients 6. Recurrent pregnancy loss (RPL) 7. Endometriosis and adenomyosis 8. Polycystic ovary syndrome (PCOS) 9. Oncofertility / Fertility preservation 10. Premenstrual syndrome (PMS) 11. Gender identity disorder (GID)</p>

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>麻酔・蘇生学 Asesthesiology and Resuscitology TEL 086-235-7324 http://okadaimasui.com morima-h@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 森松 博史 Professor MORIMATSU, Hiroshi</p>	<p>1. 多臓器不全の病態の解明と治療に関する研究 (1) 侵襲によるサイトカインの変動の解明 (2) 侵襲に対するヘムの役割の解明 (3) 臓器不全の予防と治療に関する分子生物学的研究 2. 疼痛の機序および治療に関する研究 3. 麻酔・集中治療・ペインクリニックに関する臨床研究</p>	<p>1. Study on elucidation of pathophysiology and therapy of multiple organ failure 1)Elucidation of cytokine fluctuation in response to invasion 2)Elucidation of functional role of heme against invasion 3)Molecular biological study on prevention and therapy of organ failure 2. Study on mechanisms and management of pain 3. Clinical Research relating to Anesthesiology, Intensive Care, and Pain Medicine</p>
<p>脳神経外科学 Department of Neurological Surgery TEL 086-235-7336 http://neuro.hospital.okayama-u.ac.jp/</p>	<p>教授 田中 將太 Professor TANAKA, Shota</p>	<p>1. 中枢神経系疾患に対する細胞療法・運動療法 2. 中枢神経系疾患に対する電気刺激療法 3. パーキンソン病・脊椎脊髄疾患に対する臨床研究 4. 光遺伝学と生体内カルシウムイメージングを用いたパーキンソン病の新たな病態生理の解明 5. 悪性グリオーマの浸潤と血管新生の病態解明 6. 脳腫瘍に対する遺伝子治療・ウイルス療法 7. 悪性グリオーマのマーカー遺伝子の解析 8. くも膜下出血後の頭蓋内環境に対する電気生理学のアプローチ 9. くも膜下出血後脳血管攣縮の病態解析 10. MRIと脳血管撮影画像を用いたeloquent areaの同定 11. 日本人小児における標準的な頭蓋形状の解析 12. 3Dプリンタ脳動脈瘤モデルを用いた脳血管内治療シミュレーショントレーニング有用性の解析</p>	<p>1. Cell therapy and rehabilitation for the central nervous system disorders 2. Electrical stimulation for the central nervous system disorders 3. Clinical research for Parkinson's disease and spinal disease 4. Novel Pathophysiology of Parkinson's Disease Elucidated by Optogenetics and In Vivo Calcium Imaging 5. Analysis of invasion and angiogenesis in malignant glioma 6. Gene therapy and oncolytic viral therapy for brain tumor 7. Molecular analysis of glioma biomarkers 8. Electrophysiological approach for intracranial environment after aneurysmal subarachnoid hemorrhage 9. Analysis of pathophysiology of cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage 10. Identification of eloquent area using MRI and cerebral angiography 11. Analysis of standard cranial shape in Japanese children 12. Analysis of the usefulness of endovascular treatment simulation training using 3D printer cerebral aneurysm models</p>

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
<p>総合内科学 General Medicine</p> <p>TEL 086-235-7342</p> <p>http://okayama-u-sougounaika.jp/</p> <p>sougounaika@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 大塚 文男</p> <p>Professor OTSUKA, Fumio</p>	<p>1. 総合内科・総合診療領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発熱・浮腫・めまい・全身倦怠感といった一般的症状から解析する症候学の研究 ・ポリファーマシー・フレイル・サルコペニアといった視点の老年医学研究 ・不明熱患者の素因検索・自己炎症性疾患の遺伝子素因の研究 ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）罹患後の後遺症状に関する研究 ・世界における本邦の総合診療医の在り方に関する研究 ・診断困難例や難治性症状の診断と治療にむけたAIやVRなどのデバイスを用いた探索的研究 ・医師、患者を含む医療を取り巻く当事者の関係性の研究（質的研究） ・総合診療における複雑性/不確実性に関する研究（質的研究） <p>2. 内分泌代謝領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療の現場から、幅広い内分泌代謝関連の臨床的・クエスチョンを紐解く臨床研究 ・骨代謝マーカー・尿中ステロイド・ビタミンD活性の有用性、血糖値と精神心理状況に関する臨床研究 ・成長因子BMP（骨形成蛋白）と卵巣ステロイド分泌調節に関する基礎研究 ・内分泌リズム調節因子・時計遺伝子と下垂体・副腎ホルモン分泌制御に関する基礎研究 <p>3. 感染症領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤耐性菌に対するゲノムシーケンス解析による薬剤耐性メカニズムの把握 ・感染性疾患の発生・死亡トレンド解析のためのビッグデータ解析 ・院内感染症疫学 ・新型コロナウイルス感染症を取り巻く基礎的・臨床的・社会的影響の調査 ・VR（バーチャルリアリティ）を応用した感染症教育 <p>4. 東洋医学（漢方医学）領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学（漢方医学）に関する臨床研究 <p>5. 医学教育領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒前・卒後教育において、「共感性」「物語能力」「モチベーション」「バーンアウト」をテーマとした量的・質的な医学教育研究 ・ウェブ環境やVRやAIなど新しい技術を用いた医学教育手法の開発とその効果に関する研究 	<p>1. General Medicine</p> <ul style="list-style-type: none"> Clinical research on various symptoms Geriatric studies on polypharmacy, frail, and sarcopenia Clinical research for fever of unknown origin Clinical research for symptoms and characteristics of long COVID/post COVID-19 condition Research on the state of Japanese general practitioners in the world Exploratory research using AI, VR and other devices towards the diagnosis and treatment of difficult-to-diagnose cases and intractable symptoms Clinical research for relationships between patients, family, doctors and other health professionals (Qualitative study). Clinical research for complexity and uncertainty in primary care (Qualitative study). <p>2. Endocrinology</p> <ul style="list-style-type: none"> Clinical research Laboratory study on BMP, circadian rhythm, steroidogenesis and feedback system <p>3. Infectious Disease</p> <ul style="list-style-type: none"> Genome sequences on antimicrobial resistance (AMR) Big-data analysis on the trend of infectious diseases Hospital epidemiology for Infectious Diseases Basic, clinical, and social impacts by COVID-19 Medical education on infectious diseases by Virtual Reality (VR) <p>4. Oriental (Kampo) Medicine</p> <ul style="list-style-type: none"> Clinical research <p>5. Medical Education</p> <ul style="list-style-type: none"> Quantitative and qualitative study on medical education Research on the development and effectiveness of medical education methods using new technologies such as web environments, VR and AI

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
循環器内科学 Cardiovascular Medicine TEL 086-235-7346 http://okayama-u-cvm.jp/index.html yuasa@okayama-u.ac.jp	教授 湯浅 慎介 Professor YUASA, Shinsuke	1. 人工知能と心血管疾患iPS細胞を用いた疾患表現型解析と治療薬の探索 (基礎) 2. ゲノム編集技術を用いた心血管疾患モデル作製とオミックス解析による治療標的の探索 (基礎) 3. 心血管疾患の病態におけるメカノバイオロジー機構の解明 (基礎) 4. 心血管細胞特異的な遺伝子・薬物送達方法の開発 (基礎) 5. 心血管疾患患者由来サンプルのオミックス解析による病態解析と新規バイオマーカーの探索 (臨床・基礎) 6. 人工知能を用いた心血管疾患患者のリスク層別化と新規バイオマーカーの探索 (臨床) 7. 成人先天性心疾患の統合的治療戦略の確立 (臨床) 8. 不整脈のゲノム解析と新規カテーテル治療法の開発 (臨床) 9. 心血管疾患患者の遠隔診療システムの開発 (臨床)	1. Disease phenotyping and drug discovery using artificial intelligence and iPS cells derived from patients with cardiovascular diseases (Basic research) 2. Animal models of cardiovascular diseases using genome editing technology and omics analysis to explore therapeutic targets (Basic research) 3. Mechanobiological mechanisms in the pathogenesis of cardiovascular diseases (Basic research) 4. Development of cardiovascular cell-specific gene and drug delivery methods (Basic research) 5. Omics analysis of clinical samples derived from patients with cardiovascular diseases to analyze pathogenesis and search for novel biomarkers (Clinical/basic research) 6. Risk stratification and novel biomarkers for cardiovascular disease patients using artificial intelligence (Clinical research) 7. Establishment of integrated treatment strategies for adult congenital heart disease (Clinical research) 8. Genomic analysis and development of novel catheter-based therapies for arrhythmias (Clinical research) 9. Development of telemedicine system for patients with cardiovascular diseases (Clinical research)
心臓血管外科学 Cardiovascular Surgery TEL 086-235-7359 http://okayama-u-cvs.jp/ cvsokayama@okayama-u.ac.jp	教授 笠原 真悟 Professor KASAHARA, Shingo	心臓部門 1. 複雑心奇形の外科治療に関する研究 2. 新生児・乳児開心術に関する研究 3. 心筋保護に関する研究 (特にチアノーゼ性心筋) 4. 開心術時, 大動脈手術時における臓器保護に関する研究 5. Tissue engineering 法を用いた弁付導管, 血管作製 6. 小児人工心臓の開発 7. 心筋再生治療の研究 8. 心臓移植に関する研究 9. 先天性心疾患の病態解明 血管部門 1. Diamond-like-carbon の医療応用に関する開発研究 2. 動脈硬化性疾患におけるHMGB-1の役割を解明する研究 3. 血管外科手術中の臓器保護 (特に脊髄保護) に関する研究	Research for Cardiac Surgery 1. Surgical treatment of complex congenital heart disease 2. Neonatal and infantile open heart surgery 3. Myocardial protection for cyanotic myocardium 4. Organ protection in major cardiovascular surgery 5. Development of valved conduit and vascular graft using tissue engineering method 6. Development of pediatric artificial heart 7. Cardiac stem cell therapy for heart failure 8. Heart transplantation 9. Dissecting the pathogenesis of congenital heart disease Research for Vascular Surgery 1. Application of Diamond-like-carbon to Medical devices 2. Mechanism and the role of HMGB-1 in the atherosclerotic disease 3. Organ protection for vascular surgery (spinal cord protection)

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>脳神経内科学 Neurology TEL 086-235-7365 https://www.okayama-u.ac.jp/user/shinnai/</p>	<p>教授 石浦 浩之 Professor ISHIURA, Hiroyuki</p>	<p>1. 脳卒中の臨床的基礎的研究 (1) 脳梗塞の病態解明と治療法確立 (臨床的研究) (2) 脳梗塞の光イメージング (臨床的基礎的研究) (3) 脳梗塞の分子イメージング (臨床的基礎的研究) (4) 脳梗塞とメタボリック症候群の臨床的解析 (臨床的研究) (5) 脳梗塞とメタボリック症候群の基礎的関連研究 (基礎的研究) (6) 神経幹細胞を用いた脳梗塞の再生医療 (基礎的研究) (7) iPS細胞を用いた脳梗塞の再生医療 (基礎的研究) (8) ウイルスベクターを用いた脳梗塞の再生医療 (基礎的研究) 2. 認知症の臨床的基礎的研究 (1) アルツハイマー病の病態解明と治療法確立 (臨床的研究) (2) 認知症の神経心理学的研究 (臨床的研究) (3) 認知症の脳画像診断研究 (臨床的研究) (4) アルツハイマー病の臨床工学的病態解析 (臨床的基礎的研究) (5) アルツハイマー病モデルマウスを用いた病態解析と治療法開発 (基礎的研究) (6) アルツハイマー病とメタボリック症候群の臨床的解析 (臨床的研究) (7) アルツハイマー病とメタボリック症候群の基礎的関連研究 (基礎的研究) (8) アルツハイマー病の新薬治療 (臨床的研究) 3. 神経変性疾患の臨床的基礎的研究 (1) 遺伝性神経変性疾患の遺伝子解析研究 (臨床的基礎的研究) (2) パーキンソン病の臨床的基礎的研究 (臨床的基礎的研究) (3) 筋萎縮性側索硬化症の臨床的基礎的研究 (臨床的基礎的研究) (4) 神経変性疾患の脳画像科学解析 (臨床的基礎的研究) (5) 神経変性疾患の分子イメージング診断 (基礎的研究) (6) 神経変性疾患の再生医療開発 (臨床的基礎的研究) 4. 生活習慣病・メタボリック症候群と神経内科疾患の臨床的基礎的研究 (1) 生活習慣病・メタボリック症候群とアルツハイマー病 (臨床的基礎的研究) (2) 生活習慣病・メタボリック症候群と認知症 (臨床的基礎的研究) (3) 生活習慣病・メタボリック症候群のモデルマウス研究 (基礎的研究)</p>	<p>1. Gene and stem cell therapy for ischemic stroke, 2. Neuroprotection for ischemic stroke, 3. In vivo optical neuroimaging for neurological diseases, 4. In vivo nano-particle therapy for stroke, 5. Gene and stem cell therapy for neurodegenerative diseases, 6. Alzheimer's diseases and metabolic syndrome with mouse model, 7. Clinical neuroimaging with MRI, MEG, PET and SPECT, 8. Clinical study for neuroimmunological diseases, 9. iPS cell transplantation for stroke model, 10. Clinical analysis of Alzheimer disease with new drug 11. Molecular genetic study of hereditary neurodegenerative and muscular diseases</p>
<p>救命救急・災害医学 Emergency, Critical Care and Disaster Medicine TEL 086-235-7426 http://okayama-u-qq.sakura.ne.jp/ qq-nakao@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 中尾 篤典 Professor NAKAO, Atsunori</p>	<p>1. 救急医療システムの科学的検証と構築 2. 災害医療システムの科学的検証と構築 3. 侵襲に対する生体内防御機構と制御 4. 各種機械補助の効果と生体侵襲 5. 各種救命救急処置の開発と有効性の検討</p>	<p>1. Evaluation & Development of Emergency Medical System 2. Evaluation & Development of Disaster Medical System 3. Investigation of Biological Response and Defence Mechanism for Insult 4. Evaluation of Effect and Adverse Effect by Mechanical Supports 5. Evaluation & Development of Critical Care Methods</p>
<p>形成再建外科学 Plastic and Reconstructive Surgery TEL 086-235-7214 https://www.prsokayama.com/</p>	<p>教授 高成 啓介 Professor TAKANARI, Keisuke</p>	<p>1. 血管付き組織移植 2. リンパ浮腫の発生機序と治療法 3. 頭頸部癌の再建 4. 四肢の再建 5. 性同一性障害に対する外科的治療 (生殖器移植) 6. 自己集合性ペプチド水ドロゲル</p>	<p>1. Vascularized tissue transplantation 2. Lymphedema treatment and mechanism 3. Head and neck cancer reconstruction 4. Limb reconstruction 5. Gender identity disorder surgical treatments (Transplantation of genital organs) 6. Self-assembling peptide hydrogel</p>

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>老年医学 Longevity and Social Medicine</p>	<p>[未定] undecided</p>	<p>1. 高齢慢性呼吸器疾患患者の病態的特徴と治療に関する研究 2. 地域・在宅医療の諸問題に対する解決策の立案, およびその検証に関する疫学的研究 3. 老年期の消化器疾患, 生活習慣病, 運動器症候群の病態的特徴とその治療法開発に関する研究 4. 老年期疾患に対する, 温泉療法, 温熱療法, 栄養療法, 運動療法, 理学療法の作用機序に関する研究 5. 高齢者の疾病予防と健康増進に関する研究 6. 微量元素および温泉成分の生体に及ぼす影響に関する研究</p>	<p>1. Characteristics and treatment of elderly patients with chronic respiratory disorders 2. Epidemiological study on the problems of family practice and home medical care 3. Characteristics and treatment of digestive diseases, lifestyle-related diseases and locomotive syndrome in old age 4. Action mechanism of balneotherapy, thermotherapy, nutritional therapy, exercise therapy and physiotherapy to senile disease 5. Disease prevention and health promotion for the elderly 6. Biological effects of trace elements and dissolved matter in a hot spring</p>
<p>臨床遺伝子医療学 Clinical Genomic Medicine TEL 086-235-7436 https://cgm.hsc.okayama-u.ac.jp hir-aki45@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 平沢 晃 Professor HIRASAWA, Akira</p>	<p>1. 網羅的遺伝子解析技術を用いた臓器横断的発癌機序の解明 2. 遺伝性腫瘍症候群に対するがん死低減策の構築 3. 社会のニーズに応えるためのゲノム医学研究プロセスの構築 4. 遺伝性疾患当事者支援と患者・市民参画(PPI)に関する実践的研究</p>	<p>1. Translational cancer genome research with omics approach 2. Hereditary tumors and decreased cancer death 3. Genomic research to meet the needs of society 4. Support for people with hereditary diseases and patient and public involvement (PPI)</p>
<p>臨床薬剤学 Clinical Pharmacy TEL 086-235-7640 https://pharm.hospital.okayama-u.ac.jp/ zamami-y@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 座間味 義人 Professor ZAMAMI, Yoshito</p>	<p>1. データサイエンスを基盤としたトランスレーショナル・リサーチ 1) 難治性疾患を標的としたドラッグリポジショニング研究 2) がんを標的としたドラッグリポジショニング研究 3) 抗がん剤による有害事象の発現機序解明および治療法の確立 2. 薬剤業務のデジタルトランスフォーメーション化</p>	<p>1. Translational research based on data science 1) Drug development for the intractable diseases using drug repositioning approach 2) Discovery of novel anticancer drugs using drug repositioning approach 3) Investigation of the mechanism of anticancer drug-induced adverse events and establish a novel therapeutic strategy 2. Digital transformation of pharmaceutical services</p>

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
口腔形態学 Oral Morphology TEL 086-235-6630 https://hiro-okamura.wixsite.com/lab-oralmorphology hiro-okamura@okayama-u.ac.jp	教授 岡村 裕彦 Professor OKAMURA, Hirohiko	1. 骨形成・吸収機構に関する分子・細胞・個体レベルの包括的研究 2. 歯周組織の細胞と口腔内細菌の新たな免疫学的コミュニケーション 3. メカニカルストレスと骨組織動態に関する細胞生物学的研究 4. メラトニンの骨作用機構の解明 5. 口腔粘膜上皮における細胞接着装置の機能に関する細胞生物学的研究	1. Cell biology of bone formation and resorption 2. Cell to Cell communications between periodontal cells and oral microorganisms 3. Cell biology of mechanical stress induced bone formation 4. Mechanisms of melatonin effects on bone 5. Cell biology of intercellular junctions in oral mucosae
口腔機能解剖学 Oral Function and Anatomy TEL 086-235-6635 http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~dentanatomy2/ ysawa@okayama-u.ac.jp	教授 沢 禎彦 Professor SAWA, Yoshihiko	1. 頭頸部器官発生および腫瘍転移におけるポドプラニンの分子生物学的機能 2. 糖尿病性腎症発症における口腔細菌由来TLRリガンドの役割 3. 頭頸部リンパ管内皮細胞における免疫機能分子の発現	1. Molecular biologic function of podoplanin in head and neck organogenesis and the tumor metastasis 2. Role of the TLR ligand derived from oral bacteria in the diabetic nephropathy onset 3. Expression of immune function molecules in head and neck lymphatics endothelial cells
口腔生理学 Oral Physiology TEL 086-235-6640 https://www.okayama-u.ac.jp/user/oralphys/OralPhysiology.html yoshida.ryusuke@okayama-u.ac.jp	教授 吉田 竜介 Professor YOSHIDA, Ryusuke	1. 味覚の受容・伝達・調節機構 2. 口腔内外の味覚センサーの機能 3. 味覚組織の分化・再生 4. 口腔感覚が全身機能に与える影響 5. 味覚と唾液に関する研究	1.Reception, transduction and modulation of taste 2.Functions of taste systems in intra- and extra-oral tissues 3.Regeneration and differentiation of taste tissues 4.The roles of orofacial sensory systems on the total health of our body 5. Relationship between taste and saliva
口腔生化学 Biochemistry and Molecular Dentistry TEL 086-235-6645 http://www.okayama-u.ac.jp/user/seika/index.html kubota1@md.okayama-u.ac.jp	教授 久保田 聡 Professor KUBOTA, Satoshi	1. 硬組織（骨・軟骨・歯）の形成・維持・吸収機構および疾患に関する生化学的、分子細胞生物学的研究 2. 硬組織の再生医療に向けての基礎研究 3. CCNファミリー遺伝子・タンパク質に関する包括的研究 4. 細胞分化に伴う統合的遺伝子発現制御機構の研究 5. 口腔組織における発癌機構に関する研究	1. Biochemistry and Molecular and Cellular Biology of Calcified-Tissues 2. Basic Research toward Regenerative Medicine of Calcified Tissues 3. Comprehensive Studies on CCN Family of Genes and Proteins 4. Investigation on Integrated Gene Regularoty System along Cytodifferentiation 5. Carcinogenesis in Oral Tissues

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>口腔病理学 Oral Pathology and Medicine TEL 086-235-6651 https://www.okayama-u.ac.jp/user/oralpath/index.html jin@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 長塚 仁 Professor NAGATSUKA, Hitoshi</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔癌における癌間質と腫瘍微小環境の研究 2. 歯源性腫瘍の病理発生・病態機能解明に関する研究 3. 頭頸部腫瘍の外科病理と免疫組織化学的、分子病理学的研究 4. 歯牙・骨組織再生に関する分子細胞学的研究 5. 生体材料と組織幹細胞を用いた硬組織再生修復法の研究 6. 骨髄由来細胞の細胞分化および機能に関する研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Study of cancer stroma and tumor microenvironment in oral cancer. 2. Molecular pathology of odontogenic tumors. 3. Surgical pathology, immunohistochemical and molecular analyses in head and neck tumor. 4. Molecular and cell biological study on bone and tooth regeneration. 5. Hard tissue regeneration and repair using biomaterials and tissue stem cells 6. Study on cell differentiation and function of bone marrow-derived cells.
<p>口腔微生物学 Oral Microbiology TEL 086-235-6655 http://www.cc.okayama-u.ac.jp/oral_microbiology/ oharan@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 大原 直也 Professor OHARA, Naoya</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病原細菌の病原性に関する研究 2. 抗酸菌の病原性に関する研究 3. 細菌の代謝経路に関する研究 4. 細菌感染に対する宿主応答の解析 5. 細菌感染と慢性炎症性疾患および生活習慣病との関連性についての研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Pathogenesis of periodontal bacteria 2. Molecular pathogenesis of mycobacteria 3. Molecular analysis of metabolic pathways 4. Analysis of host responses to bacterial infection 5. Relationship between bacterial infection and chronic inflammatory diseases
<p>歯科薬理学 Dental Pharmacology TEL 086-235-6660 https://dental-pharma-okayama-univ.jimdosite.com/ k-oka@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 岡元 邦彰 Professor OKAMOTO, Kuniaki</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. エクソソーム等の細胞外小胞とデリバリーシステムに関する研究開発 2. 疾患や再生に関わるアッセイ系やスクリーニング系の開発と活用 3. がん微小環境に関する研究開発 4. 細胞分化と骨代謝に関する研究開発 5. 構造生物学および計算科学に基づくタンパク質と薬剤の機能に関する研究開発 6. 治療薬や診断薬などの創薬に関する研究開発 7. 薬剤耐性の機構および解決に関する研究開発 8. オルガノイド、癌チップ、骨チップに関する研究開発と活用 9. 代謝、ストレス、RNA制御に関する研究開発 10. がん特有の異常および腫瘍免疫に関する研究開発 11. プロテアーゼの機能と阻害に関する研究開発 12. 漢方薬についての研究 13. データベースとポータル構築と利活用 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Research and development of exosomes, other vesicles, and delivery systems 2. Development and utilization of assay and screening systems for diseases and regeneration 3. Research and development on cancer, tumor microenvironment and immunology 4. Research and development on cell differentiation and bone metabolism 5. Research and development of protein and drug functions based on structural biology and computational science 6. Drug discovery and development for therapeutics and diagnostics 7. Mechanisms and solution of drug resistance 8. Research, development and application on organoids, cancer-on-a-chip, and bone-on-a-chip 9. Research and development on metabolism, stress, and RNA regulation 10. Research and development on cancer-specific aberration and tumor immunology 11. Research and development on protease function and inhibition 12. Research on Herbal Medicines 13. Construction and utilization of databases and portals
<p>生体材料学 Biomaterials TEL 086-235-6665 http://www.okayama-u.ac.jp/user/biomat/ tmatsu@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 松本 卓也 Professor MATSUMOTO, Takuya</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体組織と生体材料との界面制御 2. 生体組織接着材料の分子設計と開発 3. 組織再生制御 4. 生体材料を基盤とした新しい生命科学研究用ツールの開発 5. 歯科材料、生体材料の物性評価と臨床応用 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Regulation of material/biological tissue interface 2. Design and development of new tissue adhesive 3. Regulation of biological tissue regeneration 4. Development of material-based tools for life science research 5. Biomaterial characteristics and clinical application

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>応用情報歯学 Dental Informatics</p> <p>TEL 086-235-6804</p> <p>http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/view?u=23bb05f542f2609274506e4da22f6611</p>	<p>[未定] undecided</p>	<p>1. 歯科医療情報学 2. 各種医療情報の2次利用に関する研究 3. 歯科医療経済学 4. 歯科法医学</p>	<p>1. Biomedical informatics in dentistry 2. Reseach on secondary use of medical information 3. Dental Economics 4. Forensic dentistry</p>
<p>歯科保存学分野 Operative Dentistry</p> <p>TEL 086-235-6670</p> <p>https://opera.dent.okayama-u.ac.jp/ suzukis@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 鈴木 茂樹 Professor SUZUKI, Shigeki</p>	<p>1. 象牙質/歯髄再生療法の開発に関する研究 2. 歯を用いた胎児期・幼少期における曝露環境の遡及的解析に関する研究 3. AIによる歯内療法の前後判定に関する臨床研究 4. 接着性修復材による保存修復法に関する研究 5. 審美修復法の開発, 確立と臨床応用に関する研究 6. 齲蝕象牙質の細菌学的, 組織学的研究 7. 歯科修復材料への歯質強化作用及び抗菌性の付与に関する研究 8. OCTの保存修復への応用</p>	<p>1. Development of dentin/pulp regeneration therapy 2. Retrospective analysis of exposure environments during fetal and early childhood periods using teeth 3. Clinical research on prognostic assessment of endodontic treatment using AI 4. Restoration methods using adhesive materials 5. Development, establishment, and clinical application of esthetic restorative methods 6. Microbiological and histological study of dental caries 7. Strengthening effect of dentin and the provision of antibacterial properties in dental restorative materials 8. Application of OCT in operative dentistry</p>
<p>歯周病態学 Periodontal Science</p> <p>TEL 086-235-6675</p> <p>https://www.cc.okayama-u.ac.jp/~perio/bind2/ stakashi@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 高柴 正悟 Professor TAKASHIBA, Shogo</p>	<p>1. 歯周・歯内疾患の病因に関する細菌学的, 免疫学的及び分子細胞生物学的な基礎及び臨床研究 2. 歯周病の発症前診断と遺伝子診断の研究 3. 歯髄保護と歯周組織再生の研究 4. 感染制御, 免疫制御および組織再生に関わる局所的な遺伝子・サイトカイン・細胞治療の研究 5. 局所慢性炎症の全身への影響に関する研究 (ペリオドンタルメディシン研究)</p>	<p>1. Microbiological, immunological, and molecular and cellular biological research on pathogenesis of periodontal disease and endodontic disease 2. Presymptomatic and genetic diagnosis for periodontal disease 3. Dental pulp protection and regeneration of periodontal tissue 4. Local gene therapy, cytokine therapy, and cell therapy for infection control, immunomodulation, tissue regeneration 5. Periodontal medicine; Systemic effects of local chronic inflammation</p>
<p>インプラント再生補綴学 Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine</p> <p>TEL 086-235-6680</p> <p>http://www.okayama-u.ac.jp/user/implant/ kuboki@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 窪木 拓男 Professor KUBOKI, Takuo</p>	<p>1. 口腔インプラント治療を含む補綴治療の効果・効用に関する臨床疫学 2. 歯や歯槽骨, 口腔粘膜, 関節軟骨, 神経などの組織・器官再生に関する基礎研究, ならびにトランスレーショナル研究 3. 口腔インプラントの骨結合の強化・早期獲得のための分子細胞生物学研究 4. 顎関節症・口腔顔面痛に関する基礎研究ならびに臨床疫学研究 5. 慢性筋痛やブラキシズムの病因・病態解明に向けた基礎研究ならびに臨床疫学研究 6. 関節破壊, 変形性関節症のメカニズムに関する分子細胞生物学的研究 7. 高齢者や有病者の口腔機能リハビリテーションと生活の質に関する研究 8. 摂食嚥下リハビリテーションと栄養管理 9. 接着性レジンや歯科用レーザーに関する基礎研究, 臨床応用研究, および臨床疫学研究</p>	<p>1. Tissue and organ engineering of tooth, alveolar bone, oral mucosa and joint cartilage 2. Molecular cellular biology for osseointegration of dental implant 3. Basic and clinical research for temporomandibular disorders and orofacial pain 4. Clinical epidemiology for dental implant or prosthodontic treatment 5. Basic and clinical research for etiology of muscle pain and oral bruxism 6. Molecular cellular biology for destructive joint disease 7. Oral rehabilitation of elderly people and quality of life 8. Dysphagia rehabilitation and nutritional control 9. Basic and clinical research for dental adhesive resin</p>

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>咬合・有床義歯補綴学 Department of Occlusal and Oral Functional Rehabilitation TEL 086-235-6687 [JP] http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~2hotetsu/index.html [ENG] http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~2hotetsu/Top_e.html akentaro@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 秋山 謙太郎 Professor AKIYAMA, Kentaro</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭蓋下顎機能異常（顎関節症）の発症機序に関する研究（夜間ブラキシズムの発症機序, 増強因子, 減少因子に関する研究） 2. 構音障害の治療に関する研究（夢の会話プロジェクト関連研究） 3. 咀嚼機能に関する研究（咀嚼機能と嚥下機能の関係） 4. 歯槽骨及び周囲組織の再生に関する分子生物工学的研究 5. 口腔インプラント周囲支持組織の治癒機構に関する研究 6. 疼痛と顎機能との関連に関する研究 7. 顎関節症と、顎関節へのメカニカルストレスとの関連に関する基礎的ならびに臨床的研究 8. 咀嚼と脳機能に関する研究 9. 高齢者の顎口腔機能に関する研究 10. 歯根膜感覚と夜間ブラキシズムの関連およびその病態分類に関する研究 11. 有床義歯の形態と機能に関する研究 12. 加齢に伴う間葉系幹細胞機能の変化と疾患形成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Etiology of craniomandibular disorders (TMD) 2. dysarthria and speech function (e.g. function of tongue prosthesis) 3. Masticatory function (Relation between masticatory and swallowing function) 4. Molecular biology on regeneration of alveolar bone and periodontal tissues 5. Oral implantology 6. Pain and Stomatognathic system 7. Mechanical analysis on TMJ loading 8. Occlusion and brain function 9. Geriatric dentistry on stomatognathic function 10. Physiological study on Periodontal sensation and muscle function 11. Function of denture prosthesis 12. Functional change of MSC with aging and Disease
<p>歯科矯正学 Orthodontics TEL 086-235-6690 http://www.okayama-u.ac.jp/user/kyousei/classroom/event.html kamioka@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 上岡 寛 Professor KAMIOKA, Hiroshi</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の移動と骨のメカニカルストレス受容機構に関する基礎研究 2. バイオイメージングを用いた骨形態計測学的研究 3. 歯の移動に関する細胞生物学, 免疫組織化学, 分子生物学, 神経解剖学的研究 4. 歯根膜再生に関する細胞生物学, 分子生物学的研究 5. 顎・顔面の成長発育並びに先天異常に関する骨・軟骨細胞生物学, 分子生物学的研究 6. 不正咬合患者の運動生理学ならびに臨床疫学研究 7. 矯正治療に伴う歯列, 顎, 口腔の形態と機能の変化に関する研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Basic research for mechanotransduction in bone and teeth 2. Bio-imaging research for bone morphometry 3. Basic and clinical research for orthodontic tooth movement 4. Molecular cellular biology for periodontal tissue regeneration 5. Molecular cellular biology for tooth and craniofacial development 6. Basic and clinical research for malocclusion 7. Functional research for craniofacial morphology during orthodontic treatment
<p>顎口腔再建外科学 Oral and Maxillofacial Reconstructive Surgery TEL 086-235-6695 http://www.okayama-u.ac.jp/user/hos/saiken.html iida-s1@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 飯田 征二 Professor IIDA, Seiji</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顎骨再生医療の臨床応用への細胞・担体複合移植手技の開発とその効率化のための生体内成長因子の応用 2. 骨吸収機構の分子遺伝子学的解明と新規骨吸収抑制剤の臨床応用に関する研究 3. 三次元画像診断装置を用いた顎骨の形態的定性的研究 4. 口唇・口蓋裂, 顎変形症患者の発症機序検索及び顎・顔面形態計測による運動機能解析と発育・手術評価 5. 軟骨の再生を促進するメカニズムの分子生物学的解析と臨床応用に関する研究 6. 口腔粘膜の難治性疾患における遺伝子発現解析と病因解明をめざした研究 7. 遺伝子組み換え動物を用いた頭蓋顎顔面の発生学的研究、疾患関連研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Basic research for regeneration of the jaw bone using the novel scaffold, auto-cell grafting and cytokine distribution technique 2. Molecular analysis for bone resorption and its control system, and development for regeneration of jaw bone using the novel anti-bone-resorption medicine 3. Research of morphological and structural analysis of facial bone using 3 dimensional imaging diagnostic system 4. Biological study for developmental anomaly about cleft lip and palate, and morphological and kinetic analysis for its treatment 5. Molecular biological analysis about cartilage growth, differentiation and regeneration, and its clinical application studies 6. Gene expression analysis for the intractable diseases of oral mucosa 7. Craniofacial developmental biology utilizing mouse genetics approach
<p>口腔顎顔面外科学 Oral and Maxillofacial Surgery TEL 086-235-6702 https://okayama-u-omfs.jp sibaragi@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 伊原木 聡一郎 Professor IBARAGI, Soichiro</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岡大バイオバンクを利用した新規口腔癌バイオマーカーに関する研究 2. 細胞外小胞を介した口腔癌の進展機構に関する研究 3. 人工知能を用いた口腔癌転移予測に関する研究 4. 癌関連骨病変の制御に関する研究 5. 口腔癌の浸潤・転移に関する研究 6. 顎変形症患者の顔貌の形態計測学的分析およびその治療法に関する研究 7. 顎顔面領域の臨床解剖に関する研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Research on novel oral cancer biomarkers using Okayama University biobank 2. Research on the mechanism of oral cancer progression via extracellular vesicles 3. Research on prediction of oral cancer metastasis using artificial intelligence (AI) technology 4. Development of the treatment for cancer induced bone disease 5. The mechanism of invasion and metastasis of oral cancer 6. Study of morphological analysis and treatment of dentofacial deformity 7. Research on clinical anatomy of maxillofacial region

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>歯科放射線学 Oral and Maxillofacial Radiology TEL 086-235-6706 https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index156.html</p>	<p>教授 柳 文修 Professor YANAGI, Yoshinobu</p>	<p>1. 口腔癌の保存療法に関する研究 2. 口腔病変のMRI拡散強調画像に関する研究 3. 顎口腔領域病変のダイナミックMRIによる質的診断能に関する研究 4. AIを利用した画像診断に関する研究 5. 分子イメージング 6. 法歯学に関する研究</p>	<p>1. Research on conservative therapy of oral cancer 2. Research on MRI diffusion weighted image of oral lesion 3. Research on qualitative diagnosis ability by dynamic contrast enhanced MRI of Oral and maxillofacial region 4. Research on AI-based diagnostic imaging 5. Molecular imaging in oral cancer 6. Research for the forensic dentistry</p>
<p>予防歯科学 Preventive Dentistry TEL 086-235-6710 https://www.cc.okayama-u.ac.jp/~preventive_dentistry/top.html dekuni7@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 江國 大輔 Professor EKUNI, Daisuke</p>	<p>1. 歯科疾患予防の公衆衛生学的研究(新規開発・DXを含む) 2. 歯科における酸化ストレスの制御 3. 口腔と全身との関係 4. 口の機能とフレイル（虚弱）との関係 5. 社会経済学的因子と歯科疾患 6. 周術期の口腔健康管理 7. メタボリックシンドロームを制御するための歯科的アプローチの創出 8. 細胞外小胞と口腔内細菌叢による疾患への影響</p>	<p>1. Community dental health (New development and DX etc.) 2. Control of oxidative stress in Dentistry 3. Relationship between oral and systemic conditions 4. Oral function and frailty 5. Socioeconomic factors and oral diseases 6. Perioperative management for oral health 7. Creation of dental approach for control of obesity and metabolic syndrome 8. Role of extracellular vesicles and oral microbiome on diseases</p>
<p>小児歯科学 Pediatric Dentistry TEL 086-235-6715 http://okayama-u-dent-syouni.jp/index.html mnakano@cc.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 仲野 道代 Professor NAKANO, Michiyo</p>	<p>1. 齲蝕原性細菌および歯周病原細菌の病原性に関する研究 2. バイオフィルム形成における口腔レンサ球菌のシグナル伝達システムに関する分子生物学的研究 3. 齲蝕発生に対する抑制メカニズムを持つ物質に関連する研究 4. 齲蝕原性細菌の全身疾患発症メカニズムへの関連に関する分子生物学的研究 5. 小児における歯列咬合の育成に関する研究</p>	<p>1. Pathogenesis of mutans streptococci and periopathic bacterium infections 2. Molecular analysis of signal transduction system of Streptococcus mutans and its relationship with biofilm formation 3. Mechanism of dental caries inhibition by the substance 4. Mechanism of the occurrence of systemic diseases of mutans streptococci 5. Research of dentition growth and occlusion-related in children</p>
<p>歯科麻酔・特別支援歯学 Dental Anesthesiology and Special Care Dentistry TEL 086-235-6720 http://www.okayama-u.ac.jp/user/shimasui/ miyawaki@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 宮脇 卓也 Professor MIYAWAKI, Takuya</p>	<p>1. 静脈麻酔薬・鎮静薬の薬物動態に関する研究 2. Alpha-2アドレナリン受容体アゴニストおよびHCNチャネル阻害薬の抗侵襲作用に関する研究 3. リポソームを用いた薬物キャリアに関する研究 4. 水素含有粘性気泡液の生体への応用に関する研究 5. 唾液腺におけるtransmembrane135の機能解析 6. 口腔顔面痛に関する臨床研究 7. 障がい者の口腔健康維持支援に関する臨床研究 8. 摂食・嚥下リハビリテーションに関する臨床研究</p>	<p>1. Pharmacokinetics of intravenous anesthetics and sedatives 2. Anti-invasive effect of alpha-2 adrenoceptor agonists and HCN channel blockers 3. Liposomal drug carrier 4. Viscous solution containing hydrogen gas bubbles 5. Functional analysis of transmembrane135 in salivary glands 6. Orofacial pain 7. Oral health of persons with disabilities 8. Dysphagia rehabilitation</p>
<p>総合歯科学 Comprehensive Dentistry TEL 086-235-6751 https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index149.html tadashii@md.okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 山本 直史 Professor YAMAMOTO, Tadashi</p>	<p>1. 細胞外小胞が制御する侵襲性歯周炎の病態解明と診断への応用研究 2. 歯質接着機能性材料の開発と臨床応用に関する研究 3. 歯周治療および歯科保存治療に関する臨床研究 4. 歯科臨床教育に関する研究</p>	<p>1. Pathophysiology and diagnostic application of aggressive periodontitis regulated by extracellular vesicles 2. Development and clinical application of dental adhesive functional materials 2. Clinical research of periodontal treatment and conservative dentistry 3. Research of clinical dental education</p>

○ 薬学系講座

Section of Pharmaceutical Sciences

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
毒性学 Toxicology TEL 086-251-7942 http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/view?l=ja&u=3a4d55c061525aae74506e4da22f6611&a2=1000007&o=affiliation&sm=affiliation&sl=ja&sp=7 atsushiono3@okayama-u.ac.jp	教授 小野 敦 Professor ONO, Atsushi	1. 毒性学的影響を予測するための化学構造アラートの開発 2. インビトロ, インシリコの組み合わせによる新たな毒性評価手法の開発 3. 遺伝子発現の変化に基づく毒性バイオマーカーの開発と検証 4. 公共データベースの統合解析による化学毒性のメカニズムの解析 5. 毒性評価のためのAOP (毒性発現パスウェイ) の構築と検証	1. Development of chemical structure alert for prediction of toxicological effects. 2. Development of novel toxicity evaluation scheme by the combination of in silico, in vitro method. 3. Development and validation of toxicity biomarkers based on gene-expression changes. 4. Analysis of mechanism of chemical toxicity by integration of public database. 5. Development and evaluation of the Adverse Outcome Pathway for toxicity evaluation.
疾患薬理制御科学 Personalized Medicine & Preventive Healthcare Sciences TEL 086-235-6619 http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/lab/pmaphs/ ariyoshi-n@okayama-u.ac.jp	教授 有吉 範高 Professor ARIYOSHI, Noritaka	1. 食後血糖を抑制する機能性食品を用いた個別的介入研究 2. 降圧成分を含む機能性食品に対する血圧変化応答性の要因に関する研究 3. 機能性食品による終末糖化産物の生体内蓄積抑制に対する研究 4. 健常者における機能性食品摂取による腸内細菌叢の変化に関する解析 5. 腸内細菌叢の変化に伴う宿主生理的変動プロファイルの評価 6. 患者遺伝子情報と腎癌・肺癌の予後に関する薬理遺伝学的研究 7. データベースを用いた癌治療におけるドラッグリポジショニングに関する研究	1. Intervention study using functional foods that suppress postprandial blood glucose 2. Research on factors influencing blood pressure response to functional foods containing antihypertensive ingredients 3. Study on suppression of AGEs accumulation by functional foods 4. Changes in microbiota caused by functional food intake in healthy individuals 5. Evaluation of host physiological variation profile associated with changes in gut microbiota 6. Study on patient genetic information and prognosis of renal and lung cancer 7. Research on drug repositioning in cancer therapy using databases
健康情報科学 Department of Health Data Science TEL 086-235-6585 https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/research/researchfield/clinical-evaluation-and-development-of-pharmaceutical-biomedicine/ koyam-t@cc.okayama-u.ac.jp	教授 小山 敏広 Professor KOYAMA, Toshihiro	1. 診療報酬明細情報を用いた薬剤疫学研究 2. 国際医療情報の活用による国際疫学研究 3. 副作用データベースを用いた薬剤安全性研究	1. pharmacoepidemiological research using health insurance claims databases. 2. international epidemiological research using global health databases. 3. drug safety research using adverse drug reaction databases
薬効解析学 Medicinal Pharmacology TEL 086-251-7939 http://owl.pharm.okayama-u.ac.jp/lab/yakuri/Uehara_Lab/Welcome.html uehara-t@okayama-u.ac.jp	教授 上原 孝 Professor UEHARA, Takashi	1. 病態形成に関わる新規S-ニトロシル化 (酸化) 蛋白質の同定 2. 生体内ラジカル/ガスによる蛋白質修飾反応と機能変化 3. 特異的酸化修飾部位認識抗体による神経変性疾患診断への応用 4. 分子特異的な抗酸化薬の評価系構築/探索と病態モデルへの適用 5. 変性蛋白質蓄積による小胞体ストレスを介した神経細胞死惹起機構	1. Isolation of novel S-nitrosylated proteins 2. Regulatory mechanism of protein function by nitrosylation/oxidation 3. Development of several tools for detection of oxidized proteins 4. Screening for chemical candidates (new type of anti-oxidant) 5. Relationship between ER stress and neurodegenerative diseases

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
臨床薬物動態学 Clinical Pharmacokinetics and Therapeutics TEL 086-235-7774 https://www.pharm.okayama-u.ac.jp/lab/clinpk/ taiba@okayama-u.ac.jp	(准教授 合葉 哲也) Associate Professor AIBA, Tetsuya	1. 薬物体内動態と薬効の変動因子の同定と変動メカニズムの解明 2. 薬物療法の個別化至適化手法の構築 3. 臨床データの適及的並びにコホートの解析と、これに基づく薬物療法の最適化	1. Characterization and identification of the factors affecting the pharmacokinetics and pharmacodynamic of therapeutic compounds. 2. Optimization and individualization of the pharmacotherapy 3. Retrospective/Cohort analysis of clinical data for the QOL amelioration
炎症薬物学 Inflammatory Pharmacology TEL 086-251-7940 http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/view?l=ja&u=878e8ce1ef47b22a74506e4da22f6611&a2=1000007&o=affiliation&sm=affiliation&sl=ja&sp=14 sugimoto@okayama-u.ac.jp	(准教授 杉本 幸雄) Associate Professor SUGIMOTO, Yukio (募集停止) (Not recruiting)	1. 新規アレルギー性疾患治療薬の開発研究 2. 抗アレルギー薬の作用機序に関する研究 3. 新規アレルギー性疾患緩和食品の開発	1. New Drug development research for allergic diseases 2. Mechanism analysis of anti-allergic drugs 3. New functional food development research for allergic diseases
国際感染症制御学 International Infectious Diseases Control TEL 086-251-7975 http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/view?l=ja&u=724adaae4ae9fa6574506e4da22f6611&a2=1000007&o=affiliation&sm=affiliation&sl=ja&sp=10 hskim@cc.okayama-u.ac.jp	(准教授 金 恵淑) Associate Professor KIM, Hye-Sook	1. マラリアを含む熱帯感染症の治療薬の開発、および診断法に関する研究 2. プリミジン系抗がん剤の作用機序に関する研究、および細胞死の形態に関連するスイッチ分子の探索研究 3. ヒト遺伝子多型と抗がん剤のレスポンスに関する研究 4. 慢性疲労症候群の診断因子の探索	1. New drug development research for tropical infectious diseases and improvement of diagnostic method for parasite-infectious diseases (Malaria, Leishmeniasis, Schistosomiasis, etc.) 2. Mechanism analysis of new anticancer candidates and detection of switching molecules in cancer cell death (Ethynyl Cytidine and 5-FuDR) 3. SNP analysis and usefulness of tailor-made medicine for anticancer agents 4. Research of diagnostic target molecule for chronic fatigue syndrome
臨床病態診断学 Clinical Pathophysiology and Diagnostics TEL 086-251-7213 https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/research/researchfield/clinical-pathophysiology-diagnosis-and-etiological-analysis/ yiwasaki@okayama-u.ac.jp	教授 岩崎 良章 Professor IWASAKI, Yoshiaki (募集停止) (Not recruiting)	1. ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) の実装に向けた適応診断マーカーと薬剤の開発 2. 肝胆膵がん幹細胞モデルの作製とがん性微小環境の解析 3. 若年成人の代謝機能障害に伴う脂肪性肝疾患(MASLD)における臨床的背景と遺伝子多型に関する研究	1. Development of the drug and diagnostic markers for precision of boron neutron capture therapy (BNCT). 2. Generation of hepatobiliary and pancreatic cancer stem cell models and analysis of the cancerous microenvironment. 3. Research on the clinical background and genetic polymorphisms in young adults with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease (MASLD).

教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail	指導教授 Professor	研究内容	Research Projects
臨床病態診断学 Clinical Pathophysiology and Diagnostics TEL086-235-7892 http://www.okayama-u.ac.jp/user/hokekan/index.shtml ohnishi@cc.okayama-u.ac.jp	教授 大西 勝 Professor OHNISHI, Masaru (募集停止) (Not recruiting)	1. 大学生のメンタルヘルスに関する研究 2. 摂食障害治療における家族療法の研究 3. 産業精神保健に関する研究	1. Research of college student's mental health 2. Research of family therapy in the treatment of eating disorders 3. Research of occupational mental health
臨床基礎統合薬学 Department of Integrated Clinical and Basic Pharmaceutical Sciences TEL 086-235-6580 https://rishokisotogo.wixsite.com/my-site-1 yamakz@okayama-u.ac.jp	教授 山本 和宏 Professor YAMAMOTO, Kazuhiro	1. 腎線維化の新規治療戦略の探索に関する研究 2. 高度腎機能低下患者の薬物療法における生理学的薬物動態モデルの応用に関する研究 3. 新生児・乳児の薬物療法における生理学的薬物動態モデルの応用に関する研究 4. 抗がん薬による有害事象のメカニズム解明と予防法の確立に関する研究 5. 地域の未病医療と災害対応に貢献するための研究	1. Novel therapeutic strategies for renal fibrosis 2. The application of physiologically-based pharmacokinetic models in the pharmacotherapy of patients with severely impaired renal function 3. The application of physiologically-based pharmacokinetic models in the pharmacotherapy of neonates and infants 4. Elucidation of the mechanisms of adverse events caused by anticancer drugs and establishment of preventive methods 5. The contribution to community medical care for presymptomatic disease and disaster preparedness
衛生微生物化学 Sanitary Microbiology TEL 086-251-7966 http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/lab/kankyou/ miyos-s@okayama-u.ac.jp	教授 三好 伸一 Professor MIYOSHI, Shin-ichi (募集停止) (Not recruiting)	1. 細胞溶解毒素の構造と機能ドメインに関する研究 2. 細菌プロテアーゼの毒作用と産生調節に関する研究 3. 病原細菌の環境認識と遺伝子発現調節に関する研究 4. 病原細菌のヘム獲得戦略の解析 5. 病原ビブリオの生態学および分子疫学的研究 6. 微生物による環境汚染物質の分解に関する研究	Pathogenic and beneficial actions of environmental microorganisms: infectious diseases, food poisoning and bioremediation 1. Gene regulation systems in human pathogenic vibrios 2. Pathological and biological actions of bacterial protein toxins and their domains 3. Bioremediation of chemical pollutants by using environmental microorganisms
構造生物薬学 Structural Biology TEL 086-251-7974 http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/lab/a_yama/Structure/Top.html	[未定] undecided	1. 感覚受容の構造生物学 2. トランスポーター・イオンチャネルの構造生物学 3. 薬学・医学・歯学標的タンパク質群の構造生物学 4. 難解析性タンパク質試料調製・結晶化のための方法論研究 5. 甘味タンパク質を非抗体分子骨格とする人工結合タンパク質の設計・作製と利用	1. Structural biology of sensory systems 2. Structural biology of transporters and ion channels 3. Structural biology of proteins important for pharmaceutical sciences, medicine, and dentistry 4. Methodology to facilitate sample preparation and crystallization for difficult target proteins 5. Generation of synthetic binding proteins using a sweet protein as a non-antibody scaffold
精密有機合成化学 Fine Organic Synthesis TEL 086-251-7931 https://sites.google.com/s.okayama-u.ac.jp/pharm-fineorganicsynthesis dsawada@okayama-u.ac.jp	教授 澤田 大介 Professor SAWADA, Daisuke	1. 非共有結合性配向基による炭素-水素結合直接官能基化反応の開発 2. 連続環化反応によるヘテロ原子含有炭素系ナノ分子の合成 3. 複素環含有大環状分子の合成 4. 複素環連結天然物の全合成 5. 遷移金属触媒の基質分子によるレドックスを用いた二点非対称官能基化反応の開発	1. Site selective C-H activation reaction using bifunctional auxiliary 2. Synthesis of carbon nanomolecules including hetero atoms 3. Synthesis of macrocyclic compounds including heterocycles 4. Synthesis of natural products including heterocycles 5. Catalyst redox cascade reaction

<p>教育研究分野 及び 連絡先 Department, Website, E-mail</p>	<p>指導教授 Professor</p>	<p>研究内容</p>	<p>Research Projects</p>
<p>臨床薬理学 Clinical Pharmacology TEL 086-235-7640 https://pharm.hospital.okayama-u.ac.jp/ zamami-y@okayama-u.ac.jp</p>	<p>教授 座間味 義人 Professor ZAMAMI, Yoshito</p>	<p>1. データサイエンスを基盤としたトランスレーショナル・リサーチ 1) 難治性疾患を標的としたドラッグリポジショニング研究 2) がんを標的としたドラッグリポジショニング研究 3) 抗がん剤による有害事象の発現機序解明および治療法の確立 2. 薬剤業務のデジタルトランスフォーメーション化</p>	<p>1.Translational research based on data science 1)Drug development for the intractable diseases using drug repositioning approach 2)Discovery of novel anticancer drugs using drug repositioning approach 3)Investigation of the mechanism of anticancer drug-induced adverse events and establish a novel therapeutic strategy 2.Digital transformation of pharmaceutical services</p>

ART II Plusプログラムとは

「臨床研修中に科目等履修生(Pre-ARTプログラム) となり、大学院で博士号取得を目指すプログラム」

対象：岡山大学以外の医学部医学科の出身者でかつ、岡山大学病院または岡山市立市民病院で臨床研修を行う方



※ART II Plusプログラムは2025年度開始

ART II Plusプログラムの前段階であるART II Plusプログラム (Pre-ART) として選考を実施 (出願要項は次頁)

ART II Plus Pre-ART プログラム

初期研修医用

2025 年度 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)科目等履修生 出願要項

1 出願資格

次の(1)及び(2)のいずれにも該当する者

(1) 次のいずれかに該当する者

① 大学の医学の課程を卒業した者

② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位(学位に付記する専攻分野の名称が医学)を授与された者

(注1) 出願資格(1)②に該当する見込みの者とは、次のいずれかの者です。

① 独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行する学位授与申請受理証明書を提出できる者

② 学位規則(昭和28年文部省令第9号)第6条第1項の規定に基づき独立行政法人大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定を受けている専攻科に在籍する者で、当該専攻科の修了が見込まれること及び当該者が学士の学位の授与を申請する予定であることを当該専攻科の置かれる短期大学長又は高等専門学校長が証明できる者

(2) 岡山大学医学部医学科以外を卒業している者で、岡山大学病院又は岡山市立市民病院で「臨床研修」を受けながら、「大学院博士課程」への入学を志願する者

2 募集人員

若干名

3 出願及び期間延長手続

(1) 出願・期間延長申請期間

2025年4月16日(水)～2025年4月18日(金)(期限厳守)

(2) 提出書類等

下記①～⑥(※②はデータ)は(1)の期間内に提出してください。入力ファイルは、次のアドレスからダウンロードして作成してください。<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/project/art/>
なお、提出書類に不備があるときは受理しない場合がありますので、ご注意ください。

① 科目等履修生入学願書(様式1)

② 科目等履修生 Pre-ART 申請データ(様式2)

・ ファイル名は、「科目等履修 Pre-ART 申請・氏名」(例 科目等履修 Pre-ART 申請・鹿田太郎)としてください。

・ メールの件名は、「科目等履修 Pre-ART 申請・氏名」として大学院担当宛 kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp へ送付してください。

③ 学士取得時の成績証明書

④ 臨床研修等における指導教員の推薦状(様式任意)

⑤ 入学検定料 9,800 円

※平日9:00～17:00の間に医歯薬会計課にて現金でお支払いください。領収書の写しを提出してください。

4 履修の単位及び科目について

(1) 科目等履修を願い出ることのできる単位は2年で10単位までです。

(2) 履修対象科目

以下の科目はそれぞれ2年間を通じて履修します。

・医学学位プログラム

研究方法論基礎 4単位(20 題目)

研究方法論応用 4単位(20 題目)

・包括がん研究者・研究医養成プログラム

がん研究者コース

研究方法論基礎 4単位(20 題目)

研究方法論応用 4単位(20 題目)

がん研究医コース

研究方法論基礎 1単位(5 題目)	研究方法論応用 2単位(10 題目)
--------------------	----------------------

・グローバル医療人養成プログラム

研究方法論基礎 2単位(10 題目)	研究方法論応用 2単位(10 題目)
アカデミック GP 養成統合科目 2単位(10 題目)	

・メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム

ビッグデータ解析コース

医療 AI 応用コース

研究方法論基礎 2単位(10 題目)	研究方法論応用 2単位(10 題目)
---------------------	---------------------

(3)履修対象科目の日程等

研究方法論基礎・・・概ね 4 月～ 8 月の平日 18:45～21:00

研究方法論応用・・・概ね 6 月～ 9 月の平日 18:45～21:00

*POSGRA 電子授業システムによるオンデマンド配信となる場合があります。

アカデミック GP 養成統合科目・・・概ね 5 月～ 10 月の平日 18:30～20:10

正式な授業日程・シラバスは、2025 年 3 月下旬までに下記のアドレスに掲載します。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/current-students-graduates/doctor/class-info/>

5 在籍期間

在籍期間は、入学日より 2027 年 3 月 31 日までの 2 年間とします。

6 選考及び可否の通知

書類審査、面接等により可否を決定し、可否の通知は 5 月中旬頃、「**科目等履修生 Pre-ART 申請データ**」のメールアドレス宛に通知します。

7 入学手続

入学手続期間 2025年5月22日(木)及び5月23日(金)

入学手続に必要なもの

宣誓書

写真(縦4.0cm×横3.0cm)

入学金 28,200円

授業料 1単位につき、14,800円 (既納の入学金及び授業料はいかなる理由があっても返還しません)

授業料は4期(①2025年6月から2025年9月まで、②2025年10月から2026年3月まで、③2026年4月から2026年9月まで、④2026年10月から2027年3月まで)に分割して各期の初月にお支払いいただきます。金額は履修単位が決まり次第ご連絡いたします。

※他必要書類は合格通知時に案内します。

※入学金及び授業料は平日9:00～17:00の間に医歯薬会計課にて現金でお支払いください。領収書の写しを提出してください。

8 授業科目の履修について

「6 選考及び可否の通知」で送付のあった書類に基づき、授業の履修をしてください。

9 履修結果等について

履修結果については、翌年度の初めに「**大学院授業科目の科目等履修(Pre-ART)出席題目数通知書**(以下「**通知書**」という)により通知します。大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)に入学し、修得単位等を活用しようとする場合、「**研究方法論(基礎・応用)単位認定・出席題目数継続申請書**」または「**統合科目単位認定・出席カード継続申請書**」及び「**通知書**」を提出しなければなりません。

10 注意事項

- (1) 出願書類等及び記載されている個人情報、選考に係る業務に使用します。ただし、入学者については、入学願書に記載された氏名、性別、生年月日、学歴等の個人情報を科目等履修に係る業務及び Pre-ART、ART プログラム推進に係る業務に利用します。

- (2) 合格者の中から選考により、ART II Plus プログラムによる奨学金(16 万円)の支給があります。支給決定について別途通知します。
- (3) 提出された書類はいかなる理由があっても返還しません。

11 その他

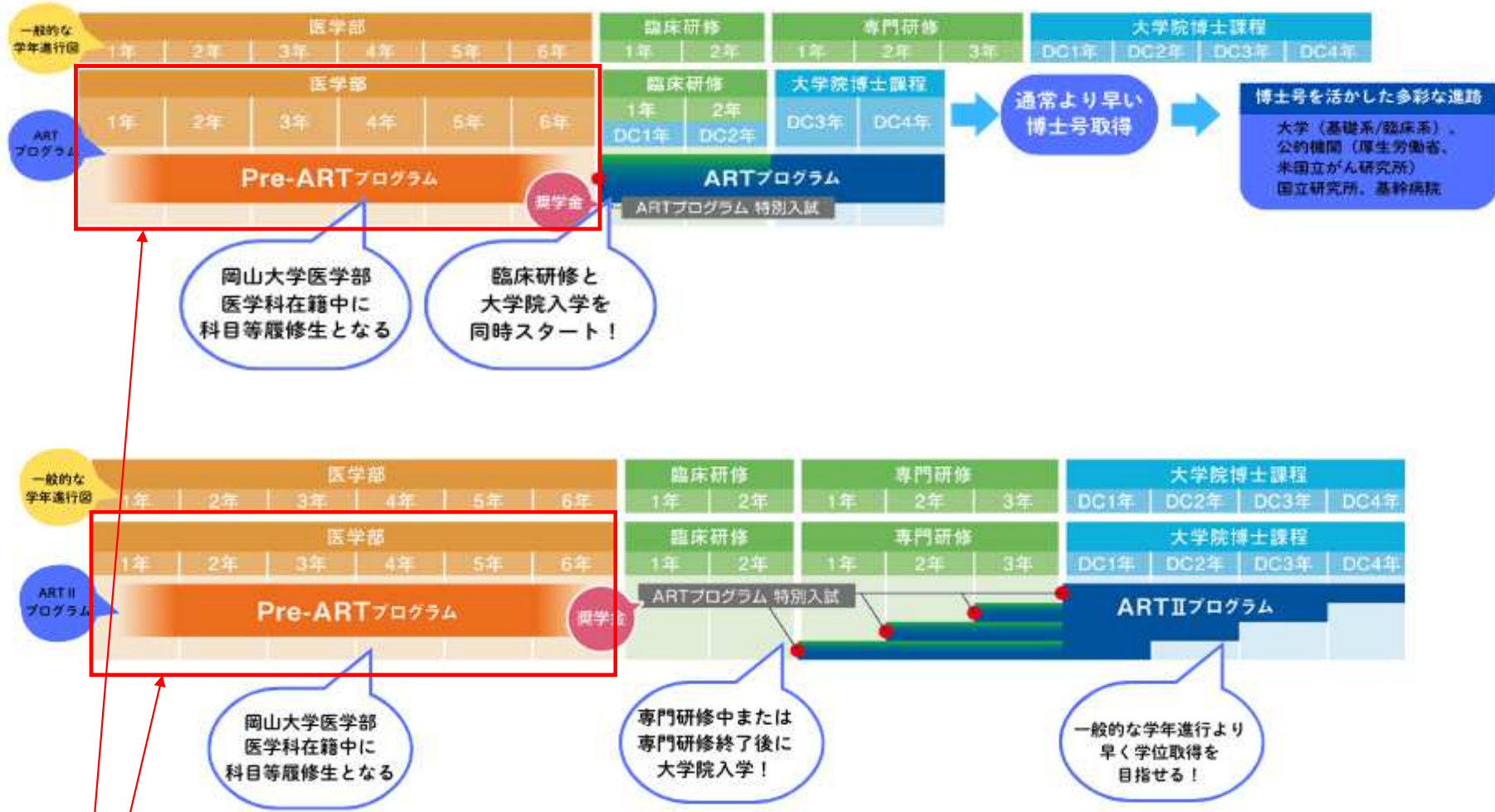
- ・ 翌年度も履修を希望する場合は、**科目等履修生(Pre-ART) 期間延長願書**による出願が必要です。
- ・ Pre-ARTとして研究活動を実施する場合は、あらかじめ**大学院担当**にご相談ください。**研究活動を実施する場合の申し合わせ**に従い、**研究指導計画書**の提出が必要です。

12 出願書類の請求先、提出先及び照会先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号 管理棟 1F

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課 教務グループ 大学院担当 TEL 086-235-7986

Pre-ARTプログラム



※Pre-ARTプログラムは、大学院でのARTプログラム、ART IIプログラムへの橋渡しのための学部特別プログラム
 研究医枠の学生は、Pre-ARTプログラムを必須とする
 なお、入学時の別枠選考ではなく、入学後、在学中に研究医枠学生として選抜

Pre-ART プログラム

岡山大学医学部医学科生用

2025 年度 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)科目等履修生 出願要項

1 出願資格

(1) 本学の医学部医学科生で最高年次の者

(2) 本学の医学部医学科において特に必要と認められた者

※「本学の医学部医学科において特に必要と認められた者」とは、次の事項にすべて該当するものとする。

- ・科目等履修を希望する年度における年次が医学部医学科 1～5 年次生で担任教員等（「医学研究インターンシップ」の指導教員・窓口教員などを含む、推薦の所見を有する医歯薬学総合研究科の専任教授・准教授、講師、助教をいう）、若しくは、ART プログラム推進室教授からの推薦*のあった者
- ・医学部医学科教務委員会において選考され、承認された者

※「推薦」とは、信頼された人が信頼できる人を推すことにより信頼の環を広げる行為です。そのため、

- 1) 被推薦者(学生)と推薦者(教員)の関係性(一定期間直接に接した経験に基づく推薦)
 - 2) これまでの被推薦者(学生)の(学修)活動の中で推薦に値する根拠(過去)
 - 3) 推薦目的に合致すると考えられる点(未来)
- のような内容が必要であることに留意してください。

2 募集人員

医学部医学科最高年次の者	希望する者
医学部医学科 1～5 年次生	各学年若干名

3 出願及び期間延長手続

(1) 出願・期間延長申請期間

2025 年 2 月 12 日(水)～ 2025 年 2 月 14 日(金) (期限厳守)

(2) 提出書類等

下記①と②のデータは (1) の期間内に提出してください。

なお、提出書類に不備があるときは受理しない場合がありますので、ご注意ください。

①科目等履修生入学願書(様式1-1)

2024 年度に科目等履修生(Pre-ART)の者で、2025 年度も引き続き科目等履修生を申請する場合は、科目等履修生(Pre-ART) 期間延長願書(様式1-2)を提出してください。

②科目等履修生 Pre-ART 申請データ(様式2)

入力ファイルは、次のアドレスからダウンロードして作成してください。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/project/art/>

・ ファイル名は、「学生番号・氏名」(例 06499999・鹿田太郎)としてください。

・ メール の 件 名 は、「科目等履修 Pre-ART 申請・学生番号・氏名」として大学院担当宛 kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp へ送付してください。

4 履修の単位及び科目について

(1) 科目等履修を願い出ることのできる単位は1年につき10単位まで、学部で通算10単位までです。

(2) 履修対象科目

・医学学位プログラム

研究方法論基礎 4単位(20 題目)	研究方法論応用 4単位(20 題目)
--------------------	--------------------

・包括がん研究者・研究医養成プログラム

がん研究者コース

研究方法論基礎 4単位(20 題目)	研究方法論応用 4単位(20 題目)
--------------------	--------------------

がん研究医コース

研究方法論基礎 1単位(5 題目)	研究方法論応用 2単位(10 題目)
-------------------	--------------------

・グローバル医療人養成プログラム

研究方法論基礎 2単位(10 題目)	研究方法論応用 2単位(10 題目)
アカデミック GP 養成統合格目 2単位(10 題目)	

・メディカルデータサイエンスイノベーター(MDS)養成プログラム

ビッグデータ解析コース

医療 AI 応用コース

研究方法論基礎 2単位(10 題目)	研究方法論応用 2単位(10 題目)
--------------------	--------------------

(3)履修対象科目の日程等

研究方法論基礎・・・概ね4月～8月の平日18:00～

研究方法論応用・・・概ね6月～9月の平日18:00～

POSGRA 電子授業システムによるオンデマンド配信となる場合もあります。

アカデミック GP 養成統合格目・・・概ね5月～10月の平日18:30～20:10

正式な授業日程・シラバスは、2025年3月下旬までに下記のアドレスに掲載します。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/current-students-graduates/doctor/class-info/>

5 在籍期間

在籍期間は、2025年度とします。

6 選考及び可否の通知

書類審査等により可否を決定し、可否の通知は3月下旬頃、「科目等履修生 Pre-ART 申請データ」のメールアドレス宛に通知します。

7 授業科目の履修について

「6 選考及び可否の通知」で送付のあった書類に基づき、授業の履修をしてください。

8 履修結果等について

履修結果については、翌年度の初めに「大学院授業科目の科目等履修(Pre-ART)出席題目数通知書(以下「通知書」という)」により通知します。大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)に入学し、修得単位等を活用しようとする場合、「研究方法論(基礎・応用)単位認定・出席題目数継続申請書」または「統合格目単位認定・出席カード継続申請書」及び「通知書」を提出しなければなりません。

9 注意事項

- (1) 出願書類等及び記載されている個人情報、選考に係る業務に使用します。ただし、入学者については、入学願書に記載された氏名、性別、生年月日、学歴等の個人情報を科目等履修に係る業務及び Pre-ART、ART プログラム推進に係る業務に利用します。
- (2) 提出された書類はいかなる理由があっても返還しません。

10 その他

- ・ 翌年度も履修を希望する場合は、**科目等履修生(Pre-ART) 期間延長願書**の出願が必要です。
- ・ 1年次生・年度中途からの履修希望がある場合、次のとおりとします。

出願期間	履修可能科目	履修開始予定日
2025.4.16(水)～4.18(金)	研究方法論(基礎・応用) アカデミック GP 養成統合格目(座学のみ)	5月の学務委員会医学系部会で承認後

- ・ Pre-ART として研究活動を実施する場合は、あらかじめ**大学院担当**にご相談ください。**研究活動を実施する場合の申し合わせ**に従い、**研究指導計画書**の提出が必要です。

11 出願書類の請求先、提出先及び照会先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号 管理棟 1F

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課 教務グループ 大学院担当 TEL 086-235-7986



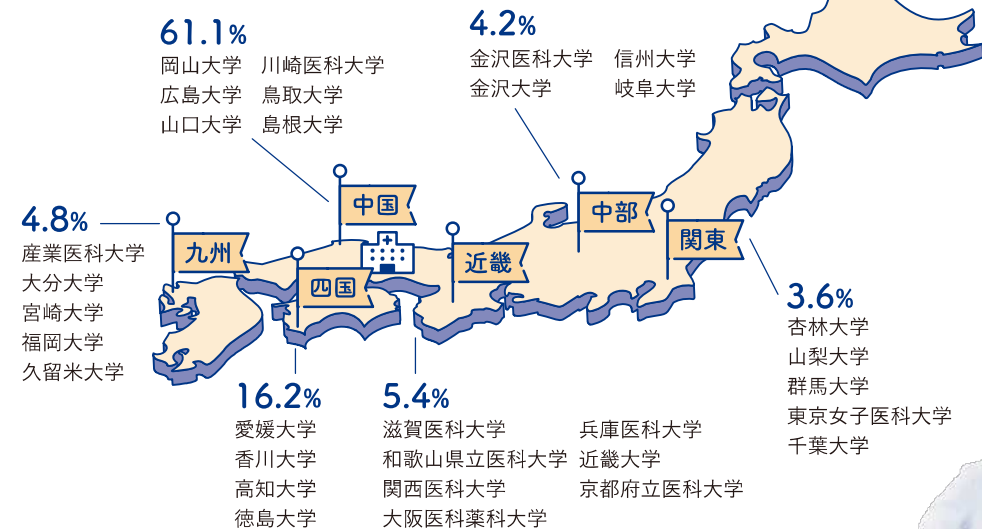
皆さんをお待ちしています!

研修医処遇 (2025年度)

身分	医員(研修医)として採用(1年毎の更新とする)	医師賠償責任保険	各自で必ず加入すること ※ 加入していない方へは入社後のオリエンテーションでご案内します
給与	月額337,600円(税込) (給与187,600円+臨床研修手当150,000円、超勤手当等を含む)	備品	共用PC(医療端末、インターネット端末)、WEB会議用大型モニター、wifi環境完備、机、椅子、ロッカー、ソファ、仮眠ベッドなど
通勤手当	通勤距離が片道2km以上で受給要件を満たした場合、支給される(手当額は、距離・方法により異なる)	教育資料	研修で必要となる書籍、インターネットでの文献検索など(UpToDate、医中誌)は、無料で自由に利用可能なパソコン環境が整備されている。院内PHSは病院の費用で研修医に貸与する。
勤務時間	8:30~17:15 ※ 救急科研修期間及び夜間休日担当はシフト勤務(宿直有り)による時間外労働の上限規制水準 A水準	学術活動	学会に参加し発表する際は旅費・参加費支給。論文を執筆し、投稿する際は掲載料支給(支給条件有り)
休暇	年次有給休暇、夏季休暇、リフレッシュ休暇、年末年始、忌引、私傷病休暇(無給)など	評価	PG-EPOC(研修医オンライン評価システム)にて評価
宿舎	なし	事務担当	研修医に関する事務担当者5名程度 (卒研センター1名、病院総務課卒後研修担当4名程度)
社会保険など	厚生年金及び文部科学省共済組合の健康保険に加入 労災保険、雇用保険あり		

全国から海外まで、研修医が集まっています!

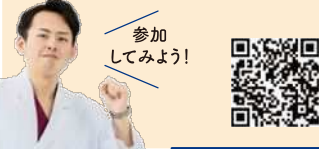
【2021~2025年度 採用研修医の出身大学】



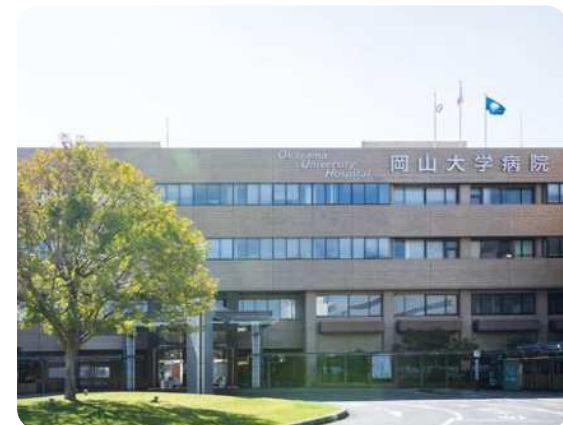
病院(診療科)見学 随時募集中!

当院の見学をご希望の方は、お気軽に下記URLよりお申し込みください。

<https://www.okayamau-hp.jp/tour/>



岡山市中心部に立地しており、アクセスも利便性も抜群!



ACCESS

【バス】

- 岡山駅東口バスターミナル「4番乗り場」から「2H」系統の岡電バスで「大学病院」構内バス停下車
- 岡山駅東口バスターミナルから「12」・「22」・「52」・「62」・「92」系統の岡電バスで「大学病院入口」下車
- 岡山駅前または高島屋前から循環バスで「大学病院入口」下車

【タクシー】

- 岡山駅タクシー乗り場から約5~10分

【路面電車】

- 岡山駅前から「清輝橋」行きで約12分
- 「清輝橋」下車西へ徒歩約5~10分

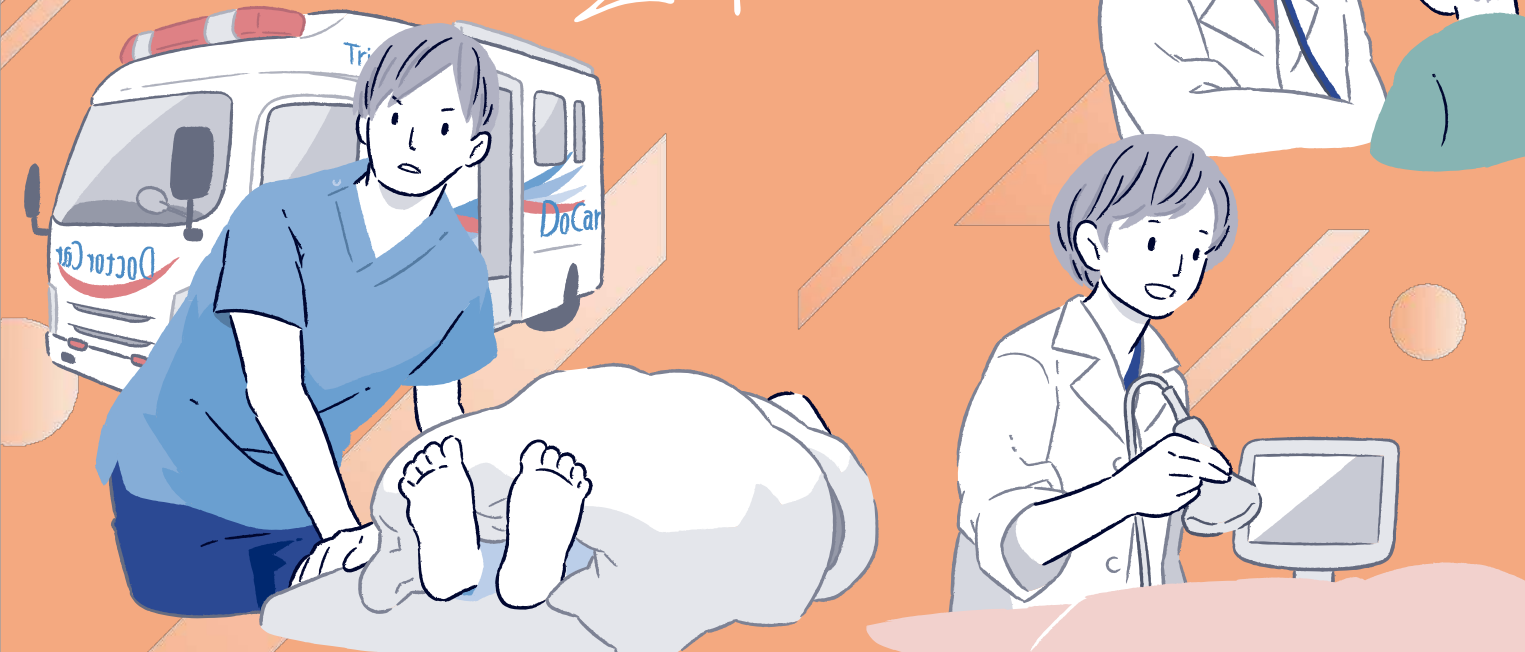
岡山大学病院 卒後臨床研修センター 医科研修部門 〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1(総合診療棟西棟5F) E-mail: sotsugo@adm.okayama-u.ac.jp
 TEL 086-235-7508・7877 FAX 086-235-7636 <https://www.okayamau-hp.jp>



基礎研究医プログラム詳細



あなたが決める、
2年間。



2026年度 岡山大学病院研修プログラム

Okayama University Hospital Residency Program
岡山大学病院卒後臨床研修センター医科研修部門

岡山大学病院の理念

高度な医療をやすく提供し、優れた医療人を育て、
社会・地域の持続的な健康増進に貢献します。

岡山大学病院の研修プログラムは

あなた が主役

岡山大学病院の研修プログラムの強みは、
“超”広域研修ネットワーク。多彩な医療現場を
経験できます。熱意にあふれる指導医のもと、
世界水準の全人的医療を習得しよう!

自分らしく
選べる

自分らしく
つながる

自分らしく
究める



前田 嘉信 岡山大学病院 病院長 卒後臨床研修センター長

地域・世界で活躍する医師の 養成を目指して

岡山大学病院は、明治3年の岡山藩医学館大病院開設を起点とし、150年以上の長い歴史と伝統を受け継いできました。

皆さんは、“優れた臨床家・医学研究者になりたい”や“海外から地域まで医師として幅広く活躍したい”など、様々な将来の夢や希望をお持ちだと思います。私たちの特色と強みの一つに、200を超える関連病院の皆さんとの厚くしなやかな「絆」があり、皆さんの多様なご要望に応えられる様々な選択肢を用意しています。

ぜひ当院で思う存分学んでください。一緒に歩んでいける日を楽しみにしています。



森実 真 副病院長 卒後臨床研修センター部門長

「自分らしい研修」が、 ここにある。

岡山大学病院の初期臨床研修は、あなたの個性や目標に寄り添い、自由度の高いプログラムを提供します。

全国200以上の関連病院と連携し、多彩な診療科や研修先を選択可能。熱意ある指導医のもと、最前線の医療を経験しながら、あなたらしいキャリアの第一歩を踏み出せます。

「どんな医師になりたいか」まだ迷っていても大丈夫。ここで、あなたの可能性を広げてみませんか？

自分らしく
選べる

研修プログラム

一人ひとりの多彩な
要望に応えるプログラムを
用意しています！



卒研センター
賀島 肇 先生

院内 院外 地域医療

先進プログラム どの診療科を希望する方にも対応できるプログラムです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器内科(必)		総合内科(必)		消化器外科(必)	救急科(必)		小児科(必)	精神科(必)	血液腫瘍呼吸器アレルギー内科(必)		産婦人科(必)
2年目	泌尿器科(選)	岡山医療センター (選:血液内科)		練馬光が丘病院 (選:総合診療科)		渡辺病院		麻酔科(必)		整形外科(選)	リハビリ(選)	皮膚科(選)



**教育熱心な指導医、
豊富な診療科・協力型研修病院が魅力です。**

2023年度先進プログラム
田中 先生

当院には教育熱心な先生が多く在籍されており、志望科が選べなくなる程にどの科も魅力的でした。ローテーションの選択肢も多く、様々な科を研修する事で患者様を多角的に見る事の大切さを学べます。協力型研修病院も豊富であり、私は東京の病院で研修させて頂きました。東京と岡山の医療を比べ、それぞれの強みと弱みを体感する事ができました。この2年間は自分の成長を感じる最高の時間でした。学べる環境は整っているので、自分次第で素晴らしい研修生活を送る事ができます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	精神科(必)		放射線(選)		消化器内科(必)	神経内科(必)	血液腫瘍呼吸器アレルギー内科(必)	整形外科(必)	小児神経(必)	救急科(必)		
2年目	岡山市赤 (必:総合内科)	岡山市赤 (必:血液内科)	岡山市赤 (必:泌尿器科)	岡山市赤 (選:皮膚科)	安田内科医院	岡山西大寺病院	産婦人科(必)	リハビリ(選)		精神科医療センター (選:精神科)	東京都立松沢病院 (選:精神科)	精神科(選)



**自由度が高く、自分オリジナルの
ローテーションを組むことができます。**

2023年度先進プログラム
中島 先生

当院のローテーションは大学病院での研修以外に協力型研修病院での研修もあり、多彩な研修先から自由に選ぶことができます。私も自分の志望科に向けて学んでおきたい診療科や、学びに行きたい研修先を含んだローテーションを、様々な先生方に相談しながら組みました。一人一人が自由にローテーションを組めるため、他の人とは違う、自分の目標に合った研修ができると思います。この初期研修を通して、多彩な環境で臨床を経験することができ、とても勉強になりました。

基本事項

- 必修分野 + 選択分野で合計2年間の研修を行う
- 大学病院での研修 + 地域医療研修で合計1年間以上の研修を行う
(このうち地域医療研修は最大2か月間まで含めることが可能)



産科婦人科特別プログラム

産婦人科の基本診療に必要な手技、知識、および
理念の習得を卒後早期から支援するプログラムです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合内科(必)		救急科(必)		産婦人科(必)		循環器内科(必)		小児科(必)	麻酔科(必)		精神科(必)
2年目	リハビリ(選)	泌尿器科(必)	岡山労災 (必:消内)	岡山労災 (必:呼内)	佐藤医院	中国中央(選:産婦人科)		佐藤医院	リハビリ(選)	病理(選)	腎免疫内分泌代謝内科(選)	皮膚科(選)



**希望者は、さらに一步踏み込んだ
指導を受けられます！**

2022年度産科婦人科特別プログラム
瀬尾 先生

産婦人科の診察では常に患者さんの羞恥等への配慮が必要で、内診をはじめ多くの検査や手技が専門的なため、通常は研修医として多くの経験を積むことができません。しかし当プログラムでは、大学病院で産婦人科診療の基礎を身に付けたうえで協力型病院でも研修を行うため、帝王切開症例や手術の執刀など、産婦人科診療に関する様々な経験と学びを得ることができました。

小児医療特別プログラム

小児科の基本診療に必要な手技、知識、および
理念の習得を卒後早期から支援するプログラムです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	精神科(必)		小児科(必)		産婦人科(必)	岡山市民 (必:循内)	岡山市民 (必:消内)	岡山市民(必:救急科)		総合内科(必)		救急科(必)
2年目	血液腫瘍呼吸器アレルギー内科(必)		小児外科(必)	坂出市立病院		岡山市赤(選:小児科)						



**自分の進みたい診療科を意識しつつ
さまざまな経験が出来ます。**

2022年度小児科特別プログラム
長尾 先生

当プログラムでは、後期研修を先取りにするようなイメージで、初期研修からどっぷり小児科に浸かっているような疾患を経験できます。院外研修先の岡山赤十字病院小児科では、救急・病棟・検診・予防接種・NICUなどいろいろな業務に触れることができ、日々充実しています。皆さんにも2年後振り返ったときに悔いのない研修をしてほしいです。

必修分野

- 内科
院内もしくは院外の協力型病院から選択 6か月以上
 - ① 院内研修:下記から選択
 - 総合内科・総合診療科 ● 消化器内科
 - 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科
 - 腎・免疫・内分泌代謝内科 ● 脳神経内科 ● 循環器内科
 - ② 院外研修:内科必修研修先にて
 - ③ 院内・院外を組み合わせることも可能
- 救急部門
院内もしくは院外の協力型病院から選択 3か月以上
(院内麻酔科研修を、1ヶ月を上限として救急部門の研修期間にできる)

- 外科
院内で選択 1か月以上
 - 消化管外科 ● 肝・胆・膵外科 ● 呼吸器外科 ● 乳腺・内分泌外科
 - 心臓血管外科 ● 小児外科 ● 脳神経外科 ● 整形外科 ● 腎泌尿器科
- 産婦人科
院内で1か月以上
- 小児科
院内で1か月以上
- 精神科
院内で1か月以上
- 地域医療
院外の協力型病院・施設において
2年目に1か月以上 (9ページ)
- 一般外来
20日間(ブロック研修または並行研修でも可能)
 - ① 院内研修:総合内科・総合診療科、小児科
 - ② 院外研修:総合診療、一般内科、一般外科、小児科、地域医療等で

New!

広域連携型(山口)プログラム

新しいプログラムで
チャレンジして
みませんか?



卒研センター
原 尚史 先生

広域連携型プログラムとは?

医師多数県の病院から医師不足の地域にある病院へ、2年目の研修医が24週間以上出向いて研修するプログラムです。2026年度から導入され、医師偏在の解消を目指します。

岡山県とは異なる文化的特色を持つ地域で、まとまった期間の研修を行うことで、多様な医療を経験し、実践力を磨きます。確かな知識・技術と、しなやかに対応できる柔軟性を兼ね備えた、医師を目指します!!

	院内	院外	地域医療									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	腎免疫内分泌代謝内科(必)	総合内科(必)	救急科(必)	小児科(必)	産婦人科(必)	精神科(必)	循環器内科(必)					
2年目	整形外科(必)	宇部中央病院(選:内科)	波乗りクリニック	山口労災病院(選:救急)	岩国医療センター(選:救急科)	消化器内科(選)						

病 院

【山口県】

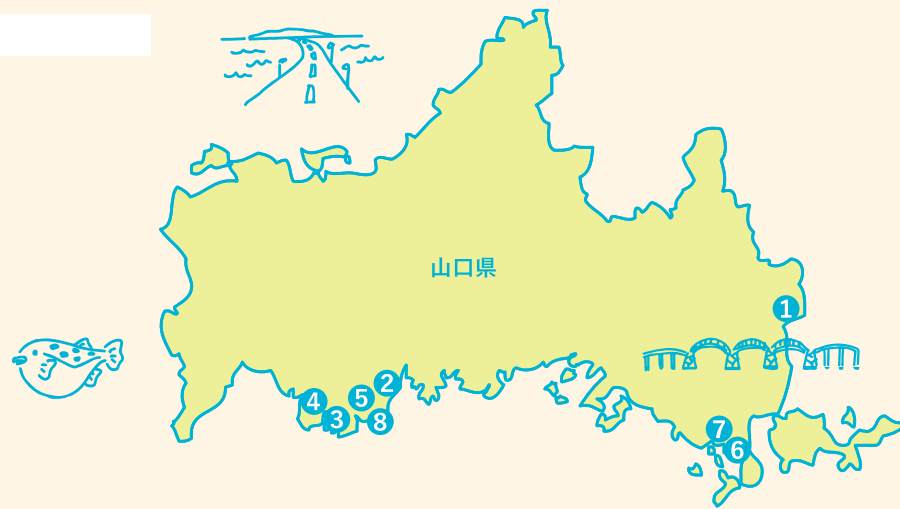
- ① 岩国医療センター ■ 内 内 外 泌 整 脳 小 麻 目
- ② 山口宇部医療センター ■ 内
- ③ 山口大学医学部附属病院 ■ 内
- ④ 山口労災病院 ■ 内 内 救
- ⑤ 宇部中央病院 ■ 内 内

施 設

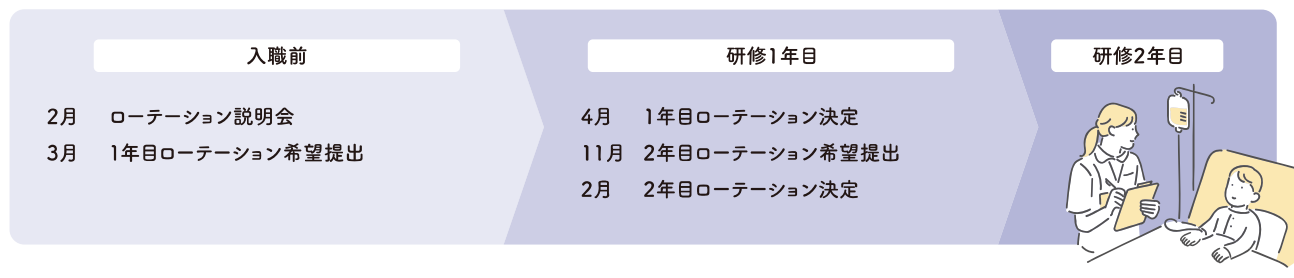
- ⑥ 光輝病院 ■ 内
- ⑦ 平生クリニックセンター ■ 地
- ⑧ 波乗りクリニック ■ 地

※当プログラムのみ選択可能な病院・施設です。

- 必修 ■ 選択
- 内 内科 ■ 整 整形外科 ■ 目 耳鼻咽喉科
- 内 内科 ■ 脳 脳神経外科 ■ 救 救急科
- 外 外科 ■ 小 小児科 ■ 地 地域医療
- 泌 泌尿器科 ■ 麻 麻酔科



ローテーション決定の流れ(スケジュール)



基礎研究医プログラム

臨床研修期間中に、基礎研究をしっかりと経験できる特色あるプログラムです。将来の進路候補として基礎医学分野の研究者を考えている皆さんには特にお勧めです。

選択研究分野	● 細胞組織学	● システム生理学	● 病原ウイルス学	● 法医学
	● 脳神経機構学	● 細胞生理学	● 疫学・衛生学	● 病理学(免疫病理)
	● 薬理学	● 腫瘍微小環境学	● 公衆衛生学	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	総合内科(必)		血液腫瘍呼吸器アレルギー内科(必)		救急科(必)			整形外科(必)	腎免疫内分泌代謝内科(必)	産婦人科(必)	消化器内科(選)	
2年目	消化器内科(選)	精神科(必)	小児科(必)	リハビリ(選)	奈義ファミリークリニック	総合内科(選)	岡山県保健医療部(選)	疫学・衛生学(選)				



当院で臨床と 研究の両立を目指そう!

2024年度入職 基礎研究医プログラム
前原 先生

基礎研究医が臨床の視点を持つことは大切です。また、将来の選択肢を広げる意味でも、臨床研修を修めることは有利に働くでしょう。そこでご紹介したいのが基礎研究医プログラムです。2022年度に始まったばかりの新しい制度で、2025年度は全国で29の大学病院にしか設定されていません。なかでも岡山大学病院は診療科や協力型研修病院の選択肢が多く、ローテーションの自由度も大きいため、臨床研修としての充実度が高くお勧めです。

奨学金(貸与型・選考あり)もあります!

ART/ART II Plusプログラム



岡山大学病院ARTプログラム

2023年度先進プログラム
八井田 先生

私はARTプログラムで麻酔・蘇生学へ入学しております。岡山大学病院の初期研修プログラムはローテートする診療科を自由に選べるため、長期間麻酔科をローテートすることで、臨床力を鍛えるだけでなく、研究のアイデアやイメージを具体化できました。また、専攻医や専門医と比べて時間的な余裕があるため、大学院の単位取得や研究に十分な時間を確保できました。このプログラムを通じて、臨床と研究を両立し、キャリアの幅を広げることが出来ます。

ARTプログラムは、臨床研修中から大学院博士課程に入学する岡山大学独自のキャリアパスプログラムです。臨床研修と大学院での研究活動を両立させることによって、リサーチマインドを有する臨床医/研究医を育成します。

ARTII Plusプログラムは、岡山大学医学科以外を卒業された初期研修医の方を対象としています。臨床研修中に科目等履修生となり大学院講義の先取り履修や研究活動を開始し、大学院進学後の研究を促進します。



院外研修

院外研修病院・施設は100を超え、
どの研修先も魅力的な学びに
あふれています！

卒研センター
佐藤 明香 先生



病 院

【岡山県】

- 1 井原市立井原市民病院 救
- 2 岡山医療センター 内 内 外 泌 整 脳 小 産 救 麻 皮 目 放
- 3 岡山旭東病院 内 脳
- 4 岡山県精神科医療センター 精
- 5 岡山済生会総合病院 内 内 外 整 小 救 形 皮 眼 目 放
- 6 岡山市立市民病院 内 救 内 外 泌 整 脳 救 形 皮 放 小
- 7 岡山赤十字病院 内 救 内 外 泌 整 脳 精 小 救 形 皮 目 放 小
- 8 岡山労災病院 内 内 外 泌 整 脳 小 産 形 皮 目 放
- 9 笠岡第一病院 内
- 10 金田病院 内
- 11 倉敷成人病センター 内 内 外 泌 小 眼 放
- 12 倉敷中央病院 救
- 13 光生病院 内
- 14 金光病院 内
- 15 高梁中央病院 内 外
- 16 たまの病院 内 内
- 17 津山中央病院 内 救 内 外 泌 整 脳 小 産 救 麻 放
- 18 水島中央病院 内 内 外 整
- 19 矢掛町国民健康保険病院 内
- 20 渡辺病院 救

【広島県】

- 21 尾道市立市民病院 内 内 外 泌 整
- 22 尾道総合病院 病
- 23 呉共済病院 整 麻
- 24 興生総合病院 小 産
- 25 中国中央病院 内 内 産
- 26 日本鋼管福山病院 整
- 27 脳神経センター大田記念病院 内
- 28 広島市立広島市民病院 内 内 外 泌 整 脳 精 小 産 救 麻 皮 目 病
- 29 福山医療センター 内 内 外 整 小
- 30 福山市民病院 内 内 外 泌 整 脳 精 小 救 目 放 小
- 31 三原赤十字病院 内

【鳥取県】

- 32 鳥取市立病院 内 内 外 泌

【山口県】

- 33 岩国医療センター 内 内 外 泌 整 脳 小 麻 目
- 34 山口宇部医療センター 内

【香川県】

- 35 香川県立中央病院 内 内 外 泌 整 脳 小 産 救 麻 形 目 放 小
- 36 香川労災病院 内 内 外 整 脳 産 麻 目
- 37 KKR高松病院 内 内
- 38 小豆島中央病院 内
- 39 高松赤十字病院 皮
- 40 三豊総合病院 内 内 外 泌 産 救 麻 皮
- 41 屋島総合病院 外

【愛媛県】

- 42 愛媛県立中央病院 内
- 43 済生会今治病院 外
- 44 四国がんセンター 内 外 目
- 45 住友別子病院 内 目
- 46 松山市民病院 外
- 47 松山赤十字病院 小

【高知県】

- 48 高知医療センター 内 内 外 泌 整 小 麻 目
- 49 近森病院 内 内 外 整

【兵庫県】

- 50 赤穂中央病院 内 内 外 救
- 51 神戸赤十字病院 内 内 外 整 麻
- 52 兵庫県立はりま姫路総合医療センター 救
- 53 姫路聖マリア病院 内 内 外 泌 産 目
- 54 姫路赤十字病院 内 内 外 整 脳 目 放



病 院

【東京都】

- 55 東京北医療センター 内 内
- 56 東京都立松沢病院 精
- 57 練馬光が丘病院 内

【千葉県】

- 58 東京ベイ・浦安市川医療センター 内 救

【福岡県】

- 59 聖マリア病院 救

■ 必修 ■ 選択

- | | | |
|--------|---------|-----------|
| 内 内科 | 皮 皮膚科 | 脳 小児神経科 |
| 救 救急科 | 目 耳鼻咽喉科 | 産 産婦人科 |
| 内 内科 | 眼 眼科 | 放 放射線科 |
| 外 外科 | 精 精神科 | 救 救急科 |
| 泌 泌尿器科 | 脳 脳神経外科 | 病 病理 |
| 整 整形外科 | 麻 麻酔科 | 小 小児科 |
| 形 形成外科 | 小 小児科 | 保 保健・医療行政 |



施 設

【岡山県】

- 60 旭川荘療育・医療センター 小 精 小
- 61 岡山県精神保健福祉センター 精
- 62 岡山県赤十字血液センター 保
- 63 岡山県保健医療部 保
- 64 岡山市保健所 保
- 65 笠岡市立市民病院 内 救
- 66 吉備高原医療リハビリテーションセンター 小
- 67 南岡山医療センター 小
- 68 薬師寺慈恵病院 救

【広島県】

- 69 寺岡記念病院 内 内

【山口県】

- 70 阿知須共立病院 内 内

【香川県】

- 71 まるがめ医療センター 内 内

【千葉県】

- 72 国立がん研究センター東病院 精

【福岡県】

- 73 飯塚病院 内



地域医療研修

岡山県だけでなく、
他県の地域医療病院・施設でも
研修できます。

卒研センター
小川 弘子 先生

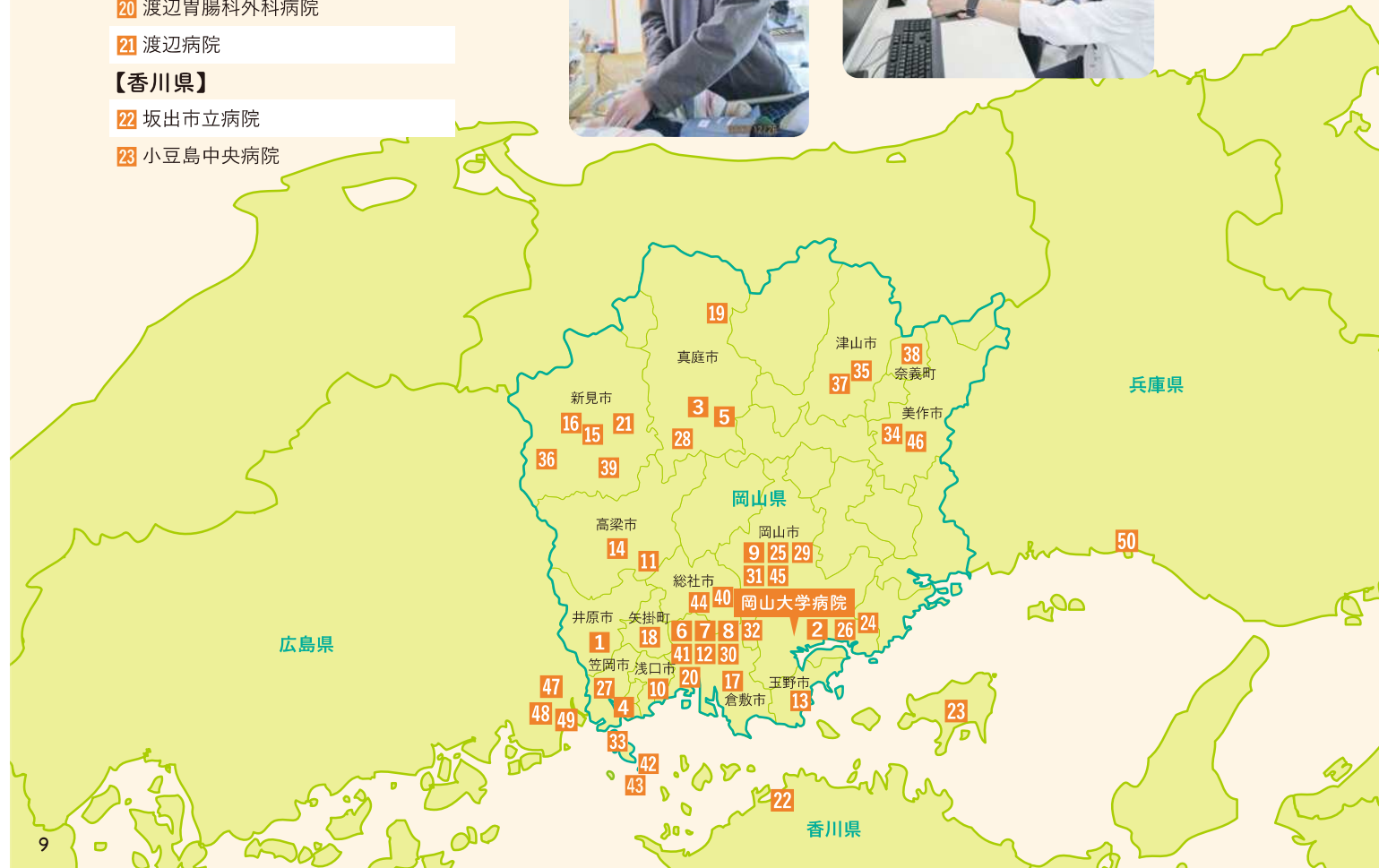


病 院

- 【岡山県】
- 1 井原市立井原市民病院
 - 2 岡村一心堂病院
 - 3 落合病院
 - 4 笠岡第一病院
 - 5 金田病院
 - 6 倉敷記念病院
 - 7 倉敷スイートホスピタル
 - 8 倉敷第一病院
 - 9 光生病院
 - 10 金光病院
 - 11 高梁中央病院
 - 12 玉島中央病院
 - 13 たまの病院
 - 14 成羽病院
 - 15 新見中央病院
 - 16 長谷川記念病院
 - 17 水島中央病院
 - 18 矢掛町国民健康保険病院
 - 19 湯原温泉病院
 - 20 渡辺胃腸科外科病院
 - 21 渡辺病院
- 【香川県】
- 22 坂出市立病院
 - 23 小豆島中央病院

施 設

- 【岡山県】
- 24 岩藤胃腸科外科歯科クリニック
 - 25 岡山記念病院
 - 26 岡山西大寺病院
 - 27 笠岡市立市民病院
 - 28 勝山病院
 - 29 かとう内科並木通り診療所
 - 30 グリーン在宅クリニック
 - 31 佐藤医院
 - 32 重井医学研究所附属病院
 - 33 白石島診療所
 - 34 田尻病院
 - 35 津山ファミリークリニック
 - 36 哲西町診療所
 - 37 中島病院
- 【広島県】
- 38 奈義ファミリークリニック
 - 39 新見市診療所群
 - 40 藤井クリニック
 - 41 プライムホスピタル玉島
 - 42 真鍋島診療所
 - 43 六島診療所
 - 44 薬師寺慈恵病院
 - 45 安田内科医院
 - 46 湯郷ファミリークリニック
- 【広島県】
- 47 住吉ふじい病院
 - 48 ふじいクリニック
 - 49 福山南病院
- 【兵庫県】
- 50 入江病院



肝胆膵外科



チーム医療の醍醐味を
体感してください

安井 和也 先生

肝臓・胆道・膵臓の悪性腫瘍を中心としたがん診療ならびに肝臓移植を扱っています。ロボット手術にも積極的に取り組んでいます。手術は勿論術前術後管理にも取り組んで頂くことで全身を“診る”能力を培って頂きます。

脳神経内科



神経診察や疾患に
興味がある方、お待ち
しております

松岡 千加 先生

神経診察法を一通り習得し、各所見からどのように考えて診断していくのかのプロセスを学べます。上級医の指導の下に患者さんの疾患の診断をつけることを目標と一緒に頑張りましょう。

救急科



アカデミックな場で
研修を行うチャンスを
活かしましょう

飯田 淳義 先生

高度救命救急センターであり、最も重症な患者さんの治療を行っており、他の救命救急センターでは治療できない患者さんの転院搬送も受け入れています。臨床研修の目標に到達できるよう努め、チームの一員として役割を果たしましょう。

30以上の専門診療科!!
多彩・充実・丁寧が自慢の
指導医陣

中四国随一の臨床力・研究力・教育力を
持った熱意あふれる多くの指導医が
皆さんを待っています。



産婦人科



女性診療の基本的な
診察技術・態度を
身に付けましょう

桐野 智江 先生

分娩、婦人科悪性疾患、生殖内分泌、女性ヘルスケアなど、希望に沿いながら研修をカスタマイズさせていくことができます。独自に開発した分娩シミュレーター、動画、講習など、シミュレーション教育も充実しており、様々な練習も可能です。

小児科



小児科診療の奥深い魅力を感じませんか?

津下 充 先生

4つのグループ(①循環器 ②血液腫瘍 ③新生児 ④感染免疫アレルギー・腎内分泌・心身症)それぞれに特色のある小児診療を、急性期から慢性期まで幅広く研修できます。研修を通じて小児科の基礎をしっかり学ぶことができます。

精神科



「その人らしく生きる」
サポートについて一緒に
考えましょう

李 大賢 先生

多種多様な精神疾患の急性期症例を経験でき、専門外来・リエゾンチームでの研修も可能です。初期研修の間に様々な精神疾患を経験しておくことで、適切な初期治療やコンサルトが可能になります。

自分らしく
究める

熱意あふれる
指導医が
サポート!



学びたいことを
学べる機会や環境を
提供しています。

研修医の自主的な「成長マインド」を応援するために、さまざまな設備やスペースを揃えています。また、研修医の皆さんからの要望に合わせて、研修医主催のイベントも開催することができます。ぜひ一緒に新たな企画を考えてみませんか。

レジデントセミナー



研修医が数ある指導医の中から学びたい分野と講師を自ら選んで依頼し、スタッフと協力しつつセミナーを開催します。

研修医対象ICLSコース



医療従事者のための蘇生トレーニングコースで、突然の心停止への対応とチーム医療を1日かけて習得します。少人数グループでの実技実習を中心とし、受講すると日本救急医学会認定の修了証が発行されます。

腰椎穿刺トレーニング



当院では、研修室内で自由に腰椎穿刺のトレーニングができるようシミュレーターを常時設置しています。

充実の各種サポート

研修医室



当院では、研修医専用のスペースを広く確保しており、各研修医に専用デスクが用意されています。仮眠室やグループで勉強会が出来るスペースもあります。

シミュレーションスペース



当院では、研修中の診療行為経験数を促進するために、研修室内で自由にトレーニングができるようシミュレーターを常時設置しています。

図書館



病院と同じ敷地内に古くからあるキャンパスのアイコン的存在であり、学会発表や論文執筆時の頼れる味方です。古い医学書から最新の医学雑誌まで多彩な資料が充実しており、学生・研修医・教職員は24時間利用可能となっています。

メンター制度



研修医にとっての相談しやすく頼れる“バイセン”的存在が、メンター（先輩医師）です。卒研センターが窓口となって研修医の皆さんに紹介しており、仕事からプライベートなことまで何でも相談できますよ。

UpToDate・Office365



当院の研修医は、研修期間中に限りMicrosoft Office365を自由に利用できます。また、臨床研修や自己研鑽へのEBM活用促進を目的に、UpToDateも無料で利用可能です。

研修医室や
トレーニング設備等に
関する困りごとは
私までお気軽にどうぞ。

卒研センター事務
竹下さん



ONE DAY

TIME SCHEDULE

08:00



出勤

当院は最寄り駅から徒歩通勤圏にあり、朝の爽やかな空気を感じながらの出勤です。今日はどんなことが経験出来るか、ワクワクしますね。



08:30

カンファレンス

カンファレンスでは、患者さんの病状や治療方針を通して診療現場に出るための準備を整えます。先輩医師や他職種の方々と積極的に交流し、最新の医学知識をアップデート!



10:00

病棟業務

指導医の先生、看護師さんと担当患者さんについて相談中。病棟での研修は、多職種連携医療を学べる絶好のチャンス。



12:00

昼食

今日は入院棟最上階の職員専用休憩スペースでランチ。当院は各種テイクアウトも充実しています。



研修医の1日
を見てみよう!



卒研センター
李 大賢 先生

13:00

IVR

指導医の先生に教わりながら生検の手技を経験します。大学病院ならではの高度な技術を学ぶ機会がたくさんありますよ。



15:00

研修医室

研修の合間のちょっとした時間を活用して、自分のデスクで調べ物です。自分専用スペースでじっくり勉強できますよ。



各研修医に
マイデスクを
完備

17:30

救急外来

救急外来での診療対応を経験中。患者さんの診察・検査を行い、指導医と相談しながら診療を進めます。大学病院では高度外傷などの3次救急も経験できます。



18:00

業務終了!

VOICE

研修修了生の声



原 尚史 先生
2012年度
先進プログラム

単一の市中病院研修よりも 圧倒的に“視野”が広がるたすき掛け研修

医師になり10年以上を迎えて多くの研修医の指導に携わる立場となって特に思うところは、研修医ごとの成長曲線の違いです。3年目以後も関東など岡山以外の地域を含む様々な病院で働きましたが、環境が変わるたび「他の病院と違って、この病院ではこんなことが学べるのか」「前の病院の医療の質と今の病院とはかなり違うな」といった印象を持ちます。環境を変えることでしか見えてこない自分の不足や学びのポイントがあり、それを初期研修のうちから経験し広い視野で自分の成長曲線を立ち上げていける唯一のシステムが、当院のたすき掛け研修だと確信しています。



原田 洸 先生
2016年度
先進プログラム

多様な経験と挑戦が可能な初期研修

私が岡山大学病院を選んだ理由は、高い臨床力と研究力、そして心強いメンターや仲間がいる環境が整っているからです。また、多様な選択肢があるのも魅力で、私は2年間で6つの病院をローテーションすることで幅広い経験を得ることができました。この経験を土台に、研修後は総合内科医としてのキャリアを積み、今は米国で老年内科医として働いています。岡山大学病院での研修は、未来のあなたの可能性を広げてくれるはずです。ぜひ、ここで新たな一歩を踏み出してみませんか?



山田 裕士 先生
2016年度
先進プログラム

医師としての力のつけ方を学ぶ研修

私は2年間の研修のうち、前半を大学病院で、後半はたすき掛けを併用して研修を行いました。「1人を診て、10を修める」ことを叩き込む大学病院での研修と、「10を知って、1人を診ていく」市中病院での研修を経て、医療の「学び」と「実践」とを統合していったと思います。現在は精神科医として臨床や研究に取り組んでいますが、今でも「学び」と「実践」の中で患者さんに貢献できる喜びを噛みしめています。岡山大学病院で、医師としての学び方を学んでみませんか。



西村 碧 フリーズ 先生
2018年度
先進プログラム

進路が全く未定の方にも、 具体的なキャリアプランがある方にもお勧め

私は岡大在学中から、病理という具体的な志望科が固まっていました。研修病院については悩みましたが、最終的には岡大プログラムで、今しか回れない病理以外の科を主に研修しました。例えば、検体提出が多い外科では、病理に期待することを率直にご指導頂きました。内科や救急科でご指導頂いた考え方の基礎は、病理解剖などでも役立っています。今は、ARTプログラムでの学位取得、専門医取得を経て、分子血液病理学講座で希少疾患の病態解明やリンパ腫の研究に取り組んでいます。その時々で思い描くキャリアプランに応じて組み立てられるプログラムは、進路未定の方、具体的なプランがある方いづれにとっても、メリットが大きいと思います。

2025年度 積善会教育研究助成事業 ARTプログラム奨学金(給付型)募集要項

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科においてARTプログラム(先進医学修練プログラム)により博士課程に入学した学生の修学を支援するため、積善会教育研究助成金を原資とする奨学金制度を設けています。

1. 対象者

- ARTプログラムにより岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)に入学予定の者、かつ岡山大学医学部医学科在学中にPre-ARTプログラムを4年間実施[※]し、研究活動を行った者
※2024年度卒業者のうち、4年以上の条件を満たさない場合は、指導教員の推薦状(様式任意)を提出出来る者
※2025年度卒業予定者のうち、4年以上の条件を満たさない場合は、Pre-ARTプログラムを1年間以上在籍した者

2. 募集人数

毎年度の奨学生の人数は、予算に応じて決定します。

3. 奨学金について

2024年度又は2025年度にARTプログラム特別入試を受験した者に限り、選考後16万円を給付します。

4. 募集期間(申請期間)

2025年 6月16日(月) ~ 6月24日(火)

5. 申請手続

希望者は、大学院医歯薬学総合研究科等事務部 学務課教務グループ大学院担当を通じて、以下の申請書類を助成金運営・選考委員会(以下「委員会」という。)に提出してください。

- ARTプログラム奨学金(給付型)申請書 (様式1)
- ARTプログラム奨学金研究計画書(給付型) (様式2)

様式のダウンロードはHPからできます。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/project/art/>



6. 選考及び結果の通知

申請書類に基づき委員会が審査選考を行い、結果は本人に通知します。

応募者多数の場合は、ARTプログラム特別入試の筆記試験(英語)の成績優秀者とし、同点の場合は口述試験、専門科目の得点等を加味して決定します。Pre-ARTプログラム実施中に学会(西日本医学生学術フォーラムを含む)で口頭発表またはポスター発表された方には、発表点を加算します。

7. 報告書の提出

奨学生は、2026年2月末までに研究成果報告書(様式3)をご提出ください。

※ARTプログラム関連の調査や報告等のため、報告書は公表される場合があります。

8. 在籍確認

選考後、入学手続(既入学者は在籍)を確認のうえ奨学金を給付します。入学手続は2026年3月12日-13日、給付は2026年3月の予定です。

9. その他

ARTプログラム奨学金申請書等に記載されている個人情報、選考に係る業務とARTプログラム推進に係る業務に使用します。また、提出書類は如何なる理由があっても返還しません。

10. 申請書類の請求先、提出先及び照会先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課 教務グループ 大学院担当

(鹿田キャンパス管理棟1F) TEL: 086-235-7986 E-mail: kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp

2025年度 積善会教育研究助成事業 ARTプログラム奨学金(貸与型)募集要項

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科においてARTプログラム(先進医学修練プログラム)により博士課程に入学した学生の修学を支援するため、積善会教育研究助成金を原資とする奨学金制度を設けています。

1. 対象者

ARTプログラムにより岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)に入学予定の者

2. 募集人数

10名程度

3. 奨学金について

入学年度に限り50万円を貸与し、学位取得後の2年間に返還していただきます。

4. 募集期間(申請期間)

2025年3月13日(木)～3月14日(金)

5. 申請手続

希望者は、大学院医歯薬学総合研究科等事務部 学務課教務グループ大学院担当を通じて、以下の申請書類を助成金運営・選考委員会(以下「委員会」という。)に提出してください。

- ① ARTプログラム奨学金申請書(様式1)
- ② ARTプログラム奨学金研究計画書(様式2)

様式のダウンロードはHPからできます。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/project/art/>



6. 選考及び結果の通知

申請書類に基づき委員会が審査選考を行い、結果は本人に通知します。

7. 報告書の提出

奨学生は、2026年2月末までに研究成果報告書(様式3)をご提出ください。

※ARTプログラム関連の調査や報告等のため、報告書は公表される場合があります。

8. 在籍確認

基準日(5/1、11/1)に、奨学生の研修医及び大学院生としての在籍状況を確認します。両者の在籍状況が確認できた者について奨学金を貸与します。

9. その他

ARTプログラム奨学金申請書等に記載されている個人情報は、選考に係る業務とARTプログラム推進に係る業務に使用します。また、提出書類は如何なる理由があっても返還しません。

10. 申請書類の請求先、提出先及び照会先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課 教務グループ 大学院担当

(鹿田キャンパス管理棟1F) TEL: 086-235-7986

E-mail: kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp

ARTプログラム 2009年度開始

入学年度	入学者数	奨学金 (給付) 受給者数	奨学金 (貸与) 貸与者数
2009 (H21)	3	3	※2
2010 (H22)	6	6	
2011 (H23)	9	9	
2012 (H24)	2	2	
2013 (H25)	3	3	
2014 (H26)	12	12	
2015 (H27)	13	13	
2016 (H28)	8	8	
2017 (H29)	11	※1	1
2018 (H30)	7		2
2019 (H31)	5		2
2020 (R02)	10		1
2021 (R03)	3		0
2022 (R04)	2		1
2023 (R05)	5		0
2024 (R06)	6		1
2025 (R07)	1	0	
計	106	56	8

※1給付型奨学金は2017 (H29) 年度より廃止

※2貸与型奨学金は2017 (H29) 年度より開始

2025年度 積善会教育研究助成事業 ART II プログラム奨学金(給付型) 募集要項

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科において、ART II プログラムにより博士課程に入学した学生の修学を支援するため積善会教育研究助成金を原資とする奨学金制度を設けています。

1. 対象者

- 岡山大学医学部医学科在学中にPre-ARTプログラムを4年間実施[※]し、研究活動を行った者で卒業6年間以内にARTプログラム特別入試により大学院医歯薬学総合研究科博士課程に入学した者
- ※2024年度卒業者又は岡山大学医学部医学科卒業後6年以内の者で、且つPre-ART生であった者で4年間以上の条件を満たさない場合は、指導教員の推薦状(様式任意)を提出出来る者
- ※2025年度卒業予定者のうち、4年以上の条件を満たさない場合は、Pre-ARTプログラムに1年間以上在籍した者

2. 募集人数

毎年度の奨学生の人数は、予算に応じて決定します。

3. 奨学金について

2025年度にARTプログラム特別入試を受験した者に限り、入学手続きを確認後、16万円を給付します。

4. 募集期間(申請期間)

2025年 6月16日(月) ~ 6月24日(火)

5. 申請手続

希望者は、大学院医歯薬学総合研究科等事務部 学務課教務グループ大学院担当を通じて、以下の申請書類を助成金運営・選考委員会(以下「委員会」という。)に提出してください。

- ① ART II プログラム奨学金(給付型) 申請書 (様式1)
- ② ART II プログラム奨学金研究計画書(給付型) (様式2)

様式のダウンロードはHPからできます。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/project/art/>



6. 選考及び結果の通知

申請書類に基づき委員会が審査選考を行い、結果は本人に通知します。

応募者多数の場合は、ARTプログラム特別入試の筆記試験(英語)の成績優秀者を対象とし、同点の場合は口述試験、専門科目の得点等を加味して決定します。Pre-ARTプログラム実施中に学会(西日本医学生学術フォーラムを含む)で口頭発表またはポスター発表された方には、発表点を加算します。

7. 報告書の提出

奨学生は、2026年2月末までに研究成果報告書(様式3)をご提出ください。

※ARTプログラム関連の調査や報告等のため、報告書は公表される場合があります。

8. 在籍確認

選考後、入学手続きを確認後、奨学金を給付します。入学手続は2026年3月12日-13日、給付は2026年3月の予定です。

9. その他

ARTⅡプログラム奨学金申請書等に記載されている個人情報は、選考に係る業務とARTプログラム推進に係る業務に使用します。また、提出書類は如何なる理由があっても返還しません。

10. 申請書類の請求先、提出先及び照会先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課 教務グループ 大学院担当

(鹿田キャンパス管理棟1F) TEL: 086-235-7986 E-mail: kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp

ART IIプログラム

2026年度入学から開始

入学年度	入学者数	奨学金 (給付) 申請者数
2026 (R08)	※	※
計	0	0

※6月申請受付

2025年度 積善会教育研究助成事業

ART II Plusプログラム奨学金(給付型)募集要項

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科において臨床研修時にPre-ARTプログラムにより博士課程の科目等履修生に登録した修学を支援するため、積善会教育研究助成金を原資とする奨学金制度を設けています。

1. 対象者

岡山大学医学部医学科以外の出身者かつ岡山大学病院または岡山市立市民病院で臨床研修を行いながらPre-ARTプログラムにより科目等履修生として登録した者

2. 募集人数

毎年度の奨学生の人数は、予算に応じて決定します。

3. 奨学金について

入学年度に限り16万円を給付します。

4. 募集期間(申請期間)

2025年4月16日(水) ~ 4月18日(金)

5. 申請手続

希望者は、大学院医歯薬学総合研究科等事務部 学務課教務グループ大学院担当を通じて、以下の申請書類を助成金運営・選考委員会(以下「委員会」という。)に提出してください。

- ① ART II Plusプログラム奨学金(給付型) 申請書 (様式1)
- ② ART II Plusプログラム奨学金研究計画書(給付型) (様式2)

様式のダウンロードはHPからできます。

<https://www.mdps.okayama-u.ac.jp/education/project/art/>



6. 選考及び結果の通知

申請書類に基づき委員会が審査選考を行い、結果は本人に通知します。

応募者多数の場合は、臨床研修等における指導教員の推薦状ならびに学士取得時の成績証明書をもって選考を行います。

7. 報告書の提出

奨学生は、2026年2月末までに研究成果報告書(様式3)をご提出ください。

※ARTプログラム関連の調査や報告等のため、報告書は公表される場合があります。

8. 在籍確認

基準日(5/1)に、奨学生の研修医としての在籍状況を確認します。在籍状況が確認できた者について奨学金を給付します。

9. その他

ART II Plusプログラム奨学金申請書等に記載されている個人情報は、選考に係る業務とARTプログラム推進に係る業務に使用します。また、提出書類は如何なる理由があっても返還しません。

10. 申請書類の請求先、提出先及び照会先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課 教務グループ 大学院担当

(鹿田キャンパス管理棟1F) TEL: 086-235-7986

E-mail: kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp

ART II Plusプログラム 2025年度開始

入学年度	入学者数	奨学金 (給付) 申請者数
2025 (R07)	2	1
計	2	1

2024年度 積善会教育研究助成事業 基礎研究医プログラム奨学金(給付型) 募集要項

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科においてARTプログラム(先進医学修練プログラム)により博士課程に入学し、基礎研究医プログラムに採用予定の学生の修学を支援するため、積善会教育研究助成金を原資とする奨学金制度を設けています。

1. 対象者

ARTプログラム特別入試により岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(博士課程)に入学予定かつ基礎研究医プログラムに採用予定の大学院生

2. 募集人数

1名

3. 奨学金の額

50万円

4. 募集期間(申請期間)

令和6年3月13日(水)～3月14日(木)

5. 申請手続:

希望者は、大学院医歯薬学総合研究科学務課教務グループ大学院担当を通じて、以下の申請書類を助成金運営・選考委員会(以下「委員会」という。)に提出してください。

- ① 基礎研究医プログラム奨学金申請書(様式1)
- ② 基礎研究医プログラム奨学金研究計画書(様式2)
- ③ 指導(予定)教授からの推薦書1通(様式任意,署名又は押印が必要)
- ④ 返信用封筒(長形3号封筒に本人の宛先を記入し、切手84円分貼付)
(所属の教育研究分野等、学内に送付の場合は、切手不要)

6. 選考及び結果の通知:

審査、選考及び決定は、申請書類及び面接に基づき委員会が審査選考を行い、結果は本人に通知します。

面接日程:未定(別途申請者宛通知予定です。)

7. 報告書の提出:

奨学生に採択された場合、2025年2月末までに基礎研究医プログラム奨学金研究成果報告書(様式3)を提出してください。(※報告書は、関連する調査・報告等のため、公表される場合があります。)

8. 奨学金の支給:

基準日(5/1)に、奨学生の研修医及び大学院の在学状況(休学を除く)を確認し在学状況が確認できた者について、奨学金を支給します。

9. その他

- ① 基礎研究医プログラム奨学金申請書等に記載されている個人情報、選考に係る業務及び基礎研究医プログラム奨学金に係る業務に使用します。
- ② 提出された書類はいかなる理由があっても返還しません。
- ③ 選考時の面接に際し、業務上の都合等により指定日時に集合できない場合は、選考委員会開催前に限り、個別面接を実施する場合があります。その場合においても、申請期間中にすべての申請書類を提出する必要があります。

10. 申請書類の請求先、提出先及び照会先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号(鹿田キャンパス管理棟1階)

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課 教務グループ 大学院担当

TEL 086-235-7986 E-mail kdf7986@adm.okayama-u.ac.jp

基礎研究医プログラム 2024年度開始

入学年度	入学者数	奨学金 (給付) 申請者数
2024 (R06)	1	1
2025 (R07)	0	0
計	1	1

※6月申請受付

①研究者が所属する研究機関別 採択件数 上位30機関
(令和7年度 新規採択)

	機関名	採択率	採択件数
1	東京大学	40.5%	1,072
2	大阪大学	38.8%	764
3	京都大学	40.3%	739
4	東北大学	34.9%	601
5	九州大学	33.0%	544
6	名古屋大学	35.5%	466
7	北海道大学	35.4%	459
8	東京科学大学	38.0%	443
9	広島大学	32.9%	337
10	神戸大学	36.2%	335
11	筑波大学	31.8%	324
12	岡山大学	32.3%	306
13	早稲田大学	40.0%	295
14	慶應義塾大学	38.7%	292
15	千葉大学	35.3%	267
16	金沢大学	33.4%	252
17	大阪公立大学	27.7%	251
18	国立研究開発法人理化学研究所	35.8%	220
19	順天堂大学	30.3%	218
20	新潟大学	35.0%	216
21	国立研究開発法人産業技術総合研究所	34.2%	209
22	熊本大学	29.5%	204
23	長崎大学	33.5%	187
24	日本大学	21.1%	179
25	信州大学	31.4%	169
26	立命館大学	25.8%	164
27	富山大学	28.5%	151
28	鹿児島大学	21.5%	150
29	徳島大学	32.6%	140
30	三重大学	25.1%	135

(注1)「特別推進研究」、「学術変革領域研究(A)」（計画研究及び公募研究）、「学術変革領域研究(B)」（計画研究）、「基盤研究」及び「若手研究」について分類。

(注2) 研究代表者が所属する研究機関により整理。採択件数が同数の場合は機関番号順に掲載。

(注3) 新規応募件数が50件以上の研究機関を対象に分析。(採択率＝採択件数/応募件数)

01.思想、芸術およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	116.0	241,467	215.0
2	国立大学	東京藝術大学	88.7	117,100	230.3
3	私立大学	早稲田大学	72.0	87,767	172.0
4	国立大学	京都大学	68.7	108,500	127.7
5	国立大学	九州大学	59.3	116,333	186.0
6	国立大学	大阪大学	58.3	128,400	123.0
7	国立大学	筑波大学	55.7	81,867	160.3
8	私立大学	立命館大学	53.3	70,867	157.3
9	国立大学	東北大学	40.3	63,233	120.0
10	私立大学	慶應義塾大学	33.7	62,000	62.3

02.文学、言語学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	私立大学	早稲田大学	113.5	122,550	263.0
2	国立大学	東京大学	113.0	139,150	168.0
3	国立大学	大阪大学	110.5	104,500	242.0
4	私立大学	立命館大学	73.5	77,650	210.5
5	私立大学	慶應義塾大学	71.0	94,850	111.0
6	国立大学	筑波大学	68.5	95,400	157.5
7	国立大学	九州大学	62.0	79,450	193.0
8	国立大学	東京外国語大学	58.5	102,900	125.0
9	国立大学	東北大学	57.5	67,400	139.5
10	国立大学	京都大学	54.5	100,050	94.5

03.歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	116.0	484,100	250.0
2	国立大学	京都大学	57.0	96,800	137.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	独立行政法人国立文化 財機構奈良文化財研究 所	53.0	123,100	182.0
4	国立大学	金沢大学	49.0	201,800	122.0
5	私立大学	早稲田大学	48.0	88,900	129.0
6	国立大学	九州大学	45.0	106,900	153.0
7	国立大学	北海道大学	42.0	136,700	139.0
7	国立大学	大阪大学	42.0	98,900	128.0
9	私立大学	明治大学	40.0	75,800	139.0
10	国立大学	名古屋大学	39.0	129,700	93.0

04.地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	75.3	242,567	148.8
2	国立大学	東京大学	56.8	117,533	112.0
3	私立大学	立命館大学	40.0	69,300	109.5
4	公立大学	東京都立大学	39.2	127,333	85.2
5	国立大学	筑波大学	35.7	102,850	124.2
6	国立大学	九州大学	28.8	81,533	70.5
7	国立大学	東京外国語大学	28.2	61,900	68.7
8	大学共同利用機 関法人	国立民族学博物館	28.0	56,650	60.8
9	私立大学	早稲田大学	26.5	39,333	77.2
10	国立大学	北海道大学	26.0	51,200	89.8

05.法学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	私立大学	早稲田大学	83.0	108,800	153.0
2	国立大学	北海道大学	66.0	87,800	88.0
3	国立大学	東京大学	62.0	101,800	88.0
4	国立大学	京都大学	59.0	131,300	91.0
5	国立大学	大阪大学	55.0	72,000	124.0
6	国立大学	九州大学	52.0	61,100	155.0
7	国立大学	名古屋大学	47.0	46,800	146.0
8	国立大学	神戸大学	46.0	76,800	80.0
9	私立大学	立命館大学	42.0	46,400	103.0
10	国立大学	一橋大学	36.0	46,400	53.0

06.政治学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	88.2	191,100	149.3
2	私立大学	早稲田大学	64.8	148,000	159.2
3	国立大学	京都大学	56.0	126,233	96.2
4	私立大学	立命館大学	42.7	81,233	154.5
5	私立大学	同志社大学	33.5	75,783	63.0
6	国立大学	大阪大学	32.5	48,133	71.5
7	国立大学	神戸大学	32.3	62,100	84.8
8	特殊法人・独立 行政法人等	独立行政法人日本貿易 振興機構アジア経済研究 所	27.0	27,600	48.5
9	国立大学	名古屋大学	24.7	45,483	61.8
10	国立大学	東京外国語大学	23.2	44,300	53.7

07.経済学、経営学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	一橋大学	176.3	436,300	255.0
2	私立大学	早稲田大学	163.7	314,533	335.0
3	国立大学	神戸大学	142.0	269,800	320.3
4	国立大学	東京大学	132.7	549,833	202.7
5	私立大学	慶應義塾大学	96.3	328,133	141.3
6	国立大学	京都大学	87.3	189,333	154.7
7	国立大学	大阪大学	84.0	244,300	163.7
8	私立大学	立命館大学	82.3	101,167	240.0
9	私立大学	中央大学	74.3	109,433	176.7
10	私立大学	関西大学	66.7	79,300	183.3

08.社会学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	私立大学	立命館大学	62.0	96,200	156.0
2	国立大学	東京大学	61.3	175,633	127.0
3	私立大学	早稲田大学	53.0	98,733	105.7
4	国立大学	筑波大学	35.7	63,000	82.7
5	公立大学	東京都立大学	34.7	101,433	62.7
6	私立大学	同志社大学	34.0	37,933	67.0
7	国立大学	京都大学	32.3	61,167	56.3
8	私立大学	東洋大学	31.7	38,933	89.0
9	私立大学	立教大学	31.0	36,500	65.7
10	私立大学	日本福祉大学	28.0	47,600	58.0

09.教育学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	広島大学	166.5	321,600	385.5
2	国立大学	筑波大学	136.5	269,950	267.0
3	私立大学	早稲田大学	109.0	165,150	237.0
4	国立大学	東京大学	107.5	234,950	204.5
5	国立大学	大阪大学	98.5	179,950	178.0
6	国立大学	東京学芸大学	87.5	131,100	193.0
7	国立大学	北海道教育大学	80.0	110,300	333.0
8	国立大学	信州大学	71.0	114,950	212.5
9	国立大学	京都大学	70.5	132,500	117.0
10	国立大学	東北大学	69.0	124,000	181.0

10.心理学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	82.0	305,850	184.5
2	国立大学	東京大学	79.5	286,450	147.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人国立 精神・神経医療研究セン ター	49.0	123,400	78.0
4	私立大学	早稲田大学	45.5	98,200	112.0
5	国立大学	東北大学	41.5	122,350	147.5
5	国立大学	千葉大学	41.5	63,550	91.5
7	国立大学	広島大学	40.5	51,000	125.5
8	私立大学	立命館大学	40.0	101,000	173.5
9	国立大学	筑波大学	38.0	80,350	125.5
9	私立大学	慶應義塾大学	38.0	135,350	96.5

11.代数学、幾何学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	57.0	86,900	79.0
2	国立大学	東京大学	52.0	78,500	91.0
3	国立大学	東北大学	35.0	50,900	76.0
3	国立大学	大阪大学	35.0	67,500	77.0
5	国立大学	九州大学	33.0	62,600	89.0
6	国立大学	名古屋大学	32.0	37,900	62.0
7	国立大学	東京工業大学	26.0	26,600	45.0
8	私立大学	東京理科大学	25.0	20,600	64.0
9	国立大学	北海道大学	23.0	21,700	40.0
9	私立大学	早稲田大学	23.0	28,300	60.0

12.解析学、応用数学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	61.0	192,900	121.0
2	私立大学	早稲田大学	38.0	69,800	78.0
3	国立大学	大阪大学	37.0	46,300	104.0
4	国立大学	九州大学	36.0	79,900	93.0
5	国立大学	東北大学	34.0	73,400	114.0
5	国立大学	東京大学	34.0	67,900	69.0
7	国立大学	広島大学	27.0	24,500	54.0
7	私立大学	東京理科大学	27.0	20,800	115.0
9	私立大学	慶應義塾大学	25.0	23,100	44.0
10	国立大学	北海道大学	24.0	63,300	61.0

13.物性物理学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	275.0	1,320,000	688.0
2	国立大学	東北大学	133.0	680,100	340.0
3	国立大学	京都大学	101.0	438,400	283.0
4	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学研究所	89.0	344,300	222.0
5	国立大学	大阪大学	74.0	282,000	275.0
6	国立大学	名古屋大学	48.0	153,900	177.0
7	国立大学	北海道大学	39.0	182,600	144.0
8	国立大学	広島大学	37.0	179,100	170.0
9	国立大学	東京工業大学	36.0	147,400	116.0
10	私立大学	慶應義塾大学	35.0	128,900	85.0

14.プラズマ学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	大学共同利用機 関法人	核融合科学研究所	66.0	351,100	362.5
2	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人量子 科学技術研究開発機構	49.0	147,950	166.0
3	国立大学	九州大学	42.5	253,100	136.5
4	国立大学	大阪大学	35.0	204,050	190.5
5	国立大学	東北大学	33.5	218,150	108.5
6	国立大学	京都大学	29.5	132,900	115.0
7	国立大学	名古屋大学	28.5	205,800	104.0
8	大学共同利用機 関法人	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研 究機構	22.5	98,350	121.5
9	国立大学	東京大学	19.5	169,300	82.0
10	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人日本 原子力研究開発機構	15.5	42,350	56.5

15.素粒子、原子核、宇宙物理学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	183.5	1,110,300	588.0
2	大学共同利用機 関法人	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研 究機構	161.5	1,168,950	695.5
3	国立大学	京都大学	100.5	478,300	259.0
4	国立大学	東北大学	86.5	655,950	256.5
5	国立大学	名古屋大学	83.5	458,900	293.0
6	国立大学	大阪大学	69.0	408,650	275.5
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学研究所	67.5	639,250	251.5
8	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人日本 原子力研究開発機構	43.5	133,350	158.5
9	国立大学	筑波大学	37.0	282,900	129.0
10	国立大学	九州大学	36.5	135,400	144.5

16.天文学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	大学共同利用機 関法人	国立天文台	90.0	630,100	312.0
2	国立大学	東京大学	86.0	672,600	223.0
3	国立大学	名古屋大学	28.0	221,600	97.0
4	国立大学	京都大学	27.0	83,100	93.0
5	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人宇宙 航空研究開発機構	22.0	87,600	79.0
6	国立大学	東北大学	16.0	125,300	48.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学研究所	16.0	115,600	34.0
8	国立大学	大阪大学	11.0	55,900	49.0
9	国立大学	愛媛大学	10.0	25,100	30.0
10	国立大学	鹿児島大学	9.0	33,700	50.0

17.地球惑星科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	209.0	1,521,300	655.0
2	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人海洋 研究開発機構	124.0	549,500	389.0
3	国立大学	東北大学	94.0	553,600	307.0
4	国立大学	京都大学	90.0	388,100	341.0
5	国立大学	北海道大学	85.0	443,300	250.0
6	国立大学	名古屋大学	64.0	431,100	332.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	62.0	140,600	160.0
8	国立大学	東京工業大学	59.0	371,600	135.0
9	国立大学	九州大学	58.0	232,700	241.0
10	国公立試験研究 機関	気象庁気象研究所	41.0	182,200	134.0

18.材料力学、生産工学、設計工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	大阪大学	58.0	315,600	162.0
2	国立大学	東北大学	49.0	206,200	148.0
3	国立大学	京都大学	47.0	382,500	77.0
4	国立大学	名古屋大学	46.0	294,500	111.0
5	国立大学	東京大学	41.0	175,700	136.0
6	国立大学	金沢大学	29.0	81,900	53.0
7	国立大学	東京工業大学	19.0	69,100	65.0
7	国立大学	岡山大学	19.0	63,100	57.0
9	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	17.0	42,000	65.0
10	国立大学	京都工芸繊維大学	16.0	59,400	34.0
10	国立大学	九州大学	16.0	111,800	80.0
10	私立大学	東京理科大学	16.0	47,800	49.0
10	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人物質・ 材料研究機構	16.0	54,500	57.0

19.流体力学、熱工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東北大学	59.0	304,600	170.0
2	国立大学	東京大学	52.0	348,100	117.0
3	国立大学	京都大学	34.0	138,600	64.0
3	国立大学	九州大学	34.0	123,200	108.0
5	国立大学	大阪大学	31.0	113,600	97.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	24.0	68,000	69.0
7	国立大学	北海道大学	22.0	116,200	77.0
8	国立大学	東京農工大学	21.0	78,800	45.0
9	国立大学	東京工業大学	20.0	116,400	58.0
10	国立大学	名古屋大学	16.0	45,900	70.0

20.機械力学、ロボティクスおよびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	40.0	192,800	128.0
2	国立大学	東京工業大学	33.0	172,000	78.0
3	国立大学	大阪大学	29.0	177,400	86.0
4	国立大学	東北大学	19.0	68,000	58.0
5	国立大学	九州大学	18.0	87,500	72.0
6	国立大学	電気通信大学	17.0	61,600	45.0
6	私立大学	早稲田大学	17.0	114,800	51.0
8	国立大学	名古屋大学	15.0	57,300	51.0
8	私立大学	芝浦工業大学	15.0	50,900	42.0
10	国立大学	金沢大学	14.0	51,000	31.0
10	国立大学	九州工業大学	14.0	35,900	51.0

21.電気電子工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	121.0	856,400	291.0
2	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	103.0	396,100	281.0
3	国立大学	東北大学	98.0	490,200	294.0
4	国立大学	大阪大学	85.0	510,500	250.0
5	国立大学	東京工業大学	68.0	331,000	208.0
6	国立大学	九州大学	64.0	312,600	185.0
7	国立大学	京都大学	55.0	287,600	132.0
8	国立大学	名古屋大学	53.0	300,200	218.0
9	国立大学	静岡大学	42.0	157,800	114.0
10	国立大学	北海道大学	39.0	168,000	108.0

22.土木工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	114.0	445,600	312.0
2	国立大学	東京大学	98.0	395,100	256.0
3	国立大学	東北大学	49.0	188,900	137.0
4	国立大学	北海道大学	48.0	223,700	135.0
5	国立大学	広島大学	35.0	135,800	119.0
6	国立大学	名古屋大学	33.0	137,500	106.0
7	国立大学	東京工業大学	30.0	99,100	80.0
8	国立大学	九州大学	29.0	109,000	130.0
9	国立大学	神戸大学	26.0	78,700	90.0
9	国立大学	愛媛大学	26.0	88,200	64.0
9	私立大学	日本大学	26.0	42,600	149.0

23.建築学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	92.0	275,567	218.0
2	国立大学	九州大学	59.3	168,833	174.0
3	国立大学	東京工業大学	46.7	166,300	102.0
4	国立大学	京都大学	39.7	134,200	85.7
5	私立大学	早稲田大学	35.0	81,067	103.0
6	国立大学	千葉大学	34.0	83,600	97.3
7	国立大学	東北大学	30.3	102,033	78.0
8	私立大学	日本大学	26.3	35,133	114.3
9	私立大学	東京理科大学	26.0	49,600	109.0
10	国立大学	大阪大学	25.3	84,500	72.0

24.航空宇宙工学、船舶海洋工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人海上・ 港湾・航空技術研究所	97.0	205,500	340.0
2	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人宇宙 航空研究開発機構	63.0	225,200	220.0
3	国立大学	東京大学	50.0	265,900	154.0
4	国立大学	名古屋大学	28.0	248,600	50.0
5	国立大学	東北大学	27.0	157,200	69.0
6	国立大学	九州大学	24.0	120,700	118.0
7	国立大学	東京海洋大学	21.0	47,700	97.0
8	国立大学	神戸大学	19.0	60,100	66.0
9	国立大学	広島大学	18.0	89,300	38.0
10	国立大学	横浜国立大学	17.0	73,300	44.0
10	国立大学	大阪大学	17.0	53,400	40.0

25.社会システム工学、安全工学、防災工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	49.0	184,700	143.0
2	国立大学	京都大学	32.0	111,100	96.0
3	国立大学	東北大学	29.0	117,600	81.0
4	国立大学	筑波大学	25.0	83,600	73.0
5	国立大学	東京工業大学	23.0	82,600	47.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人防災 科学技術研究所	22.0	81,200	63.0
7	国立大学	神戸大学	17.0	47,900	60.0
7	私立大学	早稲田大学	17.0	46,500	59.0
9	国立大学	広島大学	13.0	39,700	42.0
9	国立大学	九州大学	13.0	74,900	51.0

26.材料工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東北大学	178.0	1,147,900	599.0
2	国立大学	大阪大学	105.0	521,700	328.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人物質・ 材料研究機構	88.0	354,500	304.0
4	国立大学	京都大学	85.0	624,200	222.0
5	国立大学	東京工業大学	81.0	376,900	230.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	70.0	275,000	283.0
7	国立大学	九州大学	66.0	348,300	293.0
8	国立大学	名古屋大学	63.0	379,600	191.0
9	国立大学	東京大学	61.0	365,900	177.0
10	国立大学	名古屋工業大学	36.0	101,100	122.0

27.化学工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	九州大学	51.0	260,700	162.0
2	国立大学	東京大学	50.0	264,700	146.0
3	国立大学	東北大学	47.0	499,500	162.0
4	国立大学	東京工業大学	46.0	190,100	181.0
5	国立大学	名古屋大学	39.0	265,300	150.0
6	国立大学	京都大学	33.0	160,700	107.0
6	国立大学	大阪大学	33.0	172,100	131.0
8	国立大学	北海道大学	29.0	103,700	88.0
8	国立大学	神戸大学	29.0	128,700	137.0
10	国立大学	広島大学	28.0	99,400	98.0

28.ナノマイクロ科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	79.0	529,300	299.0
2	国立大学	東北大学	63.0	276,700	270.0
3	国立大学	大阪大学	58.0	381,600	260.0
4	国立大学	京都大学	50.0	653,800	158.0
5	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	44.0	162,700	214.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	41.0	369,400	131.0
7	国立大学	北海道大学	39.0	373,600	150.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人物質・ 材料研究機構	39.0	225,200	177.0
9	国立大学	東京工業大学	35.0	183,100	119.0
9	国立大学	名古屋大学	35.0	246,900	173.0

29.応用物理物性およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東北大学	81.0	549,100	284.0
2	国立大学	東京大学	77.0	634,300	213.0
3	国立大学	大阪大学	42.0	239,200	188.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人物質・ 材料研究機構	42.0	258,700	168.0
5	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	40.0	128,100	184.0
6	国立大学	東京工業大学	39.0	144,800	99.0
7	国立大学	京都大学	35.0	333,600	100.0
8	国立大学	名古屋大学	34.0	285,300	123.0
9	国立大学	金沢大学	25.0	100,200	61.0
10	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	19.0	112,100	64.0

30.応用物理工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	大阪大学	49.0	372,800	160.0
2	国立大学	東京大学	34.0	183,300	119.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	30.0	101,300	122.0
4	国立大学	京都大学	25.0	245,600	58.0
5	国立大学	東北大学	23.0	135,400	98.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	20.0	95,900	84.0
7	国立大学	電気通信大学	18.0	109,200	42.0
8	国立大学	北海道大学	16.0	89,400	50.0
9	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人物質・ 材料研究機構	12.0	53,400	62.0
10	国立大学	千葉大学	10.0	108,600	48.0
10	国立大学	名古屋大学	10.0	58,300	48.0
10	国立大学	神戸大学	10.0	83,400	25.0
10	国立大学	広島大学	10.0	41,400	24.0

31.原子力工学、地球資源工学、エネルギー学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人日本 原子力研究開発機構	63.0	191,100	210.0
2	国立大学	東北大学	43.0	189,400	130.0
3	国立大学	東京大学	41.0	356,200	128.0
4	国立大学	九州大学	35.0	134,500	154.0
5	国立大学	京都大学	29.0	130,300	99.0
6	国立大学	北海道大学	21.0	85,300	89.0
7	国立大学	大阪大学	20.0	89,700	74.0
8	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	17.0	65,700	53.0
9	国立大学	名古屋大学	13.0	54,100	55.0
10	国立大学	秋田大学	12.0	25,800	67.0

32.物理化学、機能物性化学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	51.0	289,800	159.0
2	国立大学	京都大学	50.0	369,500	143.0
3	国立大学	大阪大学	47.0	205,300	186.0
4	国立大学	北海道大学	37.0	210,500	147.0
5	国立大学	東北大学	34.0	174,300	139.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	32.0	184,400	68.0
7	国立大学	名古屋大学	29.0	244,200	91.0
8	国立大学	東京工業大学	25.0	139,700	76.0
9	国立大学	九州大学	24.0	101,700	103.0
10	私立大学	東京理科大学	21.0	88,400	81.0

33.有機化学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	81.0	440,100	252.0
2	国立大学	大阪大学	79.0	449,500	283.0
3	国立大学	北海道大学	72.0	269,600	211.0
4	国立大学	名古屋大学	62.0	367,300	151.0
5	国立大学	東京大学	51.0	276,400	159.0
6	国立大学	東京工業大学	45.0	229,100	136.0
7	国立大学	九州大学	36.0	239,200	123.0
8	国立大学	東北大学	28.0	171,300	123.0
9	国立大学	岡山大学	19.0	46,900	72.0
10	私立大学	慶應義塾大学	18.0	81,700	62.0

34.無機・錯体化学、分析化学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	58.0	422,700	163.0
2	国立大学	京都大学	44.0	358,500	143.0
3	国立大学	大阪大学	43.0	160,600	196.0
4	国立大学	東北大学	40.0	176,600	139.0
4	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	40.0	90,000	156.0
6	国立大学	東京工業大学	39.0	269,500	169.0
6	国立大学	九州大学	39.0	199,400	158.0
8	国立大学	北海道大学	26.0	93,000	93.0
9	国立大学	名古屋大学	23.0	102,200	71.0
9	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	23.0	69,900	45.0

35.高分子、有機材料およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	68.0	594,600	220.0
2	国立大学	九州大学	52.0	549,500	162.0
3	国立大学	大阪大学	48.0	255,800	147.0
4	国立大学	東京工業大学	44.0	342,700	139.0
5	国立大学	東京大学	42.0	201,600	129.0
6	国立大学	北海道大学	30.0	172,000	114.0
7	国立大学	名古屋大学	29.0	120,700	103.0
8	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人物質・ 材料研究機構	27.0	102,500	76.0
9	国立大学	山形大学	25.0	86,900	121.0
10	国立大学	東北大学	22.0	162,800	78.0
10	国立大学	千葉大学	22.0	92,900	53.0
10	国立大学	信州大学	22.0	55,500	71.0
10	国立大学	京都工芸繊維大学	22.0	63,000	93.0

36.無機材料化学、エネルギー関連化学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	54.0	287,000	160.0
2	国立大学	東北大学	42.0	267,700	142.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	39.0	141,200	160.0
4	国立大学	東京工業大学	38.0	272,700	126.0
5	国立大学	東京大学	27.0	134,300	83.0
5	国立大学	大阪大学	27.0	164,100	93.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人物質・ 材料研究機構	26.0	98,400	106.0
8	国立大学	北海道大学	25.0	114,800	87.0
8	国立大学	九州大学	25.0	132,400	123.0
10	国立大学	名古屋大学	18.0	112,300	81.0

37.生体分子化学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	103.0	733,200	255.0
2	国立大学	京都大学	77.0	550,500	218.0
3	国立大学	大阪大学	72.0	465,900	232.0
4	国立大学	東北大学	47.0	202,800	120.0
5	国立大学	東京工業大学	43.0	254,100	167.0
5	国立大学	名古屋大学	43.0	236,200	131.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	40.0	121,800	144.0
8	国立大学	北海道大学	24.0	87,600	112.0
8	国立大学	九州大学	24.0	148,200	94.0
10	私立大学	慶應義塾大学	21.0	133,500	83.0

38.農芸化学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	130.0	664,600	370.0
2	国立大学	京都大学	110.0	351,500	345.0
3	国立大学	東北大学	88.0	320,300	248.0
4	国立大学	名古屋大学	80.0	266,100	202.0
5	国立大学	筑波大学	55.0	203,500	183.0
6	国立大学	九州大学	54.0	220,500	198.0
7	私立大学	東京農業大学	49.0	109,300	160.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人農業・ 食品産業技術総合研究 機構	49.0	93,100	211.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	49.0	205,100	189.0
10	国立大学	北海道大学	48.0	186,600	167.0
10	国立大学	広島大学	48.0	158,200	184.0

39.生産環境農学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人農業・ 食品産業技術総合研究 機構	211.0	471,200	754.0
2	国立大学	東京大学	83.0	405,400	187.0
3	国立大学	京都大学	80.0	601,700	206.0
4	国立大学	岡山大学	57.0	237,300	145.0
5	国立大学	名古屋大学	50.0	281,800	146.0
6	国立大学	九州大学	39.0	121,200	198.0
7	国立大学	北海道大学	36.0	128,100	150.0
8	国立大学	東北大学	29.0	78,500	107.0
8	国立大学	筑波大学	29.0	69,000	133.0
8	国立大学	千葉大学	29.0	74,100	111.0

40.森林園科学、水圏応用科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人森林 研究・整備機構	179.0	512,900	652.0
2	国立大学	東京大学	108.0	574,200	315.0
3	国立大学	北海道大学	85.0	295,600	269.0
3	国立大学	京都大学	85.0	362,200	291.0
5	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人水産 研究・教育機構	80.0	186,700	233.0
6	国立大学	東京海洋大学	46.0	197,800	239.0
7	国立大学	九州大学	43.0	155,900	187.0
8	国立大学	三重大学	33.0	60,700	140.0
9	国立大学	長崎大学	29.0	68,000	102.0
10	国立大学	東京農工大学	28.0	117,700	97.0

41.社会経済農学、農業工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人農業・ 食品産業技術総合研究 機構	135.0	274,600	421.0
2	国立大学	京都大学	56.0	280,700	141.0
3	国立大学	東京大学	40.0	142,800	120.0
4	国立大学	九州大学	31.0	87,700	117.0
5	国立大学	筑波大学	28.0	105,600	75.0
5	国立大学	神戸大学	28.0	113,700	78.0
7	国立大学	東京農工大学	27.0	92,000	79.0
8	国立大学	北海道大学	25.0	76,600	86.0
8	国立大学	岡山大学	25.0	119,200	72.0
10	私立大学	東京農業大学	24.0	38,700	79.0

42.獣医学、畜産学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	101.0	385,000	362.0
2	国立大学	北海道大学	90.0	286,700	240.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人農業・ 食品産業技術総合研究 機構	73.0	100,800	193.0
4	私立大学	北里大学	48.0	82,400	154.0
5	国立大学	岐阜大学	40.0	99,700	125.0
5	国立大学	京都大学	40.0	135,900	139.0
5	私立大学	日本獣医生命科学大学	40.0	72,700	186.0
8	国立大学	帯広畜産大学	38.0	92,900	142.0
9	国立大学	山口大学	35.0	101,000	116.0
10	国立大学	岩手大学	32.0	65,900	124.0

43.分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	282.0	1,248,800	738.0
2	国立大学	京都大学	159.0	664,000	518.0
3	国立大学	大阪大学	150.0	792,300	564.0
4	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	148.0	659,100	508.0
5	国立大学	九州大学	79.0	307,900	279.0
6	国立大学	東北大学	62.0	265,800	234.0
7	国立大学	名古屋大学	52.0	241,000	247.0
8	国立大学	東京工業大学	45.0	262,600	141.0
9	国立大学	北海道大学	43.0	201,300	175.0
10	公立大学	横浜市立大学	40.0	181,200	135.0

44.細胞レベルから個体レベルの生物学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	157.0	743,800	505.0
2	国立大学	京都大学	141.0	1,198,200	404.0
3	国立大学	名古屋大学	127.0	550,800	354.0
4	国立大学	大阪大学	111.0	497,300	335.0
5	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	89.0	382,200	352.0
6	国立大学	東北大学	68.0	441,400	216.0
7	国立大学	北海道大学	60.0	347,300	197.0
7	大学共同利用機 関法人	基礎生物学研究所	60.0	328,700	175.0
9	国立大学	九州大学	58.0	184,400	221.0
10	国立大学	奈良先端科学技術大学 院大学	51.0	209,200	165.0

45.個体レベルから集団レベルの生物学と人類学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	94.0	418,000	285.0
2	国立大学	京都大学	86.0	423,600	329.0
3	国立大学	北海道大学	43.0	124,400	173.0
4	国立大学	東北大学	39.0	139,600	104.0
5	国立大学	筑波大学	30.0	64,100	108.0
6	特殊法人・独立 行政法人等	独立行政法人国立科学 博物館	28.0	61,700	90.0
7	国立大学	琉球大学	26.0	100,400	103.0
8	大学共同利用機 関法人	国立遺伝学研究所	23.0	108,400	58.0
9	公立大学	東京都立大学	22.0	66,200	70.0
10	国立大学	九州大学	21.0	73,000	106.0

46.神経科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	115.0	1,043,800	302.0
2	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	78.0	284,600	208.0
3	国立大学	京都大学	50.0	313,800	190.0
4	国立大学	名古屋大学	43.0	164,500	138.0
5	国立大学	筑波大学	39.0	258,100	135.0
5	国立大学	新潟大学	39.0	117,400	133.0
7	国立大学	大阪大学	36.0	98,000	158.0
8	私立大学	慶應義塾大学	35.0	277,600	123.0
9	大学共同利用機 関法人	生理学研究所	34.0	138,000	108.0
10	国立大学	九州大学	24.0	175,300	96.0
10	私立大学	沖縄科学技術大学院大 学	24.0	115,600	69.0

47.薬学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東北大学	96.0	302,500	232.0
2	国立大学	東京大学	95.0	374,200	241.0
3	国立大学	京都大学	73.0	294,000	198.0
3	国立大学	大阪大学	73.0	239,400	224.0
5	国立大学	熊本大学	69.0	179,500	180.0
6	公立大学	名古屋市立大学	68.0	140,300	143.0
7	国立大学	九州大学	65.0	236,600	159.0
8	国立大学	金沢大学	63.0	125,200	140.0
9	公立大学	静岡県立大学	62.0	114,700	151.0
9	私立大学	北里大学	62.0	102,000	273.0

48.生体の構造と機能およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東北大学	56.0	311,400	143.0
2	国立大学	京都大学	53.0	321,700	140.0
3	国立大学	大阪大学	48.0	141,400	151.0
4	国立大学	名古屋大学	33.0	110,200	79.0
5	国立大学	北海道大学	30.0	92,600	69.0
6	国立大学	東京大学	28.0	90,100	103.0
7	国立大学	筑波大学	25.0	112,300	69.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学 研究所	25.0	112,100	80.0
9	国立大学	金沢大学	21.0	51,600	60.0
9	国立大学	熊本大学	21.0	57,500	58.0
9	私立大学	順天堂大学	21.0	72,500	72.0

49.病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	大阪大学	149.0	787,900	422.0
2	国立大学	東京大学	137.0	513,100	382.0
3	国公立試験研究 機関	国立感染症研究所	96.0	175,600	291.0
4	国立大学	京都大学	95.0	273,000	246.0
5	私立大学	慶應義塾大学	58.0	245,400	123.0
6	国立大学	北海道大学	52.0	148,900	184.0
7	国立大学	九州大学	51.0	155,200	133.0
8	国立大学	東京医科歯科大学	50.0	167,700	150.0
9	私立大学	順天堂大学	49.0	104,200	163.0
10	国立大学	金沢大学	43.0	107,900	169.0

50.腫瘍学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	102.0	391,800	263.0
2	国立大学	大阪大学	76.0	189,300	258.0
3	一般社団法人・ 一般財団法人	公益財団法人がん研究 会	74.0	240,300	165.0
4	国立大学	京都大学	72.0	306,900	164.0
5	国立大学	九州大学	68.0	134,400	179.0
5	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人国立 がん研究センター	68.0	144,800	220.0
7	国立大学	金沢大学	63.0	116,900	148.0
8	国立大学	東北大学	49.0	98,700	140.0
8	国立大学	熊本大学	49.0	86,500	191.0
10	国立大学	名古屋大学	48.0	137,300	119.0
10	私立大学	慶應義塾大学	48.0	105,900	118.0

51. プレインサイエンスおよびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	64.0	286,000	162.0
2	私立大学	順天堂大学	39.0	77,200	99.0
3	国立大学	東京大学	37.0	128,900	97.0
4	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化学研究所	32.0	90,700	86.0
5	国立大学	名古屋大学	31.0	60,300	76.0
6	国立大学	大阪大学	29.0	128,400	117.0
7	国立大学	筑波大学	26.0	84,800	96.0
8	国立大学	北海道大学	25.0	118,600	70.0
9	国立大学	新潟大学	23.0	51,300	73.0
10	国立大学	神戸大学	19.0	84,400	43.0
10	公立大学	名古屋市立大学	19.0	89,600	55.0

52. 内科学一般およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	京都大学	166.0	398,200	342.0
2	国立大学	大阪大学	161.0	277,900	459.0
3	国立大学	東北大学	156.0	333,100	406.0
4	国立大学	名古屋大学	149.0	322,600	395.0
5	私立大学	順天堂大学	133.0	247,000	385.0
6	国立大学	東京大学	127.0	287,700	287.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	115.0	216,000	237.0
8	国立大学	九州大学	102.0	167,300	302.0
9	国立大学	金沢大学	97.0	210,700	257.0
10	国立大学	神戸大学	96.0	146,800	209.0

53. 器官システム内科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	236.0	515,900	424.0
2	国立大学	大阪大学	170.0	352,700	317.0
3	国立大学	京都大学	150.0	330,200	249.0
4	私立大学	順天堂大学	134.0	238,900	449.0
5	国立大学	東京医科歯科大学	122.0	287,100	213.0
6	私立大学	慶應義塾大学	115.0	359,900	236.0
7	国立大学	東北大学	113.0	172,400	260.0
7	国立大学	名古屋大学	113.0	255,400	226.0
9	国立大学	千葉大学	101.0	208,200	257.0
10	国立大学	熊本大学	96.0	197,900	256.0

54. 生体情報内科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	116.0	329,100	259.0
2	国立大学	熊本大学	91.0	183,900	231.0
3	国立大学	京都大学	89.0	169,300	177.0
4	国立大学	大阪大学	73.0	152,200	218.0
5	国立大学	九州大学	63.0	219,000	135.0
6	国立大学	神戸大学	60.0	113,000	153.0
7	国立大学	長崎大学	58.0	89,100	154.0
8	私立大学	順天堂大学	55.0	100,400	210.0
9	国立大学	千葉大学	53.0	98,800	114.0
10	国立大学	東北大学	52.0	160,000	142.0

55. 恒常性維持器官の外科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	大阪大学	200.0	369,700	498.0
2	国立大学	九州大学	143.0	268,200	356.0
3	国立大学	東北大学	126.0	190,000	279.0
4	国立大学	岡山大学	106.0	176,400	206.0
5	国立大学	千葉大学	95.0	173,800	306.0
6	国立大学	京都大学	94.0	169,200	206.0
7	国立大学	神戸大学	85.0	136,700	228.0
8	国立大学	東京大学	83.0	175,000	215.0
9	国立大学	広島大学	78.0	136,500	200.0
10	国立大学	名古屋大学	77.0	146,000	259.0

56. 生体機能および感覚に関する外科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	大阪大学	238.0	408,600	432.0
2	私立大学	慶應義塾大学	218.0	426,600	528.0
3	国立大学	東京大学	216.0	503,400	378.0
4	国立大学	京都大学	167.0	344,000	287.0
5	国立大学	東北大学	152.0	283,100	317.0
6	国立大学	岡山大学	144.0	207,500	317.0
7	国立大学	名古屋大学	139.0	223,400	321.0
8	国立大学	金沢大学	127.0	219,900	285.0
9	私立大学	順天堂大学	124.0	186,600	403.0
10	国立大学	北海道大学	123.0	179,000	310.0

57. 口腔科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京医科歯科大学	293.0	503,700	895.0
2	国立大学	大阪大学	275.0	603,300	609.0
3	国立大学	東北大学	226.0	416,400	489.0
4	国立大学	新潟大学	216.0	404,800	469.0
5	国立大学	広島大学	212.0	343,700	459.0
6	国立大学	岡山大学	208.0	411,900	498.0
7	国立大学	九州大学	200.0	417,100	431.0
8	私立大学	日本大学	181.0	236,000	811.0
9	国立大学	長崎大学	161.0	302,600	390.0
10	私立大学	昭和大学	137.0	224,100	535.0

58. 社会医学、看護学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	142.0	365,600	293.0
2	国立大学	京都大学	124.0	261,500	267.0
3	私立大学	順天堂大学	121.0	207,400	386.0
4	国立大学	千葉大学	115.0	206,300	283.0
5	国立大学	東北大学	104.0	210,800	245.0
6	国立大学	長崎大学	96.0	182,200	228.0
7	私立大学	国際医療福祉大学	90.0	124,300	282.0
8	国立大学	大阪大学	83.0	186,500	214.0
9	国立大学	筑波大学	80.0	128,700	233.0
10	私立大学	聖路加国際大学	78.0	138,300	137.0

59. スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	筑波大学	174.0	433,800	570.0
2	私立大学	順天堂大学	162.0	295,600	397.0
3	私立大学	新潟医療福祉大学	110.0	236,600	262.0
4	国立大学	東京大学	102.0	300,800	222.0
5	国立大学	京都大学	96.0	258,200	190.0
6	私立大学	早稲田大学	89.0	193,400	193.0
7	国立大学	名古屋大学	76.0	224,200	150.0
8	国立大学	広島大学	75.0	148,500	188.0
9	国立大学	東北大学	74.0	170,100	150.0
10	国立大学	大阪大学	62.0	146,300	153.0

60. 情報科学、情報工学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	大阪大学	102.0	323,500	235.0
2	国立大学	東京大学	98.0	328,700	248.0
3	国立大学	筑波大学	63.0	152,700	197.0
4	国立大学	東京工業大学	62.0	192,600	139.0
5	国立大学	京都大学	58.0	165,700	131.0
5	国立大学	九州大学	58.0	220,400	166.0
7	国立大学	東北大学	54.0	161,700	153.0
8	国立大学	電気通信大学	41.0	93,700	102.0
8	私立大学	早稲田大学	41.0	94,200	144.0
10	国立大学	名古屋大学	39.0	181,900	133.0

61.人間情報学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	214.5	940,417	496.0
2	国立大学	大阪大学	91.3	420,650	240.0
3	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	84.2	282,167	231.7
4	国立大学	京都大学	81.7	468,550	213.2
5	私立大学	立命館大学	64.3	181,167	200.8
6	国立大学	筑波大学	62.7	213,917	235.8
6	国立大学	東京工業大学	62.7	226,100	168.0
8	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人理化 学研究所	62.3	260,833	135.3
9	国立大学	九州大学	58.8	261,083	219.5
10	私立大学	早稲田大学	48.5	238,167	152.0

62.応用情報学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	68.5	212,200	172.5
2	国立大学	筑波大学	40.0	77,050	119.5
3	国立大学	東北大学	38.5	313,200	97.5
4	国立大学	名古屋大学	33.0	145,650	94.5
5	国立大学	九州大学	32.0	94,850	97.0
6	国立大学	京都大学	31.0	105,050	85.5
7	国立大学	大阪大学	30.0	81,750	96.0
8	私立大学	立命館大学	22.5	57,050	61.5
9	国立大学	電気通信大学	21.5	86,950	59.0
10	国立大学	九州工業大学	20.5	103,300	49.0

63.環境解析評価およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	北海道大学	57.0	401,400	160.0
2	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人海洋 研究開発機構	46.0	172,400	138.0
3	国立大学	東京大学	44.0	454,000	171.0
4	国立大学	京都大学	39.0	254,700	136.0
5	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人量子 科学技術研究開発機構	38.0	93,600	137.0
6	国立大学	広島大学	33.0	76,900	106.0
7	大学共同利用機 関法人	国立極地研究所	32.0	358,800	73.0
8	国立大学	名古屋大学	28.0	162,000	123.0
8	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人国立 環境研究所	28.0	112,800	117.0
10	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	24.0	169,200	61.0

64.環境保全対策およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	56.0	294,400	178.0
2	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人国立 環境研究所	45.0	122,100	105.0
3	国立大学	京都大学	40.0	170,500	127.0
4	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	39.0	163,200	127.0
5	国立大学	東北大学	36.0	217,000	143.0
5	国立大学	九州大学	36.0	349,400	134.0
7	国立大学	北海道大学	28.0	141,600	98.0
8	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人森林 研究・整備機構	25.0	78,400	66.0
9	国立大学	筑波大学	20.0	72,900	61.0
9	国立大学	東京農工大学	20.0	68,900	68.0
9	国立大学	名古屋大学	20.0	92,400	82.0

90.人間工医学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数 (件)	配分額(直接経 費)(千円)	応募件数累計数 (件)
1	国立大学	東京大学	113.0	435,400	351.0
2	国立大学	東北大学	82.0	364,200	311.0
3	国立大学	大阪大学	78.0	345,300	275.0
4	国立大学	九州大学	71.0	227,800	258.0
5	国立大学	京都大学	70.0	262,000	205.0
6	国立大学	北海道大学	62.0	298,200	150.0
7	特殊法人・独立 行政法人等	国立研究開発法人産業 技術総合研究所	46.0	112,400	129.0
8	国立大学	千葉大学	41.0	123,200	142.0
8	国立大学	東京医科歯科大学	41.0	139,000	142.0
10	国立大学	岡山大学	39.0	111,900	139.0

(注1)「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、

「基礎研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」及び「国際共同研究加速基金(国際先導研究及び海外連携研究)」について分類。

(注2)令和6年新規分には「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究及び公募研究」、「挑戦的研究」及び「国際共同研究加速基金(国際先導研究及び海外連携研究)」の計上なし。

(注3)「特別推進研究」及び「基礎研究(S)」は、<最も関連の深い中区分>に分類。

(注4)「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「計画研究及び公募研究」は、<関連のある小区分>を基に分類。

(注5)「学術変革領域研究(A)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」は、<最も関連の深い小区分>を基に分類。

(注6)対応する中区分が複数ある小区分については、件数、配分額を按份して集計。

(注7)研究代表者が所属する研究機関により整理。採択累計数が同数の場合は機関番号順に掲載。ただし、表示桁数以下の端数により同順位とならない場合あり。

(注8)機関種別「国立研究開発法人、独立行政法人、特殊法人等」は、「特殊法人・独立行政法人等」と機関種別名を省略。

図表 30 自然科学系 19 分野における自大学がリードする国際共著論文数の国内大学上位 10 位の一覧(2017-2021 年)

化学	大学名	件数	材料科学	大学名	件数	物理学	大学名	件数	宇宙科学	大学名	件数
1	第1G 京都大学	430	1	第1G 東北大学	342	1	第1G 東京大学	913	1	第1G 東京大学	409
2	第1G 東京大学	424	2	第1G 大阪大学	297	2	第1G 京都大学	409	2	第1G 京都大学	172
3	第1G 大阪大学	340	3	第1G 東京大学	262	3	第1G 大阪大学	350	3	第2G 名古屋大学	141
4	第1G 東北大学	312	4	第2G 九州大学	221	4	第1G 東北大学	334	4	第1G 東北大学	80
5	第2G 九州大学	292	5	第1G 京都大学	193	5	第2G 名古屋大学	233	5	第4G 総合研究大学院大学	62
6	第2G 北海道大学	260	6	第2G 北海道大学	156	6	第2G 東京工業大学	208	6	第2G 東京工業大学	59
7	第2G 東京工業大学	249	7	第2G 東京工業大学	154	7	第2G 九州大学	152	7	第1G 大阪大学	45
8	第2G 名古屋大学	232	8	第3G 信州大学	103	8	第2G 筑波大学	140	8	第2G 北海道大学	27
9	第2G 広島大学	167	9	第2G 名古屋大学	100	9	第2G 北海道大学	132	9	第2G 広島大学	27
10	第3G 熊本大学	145	10	第2G 筑波大学	87	10	第4G 沖縄科学技術大学院大学	108	10	第3G 愛媛大学	21
計算機科学	大学名	件数	数学	大学名	件数	工学	大学名	件数	環境/生態学	大学名	件数
1	第1G 東京大学	67	1	第1G 東京大学	117	1	第1G 東京大学	348	1	第2G 北海道大学	199
2	第1G 京都大学	50	2	第1G 京都大学	104	2	第2G 九州大学	276	2	第1G 東京大学	183
3	第2G 早稲田大学	49	3	第2G 早稲田大学	68	3	第1G 京都大学	226	3	第1G 京都大学	182
4	第1G 大阪大学	49	4	第1G 大阪大学	66	4	第1G 東北大学	188	4	第2G 九州大学	103
5	第4G 北陸先端科学技術大学院大学	48	5	第1G 東北大学	56	5	第2G 東京工業大学	187	5	第2G 広島大学	92
6	第4G 会津大学	41	6	第2G 名古屋大学	45	6	第2G 広島大学	155	6	第1G 東北大学	84
7	第4G 室蘭工業大学	39	7	第2G 神戸大学	40	7	第1G 大阪大学	144	7	第3G 東京農工大学	70
8	第4G 電気通信大学	38	8	第3G 日本大学	38	8	第2G 早稲田大学	140	8	第2G 筑波大学	66
9	第1G 東北大学	38	9	第2G 東京工業大学	37	9	第2G 北海道大学	109	9	第2G 琉球大学	62
10	第2G 九州大学	34	10	第2G 北海道大学	35	10	第2G 名古屋大学	91	10	第3G 愛媛大学	54
地球科学	大学名	件数	臨床医学	大学名	件数	精神医学/心理学	大学名	件数	農業科学	大学名	件数
1	第1G 東京大学	356	1	第1G 東京大学	399	1	第1G 東京大学	39	1	第2G 九州大学	191
2	第1G 東北大学	190	2	第1G 京都大学	286	2	第1G 京都大学	37	2	第2G 広島大学	74
3	第2G 北海道大学	189	3	第2G 東京医科歯科大学	277	3	第2G 慶應義塾大学	32	3	第1G 東京大学	74
4	第1G 京都大学	169	4	第1G 大阪大学	268	4	第2G 千葉大学	24	4	第1G 京都大学	66
5	第2G 名古屋大学	137	5	第1G 東北大学	210	5	第2G 九州大学	18	5	第2G 北海道大学	54
6	第2G 九州大学	101	6	第3G 順天堂大学	194	6	第1G 大阪大学	16	6	第2G 筑波大学	50
7	第2G 筑波大学	78	7	第2G 名古屋大学	188	7	第1G 東北大学	16	7	第3G 東京農工大学	42
8	第2G 東京工業大学	74	8	第2G 慶應義塾大学	185	8	第2G 早稲田大学	14	8	第2G 名古屋大学	38
9	第2G 広島大学	58	9	第2G 北海道大学	161	9	第2G 名古屋大学	11	9	第3G 鳥取大学	36
10	第2G 金沢大学	38	10	第2G 岡山大学	160	10	第2G 東京医科歯科大学	10	10	第4G 東京海洋大学	32
生物学・生化学	大学名	件数	免疫学	大学名	件数	微生物学	大学名	件数	分子生物学・遺伝学	大学名	件数
1	第1G 東京大学	226	1	第2G 北海道大学	68	1	第2G 北海道大学	115	1	第1G 東京大学	171
2	第1G 京都大学	166	2	第3G 長崎大学	62	2	第4G 帯広畜産大学	107	2	第1G 京都大学	164
3	第1G 大阪大学	162	3	第1G 東京大学	57	3	第1G 東京大学	85	3	第1G 大阪大学	116
4	第2G 名古屋大学	127	4	第1G 京都大学	50	4	第3G 長崎大学	51	4	第2G 北海道大学	84
5	第2G 北海道大学	118	5	第1G 大阪大学	39	5	第1G 大阪大学	47	5	第1G 東北大学	66
6	第1G 東北大学	113	6	第1G 東北大学	38	6	第1G 京都大学	46	6	第3G 横浜市立大学	51
7	第2G 九州大学	111	7	第2G 千葉大学	23	7	第1G 東北大学	33	7	第2G 名古屋大学	51
8	第2G 筑波大学	94	8	第3G 順天堂大学	21	8	第3G 東京農工大学	31	8	第2G 筑波大学	48
9	第2G 広島大学	80	9	第2G 神戸大学	19	9	第3G 鹿児島大学	29	9	第2G 広島大学	47
10	第3G 東京農工大学	71	10	第2G 東京医科歯科大学	18	10	第2G 岡山大学	29	10	第2G 九州大学	47
神経科学・行動学	大学名	件数	薬理学・毒性学	大学名	件数	植物・動物学	大学名	件数			
1	第1G 東京大学	86	1	第3G 富山大学	64	1	第1G 京都大学	281			
2	第1G 京都大学	80	2	第2G 九州大学	63	2	第2G 北海道大学	266			
3	第1G 東北大学	77	3	第2G 北海道大学	48	3	第1G 東京大学	219			
4	第2G 慶應義塾大学	77	4	第3G 熊本大学	47	4	第2G 九州大学	140			
5	第1G 大阪大学	74	5	第1G 東京大学	47	5	第3G 東京農工大学	138			
6	第2G 筑波大学	59	6	第1G 大阪大学	39	6	第3G 鹿児島大学	104			
7	第2G 九州大学	51	7	第3G 徳島大学	37	7	第2G 名古屋大学	90			
8	第2G 千葉大学	38	8	第3G 東京農工大学	33	8	第4G 琉球大学	83			
9	第3G 順天堂大学	36	9	第1G 東北大学	31	9	第2G 筑波大学	83			
10	第2G 名古屋大学	33	10	第3G 長崎大学	30	10	第2G 神戸大学	81			

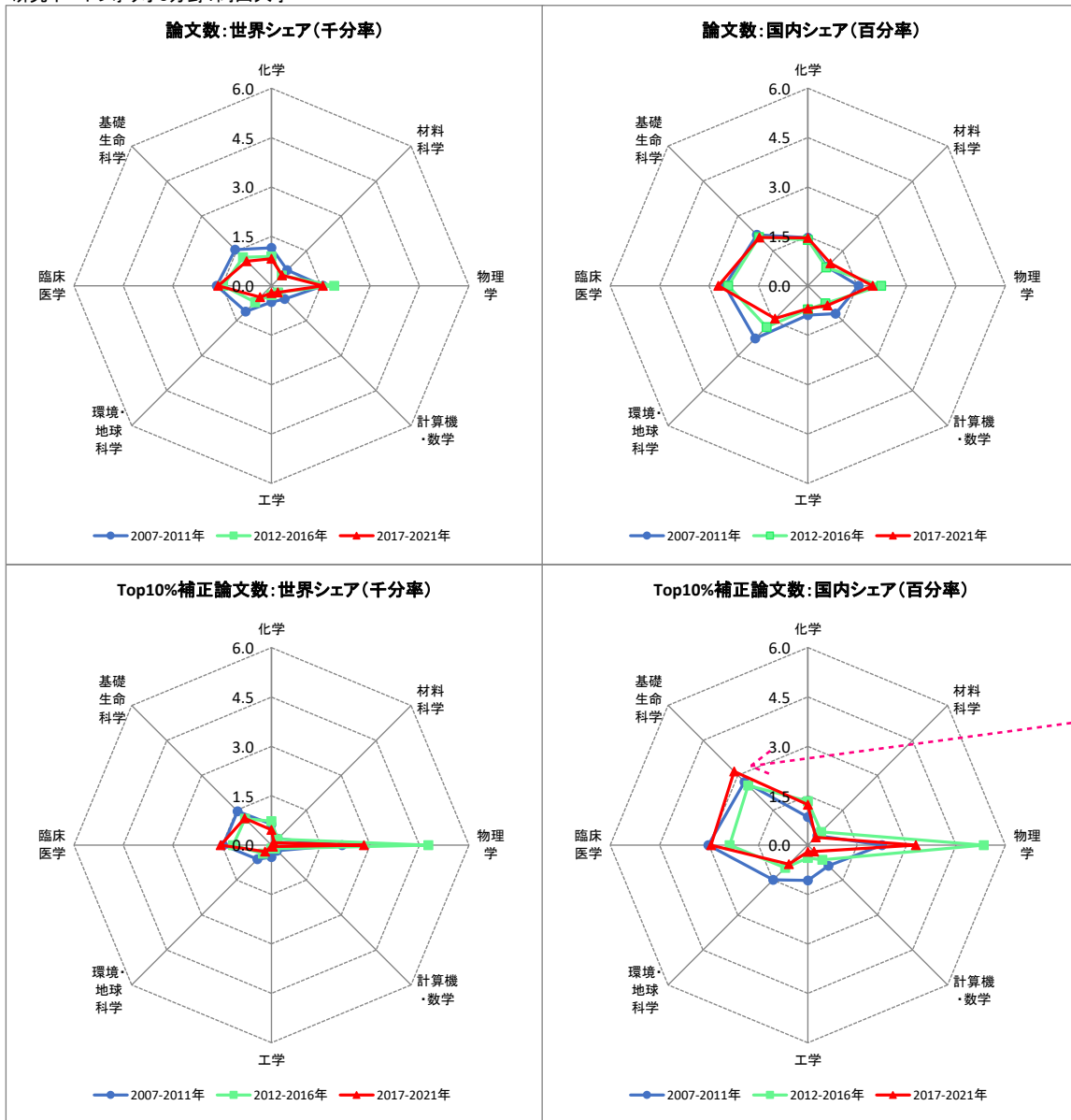
(注 1) Article, Review を分析対象とし、責任著者カウント法により分析。2017～2021 年の 5 年合計値を用いて分析した。

(注 2) 表示している件数は、小数点以下を四捨五入している。表示している件数が同じで、順位が異なる場合は、小数点以下の数値で違いが生じている。

クラリベイト社 Web of Science XML (SCIE, 2022 年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

岡山大学(日本:PY2007-2021)

研究ポートフォリオ8分野:岡山大学

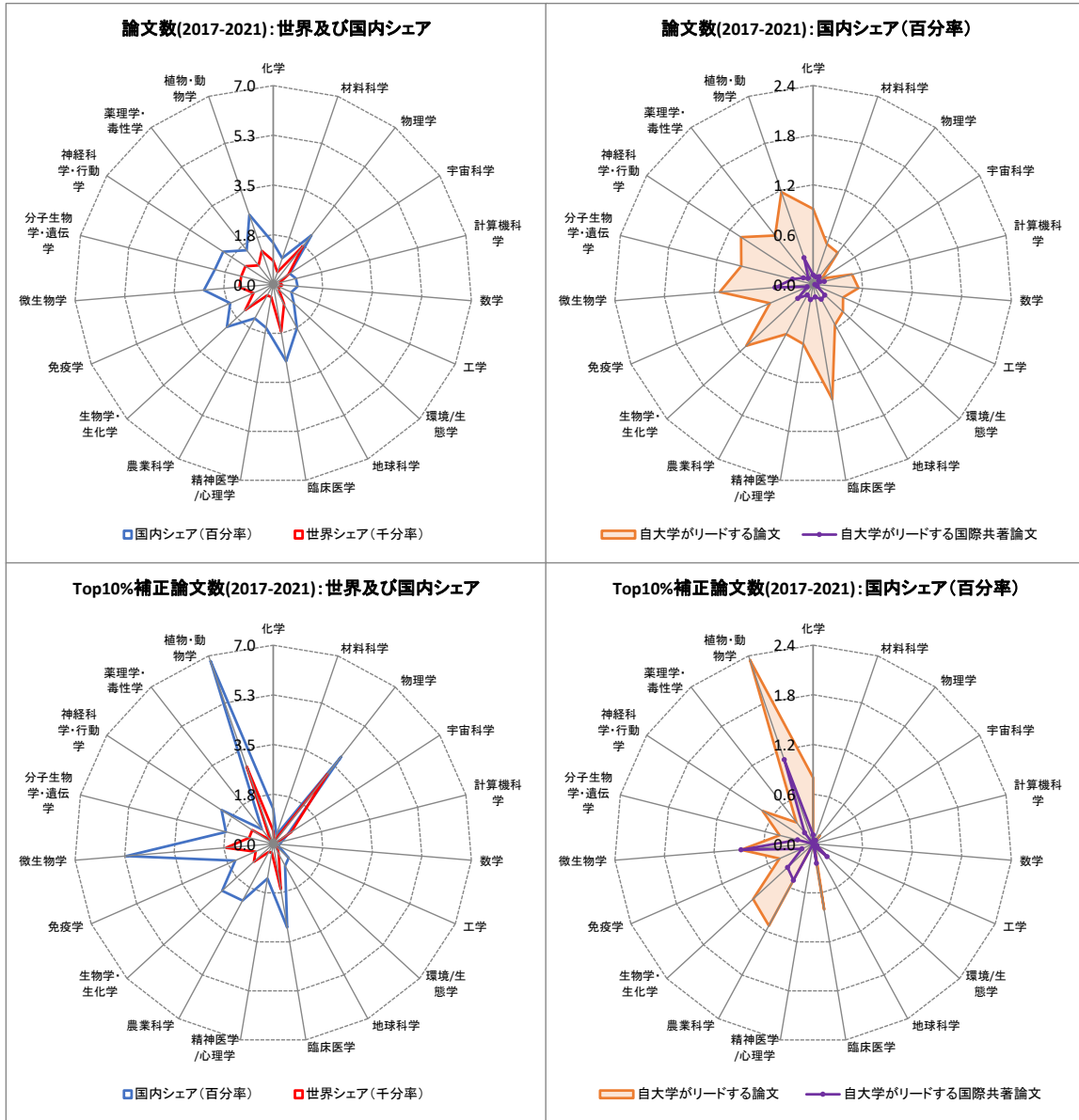


論文の構成:岡山大学

整数カウント法	期間	全分野	化学	材料科学	物理学	計算機・数学	工学	環境・地球科学	臨床医学	基礎生命科学
論文数 (5年合計値)	PY2007-2011年	6,970	806	200	878	170	224	369	1,918	2,361
	PY2012-2016年	7,203	758	191	1,156	113	177	333	2,130	2,281
	PY2017-2021年	8,155	827	296	990	144	223	361	2,898	2,359
論文数 世界シェア (千分率)	PY2007-2011年	1.3	1.2	0.7	1.6	0.6	0.5	1.1	1.7	1.6
	PY2012-2016年	1.1	0.9	0.4	1.9	0.3	0.3	0.7	1.5	1.2
	PY2017-2021年	0.9	0.8	0.5	1.6	0.3	0.2	0.5	1.6	1.1
Top10%補正論文数 (5年合計値)	PY2007-2011年	609	44	8	120	7	16	20	169	221
	PY2012-2016年	777	62	11	288	6	6	17	169	212
	PY2017-2021年	793	46	7	178	3	4	21	276	257
Top10%補正論文数 世界シェア (千分率)	PY2007-2011年	1.1	0.6	0.3	2.1	0.2	0.4	0.6	1.5	1.5
	PY2012-2016年	1.1	0.7	0.3	4.8	0.2	0.1	0.4	1.2	1.1
	PY2017-2021年	0.9	0.5	0.1	2.8	0.1	0.0	0.3	1.5	1.2
自大学がリードする 論文数(5年合計値)	PY2007-2011年	3,985	567	117	326	102	154	151	1,142	1,399
	PY2012-2016年	3,605	446	121	272	69	101	133	1,254	1,173
	PY2017-2021年	3,858	518	157	216	89	127	135	1,481	1,101

クラリベイト社 Web of Science XML (SCIE, 2022年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

自然科学系19分野:岡山大学



論文の特徴:岡山大学

整数カウント法	期間	全分野	化学	材料科学	物理学	計算機・数学	工学	環境・地球科学	臨床医学	基礎生命科学
論文数に占めるTop10%補正論文数割合(Q値)	PY2007-2011年	8.7%	5.5%	4.0%	13.7%	4.2%	7.3%	5.5%	8.8%	9.4%
	PY2012-2016年	10.8%	8.2%	5.8%	24.9%	5.4%	3.5%	5.2%	7.9%	9.3%
	PY2017-2021年	9.7%	5.6%	2.5%	18.0%	2.2%	1.9%	5.7%	9.5%	10.9%
国際共著率(論文数に占める国際共著論文数割合)	PY2007-2011年	28.3%	20.7%	19.0%	53.9%	22.4%	20.5%	48.2%	21.6%	25.5%
		国際共著相手の上位5か国・地域: 米(47%) / 英(21%) / 独(20%) / 中(20%) / 仏(19%)								
	PY2012-2016年	32.2%	22.8%	23.0%	68.6%	24.8%	26.0%	47.4%	18.1%	29.3%
		国際共著相手の上位5か国・地域: 米(56%) / 中(39%) / 独(35%) / 英(33%) / 伊(32%)								
PY2017-2021年	33.6%	21.5%	33.4%	70.1%	30.6%	32.3%	55.1%	21.2%	35.0%	
	国際共著相手の上位5か国・地域: 米(47%) / 中(35%) / 独(27%) / 英(25%) / 仏(23%)									
論文数に占める自大学がリードする国際共著論文数割合	PY2007-2011年	8.4%	7.4%	5.5%	7.1%	9.4%	9.8%	11.9%	7.1%	9.6%
	PY2012-2016年	7.1%	5.8%	8.4%	3.1%	8.8%	5.1%	10.7%	5.9%	9.5%
	PY2017-2021年	8.2%	7.8%	9.7%	5.7%	8.7%	8.1%	14.2%	5.7%	10.8%
論文数に占める海外機関がリードする論文数割合	PY2007-2011年	15.4%	10.4%	10.5%	40.5%	11.8%	6.7%	26.0%	11.1%	11.2%
	PY2012-2016年	19.7%	12.8%	9.4%	58.1%	12.4%	15.3%	27.3%	8.5%	13.9%
	PY2017-2021年	18.6%	10.4%	18.6%	52.5%	16.7%	21.7%	28.5%	10.3%	16.1%

注)論文数に占めるTop10%補正論文数の割合(Q値)は、当該期間において論文数の5年合計値が50件未満の場合は表示していない。

クラリベイト社 Web of Science XML (SCIE, 2022年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

4 日英独の個別大学の研究状況シートについて

2012-2021年の総論文数(整数カウント法)が500件以上の日本(193大学)、英国(112大学)、ドイツ(83大学)の大学の研究状況シートを作成した。下記サイトにて電子媒体をダウンロードすることができる。

文部科学省科学技術・学術政策研究所 研究論文に着目した日英独の大学ベンチマーキング 2023

<https://www.nistep.go.jp/benchmark>

本データは、クラリベイト社 Web of Science XML を基に、科学技術・学術政策研究所が集計した。活用に当たっては、以下の点に留意願いたい。

- (注1) クラリベイト社 Web of Science XML (SCIE, 2022 年末バージョン)を基に、Article, Review を分析対象とし、整数カウント及び責任著者カウントにより分析。2022 年 12 月末時点での被引用情報を用いている。
- (注2) 集計の際に、日本の機関名について、英語名の表記揺れの統一や、機関の統合等に伴う名称変更などの名寄せを行っている。
- (注3) 総論文及び Top10%補正論文は、整数カウント法による集計である。整数カウント法とは、複数機関の共著論文による論文の場合、それぞれの機関に1とカウントする。そのため、各機関の論文数の世界シェアを合計すると100%を超えることとなる。整数カウント法で計算されるシェアは、ある分野における各機関の「世界の研究活動への関与度」を示していると考えられる。
- (注4) 自大学がリードする論文、自大学がリードする国際共著論文、海外機関がリードする論文は、責任著者カウント法による集計である。責任著者カウント法とは、複数機関の共著論文による論文の場合、責任著者の所属の機関に1とカウントする。原則として、責任著者は1名のため、1件の論文を重複してカウントすることはない。ただし、昨今、責任著者が複数人いる場合や責任著者の所属が複数ある場合があるため、責任著者の所属が複数ある場合は案分して集計した。責任著者カウント法で計算されるシェアは、ある分野における各機関の「世界の研究活動へのリード度」を示していると考えられる。
- (注5) 研究ポートフォリオ 8 分野は、大学の分野特性を研究ポートフォリオによって見る際の可視化の都合上、ESI22 分野のうち自然科学系の 19 分野を本編に示す 8 つの分野カテゴリー (PF1~PF8) に集約したものである。22 分野分類から、経済学・経営学、複合領域、社会科学・一般を除く 19 分野とする。複合領域に含まれるジャーナルに含まれる論文については、ESI で採られている方式に準じ自然科学系 19 分野への再配分を行っている(ただし、再配分されず、複合領域のままの場合もある)。なお、22 分野とは、クラリベイト社がデータベースの収録上作成している1ジャーナルが1分野に分類されるジャーナル単位の分野分類である。本調査資料では、WoS データベース収録論文を Essential Science Indicators (ESI) の 22 分野分類を用いて再分類し、分野別分析の基礎としている。クラリベイト社 “Essential Science Indicators”ジャーナルの分類は以下による。
<https://esi.help.clarivate.com/Content/journal-list.htm> (esi-master-journal-list-12-2022) (2023 年 3 月アクセス)
- (注6) クラリベイト社が提供している Web サービスにおける書誌情報は新しい情報が追加されると共に、過去の修正や追加が行われている。そのため、現在 Web で提供されているデータにおける検索結果と、本調査資料の結果は必ずしも一致しない。
- (注7) 論文の被引用数(2022 年末の値)が各年各分野(22 分野)の上位 10%に入る論文数が Top10%論文数である。Top10%補正論文数とは、Top10%論文数の抽出後、実数で論文数の 1/10 となるように補正を加えた論文数を指す。
- (注8) 海外の機関については、「限定的な名寄せ」を行った結果であり、名寄せのレベルを上げれば順位も変動することに留意願いたい。
- (注9) 国公立別に 50 音順で示している。地区名は文部科学省ホームページによる。
- (注10) 国際共著相手の国の表記には、国・地域を含める。

<目次 参考資料 4-1 日本の 193 大学及び 4 大学共同利用機関法人>

No.	大学名称	地区名	国公立	ページ
1	秋田大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-1
2	旭川医科大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-3
3	茨城大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-5
4	岩手大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-7
5	宇都宮大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-9
6	愛媛大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-11
7	大分大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-13
8	大阪大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-15
9	岡山大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-17
10	お茶の水女子大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-19
11	帯広畜産大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-21
12	香川大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-23
13	鹿児島大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-25
14	金沢大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-27
15	北見工業大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-29
16	岐阜大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-31
17	九州大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-33
18	九州工業大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-35
19	京都大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-37
20	京都教育大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-39
21	京都工芸繊維大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-41
22	熊本大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-43
23	群馬大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-45
24	高知大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-47
25	神戸大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-49
26	埼玉大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-51
27	佐賀大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-53
28	滋賀医科大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-55
29	静岡大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-57
30	島根大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-59
31	信州大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-61
32	総合研究大学院大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-63
33	千葉大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-65
34	筑波大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-67
35	電気通信大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-69
36	東京大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-71
37	東京医科歯科大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-73
38	東京海洋大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-75
39	東京学芸大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-77
40	東京工業大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-79
41	東京農工大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-81
42	東北大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-83
43	徳島大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-85
44	鳥取大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-87
45	富山大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-89
46	豊橋技術科学大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-91
47	長岡技術科学大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-93
48	長崎大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-95
49	名古屋大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-97
50	名古屋工業大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-99
51	奈良女子大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-101
52	奈良先端科学技術大学院大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-103
53	新潟大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-105
54	浜松医科大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-107
55	弘前大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-109
56	広島大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-111
57	福井大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-113
58	福島大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-115
59	北陸先端科学技術大学院大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-117
60	北海道大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-119
61	三重大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-121
62	宮崎大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-123
63	室蘭工業大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-125
64	山形大学	北海道・東北地区	01 国立大学	参4-1-127
65	山口大学	中国・四国地区	01 国立大学	参4-1-129
66	山梨大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-131

No.	大学名称	地区名	国公私立	ページ
67	横浜国立大学	関東・甲信越地区	01 国立大学	参4-1-133
68	琉球大学	九州・沖縄地区	01 国立大学	参4-1-135
69	和歌山大学	東海・北陸・近畿地区	01 国立大学	参4-1-137
70	会津大学	北海道・東北地区	02 公立大学	参4-1-139
71	秋田県立大学	北海道・東北地区	02 公立大学	参4-1-141
72	石川県立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-143
73	大阪公立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-145
74	北九州市立大学	九州・沖縄地区	02 公立大学	参4-1-147
75	岐阜薬科大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-149
76	九州歯科大学	九州・沖縄地区	02 公立大学	参4-1-151
77	京都府立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-153
78	京都府立医科大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-155
79	県立広島大学	中国・四国地区	02 公立大学	参4-1-157
80	高知工科大学	中国・四国地区	02 公立大学	参4-1-159
81	札幌医科大学	北海道・東北地区	02 公立大学	参4-1-161
82	滋賀県立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-163
83	静岡県立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-165
84	東京都立大学	関東・甲信越地区	02 公立大学	参4-1-167
85	富山県立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-169
86	名古屋市立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-171
87	奈良県立医科大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-173
88	兵庫県立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-175
89	福井県立大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-177
90	福島県立医科大学	北海道・東北地区	02 公立大学	参4-1-179
91	横浜国立大学	関東・甲信越地区	02 公立大学	参4-1-181
92	和歌山県立医科大学	東海・北陸・近畿地区	02 公立大学	参4-1-183
93	愛知医科大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-185
94	愛知学院大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-187
95	愛知工業大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-189
96	青山学院大学	東京都	03 私立大学	参4-1-191
97	朝日大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-193
98	麻布大学	埼玉・千葉・神奈川	03 私立大学	参4-1-195
99	岩手医科大学	北海道・東北地区	03 私立大学	参4-1-197
100	大阪医科薬科大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-199
101	大阪工業大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-201
102	大阪歯科大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-203
103	岡山理科大学	中国・四国地区	03 私立大学	参4-1-205
104	沖縄科学技術大学院大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-207
105	学習院大学	東京都	03 私立大学	参4-1-209
106	神奈川大学	埼玉・千葉・神奈川	03 私立大学	参4-1-211
107	神奈川歯科大学	埼玉・千葉・神奈川	03 私立大学	参4-1-213
108	金沢医科大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-215
109	金沢工業大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-217
110	川崎医科大学	中国・四国地区	03 私立大学	参4-1-219
111	関西大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-221
112	関西医科大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-223
113	関西学院大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-225
114	北里大学	東京都	03 私立大学	参4-1-227
115	京都産業大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-229
116	京都薬科大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-231
117	杏林大学	東京都	03 私立大学	参4-1-233
118	近畿大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-235
119	久留米大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-237
120	慶應義塾大学	東京都	03 私立大学	参4-1-239
121	工学院大学	東京都	03 私立大学	参4-1-241
122	甲南大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-243
123	神戸学院大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-245
124	神戸薬科大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-247
125	国際医療福祉大学	栃木・群馬・茨城県	03 私立大学	参4-1-249
126	埼玉医科大学	埼玉・千葉・神奈川	03 私立大学	参4-1-251
127	産業医科大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-253
128	自治医科大学	栃木・群馬・茨城県	03 私立大学	参4-1-255
129	芝浦工業大学	東京都	03 私立大学	参4-1-257
130	順天堂大学	東京都	03 私立大学	参4-1-259
131	城西大学	埼玉・千葉・神奈川	03 私立大学	参4-1-261
132	上智大学	東京都	03 私立大学	参4-1-263

No.	大学名称	地区名	国公立	ページ
133	昭和大学	東京都	03 私立大学	参4-1-265
134	昭和薬科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-267
135	鈴鹿医療科学大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-269
136	成蹊大学	東京都	03 私立大学	参4-1-271
137	聖マリアンナ医科大学	埼玉・千葉・神奈川県	03 私立大学	参4-1-273
138	聖路加国際大学	東京都	03 私立大学	参4-1-275
139	摂南大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-277
140	創価大学	東京都	03 私立大学	参4-1-279
141	崇城大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-281
142	玉川大学	東京都	03 私立大学	参4-1-283
143	千葉工業大学	埼玉・千葉・神奈川県	03 私立大学	参4-1-285
144	中央大学	東京都	03 私立大学	参4-1-287
145	中部大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-289
146	鶴見大学	埼玉・千葉・神奈川県	03 私立大学	参4-1-291
147	帝京大学	東京都	03 私立大学	参4-1-293
148	東海大学	東京都	03 私立大学	参4-1-295
149	東京医科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-297
150	東京工科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-299
151	東京歯科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-301
152	東京慈恵会医科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-303
153	東京女子医科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-305
154	東京電機大学	東京都	03 私立大学	参4-1-307
155	東京都市大学	東京都	03 私立大学	参4-1-309
156	東京農業大学	東京都	03 私立大学	参4-1-311
157	東京薬科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-313
158	東京理科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-315
159	同志社大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-317
160	東邦大学	東京都	03 私立大学	参4-1-319
161	東北医科薬科大学	北海道・東北地区	03 私立大学	参4-1-321
162	東洋大学	東京都	03 私立大学	参4-1-323
163	徳島文理大学	中国・四国地区	03 私立大学	参4-1-325
164	獨協医科大学	栃木・群馬・茨城県	03 私立大学	参4-1-327
165	豊田工業大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-329
166	長崎総合科学大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-331
167	長浜バイオ大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-333
168	新潟医療福祉大学	甲信越地区	03 私立大学	参4-1-335
169	日本大学	東京都	03 私立大学	参4-1-337
170	日本医科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-339
171	日本歯科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-341
172	日本獣医生命科学大学	東京都	03 私立大学	参4-1-343
173	日本女子大学	東京都	03 私立大学	参4-1-345
174	兵庫医科大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-347
175	広島工業大学	中国・四国地区	03 私立大学	参4-1-349
176	広島国際大学	中国・四国地区	03 私立大学	参4-1-351
177	福岡大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-353
178	福岡工業大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-355
179	福岡歯科大学	九州・沖縄地区	03 私立大学	参4-1-357
180	藤田医科大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-359
181	法政大学	東京都	03 私立大学	参4-1-361
182	星薬科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-363
183	北海道医療大学	北海道・東北地区	03 私立大学	参4-1-365
184	武庫川女子大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-367
185	武蔵野大学	東京都	03 私立大学	参4-1-369
186	明治大学	東京都	03 私立大学	参4-1-371
187	明治薬科大学	東京都	03 私立大学	参4-1-373
188	名城大学	東海・北陸地区	03 私立大学	参4-1-375
189	酪農学園大学	北海道・東北地区	03 私立大学	参4-1-377
190	立教大学	東京都	03 私立大学	参4-1-379
191	立命館大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-381
192	龍谷大学	近畿地区	03 私立大学	参4-1-383
193	早稲田大学	東京都	03 私立大学	参4-1-385
194	高エネルギー加速器研究機構		04 大学共同利用機関法人	参4-1-387
195	自然科学研究機構		04 大学共同利用機関法人	参4-1-389
196	情報・システム研究機構		04 大学共同利用機関法人	参4-1-391
197	人間文化研究機構		04 大学共同利用機関法人	参4-1-393

奈良県立医科大学との交流について

●奈良県立医科大学から岡山大学への派遣

年度	派遣人数（学年）	岡山大学での配属先
2021年度	3名（2年生）	腫瘍微小環境学
2022年度	2名（2年生）	腫瘍微小環境学
2023年度	1名（2年生）	病理学（免疫病理）
2024年度	1名（2年生）	病理学（免疫病理）

●岡山大学から奈良県立医科大学への派遣

年度	派遣人数（学年）	岡山大学での配属先
2023年度	1名（3年生）	免疫病理学
2024年度	1名（3年生）	免疫病理学

リサーチ・クラークシップに関する覚書

岡山大学医学部（以下「甲」という。）と奈良県立医科大学医学部（以下「乙」という。）とは、岡山大学腫瘍微小環境学研究室（以下「研究室」という。）において実施するリサーチ・クラークシップの実習に関して、以下のとおり合意し、覚書を取り交わす。

（目的）

第1条 この覚書は、乙が研究室で実施するリサーチ・クラークシップの実習実施に関し必要な事項を定め、実習の円滑な遂行を図ることを目的とする。

（基本方針）

第2条 甲及び乙は、この実習の実施に当たっては、乙の正課授業の一環であることを十分配慮するものとする。

（実習計画）

第3条 乙は、甲と協議のうえ、実習開始前に実習計画書を甲に提出するものとする。

2 甲は、前項の規定により提出された実習計画書に基づき、実習を実施する。

（実習方法等）

第4条 甲における実習指導については、学生数、期間、内容、方法等を甲と乙とで協議のうえ、実施するものとする。

2 成績評価は、甲から提出された実習評価報告に基づき、乙が行う。

（参加学生）

第5条 乙は、実習の開始前に、実習に参加する学生（以下「参加学生」という。）に本覚書の内容を説明のうえ、参加学生名簿（第1号様式）を甲に提出するものとする。

2 甲は、参加学生に、記名押印した誓約書（第2号様式）を、乙を通じて提出させるものとする。

3 甲が受け入れた学生の身分は、「特別聴講学生」とする。

（費用負担）

第6条 甲は、リサーチ・クラークシップの実習に関する授業料を徴収しないものとする。ただし、乙は、甲に実習に要する費用として、参加学生1人につき50,000円（税込）を実習を終了した日から1ヶ月後までに支払うものとする。

（守秘義務）

第7条 甲、乙及び参加学生は、実習中に知り得た秘密を漏らしてはならない。実習終了後においても、同様とする。

2 前項の秘密とは、個人情報に関するもの、相手方から開示された図面、データ及び仕様書等の資料、ノウハウ及びアイデア等の営業上若しくは技術上の情報又はサンプル等の物品のうち、秘密であることが明示された研究機関の特殊性に由来するものをいう。

3 第1項の規定は、次の各号の一に該当する情報には適用しない。

- 一 相手方から取得する以前に既に所有していたもの
 - 二 相手方から取得する以前に公知のもの
 - 三 相手方から取得した後、自己の責に帰し得ない事由により公知となったもの
 - 四 正当な権限を有する第三者から秘密保持の義務を伴わず適法に知得したもの
- 4 参加学生は、実習の成果等を第三者に発表する場合は、あらかじめ甲の承認を得なければならない。

(問題発生時等の対応)

第8条 乙は、実習中に参加学生が事故により傷害を受けた場合や甲及び第三者に損害を与えた場合に備えるため、参加学生に対して災害傷害保険及び賠償責任保険に加入させるものとする。

2 参加学生の故意又は過失により甲又は第三者に損害を与えた場合は、乙は当該参加学生と連帯してその責任を負う。

3 甲の故意又は重大な過失により参加学生に損害を与えた場合は、甲がその責任を負う。

4 甲及び乙は、事故等が発生したことを認識した場合は、速やかに相互に報告するとともに、共同してその事故等の解決に当たるものとする。

5 甲は、参加学生の不適切な行為等により、実習の実施に支障が生ずるおそれがあると認めるときは、事前に乙と協議のうえ、実習を中止することができる。

(有効期間)

第9条 本覚書の有効期間は、締結の日から令和4年3月31日までとする。

(その他)

第10条 本覚書に定めのない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ、決定するものとする。

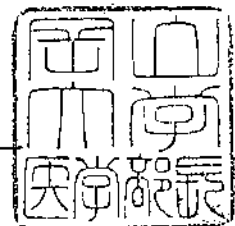
本覚書締結の証として、本覚書書を2通作成し、甲乙記名押印のうえ、各1通を保有する。

令和3年11月15日

甲 岡山市北区鹿田町2-5-1

岡山大学

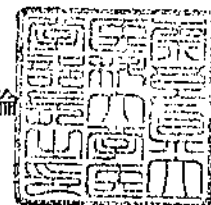
医学部長 豊岡 伸



乙 橿原市四条町840

奈良県立医科大学

医学部長 嶋 緑 倫



リサーチ・クラークシップに関する覚書

岡山大学医学部（以下「甲」という。）と奈良県立医科大学医学部（以下「乙」という。）とは、岡山大学腫瘍微小環境学研究室（以下「研究室」という。）において実施するリサーチ・クラークシップの実習に関して、以下のとおり合意し、覚書を取り交わす。

（目的）

第1条 この覚書は、乙が研究室で実施するリサーチ・クラークシップの実習実施に関し必要な事項を定め、実習の円滑な遂行を図ることを目的とする。

（基本方針）

第2条 甲及び乙は、この実習の実施に当たっては、乙の正課授業の一環であることを十分配慮するものとする。

（実習計画）

第3条 乙は、甲と協議のうえ、実習開始前に実習計画書を甲に提出するものとする。

2 甲は、前項の規定により提出された実習計画書に基づき、実習を実施する。

（実習方法等）

第4条 甲における実習指導については、学生数、期間、内容、方法等を甲と乙とで協議のうえ、実施するものとする。

2 成績評価は、甲から提出された実習評価報告に基づき、乙が行う。

（参加学生）

第5条 乙は、実習の開始前に、実習に参加する学生（以下「参加学生」という。）に本覚書の内容を説明のうえ、参加学生名簿（第1号様式）を甲に提出するものとする。

2 甲は、参加学生に、記名押印した誓約書（第2号様式）を、乙を通じて提出させるものとする。

3 甲が受け入れた学生の身分は、「特別聴講学生」とする。

（費用負担）

第6条 甲は、リサーチ・クラークシップの実習に関する授業料を徴収しないものとする。ただし、乙は、甲に実習に要する費用として、参加学生1人につき50,000円（税込）を実習を終了した日から1ヶ月後までに支払うものとする。

2 本契約に定めのない事項については、別途甲乙協議のうえ決定する。

（守秘義務）

第7条 甲、乙及び参加学生は、実習中に知り得た秘密を漏らしてはならない。実習終了後においても、同様とする。

2 前項の秘密とは、個人情報に関するもの、相手方から開示された図面、データ及び仕様書等の資料、ノウハウ及びアイデア等の営業上若しくは技術上の情報又はサンプル等の物品のうち、秘密であることが明示された研究機関の特殊性に由来するものをいう。

3 第1項の規定は、次の各号の一に該当する情報には適用しない。

- 一 相手方から取得する以前に既に所有していたもの
- 二 相手方から取得する以前に公知のもの
- 三 相手方から取得した後、自己の責に帰し得ない事由により公知となったもの
- 四 正当な権限を有する第三者から秘密保持の義務を伴わず適法に知得したもの

4 参加学生は、実習の成果等を第三者に発表する場合は、あらかじめ甲の承認を得なければならない。

(問題発生時等の対応)

第8条 乙は、実習中に参加学生が事故により傷害を受けた場合や甲及び第三者に損害を与えた場合に備えるため、参加学生に対して災害傷害保険及び賠償責任保険に加入させるものとする。

2 参加学生の故意又は過失により甲又は第三者に損害を与えた場合は、乙は当該参加学生と連帯してその責任を負う。

3 甲の故意又は重大な過失により参加学生に損害を与えた場合は、甲がその責任を負う。

4 甲及び乙は、事故等が発生したことを認識した場合は、速やかに相互に報告するとともに、共同してその事故等の解決に当たるものとする。

5 甲は、参加学生の不適切な行為等により、実習の実施に支障が生ずるおそれがあると認めるときは、事前に乙と協議のうえ、実習を中止することができる。

(有効期間)

第9条 本覚書の有効期間は、締結の日から令和5年3月31日までとする。

(その他)

第10条 本覚書に定めのない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ、決定するものとする。

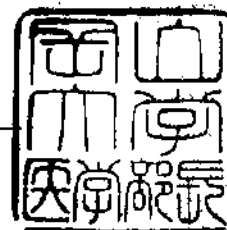
本覚書締結の証として、本覚書書を2通作成し、甲乙記名押印のうえ、各1通を保有する。

令和4年12月7日

甲 岡山市北区鹿田町2-5-1

岡山大学

医学部長 豊岡 伸



乙 橿原市四条町840

奈良県立医科大学

医学部長 嶋 緑 倫



岡山大学医学部と奈良県立医科大学医学部との間における 学生交流に関する協議書

岡山大学医学部（以下「甲」という。）と奈良県立医科大学医学部（以下「乙」という。）とは、学生交流に関して、以下のとおり合意し、協議書を取り交わす。

（目的）

第1条 本協議書は、甲が実施する医学研究インターンシップ及び乙が実施するリサーチ・クラックシップの実習実施に関し必要な事項を定め、実習の円滑な遂行を図ることを目的とする。

（基本方針）

第2条 甲及び乙において、学生が必要な実習を相手方で受けることが教育上有益と認めるときは、相手方で当該実習を受けることを許可するものとする。

2 甲及び乙は、この実習の実施に当たっては、双方の正課授業の一環であることを十分配慮するものとする。

（身分等）

第3条 実習に参加する学生（以下「参加学生」という。）の身分は、甲においては「特別聴講学生」とし、乙においては「医科学研究生D」とする。

2 甲及び乙は、実習の開始前に、参加学生に本協議書の内容を説明の上、以下の書類を提出するものとする。

(1) 「特別聴講学生」：参加学生名簿、誓約書

(2) 「医科学研究生D」：医科学研究生入学願、履歴書、在学証明書

3 参加学生は、受入大学の定める学則及びその他の規則を遵守しなければならない。

（実習期間及び計画）

第4条 参加学生が指導を受ける期間は、1年以内とする。

2 甲及び乙は、協議の上、実習開始前に実習計画書を受入大学に提出するものとする。

3 甲及び乙は、前項の規定により提出された実習計画書に基づき、実習を実施する。

（実習方法等）

第5条 実習指導については、学生数、期間、内容、方法等を双方協議のうえ、実施するものとする。

2 甲及び乙は、参加学生が実習を受ける上で必要な施設・設備の利用については、便宜を供与するものとする。

（成果報告）

第6条 甲及び乙は、受け入れた参加学生の実習が終了したときは、直ちに受入大学へ実習の成果報告を行うものとする。

2 成績評価は、受入大学から提出された成果報告に基づき、参加学生が所属する大学が行う。

（費用負担）

第7条 甲及び乙は、参加学生に係る検定料、入学料及び授業料に相当する費用は、相互に徴収しないものとする。

2 本実習に係る参加学生の交通費、食費若しくは本実習に個別にかかる必要経費は、参加学生の負担とする。

(守秘義務)

第8条 甲、乙及び参加学生は、実習中に知り得た秘密を漏らしてはならない。実習終了後においても、同様とする。

2 前項の秘密とは、個人情報に関するもの、受入大学から開示された図面、データ及び仕様書等の資料、ノウハウ及びアイデア等の営業上若しくは技術上の情報又はサンプル等の物品のうち、秘密であることが明示された研究機関の特殊性に由来するものをいう。

3 第1項の規定は、次の各号の一に該当する情報には適用しない。

- 一 受入大学から取得する以前に既に所有していたもの
- 二 受入大学から取得する以前に公知のもの
- 三 受入大学から取得した後、自己の責に帰し得ない事由により公知となったもの
- 四 正当な権限を有する第三者から秘密保持の義務を伴わず適法に知得したもの

4 参加学生は、実習の成果等を第三者に発表する場合は、あらかじめ受入大学の承認を得なければならない。

(研究成果の帰属)

第9条 参加学生が受入大学において受けた研究指導の結果として得られた研究成果の帰属に関する取扱いについては、甲及び乙の協議によるものとする。

(事故時等の対応)

第10条 甲及び乙は、実習中に参加学生が事故により傷害を受けた場合や受入大学及び第三者に損害を与えた場合に備えるため、参加学生に対して災害傷害保険及び賠償責任保険に加入させるものとする。

2 参加学生の故意又は過失により受入大学又は第三者に損害を与えた場合は、甲及び乙は当該参加学生と連帯してその責任を負う。

3 甲及び乙は、その故意又は重大な過失により参加学生に損害を与えた場合は、その責任を負う。

4 甲及び乙は、事故等が発生したことを認識した場合は、速やかに相互に報告するとともに、共同してその事故等の解決に当たるものとする。

5 甲及び乙は、参加学生の不適切な行為等により、実習の実施に支障が生ずるおそれがあると認めるときは、事前に相手方と協議のうえ、実習を中止することができる。

6 甲及び乙は、参加学生が受入大学の規則等に違反したときは、受入れの許可を取り消すことができる。

7 前項に規定する処分を決定したときは、速やかに相手方に通知する。

(有効期間)

第11条 本協議書の有効期間は令和5年10月1日から令和6年3月31日までとする。ただし、期間満了の1ヶ月前までに甲乙のいずれからでも、相手方に対して本協議書を終了する旨の申し出がない場合、本協議書と同一の条件でさらに1年間更新されるものとし、その後も同様とする。

(協議書の改廃)

第12条 本協議書の改廃については、甲及び乙の協議によるものとする。

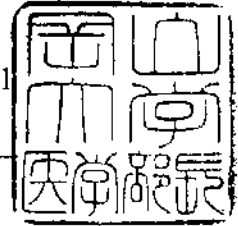
(その他)

第13条 本協議書に定めのない事項又は本協議書に疑義が生じた事項については、甲乙協議のうえ、決定するものとする。

本協議書締結の証として、本協議書を2通作成し、両者記名、押印の上、各1通を保有する。

令和5年12月25日

甲 岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1
岡山大学
医学部長 豊岡 伸



乙 奈良県橿原市四条町 840
奈良県立医科大学
医学部長 嶋 緑 倫



令和 6 年度 リサーチ・クラークシップ実施要領

1 目的

学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義およびそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うこと

2 対象学生

医学部医学科 2 年生

※基礎医学 I（解剖学、組織学、生理学、生化学、発生・再生医学）を修了していますが、薬理学、病理学、微生物学、免疫学、衛生学・公衆衛生学、法医学、臨床講義等は未だ受講していません。

3 実習期間

令和 7 年 1 月 6 日（月）～3 月 6 日（木）の平日 9 時 00 分～16 時 30 分

※学会等で不在にされることや、時間外に研究を実施されることもあるかと存じますので、貴研究室のご都合に合わせて変更していただいて問題ありません。

※令和 7 年 3 月 7 日（金）に成果発表会を実施予定です。（実施形態は未定）

4 費用

交通費及び滞在費は学生負担（大学から一部補助）

5 保険

全学生が災害傷害保険及び賠償責任保険に加入しております。万が一、実習中に事故等で傷害を受けた場合や第三者に損害等を与えた場合は、加入する保険で補償します。

6 評価

別紙 3「成績様式」に従って評価を行っていただき、令和 7 年 3 月 7 日（金）までに、メールでご提出願います。なお、ご提出いただきました評価は、成果発表会の評価と合わせ本学学内指導教員が最終的な評価をつけます。

7 本学科目責任者

基礎教育部長（生理学第二 教授 堀江 恭二）

医学研究インターンシップ実施計画(国内)

コース番号	専攻分野	教授	窓口教員	受け入れ先								受入可能人数	備考	
				研究機関名	郵便番号	住所	メールアドレス	教授・指導者名	職名	主な研究内容	実習時の研究内容			
51	システム生理学	成瀬	森松	岡山大学	51. 岡山大学 (システム生理学)	700-8530	岡山市北区津島中3-1-1 工学部6号館4F	hirano37@okayama-u.ac.jp	平野 美奈子	准教授	チャネルタンパク質の機能解析	分子生物学的手法、生化学的手法、電気生理学的手法	1	
52	病理学 (免疫病理)	松川	松川	奈良県立医科大学	52. 奈良県立医科大学 (病理学 (免疫病理))	634-8521	奈良県橿原市四条町840番地	toshi-ito@naramed-u.ac.jp	伊藤利洋	教授	呼吸器疾患における病態解明・新規治療薬候補探索	細胞培養・刺激実験 疾患動物モデル解析	1	当研究室出身、奈良県立医科大学異動後も非常勤講師として病理学1で特別講義を担当されています。昨年度、派遣実績あり。
53	病理学 (免疫病理)	松川	松川	国立研究開発法人理化学研究所	53. 国立研究開発法人理化学研究所 (病理学 (免疫病理))	351-0198	埼玉県和光市広沢2-1	rikiya.watanabe@riken.jp	渡邊力也	主任研究員	一分子観察を使った基礎研究、応用研究	デジタルバイオ分析 (非増幅核酸定量法による迅速ウイルス検出など)	1	遺伝子変異、機能異常、疾患の相関関係を一分子レベルの感度、精度で理解する研究手法の開発を行い、医薬学にまたがる新発見の創出に取り組んでいます。昨年度派遣実績あり。
54	病原細菌学	松下	内山	北里大学医学部	54. 北里大学医学部 (病原細菌学)	252-0374	神奈川県相模原市南区北里1-15-1	kuchida@med.kit-asato-u.ac.jp	高相晶士・内田健太郎	教授・講師	新規変形性関節症治療薬の探索-放線菌由来抽出物の抗炎症活性評価-	株化細胞を用いて放線菌由来抽出物の抗炎症活性を評価する。抗炎症活性の認められた抽出物を分画し、抽出物中の化合物の同定を試みる。	1	昨年度のMRIでは840種の放線菌由来抽出物のスクリーニングを行いました。その結果、新規化合物が同定されました。なお、例年学内の研修医宿舎を利用させていただいています。
55	病原細菌学	松下	内山	麻布大学獣医学部	55. 麻布大学獣医学部 (病原細菌学)	252-0206	神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71	lmurakami@azabu-u.ac.jp	長井誠・村上裕信	教授・准教授	リンパ腫、ウイルス、検査法、治療法	ウン伝染性リンパ腫ウイルスの発症機構・感染制御に関する研究	2	麻布大学の規定により研修費として18万円を麻布大学に納付する必要があります。村上先生の面接により派遣/受入の可否を決定します。
56	整形外科	尾崎	齋藤	東京医科歯科大学	56. 東京医科歯科大学 システム発生・再生医学分野 (整形外科)	113-8510	東京都文京区湯島1-5-45	asahara.svst@tmd.ac.jp	浅原弘嗣	教授	発生・再生分野および炎症疾患研究分野の2つを中心に、全遺伝子を包括したシステム医学研究、RNA階層を包含した遺伝子解析メカニズムの解明、新しい遺伝子編集技術をもちいた医学・生物学の研究を遂行する	分子生物学的な手法を駆使した各種研究の実施	1	熱心な人、向上心のある人 10月～12月：2ヵ月程度 宿泊施設なし 旅費・滞在費：自己負担



医学研究インターンシップ



配属学生数(2001～2024)

年度	学内	国内	海外	計
2001～2010	693	98	150	941
2011	83	10	14	107
2012	75	17	23	117
2013	81	20	15	118
2014	84	12	21	117
2015	92	10	21	123
2016	82	11	25	118
2017	96	6	14	116
2018	92	11	13	116
2019	98	6	18	122
2020	118	—	—	118
2021	107	3	5	111
2022	95	3	18	116
2023	84	4	20	118
2024	88	6	19	113
計(2001～)	1968	217	387	2572
年平均	82.0	9.0	16.1	

国別派遣者数('01-'24)

派遣国	派遣数	派遣国	派遣数
アメリカ	254	タイ	1
イギリス	28	チリ	1
イタリア	21	中国	2
オランダ	6	ドイツ	24
オーストラリア	4	フランス	11
カナダ	16	フィンランド	4
スイス	3	ミャンマー	1
スウェーデン	3	ニュージーランド	3
スペイン	5	派遣者数	387

*2009年は新型インフルエンザのため海外派遣を中止

*2020年は新型コロナウイルス感染症のため学外派遣を中止 *2021年は新型コロナウイルス感染症のため、制限がある中での派遣であった

西日本医学生学術フォーラムについて

【概要】

西日本医学生学術フォーラムは、研究志向のある医学生が熱意ある指導教員とともに集い、日頃の研究成果を紹介し、ディスカッションし、親交を深める研究集会。医学生の研究への意欲と能力を高め、将来の医学研究の担い手を育成するとともに、研究マインドを有する志高い臨床医の養成を目的としている。また、医学研究者を目指す学生とその養成を行う教員・研究者相互の情報交流の推進と親善の深化も意図している。

平成 28 年(2016) 12 月に第 1 回西日本医学生学術フォーラムが、岡山大学医学部鹿田キャンパスに西日本の 14 大学が集まり開催され、その歴史が始まった。そして令和元年(2019)、研究会であるフォーラムを安定的に年一回開催する団体として、西日本医学生学術フォーラム機構を発足させることとなった。本機構は、医学研究の活性化と医学研究者育成に向けた熱意と努力が必要であると考える各大学の教員有志と研究指向の医学生の集まりで形成され、有志教員が機構の構成員すなわち会員となる任意団体である。

医学生と教員の皆様の賛同を得て、本フォーラムを大きく発展させ、西日本の医学生の間で、西日本医学生体育大会(西医体)と並んで、学生生活をかけた目標となることを目指している。2024 年度までに9回のフォーラムが開催されている。

【所属大学】

愛媛大学, 大阪大学, 大阪公立大学, 岡山大学, 香川大学, 関西医科大学, 熊本大学,
島根大学, 徳島大学, 奈良県立医科大学, 三重大学, 山口大学 ほか

【発表形式】

口演発表, ポスター発表

2024 年度開催から優秀者への表彰制度を開始。

西日本医学生学術フォーラム HP

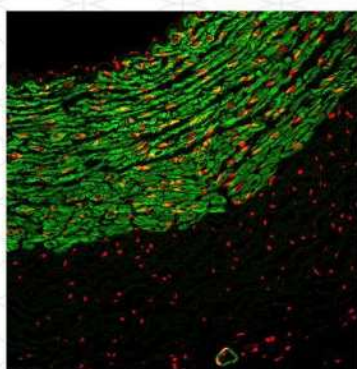
<https://www.m.ehime-u.ac.jp/sfinswj/>

(西日本医学生学術フォーラム HP を参考に岡山大学で作成)

2024年
12月15日
(日)

WELCOME!

西日本医学生 学術フォーラム 2024



会場 : 関西医科大学 (大阪府枚方市)
参加方法 : 現地参加 or オンライン参加
事務局連絡先 : 関西医科大学医学部事務部教務課
研究医養成コース担当
大阪府枚方市新町2丁目5番1号
gakumu@hirakata.kmu.ac.jp
072-804-2416

口演・ポスター発表 締め切り
: 10月15日
聴講 締め切り
: 11月中旬予定

お申込みはこちらから



2025 年度 特別 医学部 医学科

日英区分: 日本語

医学研究インターンシップ
Medical Research Internship

■ 講義番号	■ 科目区分	■ 学期
063493		特別
■ ナンバリングコード		■ 教室
NDZZ2MEMZ3001A		
■ 必修・選択の別		■ メディア授業科目
		—
■ 単位数	■ 曜日・時限	
8	その他	
■ 担当教員(ローマ字表記)		
松川 昭博 [MATSUKAWA Akihiro], 大橋 俊孝 [OOHASHI Toshitaka], 細野 祥之 [HOSONO Yasuyuki]		

持続可能な開発目標(SDGs)



■ 対象学生

■ 他学部学生の履修の可否

否

■ 連絡先

086-235-7143

amatsu@md.okayama-u.ac.jp

■ オフィスアワー

原則として月曜日から金曜日午前8:30から午後6:00に研究室で対応。
その他の時間、曜日にも必要により対応可。予約が好ましい。

■ 学部・研究科独自の項目

PR-01-02-01/02, PR-02-03-02, PR-04-01-02, GE-01-04-04, LL-01-01-01/02, LL-02-01-01, RE-01-01-01/02, RE-01-02-01/02, RE-02-01-01, RE-02-02-01, RE-03-01-01, RE-03-02-01, RE-03-03-01/02/03, RE-03-04-01, RE-04-01-01/02/03, RE-05-01-01, RE-05-02-01/02, IT-02-01-02

■ 使用言語

日本語・英語併用

■ 授業の概要

学内、学外(国内および海外)の研究室に3ヶ月間所属し、各研究室で研究活動に従事する。研究成果をまとめてプレゼンテーションを行い。研究実体験とおとして、研究の意義・重要性を認識し、研究マインドを涵養する。

■ 到達目標

1. 研究テーマの意義と目的を理解し、実験を行える。
2. 研究テーマに関連する論文を読解できる。
3. 研究内容や実験結果についてのディスカッションができる。
4. 研究計画や研究成果についてのプレゼンテーションができる。
5. 研究体験を通じて、将来の進路や医師像について考察する。

■ 授業計画

研究配属先の選択:

説明会、URLなどを参考に各研究室や学外(国内、海外)配属先の研究内容を調べ、配属希望先を選ぶ。海外配属の場合、TOEFL540点以上、TOEIC700点以上、あるいは英語技能試験でそれらに相当する点をクリアしておくこと。

研究配属先の決定:

配属希望調査をもとに配属先を調整、決定する。海外は前年度2-3月に決定する。国内・学内は6-7月に決定する。

配属のための準備:

窓口教員と配属研究について打合せを行い、そのための準備を始める。海外配属については渡航必要書類も平行して準備する。

研究計画プレゼンテーション:

海外派遣学生は、研究計画についてのプレゼンテーションを行う。

研究配属(10月-12月):

研究室のメンバーとして、行動規範に従い研究に参加する。既存のプロジェクトに参加する場合、新規の研究課題を設定する場合などがある。研究の目的、重要性、発展性について理解し、実験を行う。研究成果についてディスカッションやプレゼンテーションを行う。

報告会(12月26日):

全員が口演、あるいはポスター形式で発表し、ディスカッションを行う。

報告書(12月中):各自、研究内容をA4一枚にまとめる。

■ 授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)

1. 学生が自分の興味関心に基づいて研究室を選択し、研究室や研究テーマに関する情報を自ら収集することが重要である。
2. 研究室に配属される前に、基礎的な知識や実験技術が必要である。
3. 海外の研究室に参加する学生は、渡航の手続きを始めること。
4. 研究内容を記録することが重要である。

■ 授業形態・学習方法

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合

0% : 100%

(2)授業形態-授業全体の中のアクティブ・ラーニングの内容

協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)

ほぼ毎回

対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)

ほぼ毎回

思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)

ほぼ毎回

理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)

ほぼ毎回

(3)授業形態-実践型科目タイプ

G+Aタイプ(学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くAタイプ)

(4)授業形態-履修者への連絡事項

配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。

■ 使用メディア・機器・人的支援の活用

(1-1)視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)

1~2回程度

(1-2)学習管理システム(Moodleなど)

半分未満

(1-3)人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)

1~2回程度

(2)履修者への連絡事項

配慮が必要な場合は事前に担当教員に相談してください。

■ 教科書

備考

特に指定しない

参考書

備考

研究分野を理解するためのテキストや、研究テーマに関連する学術論文は指示される。これらの資料に加え、関連URL、PubMed、UpToDateなどの情報源を利用して調べたり、指導教員に尋ねたりすることが必要。

成績評価

以下の態度評価を含めて形成的に評価し、最終評価を行う。評価は窓口教員が行う。

研究への取組・参加態度、研究手技・手法、解釈・考察、情報収集、論文理解、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、Weekly report、教員裁量加点

最終報告会での発表、報告会への参加は単位認定に必須とする。

受講要件

基本的な医学生物学的知識を有すること。広く科学に興味をもつこと。

教職課程該当科目

この項目は当該科目には該当しない

JABEEとの関連

この項目は当該科目には該当しない

持続可能な開発目標(SDGs)

(保健)あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

実務経験のある教員による授業科目

該当する

各々の研究分野の最前線で研究に取り組む教員が実習の指導を行う

備考/履修上の注意

この授業は、自主性と危機管理が求められるが、人生の方向を決定するようなターニングポイントになり得る。

実務経験:医師としての勤務経験

学習成果(LCOs)

「学修成果(LCOs)」	関連するコア・コンピテンシー	評価の方法
問題を様々な視点から捉え、慎重かつ論理的な分析ができる。	論理的思考力	ルーブリック評価表「解釈・考察」「ディスカッション能力」「Weekly report」
医療人としての規範を理解し、医療・研究現場の秩序を守ることができる。	倫理観	ルーブリック評価表「研究への取組、参加態度」
患者やそれに関わる人々の話を傾聴し、相手の気持ちを理解して気遣うことができる。	コミュニケーション・スキル	ルーブリック評価表「コミュニケーション能力」
人体の構造と機能、疾病の成り立ち、予防と治療について深く理解し、説明できる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	ルーブリック評価表「解釈・考察」「ディスカッション能力」「プレゼンテーション能力」
専門的な知識のもと、新たな発見にむけ意欲的に取り組むことができる。	生涯学習力	ルーブリック評価表「研究への取組、参加態度」「研究手技・手法」
様々な情報に興味・関心をもち、適切な手段を用いて情報を獲得できる。	情報リテラシー	ルーブリック評価表「情報収集」「論文読解」「ディスカッション能力」
収集した情報の質を適切に分析・評価し、正しい判断を下すことができる。	論理的思考力	ルーブリック評価表「情報収集」「論文読解」「ディスカッション能力」
獲得した情報を正しく効果的に活用できる。	数量的スキル	ルーブリック評価表「解釈・考察」
チームの中で自らの役割を見出し、責任をもって役割を果たすことができる。	チームワーク・リーダーシップ	ルーブリック評価表「ディスカッション能力」「コミュニケーション能力」
積極的に問題を見出し、適切な改善策を講じることができる。	問題解決力	ルーブリック評価表「解釈・考察」「研究手技・手法」
医学・医療を究めるために、自ら目標を設定し、達成にむけて取り組むことができる。	生涯学習力	ルーブリック評価表「研究への取組・参加態度」「Weekly report」
自らの意思で、自身の能力向上や精神的な成長を目指すことができる。	自己管理力	ルーブリック評価表「研究への取組・参加態度」「Weekly report」
自らのストレスや心の健康状態について正しく認識し、対処できる。	自己管理力	ルーブリック評価表「研究への取組・参加態度」「Weekly report」
明確な目標を立て、目標に達成にむけ行動し、人として成長し続けることができる。	生涯学習力	ルーブリック評価表「Weekly report」

※コア・コンピテンシーに関する説明

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く) 教員以外の教員	
全学共通科目	課題探究	1・2①		3				○			1					38	
	小計(1科目)	—	—	3	0	0	—			0	1	0	0	0	38		
情報・数理・データサイエンス	情報処理入門1(情報機器の操作を含む)	1①④		1			○								4		
	情報処理入門2(情報機器の操作を含む)	1・2①②			1		○								2		
	情報処理入門3(情報機器の操作を含む)	1・2②④			1		○								3		
	高度情報セキュリティ技術	1・2③			1		○								1		
	インターネットと認証連携	1・2③			1		○								1		
	数理・データサイエンスの基礎	1③		1			○			1			3		1		
	数理という道具を手に入れよう	1・2①			1		○								1		
	統計学の基礎(自然・生命)	1・2①④			1		○								3		
	小計(8科目)	—	—	2	6	0	—			1	0	0	3	0	11		
	健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学C	1・2通			1		○								2	
するスポーツ演習		1・2①②③④			1			○							14		
みるスポーツ演習B-I		1・2③			1			○							1		
みるスポーツ演習B-II		1・2④			1			○							1		
支えるスポーツ演習A		1・2通			1			○							2		
小計(5科目)	—	—	0	5	0	—			0	0	0	0	0	14			
市民性と異文化理解	SDGs入門	1・2①④			1		○								1		
	ビデオグラファー養成・基礎 1	1・2①			1		○								3		
	岡山まちづくり論(1)	1・2②			1		○								1		
	地域の未来デザイン	1・2②			1		○								1		
	日本でLGBT/SOGIの課題を考える	1・2②			1		○								1		
	ビデオグラファー養成・基礎 2	1・2②			1		○								3		
	地球社会の課題解決を仕事にー世界の次世代リーダーから学ぶキャリアー	1・2①			1		○								1		
	コミュニティエンゲージメント概論	1・2③			1		○								1		
	ビデオグラファー養成・展開 1	1・2③			1		○								3		
	対話で読み解くビッグヒストリー	1・2④			1		○								1		
	ビデオグラファー養成・展開 2	1・2④			1		○								3		
	留学生と学ぶ:鳥取県三朝町に伝わる陣所「大綱引き」の運営	1・2①			1		○								2		
	次世代への伝承:鳥取県三朝町に伝わる陣所「大綱引き」の伝承	1・2①			1		○								2		
	現場から学ぶ日本の交通システム:JR岡山での実習(2)	1・2休			1		○								1		
	地域に向けた身体表現ワークショップ活動	1・2①			2		○								1		
	Tourism in Okayama 1	1・2②			1		○								2		
	岡山まちづくり論(2)	1・2休			1		○								1		
	地域文化資源運用実践演習	1・2休			1		○								2		
	ファシリテーション型リーダーシップ	1・2休			1		○								1		
	岡山まちづくり論(3)	1・2休			1		○								1		
	地域の未来デザイン(実践編)	1・2休			1		○								1		
	ビデオグラファー養成講座	1・2休			1		○								3		
"アタリマエ"の科学 ~スマホに映る半導体と社会~	1・2休			1		○								1			
Learning Urban Development by Citizen Participation	1・2休			1		○								2			
Tourism in Okayama 2	1・2③			1		○								2			
岡山の未来を考える	1・2③			1		○								1			
倉敷水島まちづくり論	1・2④			1		○								1			
現場から学ぶ日本の交通システム:JR岡山での実習	1・2④			1		○								1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	地域社会とミュージアム	1・2③④			1		○								2	
	放射線に関するリスクコミュニケーション入門	1・2④			1		○								1	
	公園緑地と市民生活	1・2①			1		○								1	
	災害救援とボランティア	1・2④			1		○								1	
	教養物理学実験	1・2②③			1		○								1	
	グローバルフィールドスタディ	1・2通			1		○								1	
	語学研修・サマーコース	1・2休			1		○								3	
	語学研修・スプリングコース	1・2休			1		○								3	
	海外留学ガイダンス	1・2通			1		○								3	
	海外留学Ⅰ	1・2通			1		○								3	
	海外留学Ⅱ	1・2通			2		○								3	
	海外における国際共修プログラム(短期)	1・2通			1		○								3	
	海外における国際共修プログラム(長期)	1・2通			2		○								3	
	瀬戸内海地域概論	1・2④			1		○								1	
	おもてなしインターンシップ	1・2休			1		○								1	
	外国語学習アドバイジング実習	1・2③			1		○								1	
	デザインング	1・2③			1		○								1	
	ユニバーサルデザイン	1・2③			1		○								1	
	ヨーロッパ美術の中の人体	1・2④			1		○								1	
	日本の木文化	1・2④			1		○								1	
	音楽への招待	1・2④			1		○								1	
	近代日本美術の歴史と世界	1・2④			1		○								1	
	美術の見方、楽しみ方	1・2④			1		○								1	
	オーケストラの魅力	1・2②			1		○								1	
	中国古典庭園の芸術と思想	1・2②			1		○								1	
	中国建築の歴史と象徴性	1・2②			1		○								1	
	芸術と生活	1・2休			1		○								1	
	日本美術論	1・2休			1		○								1	
	現代社会における美術館	1・2休			1		○								1	
	日本舞踊入門	1・2休			1		○								1	
	アフリカ文化入門	1・2休			1		○								1	
	木と語る、玩具と語る	1・2休			2		○								1	
	岡山県立美術館のコレクション	1・2④			1		○								1	
	ベネッセアートサイト直島に作品が設置されるまで	1・2④			1		○								3	
	ガラス工芸	1・2④			1		○								1	
	土と語る	1・2④			2		○								1	
	茶の湯にみる日本文化1: 日本的美と文化史	1・2①			1		○								1	
	茶の湯にみる日本文化2: 作法と精神	1・2④			1		○								1	
	キャリアデザインⅠ キャリア形成基礎	1・2①			1		○								1	
	Self exploration through Creativity	1・2②			1		○								1	
	キャリアデザインⅡ ビジネススキル入門	1・2④			1		○								1	
	キャンパスライフ不適應への対策講座	1・2②			1		○								2	
	Role of Identity in Intercultural Communication	1・2③			1		○								1	
	論理思考でディベート実践	1・2④			1		○								2	
	Introduction to Emotional Intelligence	1・2④			1		○								1	
	キャリアデザインⅢ 企業を知り、業界を知る	1・2④			1		○								1	
	Introduction to the 8 dimensions of Wellness	1・2④			1		○								1	
	アクセシビリティ実習	1・2①②③④			1		○								2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	障がい者支援演習①(身体障がい)	1・2休			1		○								1	
	障がい者支援演習②(精神・発達障がい)	1・2休			1		○								1	
	人間生活と心理学	1・2休			1		○								1	
	留学生のための就職活動	1・2④			0.5		○								1	
	留学生支援ボランティア実習	1・2①②③④				1	○								1	
	学生支援ボランティア実習I	1・2①				1	○								2	
	学生支援ボランティア実習II	1・2②				1	○								2	
	学生支援ボランティア実習III	1・2③				1	○								2	
	学生支援ボランティア実習IV	1・2④				1	○								2	
	アカデミック・ライティング	1・2①②③④			1		○								4	
	初等数学1	1・2①				1	○								1	
	初等数学2	1・2②				1	○								1	
	初等生物学1	1・2①				1	○								1	
	初等生物学2	1・2②				1	○								1	
	初等物理学1	1・2①				1	○								1	
	初等物理学2	1・2②				1	○								1	
	大学と社会	1・2①			1		○								1	
	外国語学習アドバイジングの基礎	1・2②④			1		○								1	
	アメリカ入門	1・2④			1		○								1	
	映画でたずねるアメリカの過去	1・2休			2		○								1	
	人物でたどるアメリカの過去	1・2休			2		○								1	
	日本国憲法	1・2①②③④			2		○								3	
	Japanese Agriculture and Rural Society	1・2①			1		○								1	
	Area Studies: Approaches and Methodologies	1・2②			1		○								1	
	異文化組織で働く	1・2③			1		○								1	
	国際協力とプロジェクト管理	1・2④			1		○								1	
	Environmental Education Methods	1・2④			1		○								1	
	ハワイ研究入門 I	1・2②			1		○								1	
	ハワイ研究入門 II	1・2③			1		○								1	
	グローバル社会における日本語教育	1・2④			1		○								1	
	武士文学: 侍の現実と虚構	1・2①			1		○								1	
	日本の芸能	1・2③			1		○								1	
	日本のジェンダーと社会	1・2②			1		○								1	
	日本文学を通じた日本の社会と文化 I	1・2③			1		○								1	
	日本の歴史と宗教	1・2④			1		○								1	
	日本文学を通じた日本の社会と文化 II	1・2④			1		○								1	
	グローバル人材育成特別コース入門	1・2①			1		○								1	
	Global Leadership in Practice	1・2③			1		○								1	
	Introduction to Global Leadership	1・2②④			1		○								1	
	Global Awareness	1・2④			1		○								1	
	Introduction to SDGs	1・2④			1		○								1	
	Japan Goes Global: Exploring Current Intercultural Issues	1・2②			1		○								2	
	English Diplomacy	1・2①③			1		○								2	
	What is Japanese University? - its structure and function-	1・2②			1		○								1	
	International Student - What is the Significance of Studying Abroad	1・2③			1		○								1	
	Let's Explore Attractiveness of Japan	1・2④			1		○								1	
	対話を通して学ぶ日本社会の多様性	1・2④			1		○								1	
	グローバル時代における知識とスキル	1・2①			1		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	アート思考とナラティブデザインをベースにしたコミュニケーション論 1	1・2①			1		○								3	
	アート思考とナラティブデザインをベースにしたコミュニケーション論 2	1・2②			1		○								3	
	アート思考とナラティブデザインをベースにしたコミュニケーション論 3	1・2③			1		○								3	
	アート思考とナラティブデザインをベースにしたコミュニケーション論 4	1・2④			1		○								3	
	テーブル・ロール・プレイング・ゲームで楽しむ「思考するか・対話するか・他者と協働するか」	1・2休			2		○								3	
	国際共修で学ぶ日本語と日本文化	1・2①			1		○								5	
	国際共修で学ぶ社会課題	1・2①			1		○								1	
	ドイツ語初級I-1	1・2①			1		○								3	
	ドイツ語初級I-2	1・2②			1		○								3	
	ドイツ語初級II-1	1・2③			1		○								3	
	ドイツ語初級II-2	1・2④			1		○								3	
	ドイツ語初級I-1(会話)	1・2①			0.5		○								1	
	ドイツ語初級I-2(会話)	1・2②			0.5		○								1	
	ドイツ語初級II-1(会話)	1・2③			0.5		○								1	
	ドイツ語初級II-2(会話)	1・2④			0.5		○								1	
	フランス語初級I-1	1・2①			1		○								2	
	フランス語初級I-2	1・2②			1		○								2	
	フランス語初級II-1	1・2③			1		○								2	
	フランス語初級II-2	1・2④			1		○								2	
	フランス語初級I-1(会話)	1・2①			1		○								1	
	フランス語初級I-2(会話)	1・2②			1		○								1	
	フランス語初級II-1(会話)	1・2③			1		○								1	
	フランス語初級II-2(会話)	1・2④			1		○								1	
	中国語初級I-1	1・2①			1		○								3	
	中国語初級I-2	1・2②			1		○								3	
	中国語初級II-1	1・2③			1		○								3	
	中国語初級II-2	1・2④			1		○								3	
	中国語初級I-1(会話)	1・2①			0.5		○								1	
	中国語初級I-2(会話)	1・2②			0.5		○								1	
	中国語初級II-1(会話)	1・2③			0.5		○								1	
	中国語初級II-2(会話)	1・2④			0.5		○								1	
	韓国語初級I-1	1・2①③			1		○								2	
	韓国語初級I-2	1・2②④			1		○								2	
	韓国語初級II-1	1・2③			1		○								1	
	韓国語初級II-2	1・2④			1		○								1	
	ロシア語ベーシック1	1・2①			1		○								1	
	ロシア語ベーシック2	1・2②			1		○								1	
	ロシア語ベーシック3	1・2③			1		○								1	
	ロシア語ベーシック4	1・2④			1		○								1	
	スペイン語ベーシック1	1・2①			1		○								1	
	スペイン語ベーシック2	1・2②			1		○								1	
	スペイン語ベーシック3	1・2③			1		○								1	
	スペイン語ベーシック4	1・2④			1		○								1	
	イタリア語ベーシック1	1・2①			1		○								1	
	イタリア語ベーシック2	1・2②			1		○								1	
	イタリア語ベーシック3	1・2③			1		○								1	
	イタリア語ベーシック4	1・2④			1		○								1	
	ドイツ語海外研修(夏季)	1・2休			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	フランス語海外研修(春季)	1・2休			2		○								1	
	中国語海外研修(春季)	1・2休			1		○								2	
	成均館・吉林大学交流プログラム	1・2休			1		○								1	
	応用日本語(聞くA1)	1・2①			1		○								1	
	応用日本語(聞くA2)	1・2②			1		○								1	
	応用日本語(聞くB1)	1・2③			1		○								1	
	応用日本語(聞くB2)	1・2④			1		○								1	
	応用日本語(書くB1)	1・2①			1		○								1	
	応用日本語(書くB2)	1・2②			1		○								1	
	応用日本語(書くA1)	1・2③			1		○								1	
	応用日本語(書くA2)	1・2④			1		○								1	
	応用日本語(話すB1)	1・2①			1		○								1	
	応用日本語(話すB2)	1・2②			1		○								1	
	応用日本語(話すA1)	1・2③			1		○								1	
	応用日本語(話すA2)	1・2④			1		○								1	
	応用日本語(読むA1)	1・2①			1		○								1	
	応用日本語(読むA2)	1・2②			1		○								1	
	応用日本語(読むB1)	1・2③			1		○								1	
	応用日本語(読むB2)	1・2④			1		○								1	
	言語と社会	1・2④			1		○								1	
	日本語教授法概論	1・2②			1		○								1	
	日本語教育学概論	1・2②			1		○								1	
	第二言語習得論	1・2②			1		○								1	
	異文化の中の心理と支援	1・2③			1		○								1	
	言語学概論	1・2②			1		○								1	
	小計 (197科目)	—	—	0	193	11	—	—	—	—	0	0	0	0	0	83

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
英語科目	必修英語																
	コミュニケーション英語 (S&L)	1①②③④			2				○								15
	コミュニケーション英語 (R&W)	1①②③④			2				○								11
	小計 (2科目)	—	—	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	26
	選択英語																
	SPAcE英語 (GSI)	1・2①②③④				1				○							4
	SPAcE英語 (GC)	1・2③④				1				○							3
	SPAcE英語 (IRC) - 3	1・2①④				1				○							2
	SPAcE英語 (IRC) - 1	1・2②③				1				○							2
	SPAcE英語 (IRC) - 4	1・2①②				1				○							2
	SPAcE英語 (IRC) - 2	1・2③④				1				○							2
	SPAcE英語 (IAS)	1・2①②③				1				○							2
	SPAcE英語 (AAS)	1・2③④				1				○							2
	SPAcE英語 (ISS)	1・2①②③				1				○							2
	SPAcE英語 (H&S)	1・2③④				1				○							1
	キャリアパス英語 (TOEFL)	1・2①②③④				1				○							2
	キャリアパス英語 (IELTS)	1・2①②③④				1				○							4
キャリアパス英語 (多読)	1・2②				1				○							1	
キャリアパス英語 (TOEIC)	1・2③				1				○							1	
キャリアパス英語 (リメディアル)	1・2①③				1				○							1	
キャリアパス英語 (実践会話)	1・2①②③				1				○							2	
小計 (16科目)	—	—	—	0	16	0	—	—	—	0	0	6	8	0	0	15	
全学交流科目	自然系交流科目																
	現代物理学入門—量子力学と相対性理	1・2①				1				○							1
	現代生物学(ライフサイエンス)	1・2①				1				○							1
	基礎現代化学A	1・2①				1				○							1
	生命と環境	1・2②				1				○							1
	基礎現代化学C	1・2②				1				○							1
	生命系の微積分	1・2②				1				○							1
	生命化学入門	1・2②				1				○							1
	現代社会と物理学	1・2③				1				○							1
	数理科学の世界A	1・2③				1				○							1
	食と人間	1・2④				1				○							1
	Fundamentals of Earth Sciences	1・2④				1				○							1
	Introductory Mathematics I	1・2②				1				○							1
	Introductory Mathematics II	1・2④				1				○							1
Introductory Chemistry	1・2③				1				○							1	
小計 (14科目)	—	—	—	0	14	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	13	
社会系交流科目	サイエンス・フィクション	1・2①				1				○							1
	人間関係とセルフケア	1・2①				1				○							1
	現代の政治思想	1・2②				1				○							1
	保育と遊び	1・2②				1				○							1
	企業経営と金融市場	1・2②				1				○							1
	精神医学における心理社会的治療の発展から学ぶ主体的体験を科学するための工夫と限界	1・2②				1				○							1
	ICT機器の利用と社会問題の解決	1・2③				1				○							1
	地理学への招待	1・2④				1				○							1
	地理学と食	1・2③				1				○							1
	財政学入門	1・2④				1				○							1
小計 (10科目)	—	—	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	10	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
生命系交流科目	ヒトのからだの仕組みと医療	1・2①			1		○									3	
	口を構成する臓器を知る	1・2①			1		○									1	
	学際領域ベンチャー探索	1・2②			1		○									7	
	キャンパスライフとメンタルヘルス(A)	1・2②			1		○									1	
	創薬研究を支える生命科学	1・2②			1		○									8	
	遺伝子工学の新展開	1・2③			1		○									1	
	感じる科学	1・2④			1		○									3	
	がんと向き合い、共に生きる	1・2④			1		○									1	
小計 (8科目)	—	—	—	0	8	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	25	
専門基礎科目	医学生物学	1①			1.6		○				1	2	2	5			
	医学概論	1①			0.4		○				3					4	
	遺伝学	1③			0.4		○				1			1			
	臨床医学入門	1①			1.0		○				11	1				3	
	基礎放射線学	1②			0.8		○				1					2	
	発生学	1④			0.7		○				1		1	2			
	医学データサイエンス	2①	○	1.2			○				1	1		1			
	人体の構造：入門	1②			1.4		○				4		4	6			
医学セミナー(デュートリアル)	1①	○	1.0			○				19							
小計 (9科目)	—	—	—	2.2	6.3	0	—	—	—	18	4	7	12	0	8		
専門科目	早期実験実習	1①	○	0.7					○		1						
	チーム医療演習	2①	○	0.5					○		1			2			
	早期地域医療体験実習 I	1休			0.8				○		1			1			
	早期地域医療体験実習 II	1休			1.7				○		1			1		2	
	細胞組織学	1③	○	1.4			○				1		1	2			
	細胞組織学実習	1③④	○	0.9					○		1		1	2			
	人体解剖学	2休	○	1.3			○				1		1	2			
	系統解剖学実習	2休③	○	3.2					○		1		1	2			
	神経構造学	2①	○	2.3			○				1		1	2			
	神経構造学実習	2①	○	0.8					○		1		1	2			
	生理学 I	2①②	○	2.6			○				1			1			
	生理学 I 実習	2①②	○	0.3					○		1			1			
	生理学 II	2①②	○	2.6			○				1	1		2			
	生理学 II 実習	2①②	○	0.3					○		1	1		2			
	生化学	1③④	○	2.0			○				1		1	2			
	分子医化学	1③④	○	2.0			○				1	1		2			
	生化学実習	1④	○	0.3					○			1		2			
	分子医化学実習	1④	○	0.3					○		1	1		2			
	薬理学	3①②	○	3.0			○				1			3			
	薬理学実習	3②	○	0.4					○		1			3			
	病理学 I	3①②	○	2.8			○				1			2			
	病理学 I 実習	3①②	○	0.5					○		1			2			
	病理学 II	3①②	○	3.2			○				1		1	2			
	病理学 II 実習	3①②	○	0.4			○				1		1	2			
	細菌学	3①	○	2.5			○					2		2			
	細菌学実習	3①	○	0.3					○			2		2			
	ウイルス学	3①	○	2.5			○				1			2			
	ウイルス学実習	3①	○	0.2					○		1			2			
	免疫学	3①②	○	2.6			○				1			2			
	免疫学実習	3①②	○	0.1					○		1			2			
	寄生虫学	2④	○	1.0			○				1			2		2	
	医学研究インターンシップ	3③④	○	8.0						○	3						
	基礎病態演習	3①	○	3.5						○	4	1	3	6			
臨床病態演習	4③	○	0.3						○	2	1					2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	衛生学	4休	○	1.6			○			1	1		2			
	公衆衛生学	4休	○	1.6			○			1	1		2			
	公衆衛生学実習/疫学・衛生学実習	4③	○	0.5					○	2	2		4			
	地域医療体験実習Ⅰ	3①			0.8				○	1			1		1	
	地域医療体験実習Ⅱ	3②			0.8				○	1			1		1	
	地域医療体験実習Ⅲ	3③			0.8				○	1			1		1	
	行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目Ⅰ	1①②	○	3.9			○			2	1		2		4	
	行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目Ⅱ	2休	○	1.6			○			3	1		2			
	行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目Ⅲ	3④休	○	1.0			○			1	1		2		3	
	行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目Ⅳ	4休	○	1.1			○				1		2		5	
	行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目Ⅴ	5④	○	0.6			○				1	1	2		3	
	行動科学・プロフェッショナルリズム育成科目Ⅵ	6③	○	0.1			○				1	1	2		3	
	法医学	4休③	○	3.2			○			1			1			
	法医学実習	4③	○	0.2					○	1			1			
	内科総論	3④	○	0.5			○			2	3				3	
	外科総論	3④	○	0.3			○			2	1				2	
	臨床放射線総論	3④	○	0.6			○			1	1				6	
	臨床検査総論	3④	○	0.6			○			2	2	1	3			
	腫瘍学	3④	○	0.5			○			1			1		5	
	生命倫理学	4②	○	0.6			○			1			1			
	医事法	3④	○	0.4			○								1	
	形成外科学	4②	○	0.5			○			1					5	
	小児外科学	4①	○	0.4			○								3	
	循環器系(臓器・系別統合講義)	4①	○	1.4			○			2	2		1		8	
	呼吸器系(臓器・系別統合講義)	4①	○	1.1			○			1	1		1		10	
	腎泌尿器系(臓器・系別統合講義)	4②	○	1.2			○			3		1	1		6	
	内分泌・代謝系(臓器・系別統合講義)	4②	○	1.1			○			2	1				7	
	消化器系(臓器・系別統合講義)	4①	○	1.6			○			3	1	1	1		13	
	血液・造血器系(臓器・系別統合講義)	4②	○	0.6			○			1	1				4	
	感染症(臓器・系別統合講義)	3④	○	0.7			○			1	1				5	
	免疫系(臓器・系別統合講義)	4①②	○	0.6			○			1	1			1	5	
	感覚器系(臓器・系別統合講義)	4①②	○	1.4			○			2				2	7	
	運動器系(臓器・系別統合講義)	4①②	○	1.3			○			1	5	1	1		2	
	脳神経系(臓器・系別統合講義)	4①②	○	1.9			○			2	2		1		5	
	精神系(臓器・系別統合講義)	4①	○	1.0			○			1	1				8	
	皮膚系(臓器・系別統合講義)	1①	○	0.9			○			1		1			6	
	小児・発達系(臓器・系別統合講義)	4①	○	1.8			○			2	2				6	
	生殖系(臓器・系別統合講義)	4②	○	1.6			○			1	2	1			7	
	麻酔・蘇生系(臓器・系別統合講義)	4①②	○	1.0			○			1	1	1			5	
	救命救急系(臓器・系別統合講義)	4①	○	0.4			○			1	1		3		2	
	総合診療医学(臓器・系別統合講義)	4②	○	1.0			○			1		2			1	
	臨床実技入門	4③	○	1.5					○	1	1		2			
	医療シミュレーション教育コース	4休③	○	0.4					○	1	1		2			
	消化器・肝臓内科学(基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1		1			9	
	血液・腫瘍・呼吸器内科学(基本臨床)	5通	○	1.7					○	2	1		1		8	
	腎・免疫・内分泌代謝内科学(基本臨床)	5通	○	1.7					○	1	1		1		9	
	神経精神医学(基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1				7	
	小児科学・小児神経学(基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	2	2				8	
	消化器外科学(基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1				9	
	呼吸器・乳腺内分泌外科学(基本臨床)	5通	○	1.7					○	2	1				7	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学部医学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
	整形外科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1				8	
	皮膚科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1		1			6	
	腎泌尿器科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1					8	
	眼科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1			2		6	
	耳鼻咽喉科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1					7	
	放射線医学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1				9	
	産科婦人科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1				9	
	麻酔・蘇生学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1		1	2		4	
	周産期・新生児 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	2	2		2		1	
	脳神経外科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1			2		5	
	総合内科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1		1			6	
	循環器内科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	2	1		1		9	
	心臓血管外科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1		1		5	
	神経内科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1				5	
	救命救急・災害医学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1	1	1			4	
	形成外科学 (基本臨床実習)	5通	○	1.7					○	1		1			4	
	ワクチン実習 (基本臨床実習)	5通	○	0.1					○	2			2			
	選択制臨床実習	6通	○	23.0					○	26	4					
	医学史	2④	○	0.5				○							2	
	老年医学	4②	○	0.2				○		1						
	臨床薬理学・薬剤学	3④	○	0.4				○		1					3	
	緩和医療学	4③	○	0.4				○							1	
	東洋医学	3④	○	0.6				○		1		1				
	医療政策・地域医療学	3④	○	0.4				○		1					3	
	ゲノム医療	3④	○	0.4				○		1		1				
	小計 (109科目)	—		160.2	4.9	0		—		59	46	72	186	0	104	
	合計 (379科目)	—	—	171.4	262.7	11.0		—		59	46	72	186	0	315	
学位又は称号	学士 (医学)			学位又は学科の分野				医学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
6年以上在学し、全学共通科目・英語科目20単位、全学交流科目4単位、専門基礎科目7.8単位、 専門科目161単位(地域枠以外)・163.5単位(地域枠)以上を修得すること。 地域枠は、「早期地域医療体験実習」、「地域医療体験実習」を2週間ずつ履修。							1学年の学期区分			4学期						
							1学期の授業期間			8週						
							1時限の授業の標準時間			50分						